

文学部 人間関係学科 (2010年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	1
		1年			
	家族を問う 小野 憲昭	1学期	1	2	2
		1年			
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	3
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	4
		1年			
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	5
		1年			
	教養としての平和学 戸蒔 仁司	1学期	1	2	6
		1年			
	可能性としての歴史 小林 道彦	2学期	2	2	7
		2年			
	家族の再生 小野 憲昭	2学期	2	2	8
		2年			
	文化と政治 神原 ゆうこ	2学期	2	2	9
		2年			
言語と認知 漆原 朗子 他	1学期	2	2	10	
	2年				
共生社会論 伊野 憲治	2学期	2	2	11	
	2年				
戦争と平和 戸蒔 仁司	2学期	2	2	12	
	2年				
生活世界の哲学 伊原木 大祐	1学期	1	2	13	
	1年				
共同体と身体 伊原木 大祐	2学期	2	2	14	
	2年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	15
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII 中島 俊介	2学期	1	2	16
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 高西 敏正	1学期	1	2	17
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 徳永 政夫	1学期	1	2	18
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 加倉井 美智子	1学期	1	2	19
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 高西 敏正	2学期	1	2	20
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 徳永 政夫	2学期	1	2	21
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 加倉井 美智子	2学期	1	2	22
		1年			
	自己管理論 生田カツ工、稲月正	2学期	1	2	23
		1年			
	キャリア・デザイン 眞鍋 和博	1学期	1	2	24
		1年			
キャリア・デザイン 見館 好隆	1学期	1	2	25	
	1年				
コミュニケーションと思考法 眞鍋 和博	2学期	1	2	26	
	1年				
プロフェッショナルの仕事 見館 好隆	1学期	2	2	27	
	2年				
大学論・学問論 休講	1学期	1	2		
	1年				
法律の読み方 小野 憲昭 他	2学期	1	2	28	
	1年				
社会調査 稲月 正	2学期	1	2	29	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	統計を読む・統計をつくる 山本 努	集中	1	2	30
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (サッカー) 磯貝 浩久	1学期	1	1	31
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (テニス) 原田 守治	1学期	1	1	32
		1年			
	フィジカル・エクササイズI(バスケットボール) 原田 守治	1学期	1	1	33
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 美山 泰教	1学期	1	1	34
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 美山 泰教	1学期	1	1	35
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 鯨 吉夫	1学期	1	1	36
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 高西 敏正	1学期	1	1	37
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 徳永 政夫	1学期	1	1	38
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 磯貝 浩久	2学期	1	1	39
		1年			
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 原田 守治	2学期	1	1	40	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 原田 守治	2学期	1	1	41	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 美山 泰教	2学期	1	1	42	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー) 鯨 吉夫	2学期	1	1	43	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 鯨 吉夫	2学期	1	1	44	
	1年				

文学部 人間関係学科 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズII (サッカー) 磯貝 浩久	2学期	1	1	45
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (女性のスポーツ) 加倉井 美智子	2学期	1	1	46
		1年			
■教養演習科目	教養基礎演習I 日高 京子	1学期	1	2	47
		1年			
	教養基礎演習I 小林 道彦	1学期	1	2	48
		1年			
	教養基礎演習I 神原 ゆうこ	1学期	1	2	49
		1年			
	教養基礎演習I 徳永 政夫	1学期	1	2	50
		1年			
	教養基礎演習I 稲月 正	1学期	1	2	51
		1年			
	教養基礎演習I 小野 憲昭	1学期	1	2	52
		1年			
	教養基礎演習I (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	1	2	53
		1年			
	教養基礎演習I 伊原木 大祐	1学期	1	2	54
		1年			
教養基礎演習I 二宮 正人	1学期	1	2	55	
	1年				
教養基礎演習I 高西 敏正	1学期	1	2	56	
	1年				
教養基礎演習I 伊野 憲治 他	1学期	1	2	57	
	1年				
教養基礎演習II 日高 京子	2学期	1	2	58	
	1年				
教養基礎演習II 小林 道彦	2学期	1	2	59	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養基礎演習II 神原 ゆうこ	2学期	1	2	60
		1年			
	教養基礎演習II 徳永 政夫	2学期	1	2	61
		1年			
	教養基礎演習II 稲月 正	2学期	1	2	62
		1年			
	教養基礎演習II 小野 憲昭	2学期	1	2	63
		1年			
	教養基礎演習II (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	1	2	64
		1年			
	教養基礎演習II 伊原木 大祐	2学期	1	2	65
		1年			
	教養基礎演習II 二宮 正人	2学期	1	2	66
		1年			
	教養基礎演習II 高西 敏正	2学期	1	2	67
		1年			
教養基礎演習II 伊野 憲治 他	2学期	1	2	68	
	1年				
教養基礎演習II 眞鍋 和博 他	2学期	1	2	69	
	1年				
教養演習AI 日高 京子	1学期	2	2	70	
	2年				
教養演習AI 小林 道彦	1学期	2	2	71	
	2年				
教養演習AI 神原 ゆうこ	1学期	2	2	72	
	2年				
教養演習AI (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	2	2	73	
	2年				
教養演習AI 稲月 正	1学期	2	2	74	
	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習 A I	1学期	2	2	75
	伊原木 大祐	2年			
	教養演習 A I	1学期	2	2	76
	伊野 憲治 他	2年			
	教養演習 A I	1学期	2	2	77
	徳永 政夫 他	2年			
	教養演習 A I	1学期	2	2	78
	小野 憲昭	2年			
	教養演習 A II	2学期	2	2	79
	日高 京子	2年			
	教養演習 A II	2学期	2	2	80
	小林 道彦	2年			
	教養演習 A II	2学期	2	2	81
	神原 ゆうこ	2年			
	教養演習 A II (防衛セミナー)	1学期	2	2	82
	戸蒔 仁司	2年			
	教養演習 A II	2学期	2	2	83
	稲月 正	2年			
	教養演習 A II	2学期	2	2	84
伊原木 大祐	2年				
教養演習 A II	2学期	2	2	85	
伊野 憲治 他	2年				
教養演習 A II	2学期	2	2	86	
徳永 政夫 他	2年				
教養演習 A II	2学期	2	2	87	
小野 憲昭	2年				
教養演習 B I	1学期	3	2	88	
日高 京子	3年				
教養演習 B I	1学期	3	2	89	
小野 憲昭	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BⅠ 小林 道彦	1学期	3	2	90
		3年			
	教養演習BⅠ 神原 ゆうこ	1学期	3	2	91
		3年			
	教養演習BⅠ(防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	3	2	92
		3年			
	教養演習BⅠ 稲月 正	1学期	3	2	93
		3年			
	教養演習BⅠ 伊原木 大祐	1学期	3	2	94
		3年			
	教養演習BⅠ 伊野 憲治 他	1学期	3	2	95
		3年			
	教養演習BⅠ 徳永 政夫 他	1学期	3	2	96
		3年			
	教養演習BⅡ 日高 京子	2学期	3	2	97
		3年			
教養演習BⅡ 小野 憲昭	2学期	3	2	98	
	3年				
教養演習BⅡ 小林 道彦	2学期	3	2	99	
	3年				
教養演習BⅡ 神原 ゆうこ	2学期	3	2	100	
	3年				
教養演習BⅡ(防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	3	2	101	
	3年				
教養演習BⅡ 稲月 正	2学期	3	2	102	
	3年				
教養演習BⅡ 伊原木 大祐	2学期	3	2	103	
	3年				
教養演習BⅡ 伊野 憲治 他	2学期	3	2	104	
	3年				

文学部 人間関係学科 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BII 徳永 政夫 他	2学期	3	2	105
		3年			
	プロジェクト演習I 見館 好隆	2学期	2	2	106
		2年			
	プロジェクト演習II 見館 好隆	1学期	3	2	107
		3年			
■テーマ科目	自然学のまなざし 竹川 大介 他	1学期	1	2	108
		1年			
	動物のみかた 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	109
		1年			
	地球の生いたち 長井 孝一	2学期	1	2	110
		1年			
	自然史へのいざない 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子	2学期	1	2	111
		1年			
	くらしと化学 秋貞 英雄	1学期	1	2	112
		1年			
	現代人のこころ 田島 司	1学期	1	2	113
		1年			
	数のたのしみ 高妻 倫太郎	集中	1	2	114
		1年			
	私たちと宗教 佐藤 真人	2学期	1	2	115
	1年				
思想と現代 伊原木 大祐	1学期	1	2	116	
	1年				
ものがたりと人間 休講		1	2		
	1年				
文化と表象 真鍋 昌賢	2学期	1	2	117	
	1年				
言語とコミュニケーション 休講	2学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	芸術と人間 花田 伸一	2学期	1	2	118
		1年			
	文学を読む 休講	1学期	1	2	
		1年			
	戦争と人間 戸蒔 仁司 他	1学期	1	2	119
		1年			
	現代正義論 重松 博之	2学期	1	2	120
		1年			
	民主主義とは何か 中道 壽一	1学期	1	2	121
		1年			
	人権論 柳井 美枝	1学期	1	2	122
		1年			
	ジェンダー論 力武 由美	1学期	1	2	123
		1年			
	障がい学 伊野 憲治 他	2学期	1	2	124
		1年			
	共生の作法 山本 光英 、法学部教員	2学期	1	2	125
		1年			
	北九州学 小野 憲昭	2学期	1	2	126
	1年				
市民活動論 西田 心平	2学期	1	2	127	
	1年				
企業と社会 山岡 敏秀	1学期	1	2	128	
	1年				
つながりの人間学 地域共生教育センター 坂本毅啓、石谷百合加、奥村貴仁	1学期	1	2	129	
	1年				
現代社会と倫理 伊原木 大祐	1学期	1	2	130	
	1年				
現代社会の諸問題 山本 光英 、法学部法律学科教員	2学期	1	2	131	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代の国際情勢 金 鳳珍	1学期	1	2	132
		1年			
	国際社会論 稲月 正	1学期	1	2	133
		1年			
	国際紛争と国連 戸蒔 仁司	1学期	1	2	134
		1年			
	民族・エスニシティ問題 久木 尚志 他	1学期	1	2	135
		1年			
	開発と統治 三宅 博之 他	1学期	1	2	136
		1年			
	グローバル化する経済 前田 淳 他	2学期	1	2	137
		1年			
	テロリズム論 戸蒔 仁司	2学期	1	2	138
		1年			
	国際社会と日本 中野 博文	1学期	1	2	139
		1年			
	歴史の読み方I 八百 啓介	1学期	1	2	140
		1年			
歴史の読み方II 小林 道彦	1学期	1	2	141	
	1年				
そのとき世界は 小林 道彦 他	2学期	1	2	142	
	1年				
戦後の日本経済 迎 由理男	2学期	1	2	143	
	1年				
都市と農村の生活文化史 福間 裕爾	1学期	1	2	144	
	1年				
ものと人間の歴史 中野 博文	1学期	1	2	145	
	1年				
人物と時代の歴史 新村昭雄(文)、三宅博之(法)、乗口眞一郎、山崎勇治	1学期	1	2	146	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	教養特講I 田村 慶子 他	1学期	1	2	147
		1年			
	教養特講II 日高 京子 他	2学期	1	2	148
		1年			
教養特講III 小野 憲昭	2学期	1	2	149	
	1年				
教養特講IV 大杉 一之 他	2学期	1	2	150	
	1年				
■教職関連科目	日本史 内山 一幸	2学期	1	2	151
		1年			
	西洋史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	152
		1年			
	東洋史 藤野 月子	2学期	1	2	153
		1年			
	社会学 稲月 正	1学期	1	2	154
		1年			
	人文地理学 吉津 直樹	2学期	1	2	155
		1年			
	土地地理学 野井 英明	1学期	1	2	156
		1年			
	地誌学 吉津 直樹	1学期	1	2	157
		1年			
日本国憲法 植木 淳	2学期	1	2	158	
	1年				
倫理学 伊原木 大祐	2学期	1	2	159	
	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 浅羽 修丈	1学期	1	2	160
		1年			
	データ処理 光藤 雄一	2学期	1	2	161
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■情報教育科目	データ処理 山田 寛	2学期	1	2	162
		1年			
	情報表現 浅羽 修丈	1学期	2	2	163
		2年			
	情報表現 浅羽 修丈	2学期	2	2	164
		2年			
プログラミング基礎 中尾 泰士	2学期	2	2	165	
	2年				
プログラミング基礎 中尾 泰士	1学期	2	2	166	
	2年				
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I 渡邊 晶子	1学期	1	1	167
		人1 - A			
	英語I 相原 信彦	1学期	1	1	168
		人1 - B			
	英語I 杉山 智子	1学期	1	1	169
		人1 - C			
	英語II 渡邊 晶子	2学期	1	1	170
		人1 - A			
	英語II 相原 信彦	2学期	1	1	171
		人1 - B			
	英語II 伊藤 晃	2学期	1	1	172
		人1 - C			
	英語III ダニー・ミン	1学期	1	1	173
		人1 - A			
英語III ジャマール・ミラー	1学期	1	1	174	
	人1 - B				
英語III デビッド・アンソニー・コフリン	1学期	1	1	175	
	人1 - C				
英語IV ダニー・ミン	2学期	1	1	176	
	人1 - A				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語IV ジャマール・ミラー	2学期	1	1	177
		人 1 - B			
	英語IV デビッド・アンソニー・コフリン	2学期	1	1	178
		人 1 - C			
	英語V 船方 浩子	1学期	2	1	179
		人 2 - A			
	英語V 大塚 由美子	1学期	2	1	180
		人 2 - B			
	英語V 村田 希巳子	1学期	2	1	181
		人 2 - C			
	英語VI 船方 浩子	2学期	2	1	182
		人 2 - A			
	英語VI 大塚 由美子	2学期	2	1	183
		人 2 - B			
	英語VI 村田 希巳子	2学期	2	1	184
		人 2 - C			
	英語VII アルバート・オスカー・モウ	1学期	2	1	185
		人 2 - A			
英語VII アレクサンダー・ボードナー	1学期	2	1	186	
	人 2 - B				
英語VII ケネス・ギブソン	1学期	2	1	187	
	人 2 - C				
英語VIII アルバート・オスカー・モウ	2学期	2	1	188	
	人 2 - A				
英語VIII アレクサンダー・ボードナー	2学期	2	1	189	
	人 2 - B				
英語VIII ケネス・ギブソン	2学期	2	1	190	
	人 2 - C				
英語IX 渡邊 嘉則	1学期	3	1	191	
	比人 3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語X 渡邊 嘉則	2学期	3	1	192
	比人3年				
	英語XI ホセ・クルーズ	1学期	3	1	193
	比人3年				
	英語XII ホセ・クルーズ	2学期	3	1	194
	比人3年				
■第二外国語	中国語I 有働 彰子	1学期	1	1	195
	人1年				
	中国語II 有働 彰子	2学期	1	1	196
	人1年				
	中国語III 王 占華	1学期	1	1	197
	人1年				
	中国語IV 王 占華	2学期	1	1	198
	人1年				
	中国語V 野村 和代	1学期	2	1	199
	済営人律政群2年				
	中国語VI 野村 和代	2学期	2	1	200
	済営人律政群2年				
	中国語VII 馮 雅蓮	1学期	2	1	201
	済営人律政群2年				
	中国語VIII 王 晨	2学期	2	1	202
	済営人律政群2年				
	上級中国語I 唐 雋	1学期	3	1	203
	英国済営比人3年				
上級中国語II 唐 雋	2学期	3	1	204	
英国済営比人3年					
上級中国語III 王 占華	1学期	3	1	205	
英国済営比人3年					
上級中国語IV 王 占華	2学期	3	1	206	
英国済営比人3年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語I 金 貞淑	1学期	1	1	207
		人1年			
	朝鮮語II 金 貞淑	2学期	1	1	208
		人1年			
	朝鮮語III 金 光子	1学期	1	1	209
		人1年			
	朝鮮語IV 金 光子	2学期	1	1	210
		人1年			
	朝鮮語V 金 貞愛	1学期	2	1	211
		済営比人律政群2年			
	朝鮮語VI 金 貞愛	2学期	2	1	212
		済営比人律政群2年			
	朝鮮語VII 金 貞淑	1学期	2	1	213
		済営比人律政群2年			
	朝鮮語VIII 金 貞淑	2学期	2	1	214
		済営比人律政群2年			
	上級朝鮮語I 金 貞淑	1学期	3	1	215
		英中国済営比人3年			
	上級朝鮮語II 金 貞淑	2学期	3	1	216
		英中国済営比人3年			
上級朝鮮語III 金 貞愛	1学期	3	1	217	
	英中国済営比人3年				
上級朝鮮語IV 金 貞愛	2学期	3	1	218	
	英中国済営比人3年				
ロシア語I 芳之内 雄二	1学期	1	1	219	
	済営比人1年				
ロシア語II 芳之内 雄二	2学期	1	1	220	
	済営比人1年				
ロシア語III ナタリア・シエストコーワ	1学期	1	1	221	
	済営比人1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ロシア語Ⅳ ナタリア・シエスタコーフ	2学期	1	1	222
		済営比人 1年			
	ロシア語Ⅴ 芳之内 雄二	1学期	2	1	223
		済営比人律政 2年			
	ロシア語Ⅵ 芳之内 雄二	2学期	2	1	224
		済営比人律政 2年			
	ロシア語Ⅶ ナタリア・シエスタコーフ	1学期	2	1	225
		済営比人律政 2年			
	ロシア語Ⅷ ナタリア・シエスタコーフ	2学期	2	1	226
		済営比人律政 2年			
	ドイツ語Ⅰ 古賀 正之	1学期	1	1	227
		人 1年			
	ドイツ語Ⅱ 古賀 正之	2学期	1	1	228
		人 1年			
	ドイツ語Ⅲ 山下 哲雄	1学期	1	1	229
		人 1年			
	ドイツ語Ⅳ 山下 哲雄	2学期	1	1	230
		人 1年			
	ドイツ語Ⅴ 山下 哲雄	1学期	2	1	231
		済営比人律政 2年			
ドイツ語Ⅵ 山下 哲雄	2学期	2	1	232	
	済営比人律政 2年				
ドイツ語Ⅶ 山下 哲雄	1学期	2	1	233	
	済営比人律政 2年				
ドイツ語Ⅷ 山下 哲雄	2学期	2	1	234	
	済営比人律政 2年				
フランス語Ⅰ 坂田 由紀	1学期	1	1	235	
	人 1年				
フランス語Ⅱ 坂田 由紀	2学期	1	1	236	
	人 1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語III 山下 広一	1学期	1	1	237
		人1年			
	フランス語IV 山下 広一	2学期	1	1	238
		人1年			
	フランス語V 中川 裕二	1学期	2	1	239
		済営比人律政2年			
	フランス語VI 中川 裕二	2学期	2	1	240
		済営比人律政2年			
	フランス語VII 山下 高之	1学期	2	1	241
		済営比人律政2年			
	フランス語VIII 山下 高之	2学期	2	1	242
		済営比人律政2年			
	スペイン語I 辻 光博	1学期	1	1	243
		比人1年			
	スペイン語II 辻 光博	2学期	1	1	244
		比人1年			
	スペイン語III 岡住 正秀	1学期	1	1	245
		比人1年			
スペイン語IV 岡住 正秀	2学期	1	1	246	
	比人1年				
スペイン語V 辻 光博	1学期	2	1	247	
	済営比人律政2年				
スペイン語VI 辻 光博	2学期	2	1	248	
	済営比人律政2年				
スペイン語VII 辻 博子	1学期	2	1	249	
	済営比人律政2年				
スペイン語VIII トマス・マリン・アルビ	2学期	2	1	250	
	済営比人律政2年				
■留学生特別科目	日本語A 小林 浩明 他	1学期(ペア)	1	2	251
		留学生1年			

文学部 人間関係学科 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本語B 則松 智子	1学期 (ペア)	1	2	252
		留学生 1年			
	日本語C 小林 浩明 他	2学期 (ペア)	1	2	253
		留学生 1年			
	日本語D 清水 順子	2学期 (ペア)	1	2	254
		留学生 1年			
	日本事情 (人文) A 小林 浩明	1学期	1	2	255
		留学生 1年			
日本事情 (人文) B ジェームズ・バスキント	2学期	1	2	256	
	留学生 1年				
日本事情 (社会) A 国際教育交流センター 山崎 勇治	1学期	1	2	257	
	留学生 1年				
日本事情 (社会) B 国際教育交流センター 山崎 勇治	2学期	1	2	258	
	留学生 1年				
■専門教育科目 ■選択科目	認知心理学 福田 恭介	2学期	2	2	259
		2年			
	社会心理学 田島 司	2学期	2	2	260
		2年			
	対人心理学 田島 司	1学期	2	2	261
		2年			
	臨床心理学 田中 信利	1学期	2	2	262
		2年			
カウンセリング論 田中 信利	2学期	2	2	263	
	2年				
コミュニケーション論 森永 今日子	1学期	2	2	264	
	2年				
学習心理学 大塚 一徳	2学期	2	2	265	
	2年				
教育心理学 村上 太郎	2学期	2	2	266	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	発達心理学 税田 慶昭	1学期	2	2	267
		2年			
	障害児の心理と指導 税田 慶昭	2学期	2	2	268
		2年			
	心理療法論 中島 俊介	2学期	2	2	269
		2年			
	心理統計 原口 雅浩	2学期	2	2	270
		2年			
	老年心理学 石塚 優	2学期	2	2	271
		2年			
	生理心理学 麦島 剛	1学期	2	2	272
		2年			
	社会意識論	2学期	2	2	273
		2年			
	文化社会学	1学期	2	2	274
		2年			
	家族社会学 休講	集中	2	2	
		2年			
理論社会学 鈴木 健之	集中	2	2	275	
	2年				
教育社会学 見玉 弥生	1学期	2	2	276	
	2年				
情報社会論 明間 肇	集中	2	2	277	
	2年				
消費社会論 休講	1学期	2	2		
	2年				
フィールドワーク論 藪田 慎司	集中	2	2	278	
	2年				
環境社会学 休講	2学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	人間環境地理学	2学期	2	2	279
	野井 英明	2年			
	生態人類学	1学期	2	2	
	休講	2年			
	人間性の進化	集中	2	2	280
	未定	2年			
	比較表象文化	1学期	2	2	281
	真鍋 昌賢	2年			
	日本の大衆文化	2学期	2	2	282
	真鍋 昌賢	2年			
	教育原理	2学期	2	2	283
	見玉 弥生	2年			
	教師論	1学期	2	2	284
	黒田 耕司	2年			
	生涯学習学	1学期	2	2	285
	恒吉 紀寿	2年			
	主体形成論	2学期	2	2	286
	恒吉 紀寿	2年			
	教育相談	1学期	2	2	287
	楠 凡之	2年			
生徒・進路指導論	2学期	2	2	288	
楠 凡之	2年				
次世代育成論	1学期	2	2	289	
恒吉 紀寿	2年				
社会教育計画論	2学期	2	2	290	
相戸 晴子	2年				
生涯学習編成論	1学期	2	2	291	
山下 厚生	2年				
現代社会と社会教育	1学期	2	2	292	
山口 保夫	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	教育工学	2学期	2	2	293
	大塚 一徳	2年			
	道徳教育の研究	1学期	2	2	294
	黒田 耕司	2年			
	教育方法学	2学期	2	2	295
	黒田 耕司	2年			
	人権教育論	1学期	2	2	296
	弓野 勝族	2年			
	特別活動の研究	1学期	2	2	297
	楠 凡之	2年			
	博物館概論	1学期	2	2	298
	永尾 正剛	2年			
	コミュニティスポーツ論	2学期	2	2	
	休講	2年			
	スポーツ産業論	2学期	2	2	299
	中西 純司	2年			
	健康科学	1学期	2	2	300
	高西 敏正	2年			
	スポーツ心理学	1学期	2	2	301
	磯貝 浩久	2年			
身体適応論	2学期	2	2	302	
高西 敏正	2年				
身体スポーツ論	2学期	2	2	303	
加倉井 美智子	2年				
トレーニング論	1学期	2	2	304	
徳永 政夫	2年				
心理学研究法	2学期	3	2	305	
原口 雅浩	3年				
心理学実験実習II	1学期 (ヘア)	3	2	306	
田中 信利 他	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目	環境経済学 牛房 義明	1学期	3	2	307
		3年			
	教職総合演習 楠 凡之 他	2学期	3	2	308
		3年			
	教育制度 見玉 弥生	1学期	3	2	309
		3年			
	教育法規 見玉 弥生	2学期	3	2	
		3年			
	人体の構造と機能及び疾病 小野 二六一	1学期	2	2	310
		2年			
	社会調査の基礎	1学期	2	2	311
		2年			
	相談援助の基盤と専門職 1 坂本 毅啓	1学期	1	2	312
		1年			
	相談援助の基盤と専門職 2 坂本 毅啓	2学期	1	2	313
		1年			
	相談援助の理論と方法 1 藤藪 貴治	1学期	2	2	314
		2年			
	相談援助の理論と方法 2 松川 素子	2学期	2	2	315
		2年			
相談援助の理論と方法 3 藤田 博久	1学期	2	2	316	
	2年				
地域福祉の理論と方法 1 深谷 裕	1学期	2	2	317	
	2年				
地域福祉の理論と方法 2 渡辺 良司	2学期	2	2	318	
	2年				
福祉行財政と福祉計画 難波 利光	1学期	3	2	319	
	3年				
福祉サービスの組織と経営 中園 紀明	2学期	3	2	320	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	社会保障 坂本 毅啓	2学期	2	2	321
	2年				
	高齢者に対する支援と介護保険制度 1 石塚 優	1学期	2	2	322
	2年				
	高齢者に対する支援と介護保険制度 2 石塚 優	2学期	2	2	323
	2年				
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度 小賀 久	1学期	2	2	324
	2年				
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 河嶋 静代	2学期	2	2	325
	2年				
	低所得者に対する支援と生活保護制度 藤藪 貴治	2学期	2	2	326
	2年				
	保健医療サービス 来田 時子	1学期	2	2	327
	2年				
	権利擁護と成年後見制度 小賀 久	1学期	3	2	328
	3年				
	相談援助演習 1 小賀 久	2学期	2	2	329
	2年				
	相談援助演習 2 小賀 久	1学期	3	2	330
	3年				
相談援助演習 3 小賀 久	1学期	3	2	331	
3年					
相談援助演習 4 河嶋 静代	2学期	3	2	332	
3年					
相談援助演習 5 未到来	1学期	4	2		
4年					
相談援助実習指導 1 小賀 久	1学期 (ペア)	3	2	333	
3年					
相談援助実習指導 2 河嶋 静代	2学期	3	1	334	
3年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目	相談援助実習 小賀 久	集中	3	6	335
		3年			
	児童福祉論 河嶋 静代	1学期	2	2	336
		2年			
	障害者福祉論 小賀 久	2学期	2	2	337
		2年			
■演習・卒論科目	演習 A - 1 田島 司	1学期	3	2	338
		3年			
	演習 A - 1 田中 信利	1学期	3	2	339
		3年			
	演習 A - 1 松尾 太加志	1学期	3	2	340
		3年			
	演習 A - 1 野井 英明	1学期	3	2	341
		3年			
	演習 A - 1	1学期	3	2	342
		3年			
	演習 A - 1 竹川 大介	1学期	3	2	343
		3年			
	演習 A - 1 河嶋 静代	1学期	3	2	344
		3年			
	演習 A - 1 小賀 久	1学期	3	2	345
		3年			
	演習 A - 1 黒田 耕司	1学期	3	2	346
		3年			
	演習 A - 1 楠 凡之	1学期	3	2	347
		3年			
演習 A - 1 恒吉 紀寿	1学期	3	2	348	
	3年				
演習 A - 1 見玉 弥生	1学期	3	2	349	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習 A - 1 加倉井 美智子	1学期	3	2	350
		3年			
	演習 A - 1 高西 敏正	1学期	3	2	351
		3年			
	演習 A - 1 岩松 文代	1学期	3	2	352
		3年			
	演習 A - 1 税田 慶昭	1学期	3	2	353
		3年			
	演習 A - 2 田島 司	2学期	3	2	354
		3年			
	演習 A - 2 田中 信利	2学期	3	2	355
		3年			
	演習 A - 2 松尾 太加志	2学期	3	2	356
		3年			
	演習 A - 2 野井 英明	2学期	3	2	357
		3年			
	演習 A - 2	2学期	3	2	358
		3年			
	演習 A - 2 竹川 大介	2学期	3	2	359
		3年			
演習 A - 2 河嶋 静代	2学期	3	2	360	
	3年				
演習 A - 2 小賀 久	2学期	3	2	361	
	3年				
演習 A - 2 黒田 耕司	2学期	3	2	362	
	3年				
演習 A - 2 楠 凡之	2学期	3	2	363	
	3年				
演習 A - 2 恒吉 紀寿	2学期	3	2	364	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習 A - 2 見玉 弥生	2学期	3	2	365
		3年			
	演習 A - 2 加倉井 美智子	2学期	3	2	366
		3年			
	演習 A - 2 高西 敏正	2学期	3	2	367
		3年			
	演習 A - 2 岩松 文代	1学期	3	2	368
		3年			
	演習 A - 2 税田 慶昭	2学期	3	2	369
		3年			
	演習 B - 1 近藤 倫明	1学期	4	2	370
		4年			
	演習 B - 1 田島 司	1学期	4	2	371
		4年			
	演習 B - 1 田中 信利	1学期	4	2	372
		4年			
	演習 B - 1 松尾 太加志	1学期	4	2	373
		4年			
	演習 B - 1 野井 英明	1学期	4	2	374
		4年			
演習 B - 1	1学期	4	2	375	
	4年				
演習 B - 1 竹川 大介	1学期	4	2	376	
	4年				
演習 B - 1 河嶋 静代	1学期	4	2	377	
	4年				
演習 B - 1 小賀 久	1学期	4	2	378	
	4年				
演習 B - 1 黒田 耕司	1学期	4	2	379	
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習B - 1 楠 凡之	1学期	4	2	380
		4年			
	演習B - 1 恒吉 紀寿	1学期	4	2	381
		4年			
	演習B - 1 児玉 弥生	1学期	4	2	382
		4年			
	演習B - 1 加倉井 美智子	1学期	4	2	383
		4年			
	演習B - 1 高西 敏正	1学期	4	2	384
		4年			
	演習B - 1 岩松 文代	1学期	4	2	385
		4年			
	演習B - 1 税田 慶昭	1学期	4	2	386
		4年			
	演習B - 2 近藤 倫明	2学期	4	2	387
		4年			
	演習B - 2 田島 司	2学期	4	2	388
		4年			
演習B - 2 田中 信利	2学期	4	2	389	
	4年				
演習B - 2 松尾 太加志	2学期	4	2	390	
	4年				
演習B - 2 野井 英明	2学期	4	2	391	
	4年				
演習B - 2	2学期	4	2	392	
	4年				
演習B - 2 竹川 大介	2学期	4	2	393	
	4年				
演習B - 2 河嶋 静代	2学期	4	2	394	
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習B - 2 小賀 久	2学期	4	2	395
		4年			
	演習B - 2 黒田 耕司	2学期	4	2	396
		4年			
	演習B - 2 楠 凡之	2学期	4	2	397
		4年			
	演習B - 2 恒吉 紀寿	2学期	4	2	398
		4年			
	演習B - 2 児玉 弥生	2学期	4	2	399
		4年			
	演習B - 2 加倉井 美智子	2学期	4	2	400
	4年				
演習B - 2 高西 敏正	2学期	4	2	401	
	4年				
演習B - 2 岩松 文代	1学期	4	2	402	
	4年				
演習B - 2 税田 慶昭	2学期	4	2	403	
	4年				
卒業論文 演習担当教員	1・2学期(ペア)	4	6		
	4年				
■基礎演習科目	人間関係学基礎演習I 高西 敏正 他	1学期	1	2	404
		1年			
	人間関係学基礎演習II 河嶋 静代 他	2学期	1	2	405
		1年			
■概論科目	心理学概論 田中 信利 他	2学期	1	2	406
		1年			
	基礎心理学 松尾 太加志	1学期	1	2	407
	1年				
	社会学概論	1学期	1	2	408
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■概論科目	人間環境概論 野井 英明 他	1学期	1	2	409
		1年			
	人類学概論 竹川 大介	2学期	1	2	410
		1年			
	教育学概論 恒吉 紀寿 他	1学期	1	2	411
		1年			
	生涯スポーツ学概論 加倉井 美智子 他	2学期	1	2	412
	1年				
現代社会と福祉 1 河嶋 静代	1学期	1	2	413	
	1年				
現代社会と福祉 2 小賀 久	2学期	1	2	414	
	1年				
■実験実習科目	心理学実験実習I 松尾 太加志	2学期 (ペア)	2	2	415
		2年			
	社会調査実習 (フィールドワーク) 竹川 大介 他	2学期 (ペア)	2	2	416
		2年			
	社会調査実習 (サーベイ)	2学期 (ペア)	2	2	417
		2年			
人間環境実験・実習 野井 英明 他	1学期 (ペア)	2	2	418	
	2年				
生涯教育・生涯スポーツ実習 加倉井 美智子 他	1学期 (ペア)	2	2	419	
	2年				
■自由科目	法学総論 未定	1学期	1	2	420
		1年			
	政治学 松田 憲忠	集中	1	2	421
		1年			
	国際関係論I 小尾 美千代	1学期	1	2	422
	1年				
国際関係論II 藤井 大輔	2学期	1	2	423	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■自由科目	メディア文化概論	1学期	1	2	424
	休講	1年			
	博物館経営論・博物館情報論	2学期	2	2	425
	太田 正道	2年			
	博物館資料論	1学期	2	2	426
	永尾 正剛	2年			
	日本の歴史と社会	1学期	2	2	427
	八百 啓介	2年			
	経済地理学I	1学期	2	2	428
	柳井 雅人	2年			
	経済地理学II	2学期	2	2	429
	柳井 雅人	2年			
	国際法I	1学期	2	2	430
	二宮 正人	2年			
国際法II	2学期	2	2	431	
二宮 正人	2年				
博物館実習I	2学期(ペア)	3	1	432	
野井 英明					
博物館実習II	1学期(ペア)	4	2	433	
野井 英明					
■教職に関する科目 ■必修科目	社会科教育法A	1学期	2	2	434
	休講	2年			
	社会科教育法B	2学期	2	2	435
	休講	2年			
	公民科教育法A	1学期	2	2	436
	飯田 直弘	2年			
	公民科教育法B	2学期	2	2	437
飯田 直弘	2年				
教育実習1	2学期	3	2	438	
黒田 耕司 他	3年				

文学部 人間関係学科 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教職に関する科目 ■必修科目	教育実習 2 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2	436
		4年			
	教育実習 3 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2	437
		4年			
	社会科教育法 C 坂口 一隆	1学期	2	2	438
		2年			
	社会科教育法 D 坂口 一隆	2学期	2	2	439
		2年			
	教職実践演習 未開講	2学期	4	2	
		4年			

文学部 人間関係学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	440
		1年			
	家族を問う 小野 憲昭	2学期	1	2	441
		1年			
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	442
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	443
		1年			
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	444
		1年			
	教養としての平和学 戸蒔 仁司	2学期	1	2	445
		1年			
	可能性としての歴史 (昼のみ開講)		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
	家族の再生 (昼のみ開講)		2	2	
(昼のみ開講)	2年				
文化と政治 (昼のみ開講)		2	2		
(昼のみ開講)	2年				
言語と認知 (昼のみ開講)		2	2		
(昼のみ開講)	2年				
共生社会論 (昼のみ開講)		2	2		
(昼のみ開講)	2年				
戦争と平和 (昼のみ開講)		2	2		
(昼のみ開講)	2年				
生活世界の哲学 伊原木 大祐	2学期	1	2	446	
	1年				
共同体と身体 (昼のみ開講)		2	2		
(昼のみ開講)	2年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	447
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII	2学期	1	2	
	休講	1年			
	フィジカル・ヘルスI	1学期	1	2	
	休講	1年			
	フィジカル・ヘルスII	2学期	1	2	448
	内田 若希	1年			
	自己管理論		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			
	キャリア・デザイン		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			
	コミュニケーションと思考法		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			
	プロフェッショナルの仕事		2	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	2年			
大学論・学問論		1	2		
(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年				
法律の読み方		1	2		
(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年				
社会調査	2学期	1	2	449	
稲月 正	1年				
統計を読む・統計をつくる		1	2		
(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	450	
徳永 政夫	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1		
休講	1年				
■教養演習科目	教養基礎演習I		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			
	教養基礎演習II		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引		
		クラス					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習AⅠ (昼のみ開講) (昼のみ開講)		2	2	2年	451	
	教養演習AⅡ (昼のみ開講) (昼のみ開講)		2	2			2年
	教養演習BⅠ (昼のみ開講) (昼のみ開講)		3	2	3年		
	教養演習BⅡ 二宮 正人	2学期	3	2	3年		
	プロジェクト演習Ⅰ (昼のみ開講) (昼のみ開講)		2	2	2年		
	プロジェクト演習Ⅱ (昼のみ開講) (昼のみ開講)		3	2	3年		
	■テーマ科目	自然学のまなざし 休講	1学期	1	2		1年
		動物のみかた (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2		1年
		地球の生いたち 長井 孝一	2学期	1	2		1年
		自然史へのいざない (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2		1年
		くらしと化学 休講	1学期	1	2		1年
		現代人のこころ 休講	1学期	1	2		1年
数のたのしみ (昼のみ開講) (昼のみ開講)			1	2	1年		
私たちと宗教 (昼のみ開講) (昼のみ開講)			1	2	1年		
思想と現代 伊原木 大祐		1学期	1	2	1年		
						453	

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	ものがたりと人間		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			
	文化と表象		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			
	言語とコミュニケーション		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			
	芸術と人間		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			
	文学を読む	1学期	1	2	
	休講	1年			
	戦争と人間		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			
	現代正義論	2学期	1	2	
	休講	1年			
	民主主義とは何か	1学期	1	2	454
	中道 壽一	1年			
	人権論	1学期	1	2	455
	柳井 美枝	1年			
	ジェンダー論	1学期	1	2	456
	カ武 由美	1年			
障がい学	2学期	1	2		
休講	1年				
共生の作法		1	2		
(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年				
北九州学	2学期	1	2	457	
小野 憲昭	1年				
市民活動論	2学期	1	2	458	
西田 心平	1年				
企業と社会	1学期	1	2	459	
山岡 敏秀	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	つなぐりの人間学 (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	460
	現代社会と倫理 伊原木 大祐	1学期	1	2	
	現代社会の諸問題 休講	2学期	1	2	461
	現代の国際情勢 金 鳳珍	1学期	1	2	
	国際社会論 休講	1学期	1	2	462
	国際紛争と国連 戸蒔 仁司	1学期	1	2	
	民族・エスニシティ問題 (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	463
	開発と統治 三宅 博之 他	1学期	1	2	
	グローバル化する経済 休講	2学期	1	2	464
	テロリズム論 (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	
	国際社会と日本 休講	1学期	1	2	464
	歴史の読み方I 小林 道彦	1学期	1	2	
	歴史の読み方II 休講	1学期	1	2	464
	そのとき世界は (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	
	戦後の日本経済 (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	464
			1	2	

文学部 人間関係学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	都市と農村の生活文化史 福間 裕爾	1学期	1	2	465
		1年			
	もとと人間の歴史 (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	人物と時代の歴史 新村昭雄(文)、三宅博之(法)、乗口眞一郎、山崎勇治	1学期	1	2	466
		1年			
	教養特講I (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	教養特講II (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	教養特講III (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
教養特講IV (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2		
	1年				
■教職関連科目	日本史 休講	2学期	1	2	
		1年			
	西洋史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	467
		1年			
	東洋史 藤野 月子	2学期	1	2	468
		1年			
	社会学 休講	1学期	1	2	
		1年			
	人文地理学 休講	2学期	1	2	
		1年			
	土地地理学 休講	1学期	1	2	
		1年			
地誌学 吉津 直樹	1学期	1	2	469	
	1年				
日本国憲法 徳永 達哉	2学期	1	2	470	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	倫理学 伊原木 大祐	2学期	1	2	471
	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 廣渡 栄寿	2学期	1	2	472
	1年				
	データ処理 中尾 泰士	1学期	1	2	473
	1年				
	情報表現 (昼のみ開講)		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
	プログラミング基礎 (昼のみ開講)		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I 杉山 智子	1学期	1	1	474
	比人夜 1年				
	英語II 杉山 智子	2学期	1	1	475
	比人夜 1年				
	英語III クリストファー・オサリバン	1学期	1	1	476
	比人夜 1年				
	英語IV クリストファー・オサリバン	2学期	1	1	477
	比人夜 1年				
	英語V 伊藤 晃	1学期	2	1	478
	比人夜 2年				
	英語VI 伊藤 晃	2学期	2	1	479
	比人夜 2年				
	英語VII ダニー・ミン	1学期	2	1	480
	比人夜 2年				
英語VIII ダニー・ミン	2学期	2	1	481	
比人夜 2年					
■第二外国語	中国語I 有働 彰子	1学期	1	1	482
	英比人夜 1年				
	中国語II 有働 彰子	2学期	1	1	483
英比人夜 1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語Ⅲ 王 占華	1学期	1	1	484
		英比人夜 1年			
	中国語Ⅳ 王 占華	2学期	1	1	485
		英比人夜 1年			
	朝鮮語Ⅰ 金 貞愛	1学期	1	1	486
		英比人夜 1年			
	朝鮮語Ⅱ 金 光子	2学期	1	1	487
		英比人夜 1年			
	朝鮮語Ⅲ 金 光子	1学期	1	1	488
		英比人夜 1年			
	朝鮮語Ⅳ 金 光子	2学期	1	1	489
		英比人夜 1年			
	ロシア語Ⅰ 芳之内 雄二	1学期	1	1	490
		英比人夜 1年			
	ロシア語Ⅱ 芳之内 雄二	2学期	1	1	491
		英比人夜 1年			
	ロシア語Ⅲ 芳之内 雄二	1学期	1	1	492
		英比人夜 1年			
	ロシア語Ⅳ 芳之内 雄二	2学期	1	1	493
		英比人夜 1年			
ドイツ語Ⅰ 山下 哲雄	1学期	1	1	494	
	比人夜 1年				
ドイツ語Ⅱ 山下 哲雄	2学期	1	1	495	
	比人夜 1年				
ドイツ語Ⅲ 山下 哲雄	1学期	1	1	496	
	比人夜 1年				
ドイツ語Ⅳ 山下 哲雄	2学期	1	1	497	
	比人夜 1年				
フランス語Ⅰ 福島 勲	1学期	1	1	498	
	比人夜 1年				

文学部 人間関係学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語II 福島 勲	2学期	1	1	499
		比人夜 1年			
	フランス語III 山下 高之	1学期	1	1	500
		比人夜 1年			
	フランス語IV 山下 高之	2学期	1	1	501
		比人夜 1年			
	スペイン語I 岡住 正秀	1学期	1	1	502
		英比人夜 1年			
	スペイン語II 岡住 正秀	2学期	1	1	503
		英比人夜 1年			
	スペイン語III 岡住 正秀	1学期	1	1	504
		英比人夜 1年			
スペイン語IV 岡住 正秀	2学期	1	1	505	
	英比人夜 1年				
■専門教育科目 ■選択科目	認知心理学 休講	1学期	2	2	
		2年			
	社会心理学 休講	2学期	2	2	
		2年			
	対人心理学 休講	1学期	2	2	
		2年			
	臨床心理学 田中 信利	1学期	2	2	506
		2年			
	カウンセリング論 田中 信利	2学期	2	2	507
		2年			
コミュニケーション論 休講	1学期	2	2		
	2年				
学習心理学 昼のみ開講	2学期	2	2		
	2年				
教育心理学 田島 司	2学期	2	2	508	
	2年				

文学部 人間関係学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■選択科目	発達心理学	1学期	2	2	509
	税田 慶昭	2年			
	障害児の心理と指導	2学期	2	2	
	休講	2年			
	心理療法論	2学期	2	2	
	昼のみ開講	2年			
	心理統計	2学期	2	2	
	昼のみ開講	2年			
	老年心理学	2学期	2	2	
	昼のみ開講	2年			
	生理心理学	1学期	2	2	
	昼のみ開講	2年			
	社会意識論	2学期	2	2	
	休講	2年			
	文化社会学	1学期	2	2	
	休講	2年			
家族社会学	集中	2	2		
昼のみ開講	2年				
理論社会学	集中	2	2		
昼のみ開講	2年				
教育社会学	1学期	2	2		
休講	2年				
情報社会論	集中	2	2		
昼のみ開講	2年				
消費社会論	1学期	2	2	510	
	2年				
フィールドワーク論	集中	2	2		
昼のみ開講	2年				
環境社会学	2学期	2	2		
昼のみ開講	2年				

文学部 人間関係学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■専門教育科目 ■選択科目	人間環境地理学 野井 英明	2学期	2	2	511	
			2年			
	生態人類学 竹川 大介	1学期	2	2	512	
			2年			
	人間性の進化 昼のみ開講	集中	2	2		
			2年			
	比較表象文化 休講	2学期	2	2		
			2年			
	日本の大衆文化 昼のみ開講	2学期	2	2		
			2年			
	教育原理 見玉 弥生	2学期	2	2	513	
			2年			
	教師論 黒田 耕司	1学期	2	2	514	
			2年			
	生涯学習学 恒吉 紀寿	1学期	2	2	515	
			2年			
	主体形成論 恒吉 紀寿	2学期	2	2	516	
			2年			
	教育相談 楠 凡之	1学期	2	2	517	
		2年				
生徒・進路指導論 楠 凡之	2学期	2	2	518		
		2年				
次世代育成論 休講	1学期	2	2			
		2年				
社会教育計画論 休講	2学期	2	2			
		2年				
生涯学習編成論 休講	1学期	2	2			
		2年				
現代社会と社会教育 昼のみ開講	1学期	2	2			
		2年				

文学部 人間関係学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	教育工学 大塚 一徳	2学期	2	2	519
		2年			
	道徳教育の研究 黒田 耕司	1学期	2	2	520
		2年			
	教育方法学 黒田 耕司	2学期	2	2	521
		2年			
	人権教育論 弓野 勝族	1学期	2	2	522
		2年			
	特別活動の研究 楠 凡之	1学期	2	2	523
		2年			
	博物館概論 昼のみ開講	1学期	2	2	
		2年			
	コミュニティスポーツ論 中西 純司	2学期	2	2	524
		2年			
	スポーツ産業論 休講	2学期	2	2	
		2年			
	健康科学 休講	1学期	2	2	
		2年			
	スポーツ心理学 昼のみ開講	1学期	2	2	
	2年				
身体適応論 高西 敏正	2学期	2	2	525	
	2年				
身体スポーツ論 休講	2学期	2	2		
	2年				
トレーニング論 徳永 政夫	1学期	2	2	526	
	2年				
心理学研究法 昼のみ開講	1学期	3	2		
	3年				
心理学実験実習II 昼のみ開講	2学期 (ベア)	3	2		
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目	環境経済学 牛房 義明	1学期	3	2	527
		3年			
	教職総合演習 楠 凡之 他	2学期	3	2	528
		3年			
	教育制度 見玉 弥生	1学期	3	2	529
		3年			
	教育法規 見玉 弥生	2学期	3	2	530
		3年			
	人体の構造と機能及び疾病 村田 直子	1学期	2	2	531
		2年			
	社会調査の基礎	1学期	2	2	532
		2年			
	相談援助の基盤と専門職 1 昼のみ開講	1学期	1	2	
		1年			
	相談援助の基盤と専門職 2 昼のみ開講	2学期	1	2	
		1年			
	相談援助の理論と方法 1 藤藪 貴治	1学期	2	2	533
		2年			
	相談援助の理論と方法 2 松川 素子	2学期	2	2	534
		2年			
相談援助の理論と方法 3 藤田 博久	1学期	2	2	535	
	2年				
地域福祉の理論と方法 1 深谷 裕	1学期	2	2	536	
	2年				
地域福祉の理論と方法 2 休講	2学期	2	2		
	2年				
福祉行財政と福祉計画 難波 利光	1学期	3	2	537	
	3年				
福祉サービスの組織と経営 中園 紀明	2学期	3	2	538	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	社会保障 坂本 毅啓	1学期	2	2	539
		2年			
	高齢者に対する支援と介護保険制度 1 休講	1学期	2	2	
		2年			
	高齢者に対する支援と介護保険制度 2 休講	2学期	2	2	
		2年			
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度 小賀 久	1学期	2	2	540
		2年			
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 休講	2学期	2	2	
		2年			
	低所得者に対する支援と生活保護制度 柴田 滋	2学期	2	2	541
		2年			
	保健医療サービス 休講	1学期	2	2	
		2年			
	権利擁護と成年後見制度 昼のみ開講	1学期	3	2	
		3年			
	相談援助演習 1 昼のみ開講	2学期	2	2	
		2年			
	相談援助演習 2 昼のみ開講	1学期	3	2	
		3年			
	相談援助演習 3 昼のみ開講	1学期	3	2	
		3年			
	相談援助演習 4 昼のみ開講	2学期	3	2	
		3年			
	相談援助実習指導 1 昼のみ開講	1学期 (ベア)	3	2	
		3年			
	相談援助実習指導 2 昼のみ開講	2学期	3	1	
		3年			
	相談援助実習 昼のみ開講	集中	3	6	
		3年			

文学部 人間関係学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	児童福祉論	1学期	2	2	
	昼のみ開講	2年			
	障害者福祉論	2学期	2	2	
	昼のみ開講	2年			
■演習・卒論科目	卒業論文	1・2学期(ペア)	4	6	
	演習担当教員	4年			
■概論科目	心理学概論	2学期	1	2	
	休講	1年			
	基礎心理学	1学期	1	2	
	休講	1年			
	社会学概論	1学期	1	2	
	休講	1年			
	人間環境概論	1学期	1	2	542
	野井 英明 他	1年			
	人類学概論	2学期	1	2	543
	竹川 大介	1年			
	教育学概論	1学期	1	2	
	休講	1年			
	生涯スポーツ学概論	2学期	1	2	544
	加倉井 美智子 他	1年			
現代社会と福祉 1	1学期	1	2	545	
河嶋 静代	1年				
現代社会と福祉 2	2学期	1	2	546	
深谷 裕	1年				
■実験実習科目	心理学実験実習I	1学期(ペア)	2	2	
	昼のみ開講	2年			
	社会調査実習(フィールドワーク)	2学期(ペア)	2	2	
	昼のみ開講	2年			
	社会調査実習(サーベイ)	2学期(ペア)	2	2	
	昼のみ開講	2年			

文学部 人間関係学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■実験実習科目	人間環境実験・実習	1学期 (ペア)	2	2	
	昼のみ開講	2年			
	生涯教育・生涯スポーツ実習	1学期 (ペア)	2	2	
	昼のみ開講	2年			
■自由科目	法学総論	1学期	1	2	547
	徳永 達哉	1年			
	政治学		1	2	
	休講	1年			
	国際関係論I	1学期	1	2	
	閉講	1年			
	国際関係論II	2学期	1	2	
	閉講	1年			
	メディア文化概論	1学期	1	2	548
	真鍋 昌賢	1年			
	博物館経営論・博物館情報論	2学期	2	2	
	昼のみ開講	2年			
	博物館資料論	1学期	2	2	
	昼のみ開講	2年			
	日本の歴史と社会	2学期	2	2	
	休講	2年			
	経済地理学I	1学期	2	2	549
	柳井 雅人	2年			
	経済地理学II	2学期	2	2	550
柳井 雅人	2年				
国際法I	1学期	2	2		
休講	2年				
国際法II	2学期	2	2	551	
二宮 正人	2年				
博物館実習I	2学期 (ペア)	3	1		
昼のみ開講	3年				

文学部 人間関係学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■自由科目	博物館実習II	1学期 (ペア)	4	2	
	昼のみ開講	4年			
■教職に関する科目 ■必修科目	社会科教育法 A	1学期	2	2	552
	坂口 一隆	2年			
	社会科教育法 B	2学期	2	2	553
	坂口 一隆	2年			
	公民科教育法 A	1学期	2	2	
	休講	2年			
	公民科教育法 B	2学期	2	2	
	休講	2年			
	教育実習 1	2学期	3	2	554
	黒田 耕司	3年			
	教育実習 2	1学期	4	2	555
	恒吉 紀寿	4年			
	教育実習 3	1学期	4	2	556
	恒吉 紀寿	4年			
社会科教育法 C	1学期	2	2		
休講	2年				
社会科教育法 D	2学期	2	2		
休講	2年				

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ペリー来航（1853）から55年体制の成立（1955）までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』（ミネルヴァ書房）、○小林道彦『桂太郎』（ミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 不平等条約と条約改正【維新の三傑】
- 第3回 自由民権運動と朝鮮問題【伊藤博文】
- 第4回 日清戦争【陸奥宗光】
- 第5回 日露戦争【山県有朋】
- 第6回 大正政変 - 国家経営構想の分裂 - 【桂太郎】
- 第7回 21カ条要求【大隈重信】【孫文】
- 第8回 原敬と協調外交【原敬】
- 第9回 二大政党制と外交政策【加藤高明】
- 第10回 政党政治と満州事変【浜口雄幸】
- 第11回 2・26事件と日中戦争【近衛文麿】
- 第12回 破滅への道 - 太平洋戦争 - 【東条英機】【吉田茂】
- 第13回 戦後改革【マッカーサー】
- 第14回 55年体制の成立【自民党】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族を問う【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちが共同生活を営んでいる社会の最小単位である家族、信頼のおけるかけがえのない存在であるこの家族に今何が起きているのか。迷走し、混迷する家族の実像から、現代の家族が抱える問題点を明らかにしてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

使用しません。レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 開講にあたって-問題の出発点-家族とは？
- 2回 家族の機能
- 3回 ハードウェアとしての家族
- 4回 システムとしての家族①
- 5回 システムとしての家族②
- 6回 システムとしての家族③
- 7回 システムとしての家族④
- 8回 現代家族の課題-夫婦①
- 9回 現代家族の課題-夫婦②
- 10回 現代家族の課題-親子①
- 11回 現代家族の課題-親子②
- 12回 現代家族の課題-親子③
- 13回 現代家族の課題-家族の危機
- 14回 現代家族の課題-家族モデル
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

キーワード /Keywords

人間と文化【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いだろう。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。

グローバル化が進んだ現在でも、地域によって家族・親族関係のありかた、信仰のありかた、経済活動に関する考え方は大きく異なる。本講義では、(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学一年生という受講者が現在考えている「文化」を、世界各地の文化のありかたを参照することで相対化し、身の回りの現代社会について考察するひとつの手段を学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
春日直樹(編)2008『人類学で世界をみる』ミネルヴァ書房
作道伸介(編)2008『近代化のフィールドワーク』東信堂
宮島喬(編)2000『講座社会学7 文化』東京大学出版会
※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：グローバルでローカルな世界を想像するために
- 第2回 異文化の「発見」：文化を考察する視点について
- 第3回 文化の基礎としての環境との<共生>
- 第4・5回 経済活動にみる文化：贈与と交換から地域通貨まで
- 第6回 資本主義の受容と貧困
- 第7回 開発の現場における「文化の差異」
- 第8・9回 個人と集団：生殖医療の時代に家族・親族関係を考える
- 第10回 親族・家族関係から社会関係への拡張
- 第11回 ジェンダー
- 第12・13回 日常生活の中の儀礼からみえる世界観
- 第14回 宗教・呪術・占いの機能
- 第15回 まとめ：グローバル化のなかのローカルな文化と普遍的価値観

成績評価の方法 /Assessment Method

エッセイによる授業貢献20%、期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回最後の10-15分は授業の感想と、指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についてのエッセイを記述し、提出してもらいます。次回の講義の冒頭で、提出されたエッセイの中から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進めます。専門分野に関わらず、日常的に新聞、雑誌、書籍などを読む習慣をつけ、自分の考えをまとめる訓練を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「人間と文化」では、文化について生活に密着した側面に注目しています。来年度に2年次対象の「文化と政治」を受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、環境、共同体、社会関係

ことばの科学 【昼】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音声と音韻
- 第4回 連濁・鼻濁音
- 第5回 ことばの単位(2)：語
- 第6回 語の基本：成り立ち・構造・意味
- 第7回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第8回 言葉の単位(3)：文
- 第9回 動詞の自他
- 第10回 日本語と英語の受動態
- 第11回 数量詞
- 第12回 代名詞：「彼」「彼女」「自分」「自分自身」
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養としての平和学 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks
 特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～5回 問題提起、戦争の定義
- 6回～8回 平和の定義、積極平和論
- 9回～11回 日本の平和主義
- 12回～13回 正戦論(正義の戦争はあるか)
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「歴史にイフは禁物」とよく言われるが、本当にそうなのか？安易なイフの設定はたしかに禁物だが、イフを上手に導入すれば、歴史の失われた可能性が見えてくるだろう。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかのイフを導入して、日本近代史の別の可能性をみなさんとともに考えていこうと思う。なお、「歴史と政治」「歴史の読み方II」を受講していただいた方が、講義の理解はより深まります。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)など。適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日清戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【陸奥宗光】
- 3回 日露戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【小村寿太郎】
- 4回 もし、伊藤博文が暗殺されなかったら - 韓国併合回避の可能性はあったか？ - 【山県有朋】
- 5回 もし、明治天皇がもっと長生きしていたら - 2大政党制の誕生 - 【桂太郎】
- 6回 もし、シーメンス事件が発覚しなかったら？ - 大隈内閣と21カ条要求 - 【山本権兵衛】
- 7回 もし、原敬が暗殺されなかったら？ - 政党政治による軍部支配 - 【田中義一】
- 8回 もし、加藤高明が急死しなかったら？ - 外交政策の安定化 - 【護憲三派内閣】
- 9回 もし、若槻礼次郎内閣が崩壊しなかったら？ - 満州事変は失敗していた？ - 【石原莞爾】
- 10回 もし、2・26事件が起こらなかったら？ - 日中戦争回避の可能性 - 【高橋是清】
- 11回 もし、1940年夏にフランスがドイツに勝利していたら？(日独伊三国同盟)【ヒトラー】
- 12回 もし、鈴木貫太郎内閣がポツダム宣言を受諾しなかったら？(太平洋戦争)【本土決戦】。
- 13回 もし、西郷隆盛が亡くならなかったら【西南戦争】【藩閥政府】。
- 14回 歴史にifは必要だ！
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※学生諸君の理解度に鑑みて、講義内容を若干変更する可能性があります。「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。最低限、高校教科書レベル+αの予習を毎回やってきて下さい。そのための文献は適宜指示します。

履修上の注意 /Remarks

相当量の板書をするので、ノートはこまめにとること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族の再生 【昼】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代家族の状況、家族の形成、再生の試みを紹介しながら今後の家族の行方を探り、家族の可能性、家族とともに生きることを考えてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに-ガイダンス
- 2回 家族を見つめる①
- 3回 家族を見つめる②
- 4回 家族を見つめる③
- 5回 家族モデルを考える①
- 6回 家族モデルを考える②
- 7回 家族モデルを考える③
- 8回 家族の危機を回避する①
- 9回 家族の危機を回避する②
- 10回 家族の危機を回避する③
- 11回 家族の危機を回避する④
- 12回 家族の危機を回避する⑤
- 13回 家庭裁判所の利用を考える①
- 14回 家庭裁判所の利用を考える②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

キーワード /Keywords

文化と政治【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の対立がしばしば政治的な問題となり、その解決のために異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義はそのための基礎的な考え方を身につけることを目的とする。講義の前半は、「文化を知ること」そのものが持つ政治性について講義を行い、後半はその応用として、文化と政治が結びついて立ち現われる具体的な場に注目して講義を行う。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、以下の参考文献（参考までにどの学部にもふさわしいか記しているが）各人の興味にあわせて一冊以上読んでおくこと。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 青木保ほか（編）1997 『民族の生成と論理（岩波講座文化人類学5）』 岩波書店（文・外）
- 青木保ほか（編）1997 『紛争と運動（岩波講座文化人類学6）』 岩波書店（法・文・外）
- 岩竹美加子 1996 『民俗学の政治性』 未来社（文・群）
- ジョセフ・E・ステイグリッツ 2002 『世界を不幸にしたグローバリズムの正体』 徳間書店（経・外）
- 陳天璽 2005 『無国籍』 新潮社（法・文・外・群）
- デヴィッド・ヘルド 2002 『グローバル化とは何か』 法律文化社（経・法・外・群）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか
- 第2・3回 自文化を知ることの政治性：ナショナリズムと文化
- 第4回 自文化を知らないことの政治性：先住民・少数民族の文化に関して
- 第5・6回 異文化を知ることの政治性：「未開の人々」へのエキゾチズム
- 第7回 異文化を知らないことの政治性：人権の概念は世界共通か？
- 第8回 中間試験 / 講義前半のまとめ・講義後半の導入
- 第9回 文化的「他者」への憎悪のメカニズム：ナショナリズム・エスノナショナリズム
- 第10・11・12回 共生のための政治
- 第13・14回 記憶の政治学と文化
- 第15回 まとめ：ネイションとエスニシティの時代を超えて

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験30%、期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

第8回目に中間試験を行うが、中間試験を受けていない学生は期末試験を受けることができないので注意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

文化と政治の問題は学際性の強い分野です。自分の専門の興味関心と結び付けながら、授業に臨んでください。

キーワード /Keywords

ナショナリズム、エスノナショナリズム、グローバリゼーション、多文化共生

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター
 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 視覚と言語1 (未定)
- 第3回 視覚と言語2 (未定)
- 第4回 視覚と言語3 (未定)
- 第5回 ことばはどのように身につけられるのか：言語習得 (漆原)
- 第6回 ことばはどのように失われるのか：失語症・失文法 (漆原)
- 第7回 ことばはどのように処理されるのか：文法と脳科学 (漆原)
- 第8回 前半のまとめ (漆原)
- 第9回 ことばはなぜヒトに特有なのか：言語と遺伝子1 (日高)
- 第10回 ことばはなぜヒトに特有なのか：言語と遺伝子2 (日高)
- 第11回 ことばはなぜヒトに特有なのか：言語と遺伝子3 (日高)
- 第12回 特別講義 (外部講師)
- 第13回 文の形と意味をつなぐもの：文法形式と意味の類像性 (杉山)
- 第14回 左右の区別がなかったら？：ことばと思考・言語相対論 (杉山)
- 第15回 まとめ：担当者によるパネル・ディスカッション (全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への姿勢・取り組み...20% 課題...16% × 5
 外部講師を含む5名の担当教員の課題をすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げる中で、この問題に迫って生きたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】。
- 第3回～第6回：異文化共存の方法、オリエンタリズムの克服方法【一元論的理解VS.多元論的理解】【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回～第12回：具体的事例「自閉症児者との共存・共生」
- 第13回～第14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争と平和【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次ビジョン科目「教養としての平和学」からさらに進んで、戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。「教養としての平和学」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 安全保障とは何か
- 3回～6回 第1テーマ 20世紀の戦争I～世界大戦
 - A.戦争と平和(戦争を学ぶ必要性、戦争の定義、戦争と平和)
 - B.戦争の経歴(絶対主義時代の戦争、革命戦争、近代戦争)
 - C.両大戦の特徴(総力化、イデオロギー化、全面化)
 - D.戦争の変質(勢力均衡、アメリカの戦争観)
- 7回～10回 第2テーマ 20世紀の戦争II～核兵器の時代
 - A.原爆の出現(開発、完成、投下)
 - B.核兵器の種類と威力
 - C.核兵器出現に伴う変化
 - D.代理戦争(国際内戦)
 - E.核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 9回～10回 第3テーマ 21世紀の戦争I
 - A.冷戦終焉と「安全保障の終焉」?(「歴史の終焉?」「文明の衝突?」)
 - B.米国の脅威認識(911、国土安全保障戦略、ブッシュドクトリン、民主主義の拡大)
- 11回～14回 第4テーマ 21世紀の戦争II
 - A.「テロとの戦争」
 - B.破綻国家と人道的介入
 - C.正戦論の復権
 - D.対アフガニスタン武力行使の評価
 - E.イラク戦争
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし。ただし、「教養としての平和学」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「戦争と人間」「国際社会と日本」などを受講しておく、さらに深く理解できる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ウェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (1) 【官僚制】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (2) 【物象化】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (3) 【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (4) 【分業体制】
- 6回 生活世界論のはじまり(1) 【近代科学と現象学】
- 7回 生活世界論のはじまり(2) 【フッサールの近代批判】
- 8回 確認テストとその解説
- 9回 生活世界論のひろがり(1) 【アーレント、人と思想】
- 10回 生活世界論のひろがり(2) 【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1) 【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2) 【古代ギリシャにおける政治】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1) 【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2) 【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...50% 学期末試験...50%
(第8回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。この場合、成績評価はE判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生向け科目であることを考慮に入れ、分かりやすい講義となるよう心がけたい。しかし、2回にわたって実施する試験は、いずれも難度の高いものであることをあらかじめ認識しておくこと(昨年度は約2~3割の受講者が不合格となっている)。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

共同体と身体 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間が自分（たち）の体について抱いている観念は、歴史を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。

この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを精神的な観点から考察する。継続的な受講により、生活世界と自己とのつながりが以前よりもはつきりと理解できるようになるだろう。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○B・スネル『精神の発見——ギリシア人におけるヨーロッパ的思考の発生に関する研究』（新井靖一訳）、創文社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日本的身体のイメージI
- 3回 日本的身体のイメージII
- 4回 近代社会の勃興と心身二元論
- 5回 古代ギリシャの身体観I（プラトンからホメロスへ）
- 6回 古代ギリシャの身体観II（ソポクレス）
- 7回 古代ギリシャの身体観III（通時的総括）
- 8回 キリスト教共同体と身体
- 9回 中間考査（2回～8回の内容確認テストを実施）
- 10回 映画の中の身体I
- 11回 映画の中の身体II
- 12回 文学作品の中の身体
- 13回 現代社会と身体問題の変容I
- 14回 現代社会と身体問題の変容II
- 15回 講義の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

内容確認テスト...40% 期末レポート...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で扱われる内容は、1年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。

「生活世界の哲学」、もしくは担当者による「倫理学」の授業をすでに受けている場合は、本講義についていくのが比較的容易なはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

昨年度は課題提出に際していくつかの深刻な不正が発覚したため、今年度から本授業はより一層厳格かつ厳密な成績評価法に変更している。それゆえ、この授業に登録予定の諸君には、ダンテ『神曲』の中から以下の有名な言葉を贈っておきたい。

「Lasciate ogne speranza, voi ch'intrate.（ここに入るあなたがたは一切の希望を捨てよ。）」

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書
 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション, 受講上の注意, 講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
 - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
 - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤勉性と劣等感】
 - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
 - 6回から11回 青年期から壮年期までの人生と心の健康 【豊かな心とは】
 同一性の視点から ・遊びと人生
 配偶者の選択 ・病いと人生
 - 12回から13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガ - 】
 - 14回 健康な心と身体が行く末について。【老いと死の受容】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価の方法
 定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス(心の健康)を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な人格を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」を前提として、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)
 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
 2回 心的態度と生き方のセルフチェック【とらわれ】
 3回～5回 人間の発達と自己形成【コフト理論やアドラー心理学などの理論紹介】
 6回～8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
 9回～10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。森田療法の視点から。【感謝】
 11回～12回 ライフスタイルについて。ライフスタイルとは。ライフスタイル診断。【アドラー心理学】
 13回～14回 ライフプランについて(ワークライフ・バランス)。地域や世界の心の健康を考える。
 キャリアプラン 【仕事】【遊び】
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自己の心の健康のみならず、他者や地域、国家や地球の環境にまで視野を拡大することを望みたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
 授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)
 実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動ができる服装と体育館シューズを準備して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力

フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
 授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)
 実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習) ソフト・ トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義) ストレッチの理論
- 5回 (実習) ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義) ふとる・ やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習) 軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義) フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習) 球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習) 球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義) これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義) これからの運動②【体力の維持・ 向上】、【継続性】
- 13回 (講義) レッツ・ スポーツ【計画・ 企画】
- 14回 (実習) レッツ・ スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 生田カツ工、稲月正

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活することは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書 /Textbooks

パワーポイントや配布資料など

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に設けない。授業中に関連文献を随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 第 1回 自己管理I総論【保健師】：自己管理に必要な青年期の心身両面からの問題を総論する。
- 第 2回 防犯の心得【警察官】：安心・安全とは何か。被害にあわないための具体的な自己防衛法を学び生活に役立てる。
- 第 3回 自己管理II体の健康【保健師】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す。
- 第 4回 若者にもっとも大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的な栄養の知識を身につける。
- 第 5回 歯と口の健康を保つセルフケア【歯科医師】：歯及び口腔のセルフケアを学び豊かな人生を送るための基礎を養う。
- 第 6回 薬と健康【薬剤師】：薬の効果、サプリメントなど健康のための薬の知識を学ぶ。
- 第 7回 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ。
- 第 8回 自己管理III心の健康【保健師】：心と身体の関係から起こる疾病の予防や対策を学ぶ。
- 第 9回 健康な体と感染症【助産師】：自分で予防できる感染症の知識や命の尊さを学ぶ。
- 第10回 救急法I【消防士】：救急法I、IIは講義と救急救命の実技を組み合わせで行う。
- 第11回 救急法II応急手当の方法、心肺蘇生法の手順など、事故・災害時の身の守り方、人命救助の具体的方法を学習する。
- 第12回 障害とノーマラージュエーション【作業療法士】：障害者の自立生活を支援するための資源、サービス、情報など身近な事柄として紹介する。
- 第13回 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害・ハラスメント防止などの知識と予防対策を学ぶ。
- 第14回 自己管理まとめ【保健師】：小試験・ポイント・記述などで総合的に理解を深める。

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回のミニレポート：60% ②まとめ(小試験・ポイント・記述など)：40%、①②の総合点で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回授業で配布するレジユメをよく読みこんでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

- 1 1回目の総論で「自己管理のプログラム」を配布する。
- 2 外部講師による講義のため、授業開始後20分には入室禁止する。私語をしない。
- 3 毎回のミニレポートは出席確認としても取り扱う。
- 4 欠席した場合は正直に自己管理授業用の欠席届を提出する。
- 5 救急法の実技時には、上靴、スラックスなど着用する。
- 6 最終回の「自己管理まとめ」授業は小試験のため必ず出席する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学生の就職だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 授業内のレポート...30% まとめレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありませんが、自分のキャリアは自分で考えるしかありません。積極的・主体的に授業に参加し、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10力条を守ってください。

- ①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キャリア・デザイン【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

将来の進路に対する不安や迷いを解消するために、また有意義な大学生活を営むために、

- ①様々な業界や企業、そして働き方など社会について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方を知る
- ③初対面の学生とのコミュニケーションに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

以上5点を獲得目標とし、グループワーク、個人ワーク、講義、先輩や社会人のゲストとのディスカッションなどを組み合わせて授業を進めていきます。最終授業では、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのかをプランしていただきます。

皆さんと一緒に、無限の可能性を秘めた自分の将来について、じっくり考える時間になりたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。以下書籍はその参考例です。

- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 大久保幸夫『キャリアデザイン入門1基礎力編』日本経済新聞社
- 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
- モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
- エドガー・H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的やルール、キャリアの基本知識)
- 2回 学生生活とキャリア (社会で働く上で必要となる力、大学時代の過ごし方)
- 3回 進路について (就職活動や公務員試験、教員試験、大学院進学など)
- 4回 自分を知る① (働く価値観や仕事へのこだわり)
- 5回 自分を知る② (一皮むける経験、経験学習)
- 6回 自分を知る③ (自分の対人特性、自分の強みを伸ばす、自分の弱みを受け入れる)
- 7回 仕事をすること (仕事を考える視点、仕事のやりがい) ※社会人ゲストを予定
- 8回 キャリアとお金 (雇用形態と賃金、生活費シミュレーション)
- 9回 大学生活を面白くする方法 (計画された偶発性・セレンディピティ)
- 10回 地域活動とインターンシップ (地域活動やインターンシップ経験した先輩とのディスカッション)
- 11回 業界&企業研究 (業界のしくみ、業界研究および企業研究の方法)
- 12回 就職活動を知る① (就職活動や公務員試験を体験した先輩とのディスカッション)
- 13回 就職活動を知る② (実際の就職試験を体験、その他面接など選考方法)
- 14回 学生生活を考える (自分を振り返り、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのか)
- 15回 まとめ (総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...80% 最終回のレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別な準備は必要ありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢、そして自分を成長させたい意欲が求められます。

キャリア・デザイン 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

履修上の注意 /Remarks

必修ではありませんが、将来の進路のために大学生生活をどう営むかを考える、主に1年生向けの授業です。真鍋先生の「キャリアデザイン」が本講義いずれかを履修することをお勧めします。また、毎回、授業開始直後にグループワークがあります。よって、遅刻すると他のメンバーに迷惑がかかりますので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。また、地域活動やインターンシップなど、自らのキャリア形成に役立つインフォメーションもあります。積極的にご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でポイントになります。また、複雑化・成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく問題を発見し解決に導いていくための『考える力』が求められます。授業の前半では、講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングしていきます。後半では、仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用します。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 全体ガイダンス	【授業の目的、授業のルール】
2回 会話とストレートトーク	【コミュニケーションとは、大切さ】
3回 言動の基本、伝え方	【話力とは、聞き手に心を開いて話をする】
4回 話し方に心理学を応用する(1)	【行動パターンによるコミュニケーション】
5回 話し方に心理学を応用する(2)	【良い人間関係を作るコミュニケーション】
6回 話し方に心理学を応用する(3)	【日常会話、スピーチ、プレゼンテーション】
7回 対応マナー	【どう話すのか、話す時の立ち振る舞い】
8回 電話対応	【電話・手紙のマナー】
9回 敬語を上手に使い話力を高める	【敬語の使い方】
10回 話し方 TPO	【シチュエーションを考える】
11回 プレゼンテーションをやってみる	【考えをまとめて発表する】
12回 思考法(1)	【ロジカルシンキング、演繹法、帰納法】
13回 思考法(2)	【ロジカルシンキング、ロジックツリー】
14回 思考法(3)	【クリティカルシンキング】
15回 まとめ	【授業のまとめ、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%、授業の成果物...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。例年多数の履修希望者があり抽選となっています。しかし、抽選に当たったにも関わらず、授業に参加しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション、マナー、論理的思考法、帰納法、演繹法、クリティカルシンキング

プロフェッショナルの仕事【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立ち頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの仕組み ②仕事の現実と成長する秘訣 ③将来のヒントを学びます。

<進め方> 講演者の企業や仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<期待される効果> 将来の自分の進路がイメージできない人は、様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くヒントを得ることが出来ます。また、企業や団体の第一線でいきいきと輝いて働いている社会人の話を聴くことで、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解できます。

なお、企業・団体は先方の都合もあり毎年変わります。事情によってはビデオ上映の場合もあります。

以下は2010年度の実績です。

ジェイコム北九州、リクルート、北九州市役所、門司港ホテル、スターフライヤー、デンソー九州、日本生命、朝日新聞社、東芝物流、コクヨ、ナフコ、山口銀行

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。企業・団体によっては会社案内などを当日配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

以下書籍はその参考例です。

○金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所

○中原淳ほか『企業内人材育成入門』ダイヤモンド社

○モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社

見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス

第2～14回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

第15回 まとめ

※2010年度の実績

ジェイコム北九州、リクルート、北九州市役所、門司港ホテル、スターフライヤー、デンソー九州、日本生命、朝日新聞社、東芝物流、コクヨ、ナフコ、山口銀行

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...80% 最終回のレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講演者が所属する企業・団体および仕事について必ず予習をしてください。予習するポイントはその都度指示します。

履修上の注意 /Remarks

※1学期の「キャリア・デザイン」を受講していることが望ましい。

※授業の特性上、出席しなければ点数は付きません。よって課外活動で欠席が多くなる学生は履修を避けてください。

※本務でお忙しい中、本学の学生のために、わざわざ来学していただいている講演です。よって、以下の4項目は特別な事情があるときを除き厳守してください。①遅刻厳禁 ②携帯操作厳禁(マナーモードでバッグの中に) ③脱帽 ④飲食禁止

プロフェッショナルの仕事【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体で働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどのような仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 民法を読む①【社会規範】【行為規範】【法律用語】【裁判所】
- 3回 民法を読む②【法解釈の方法】【文理解釈】【類推解釈】
- 4回 刑法を読む①【規範の特性】【法の機能】【法が存在形式】【法源】【罪法定主義】
- 5回 刑法を読む②【刑事法】【法の適用】【憲法と刑事法の関係】【法の解釈】
- 6回 民事判例を読む①【判例】【先例】【認定事実】
- 7回 民事判例を読む②【判例研究の方法】【生命保険金】【特別受益】
- 8回 刑事判例を読む①【判例集の名称】【判例集の調べ方】【判例集の体裁】
- 9回 刑事判例を読む②【刑事判例の勉強の仕方】【事実の概要】【判旨】【解説】【因果関係】
- 10回 民法の視点から社会を読む①【婚姻】【内縁】【パートナーシップ】
- 11回 民法の視点から社会を読む②【相続】【遺言】【失権】
- 12回 刑法の視点から社会を読む①【一厘事件】【3銭電気窃盗事件】【窃盗罪の客体】
【可罰的違法性】【起訴便宜主義】
- 13回 刑法の視点から社会を読む②【裁判員制度】【刑事裁判の流れ】【公判の基本原則】
- 14回 民法と刑法の交錯する世界を読む【民事責任】【慰謝料】【制裁】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 期末試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'11』信山社(1,000円)をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会調査（主に量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。調査法を学ぶ場合、統計ソフトが使えるようになることよりも、基本的な「考え方」の方が重要である。たとえば、「あることを主張するためにはどのようなデータを用い、どのような事実が観察される必要があるか」を考えることである。その上で、質問文の作り方、調査票の構成、サンプリング、データファイル作成、単純集計、記述統計量の計算、検定、クロス表の作成など、基本的な分析技法について学ぶ。なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行う可能性がある。

教科書 /Textbooks

『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
 - 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』、谷富夫編著、世界思想社、2008
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディングと調査票の作成（1）
- 第6回 ワーディングと調査票の作成（2）
- 第7回 ワーディングと調査票の作成（3）
- 第8回 サンプリング
- 第9回 調査の実施とデータファイルの作成（1）
- 第10回 調査の実施とデータファイルの作成（2）
- 第11回 分布と統計量
- 第12回 検定の考え方
- 第13回 クロス集計
- 第14回 相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストをよく読んでくること。
 「統計を読む・統計をつくる」（1学期）と合わせて受講することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計を読む・統計をつくる【昼】

担当者名 /Instructor 山本 努 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々は新聞やテレビを通して、膨大な統計データや調査結果に日々、さらされている。統計をつくるに際して種々の社会調査が行われるが、社会調査の手順を示して、社会調査の生み出す統計データを批判的に読み込む力を培う。

教科書 /Textbooks

別途、掲示で指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

谷・山本編『よくわかる質的社会調査(プロセス編)』ミネルヴァ書房、轟・杉野『入門・社会調査法—2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会調査のよい例、わるい例
- 2回 社会調査とは何か
- 3回 社会調査の種類
- 4回 量的(統計)調査の方法
- 5回 質問文の作り方
- 6回 量的(統計)調査の難点
- 7回 質的調査の方法
- 8回 質的調査のフィールドの実際
- 9回 質的調査の意義、量的(統計)調査との関係
- 10回 量的(統計的)社会調査の作品群の概要
- 11回 ミクロの量的(統計)分析の代表事例
- 12回 マクロの量的(統計)分析の代表事例
- 13回 ミクロの実験(統計)の代表事例
- 14回 質的・量的(統計)調査の作品の対比
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート又は試験 ... 80 % 授業での参加(質疑応答など) ... 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを購入しておくこと。社会科学の入門的講義を受講しておくこと好ましい。

履修上の注意 /Remarks

テキストを持参して授業に出席のこと。(テキストなしでは、授業はまったく理解できません。)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世の中の様々に興味を持つこと。新聞、書物などを読むこと。

キーワード /Keywords

社会調査、統計(量的)調査、質的調査

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、サッカーの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(1)
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(2)
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(1)
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(2)
- 9回 サッカーの戦術の修得と試合(1)
- 10回 サッカーの戦術の修得と試合(2)
- 11回 審判法の修得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、テニスの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 ストロークの基礎練習(フォアハンド)(1)
- 3回 ストロークの基礎練習(フォアハンド)(2)
- 4回 ストロークの基礎練習(バックハンド)(3)
- 5回 ストロークの基礎練習(バックハンド)(4)
- 6回 サービスの基礎練習(1)
- 7回 サービスの基礎練習(2)
- 8回 ボレーやスマッシュの基礎練習(1)
- 9回 ボレーやスマッシュの基礎練習(2)
- 10回 ルール・戦術の説明
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI(バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バスケットボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1、3対2)(1)
- 6回 応用練習(2対1、3対2)(2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(1)
- 10回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(2)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)・(2-1-2)
- 12回 ゲーム(2) マンツーマンディフェンス
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 フライト練習(1) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 3回 フライト練習(2) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 4回 フライト練習(3) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 5回 サーブ練習<ショートサービス、ロングサービス>
- 6回 攻めと守りのコンビネーション練習(1)
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(2)
- 8回 ルール説明(1) <シングルス>
- 9回 ルール説明(2) <ダブルス>
- 10回 シングルスゲーム(1)
- 11回 シングルスゲーム(2)
- 12回 ダブルスゲーム(1)
- 13回 ダブルスゲーム(2)
- 14回 ダブルスゲーム(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バレーボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バレーボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バレーボールの基礎(1) <パス編>(オーバーパス・アンダーパス)
- 3回 バレーボールの基礎(2) <パス編>(オーバーパス・アンダーパス)
- 4回 バレーボールの基礎(3) <サーブ編>
- 5回 バレーボールの基礎(4) <サーブ編>
- 6回 バレーボールの基礎(5) <アタック編>
- 7回 バレーボールの基礎(6) <アタック編>
- 8回 バレーボールの基礎(7) <ルール編> ルールの習得
- 9回 バレーボールの応用(1) フォーメーション
- 10回 バレーボールの応用(2) ゲーム展開
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基礎(1) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 3回 バドミントンの基礎(2) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 4回 バドミントンの基礎(3) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 5回 バドミントンの基礎(4) サーブ(ロング・ショート)
- 6回 バドミントンの基礎(5) スマッシュ
- 7回 バドミントンの基礎(6) ルールの習得(シングルス)
- 8回 バドミントンの応用(7) ルールの習得(ダブルス)
- 9回 バドミントンの応用(1) フォーメーション
- 10回 バドミントンの応用(2) ゲーム展開
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 基本技術(フライト)の学習(1)
- 4回 基本技術(フライト)の学習(2)
- 5回 基本技術(フライト)の学習(3)
- 6回 基本技術(サービス)の学習
- 7回 基本技術(フライトのコンビネーション)の学習(1)
- 8回 基本技術(フライトのコンビネーション)の学習(2)
- 9回 ルールの説明
- 10回 ゲームの練習
- 11回 リーグ戦形式の試合(1)
- 12回 リーグ戦形式の試合(2)
- 13回 リーグ戦形式の試合(3)
- 14回 リーグ戦形式の試合(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 ストロークの基礎練習 (フォアハンド・バックハンド)
- 3回 フライトの基礎練習 (1) (クリアー・ドロップ・スマッシュ・ドライブ・ヘアピン)
- 4回 フライトの基礎練習 (2) (クリアー・ドロップ・スマッシュ・ドライブ・ヘアピン)
- 5回 フライトの基礎練習 (3) (クリアー・ドロップ・スマッシュ・ドライブ・ヘアピン)
- 6回 フライトの基礎練習 (4) (クリアー・ドロップ・スマッシュ・ドライブ・ヘアピン)
- 7回 サービスの基礎練習
- 8回 ラリーゲームでの応用練習 (クリアー・ドロップ・ヘアピンのコンビネーション)
- 9回 ルール・戦術の説明
- 10回 攻めと守りのコンビネーション練習
- 11回 シングルスゲーム (1)
- 12回 シングルスゲーム (2)
- 13回 ダブルスゲーム (3)
- 14回 ダブルスゲーム (4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バスケットボールの実技をとして、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1、3対2)(1)
- 6回 応用練習(2対1、3対2)(2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(1)
- 10回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(2)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)・(2-1-2)
- 12回 ゲーム(2) マンツーマンディフェンス
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バレーボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、サッカーの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 基本的なインサイドステップのシュートパス練習
- 3回 トラッピングからのパス練習
- 4回 リフティング
- 5回 ミニゲーム (1) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 6回 ミニゲーム (2) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 7回 ミニゲーム (3) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 8回 ミニゲーム (4) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 9回 ルール説明
- 10回 ゲーム (1)
- 11回 ゲーム (2)
- 12回 ゲーム (3)
- 13回 ゲーム (4)
- 14回 ゲーム (5)
- 15回 スキル獲得の確認テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修についての諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、サッカーの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(1)
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(2)
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(1)
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(2)
- 9回 サッカーの戦術の修得と試合(1)
- 10回 サッカーの戦術の修得と試合(2)
- 11回 審判法の修得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、レクリエーションスポーツ種目も含め、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スポーツルール百科 ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、受講上の注意
- 2回 バレーボール(1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール(2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン(1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン(2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球(1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球(2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール(1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール(2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス(1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス(2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目(1)
- 13回 選択種目(2)
- 14回 選択種目(3)
- 15回 スキル獲得の確認(選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。DNAとは何か？ 遺伝子とは何をしているものなのか？ 本演習では「DNA・遺伝子・生命」を主たるテーマとし、関連図書・DVDを用いて学習するほか、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。さらに関連した科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」 D・サダヴァ他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」 東京大学生命科学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の説明【細胞】【遺伝】【染色体】
- 3回 基本的事項の説明【DNA】【RNA】【タンパク質】
- 4回 基本的事項の説明【遺伝子】【ゲノム】
- 5回 実験と実習【DNA鑑定実験1】
- 6回 実験と実習【DNA鑑定実験2】
- 7回 実験と実習【DNA鑑定実験3】
- 8回 科学記事よりトピックを選んで解説(1)
- 9回 科学記事よりトピックを選んで解説(2)
- 10回 科学記事よりトピックを選んで解説(3)
- 11回 科学記事よりトピックを選んで解説(4)
- 12回 関連映画作品等鑑賞(1)
- 13回 関連映画作品等鑑賞(2)
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・80%、課題・・・20%
(毎回カードを配布する。授業中の発表のほかに、カードに記入したコメント・質問を重視する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本の歴史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全履修生から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

瀧井一博『伊藤博文 - 知の政治家』（中公新書、2010年）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
 無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習が始める前に大学図書館を見学しておいて下さい。
 毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養基礎演習Ⅱ」とセットで履修することを希望します。
 この演習は2年生・3年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 杉原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学での学び方入門： 本演習では、大学での勉強の仕方の基礎を学びます。最終的には、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことを目指す。前半では、身近な現象について論じているテキスト『下流社会第2章』の批判的読解を試みることを通して、レジュメの作りかた、議論の行い方、論点の見つけ方を学び、後半では、自分で関連する文献をさらに探して、2000～4000字程度のレポートを書くプロセスを報告しながら、受講者とともにより完成度の高いレポートの作成を目指す。

教科書 /Textbooks

三浦展 2007 『下流社会 第2章：なぜ男は女に“負けた”のか』 光文社新書

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』 慶應大学出版会
専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』 専修大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：大学の授業とは / ノートの取りかた
第2回 思考を発展させる読書のしかた：本を探しかたと読書ノートの活用について
第3回 レジュメの作りかた
第4・5・6・7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
テキスト：三浦展 『下流社会 第2章』
第8・9回 レポートの書きかた
第10・11・12・13・14回 レポート構想報告
第15回 文章を推敲する：レポートの相互添削

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、積極的な発言など)50%
(第15回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。4月の段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

教養基礎演習IIも継続して受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・出席者の報告、レポート添削と再提出のプロセスを重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。
- ・現代社会に関する問題に興味のある学生の受講を歓迎します。

キーワード /Keywords

レポートの書き方、問題意識の発見、レポート作成

教養基礎演習I【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。尚、本演習では野外活動特に「キャンプ」実習に力を入、学内では経験できない「レクリエーション種目」なども多数実践していきます。キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができない場合がありますので注意してください。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 グループディスカッション (1)
- 2回 グループディスカッション (2)
- 3回 グループディスカッション (3)
- 4回 グループゲーム (1)
- 5回 グループゲーム (2)
- 6回 自分自身を理解する
- 7回 自分自身を人に理解させること
- 8回 人を理解すること
- 9回 集団で克服していくトレーニング
- 10回 キャンプのオリエンテーション (1)
- 11回 キャンプのオリエンテーション (2)
- 12回 キャンプのオリエンテーション (3)
- 13回 キャンプのオリエンテーション (4)
- 14回 キャンプのオリエンテーション (5)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度 ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡する。
 キャンプ実習は別途実習費 (約 4000円) かかりますので注意してください

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート(4000字程度)を書くことをめざす。したがって原則として「教養基礎演習I」「教養基礎演習II」の通年受講(1・2学期受講)を義務づける。

1学期は、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会学的なものの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) レポート・論文の書き方

さらに、社会学的な調査を用いた基礎的な文献を報告してもらう。

同時並行的に、自らが書く論文・レポートについても準備をすすめる。まず、各自が「テーマ」と「問い」をたてる。その上で、自らのたてた「問い」について関連する文献のリストを作成する。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかける)。

教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『「二ート」って言うな』、本田由紀・内藤朝雄・後藤和智、光文社新書、2006

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会学的なものの見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会学的なものの見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会学的なものの見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 第1回レポート検討会
- 第6回 論文・レポートの書き方
- 第7回 情報収集の仕方(1)
- 第8回 情報収集の仕方(2)
- 第9回 第2回レポート検討会
- 第10回 分析事例(1) - 『「二ート」って言うな』第1部
- 第11回 分析事例(2) - 『「二ート」って言うな』第2部
- 第12回 分析事例(3) - 『「二ート」って言うな』第3部
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 第3回レポート検討会
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度... 40% 課題(レポート)... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること(様式等は授業中に指示する)。
報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジュメを準備すること。
報告者以外の者は(当然のことながら)事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

教養基礎演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。本年度は、平成23年度開講予定の「北九州の政治行政」、平成24年度開講予定の「北九州の経済」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、内容に応じて積極的に情報検索を試みてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの積極的参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

* 教養基礎演習IIもあわせて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習II」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1~2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養基礎演習II」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的な教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
今年度より、思想史上の古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。1学期はフロイトの素晴らしい宗教論「幻想の未来」を読む。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- テリー・イーグルトン『宗教とは何か』（大橋洋一・小林久美子訳）青土社
- ダニエル・C・テネット『解明される宗教——進化論的アプローチ』（阿部文彦訳）青土社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスI (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンスII (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 復習と補助学習I
- 14回 復習と補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、第三回か第四回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある (税込760円) 。
授業前の準備事項として、訳者の中山元氏による「解説文」および「フロイト年譜」(テキスト377~436頁) を読み込んでくること。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査) と「復習」(授業議事録の作成) が必須となります。また、この演習は2年生以上の学生も参加する合同演習です。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！基礎編」です。
このクラスでは、大学生の武器である「頭（頭脳）」を使って「バレーボール」と真正面から向き合うための基礎知識・技術を習得してもらおうと思っています。バレーボールで試合に勝つためには、連続失点を少なくすること、連続得点を多くすることを考えたチーム作りが必要になりますが、今回、ここでは「連続得点をとる」をキーワードに、基本的な戦術の理解とともに映像等を基にしたデータ分析の基礎的な手法を学んでいきます。
このプロセスを通じ、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題（ポイント）を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力を、みなさんには身につけ、高めていってほしいと思います。
座学と調査・実習を組み合わせ実施します。

教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書等は、初回の授業時に、紹介します。
授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス,バレーボールとアナリストの役割
- 第2回 スキルチェック

【連続得点をとるための分析軸I：サービス⇒レセプション（サービスによって先手を取る）】

- 第3回 戦術理解I：レセプションフォーメーション&サービス
- 第4回 ゲーム映像からの分析I①：フォーメーションのチェック
- 第5回 ゲーム映像からの分析I②：ローテーションごとに結果を整理（レセプションの評価）
- 第6回 分析結果の発表I：サービスの狙い目はどこか

【連続得点をとるための分析軸II：レセプション⇒アタック（相手チームの攻撃パターンを知る）】

- 第7回 戦術理解II：アタックフォーメーション
- 第8回 ゲーム映像からの分析II①：レセプション⇒攻撃（軌跡化）
- 第9回 ゲーム映像からの分析II②：レセプション⇒攻撃（選手ごとの特徴）
- 第10回 分析結果の発表II：どのような特徴がレセプションからの攻撃に見られるか

【連続得点をとるための分析軸III：ディグ⇒アタック（拾って攻撃につなげる）】

- 第11回 戦術理解III A：ブロックシステム，フロアディフェンスフォーメーション
- 第12回 ケーススタディIII A：チーム事情に応じたシステムを考えよう
- 第13回 戦術理解III B：アタック&ブロックフォローフォーメーション
- 第14回 ケーススタディIII B：高さを理解した攻撃を考えよう（2つの最高到達点の比較から）

- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

10人程度を予定（最大で12人まで）しています。受講希望者が多い場合は、初回の授業時に選考を行います。したがって受講希望者は、最初の授業には必ず出席するようにしてください。
原則としてIとIIはセットで受講してください。
欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、グループでの作業に深刻な影響を与えることになります。参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

バレーボールが真に好きな人、得られた知見を、現在、そして将来にわたって、活かしてくれる人を募集します。
あなたの『バレーボール力』を伸ばしてみませんか。

キーワード /Keywords

【アナリスト】 【レセプション】 【ディグ】 【トランジッション】 【記号化：技術・エリア】 【評価】 【データ分析】

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初めてあった人や普段話したことがない人の中にいたり、自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいのが困ったことなどはありませんか。そんな中、身体活動を通して、知らない人同士で自然に打ち解け、楽しみを感じたことはありませんでしたか。身体活動は、健康体力の増進のみならず、コミュニケーションづくりにも有効な方法なのです。本演習では、身体活動やグループワークを通して、どうしたら、コミュニケーション能力(人間関係力)を高めることができるかを焦点に考えていきたいと思ひます。
また、学内と離れた場所での野外活動(キャンプ実習)を通して、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたいと思ひます。

教科書 /Textbooks

適宜資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 自己紹介と他己紹介
- 3回 人間関係力とは
- 4回 人間関係力演習(1)簡単なゲームを通して
- 5回 人間関係力演習(2)簡単なゲームを通して
- 6回 人間関係力演習(3)身体活動を通して
- 7回 人間関係力演習(4)身体活動を通して
- 8回 人間関係力演習(5)身体活動を通して
- 9回 人間関係力演習(6)身体活動を通して
- 10回 人間関係力演習(7)身体活動を通して
- 11回 野外活動とは?
- 12回 キャンプ実習についての講義(1)
- 13回 キャンプ実習についての講義(2)
- 14回 キャンプ実習についての講義(3)
- 15回 キャンプ実習のふり返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実習については、別途参加費がかかります(約4000円)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践に際してのマナーやP D C Aサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回～4回：事前学習
- 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
- 第11回・12回：活動報告
- 第13回・14回：振り返り学習
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習における議論への参加度50%
- 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。DNAとは何か？ 遺伝子とは何をしているものなのか？ 本演習では「DNA・遺伝子・生命」を主たるテーマとし、関連図書・DVDを用いて学習するほか、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。さらに関連した科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」D. サダヴァ他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の説明【細胞】【遺伝】【染色体】
- 3回 基本的事項の説明【DNA】【RNA】【タンパク質】
- 4回 基本的事項の説明【遺伝子】【ゲノム】
- 5回 実験と実習【DNAの構造】
- 6回 実験と実習【DNAの抽出】
- 7回 科学記事よりトピックを選んで解説(1)
- 8回 科学記事よりトピックを選んで解説(2)
- 9回 科学記事よりトピックを選んで解説(3)
- 10回 科学記事よりトピックを選んで解説(4)
- 11回 科学記事よりトピックを選んで解説(5)
- 12回 関連映画作品等鑑賞(1)
- 13回 関連映画作品等鑑賞(2)
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・80%、課題・・・20%
(毎回カードを配布する。授業中の発表のほかに、カードに記入したコメント・質問を重視する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ・レポートを書いてもらう(400字×10枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。なお、そのための準備として、第2~7回の演習では近代文書の解読も練習する。

教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年、700円)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習運営方針に関する話し合い。
- 2~7回 各自の研究報告と近代文書の解読の練習。
- 8~14回 各自の研究報告。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。
なお、ゼミ・レポート未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習が始める前に大学図書館を見学しておいて下さい。
明治時代に書かれた小説(森鷗外など)を読んで下さい。とにかく、旧字体・旧かな遣いに慣れること。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養基礎演習I」とセットで履修することを希望します。
この演習は2年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

考えを深める訓練： 教養基礎演習Iの続きとして、一つのテーマについて考えを深める訓練を行う。具体的には、教養基礎演習Iのレポートをもとに、より関心の近い受講者同士のグループワークやディスカッションを通して、各自のテーマをより掘り下げることを試みる。その成果を活かし、学期末にはIのレポートをブラッシュアップすることを目指す。この演習を通して、ひとつのテーマについてじっくり取り組むという、研究の基礎的な姿勢を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

教養基礎演習Iのレポート提出者の興味関心にあわせて第1回目の演習で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』専修大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：研究の入り口としての考えるを深める作業
第2・3回 考えと深めるにはどうしたらいいか？：教養基礎演習Iのレポートの講評
第4・5回 グループワークの説明/視点を広げるためのミニ・ワークショップの企画
第6・7・8回
ミニ・ワークショップの実行(グループワーク)
第9・10・11回
テキスト輪読と議論
第12・13・14回
レポート構想報告
第15回 文章を推敲する：レポート相互添削

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、演習中の発言など)50%
レポートについては教養基礎演習Iのレポートからの発展性を評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グループワークでは、場合によっては授業時間以外もメンバーとの打ち合わせが必要になることがあります。

履修上の注意 /Remarks

原則として教養基礎演習Iを受講した者を対象とするが、教養基礎演習IIのみ受講したい者は、必ず事前に相談すること(受講のためのレポート課す場合がある)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

共同作業を通して、自分の能力を最大限引き延ばすことは、大学を出てからも必要です。積極的な授業参加を期待します。

キーワード /Keywords

グループワーク、多角的視野、レポートの書き方

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。キャンプ実習同様実習の参加ができないときは単位の認定ができない場合がありますので注意してください。実習は実費です。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自分自身を理解すること
- 2回 自分自身を人に理解させること
- 3回 人を理解すること
- 4回 集団で克服していくトレーニング
- 5回 ビデオによるスキー技術の習得 (1)
- 6回 ブルークターン (2)
- 7回 パラレルターン (3)
- 8回 ウデルン (4)
- 9回 学生自身によるスキー計画 (1) 場所
- 10回 学生自身によるスキー計画 (2) 期間
- 11回 学生自身によるスキー計画 (3) 金額
- 12回 学生自身によるスキー計画 (4) グループ分け
- 13回 スキープログラムの作成 (1)
- 14回 スキープログラムの作成 (2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度 ... 70% レポート ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。
 スキー実習は別途実習費が必要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポートを書くことをめざす。したがって原則として「教養基礎演習I」「教養基礎演習II」の通年（1学期・2学期）受講を義務づける。

II（2学期）では、まず、教養基礎演習Iで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

Iと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 テキスト批評と議論
- 第3回 テキスト批評と議論
- 第4回 テキスト批評と議論
- 第5回 テキスト批評と議論
- 第6回 レポート検討会（4）
- 第7回 テキスト批評と議論
- 第8回 テキスト批評と議論
- 第9回 テキスト批評と議論
- 第10回 テキスト批評と議論
- 第11回 レポート検討会（5）
- 第12回 テキスト批評と議論
- 第13回 テキスト批評と議論
- 第14回 レポート検討会（6）
- 第15回 レポート報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...20% 課題（レポート）...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること（様式等は授業中に指示する）。
報告者は、（1）文献概要、（2）内容要約、（3）論点整理、（4）議論を記したレジюмеを準備すること。
報告者以外の者は（当然のことながら）事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。平成24年度開講予定の「北九州の経済」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、積極的に情報検索を試みてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの積極的参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

* 教養基礎演習Iもあわせて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習I」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』(必ず購入)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養基礎演習I」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養基礎演習I」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養基礎演習I」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的な教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
今年度より、思想史上の古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。2学期はフロイトによる挑発的な文化論「文化への不満」を読む。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- 『フロイト著作集3』人文書院
- 『フロイト全集17(1919-22年)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 1学期の復習と内容確認
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 復習と補助学習I
- 14回 復習と補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(予習・議論・発言の積極性)...50% 課題(議事録作成)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、初回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある(税込760円)。
本演習は1学期からの続きである。授業前の準備事項として、1学期に読了した「幻想の未来」をきちんと読み直しておくことが全員に求められる。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査)と「復習」(授業議事録の作成)が必須となります。また、この演習は2年生以上の学生も参加する合同演習です。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！応用編」です。
このクラスでは、Iで習得した「バレーボール」と真正面から向き合うための基礎知識・技術を駆使し、実際のゲームを分析していくことで、応用力の涵養を目指します。分析対象としては、FIVB World Cup 2011の全日本の試合を題材とすることを予定しています。試合の流れを正しく掴み、チームの特徴やゲームの勝因・敗因の分析、攻略策だけでなく今後の課題（チーム・個人の強化策）の検討などを通じ、戦術理解も含めたバレーボールを科学する力をさらに高めていてもらいたいと思っています。
またこのプロセスを通じ、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題（ポイント）を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力、⑥問題解決のための構想を練る力、⑦プレゼン能力、⑧質疑応答力を、みなさんには身につけ、高めていてほしいと思っています。
座学と調査・実習を組み合わせ実施します。

教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書等は、初回の授業時に、紹介します。
授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 FIVB World Cup 2011【分析対象チーム・試合の選定：グループ分け】
- 第3回 事例①『FIVB World Grand Prix 2010 JPN-NED』【ゲーム観賞】
- 第4回 事例②『FIVB World Grand Prix 2010 JPN-NED』【プレゼンの例】
- 第5回 ゲーム分析の基礎①：映像の収集と利用
- 第6回 ゲーム分析の基礎②：公式記録の探し方とその見方
- 第7回 ゲーム分析の基礎③：戦評等の集め方とその活用方法
- 第8回 グループ作業①：映像に基づくゲーム分析
- 第9回 グループ作業②：抽出したデータ等を基にした攻略策・強化策の検討
- 第10回 グループ作業③：プレゼン内容の最終確認
- 第11回 グループ・プレゼンテーションとフロア・ディスカッション①
- 第12回 グループ・プレゼンテーションとフロア・ディスカッション②
- 第13回 グループ・プレゼンテーションとフロア・ディスカッション③
- 第14回 グループ・プレゼンテーションとフロア・ディスカッション④
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

10人程度（最大で12人まで）を予定しています。
IとIIはセットで受講してもらうことを原則とします。
欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、グループでの作業に深刻な影響を与えることになります。参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

バレーボールが真に好きな人、得られた知見を、現在、そして将来にわたって、活かしてくれる人を募集します。
あなたの『バレーボール力』をさらに伸ばしてみませんか。

教養基礎演習II 【昼】

キーワード /Keywords

【ゲーム分析】 【FIVB】 【World Cup 2011】 【全日本】 【公式記録】 【攻略策】 【強化策】

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいでしょうか。初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていきます。本演習では、身体活動を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることを主眼においています。

また、学内と離れた場所での野外活動（スキー実習）を通して、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたいと思います。

教科書 /Textbooks

適宜資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 自分自身を理解するためには (1)
- 3回 自分自身を理解するためには (2)
- 4回 自分自身を人に理解させるためには (1)
- 5回 自分自身を人に理解させるためには (2)
- 6回 身体活動を用いた自己表現 (1)
- 7回 身体活動を用いた自己表現 (2)
- 8回 身体活動を用いた自己表現 (3)
- 9回 身体活動を用いた自己表現 (4)
- 10回 身体活動を用いた自己表現 (5)
- 11回 身体活動を用いた自己表現 (6)
- 12回 スキー実習についての講義 (1)
- 13回 スキー実習についての講義 (2)
- 14回 スキー実習についての講義 (3)
- 15回 スキー実習のふり返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、活動に際してのマナーやP D C Aサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、株式会社スターフライヤーの協力を得て開講します。将来、社会人として求められる能力、特に対人接点を必要とする仕事に必要なコミュニケーション能力やホスピタリティについて学びます。航空業界、百貨店・小売業界、ホテル業界、ブライダル業界等を目指す学生にとって役に立つ講義です。

この講義を開講する理由は大きく三つあります。一点目は、昨今の企業が求める人材要件として、コミュニケーション能力が重視されていることです。単に同質な人との接点ではなく、多様な方々と円滑なコミュニケーションが取れることが求められています。二点目は、コミュニケーションやホスピタリティに関するスキル獲得だけでなく、それらを発揮するための素養を育む必要性があるからです。三点目は、上にあげた業界に就職したいと考えている学生にとってのチャンスを拡大するためです。

このような理由から、常に最高の接客コミュニケーションが求められるキャビンアテンダント教育の要素を取り入れたいと考え、株式会社スターフライヤーに協力をいただきます。日々業務を行っている実務家の講義は、現場に即した実践的な学びを学生の皆さんに提供します。

教科書 /Textbooks

授業開始時に説明します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始時に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションとは？(1)【エアラインでの実例をもとに考察する】
- 3回 コミュニケーションとは？(2)【エアライン等、対人職において求められる人物像の考察】
- 4回 コミュニケーションとは？(3)【コミュニケーションスキル他】
- 5回 コミュニケーションとは？(4)
- 6回 マナーとホスピタリティ(1)【ホスピタリティの意味～今なぜホスピタリティなのか？】
- 7回 マナーとホスピタリティ(2)【ホスピタリティマインドとアクション】
- 8回 マナーとホスピタリティ(3)【ホスピタリティ溢れるポジティブマナーとは】
- 9回 マナーとホスピタリティ(4)
- 10回 コミュニケーション&マナー実践(5)【対人職に求められるコミュニケーションスキル実践】
- 11回 コミュニケーション&マナー実践(6)
- 12回 コミュニケーション&マナー実践(7)【サービス適正確認 実践(ロールプレー)】
- 13回 コミュニケーション&マナー実践(8)【苦情/クレームについて考える】
- 14回 コミュニケーション&マナー実践(9)【面接におけるマナー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定回に着用しての受講となります。

履修上の注意 /Remarks

クラス定員を30名程度としますので、履修希望者多数の場合は抽選とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主として客室乗務員研修(ホスピタリティ/サービス実践等)を軸に対人職に求められるパーソナリティや接客スキルを学び磨いていく講義です。

「生」、「現場」の情報をお届けしますので、客室乗務員やグランドスタッフ、ホテルコンシェルジュ等高い接客スキルが求められる職業を将来希望される学生にぜひ受講して頂きたいと思っております。

キーワード /Keywords

コミュニケーション、ホスピタリティ、エアライン、ブライダル、ホテル

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 1学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。DNAとは何か？ 遺伝子とは何をしているものなのか？ 本演習では「DNA・遺伝子・生命」を主たるテーマとし、関連図書・DVDを用いて学習するほか、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。さらに関連した科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」D. サダヴァ他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の説明【細胞】【遺伝】【染色体】
- 3回 基本的事項の説明【DNA】【RNA】【タンパク質】
- 4回 基本的事項の説明【遺伝子】【ゲノム】
- 5回 実験と実習【DNA鑑定実験1】
- 6回 実験と実習【DNA鑑定実験2】
- 7回 実験と実習【DNA鑑定実験3】
- 8回 科学記事よりトピックを選んで解説(1)
- 9回 科学記事よりトピックを選んで解説(2)
- 10回 科学記事よりトピックを選んで解説(3)
- 11回 科学記事よりトピックを選んで解説(4)
- 12回 関連映画作品等鑑賞(1)
- 13回 関連映画作品等鑑賞(2)
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・80%、課題・・・20%
(毎回カードを配布する。授業中の発表のほかに、カードに記入したコメント・質問を重視する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本の歴史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全履修生から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

瀧井一博『伊藤博文 - 知の政治家』（中公新書、2010年）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
 無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習 AIII」とセットで履修することを希望します。
 この演習は1年生、3年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会へのアプローチ法を考える①：本演習では、質的調査から何を知ることができるのか、その可能性を考えたい。漠然と卒業論文で（インタビュー調査、参与観察などの）質的調査をとりいれてみたいと考えている学生は多いと思うが、はたしてその興味関心にアプローチするのに質的調査は適切だろうか。本演習では、社会調査法のみを学ぶのではなく、その前段階として質的調査を研究にどのように活かすかから学ぶことを目的とする。

教科書 /Textbooks

佐藤郁哉 2006 『フィールドワーク 増訂版：書を持って街へ出よう』 新曜社
※このほか、受講者の関心に合わせて民族誌を2冊程度読む。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤郁哉 2002 『フィールドワークの技法：問いを育てる、仮説をきたえる』 新曜社
※そのほか必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：本演習の目的
第2回 質的調査についての基本的説明
第3・4・5・6・7・8回 民族誌を2冊程度輪読し、質的調査の特性について議論する。
(第1回の出席者の関心に応じて読む民族誌を選択する。候補としては、佐藤郁哉『暴走族のエスノグラフィー』、ジェニファー・ロバートソン『踊る帝国主義』、工藤正子『越境の人類学』など)
第9・10・11回 これまで読んだ民族誌が記述される裏側を考察する。
テキスト：佐藤郁哉『フィールドワーク 増訂版：書を持って街へ出よう』
第12・13・14回 実習：記憶を語ること、記録されること
(インタビュー調査、参与観察の手法からわかることとその限界を考察する。)
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告25%、期末レポート50%、その他の提出物25%
第12・13・14回の実習欠席者は単位を出さないで注意すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取ることが求められる。具体的な説明は第1回で行う。

履修上の注意 /Remarks

実習の成果を教養演習AIIでフィードバックするので、教養演習AIIも続けて受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 受講する段階で明確な研究関心を持っている必要は特にありませんが、演習を通して研究関心を見つけようとする意志は持ってください。
- ・ グループワークを取り入れるので、受講者同士が積極的に協力関係をつくることを期待します。

キーワード /Keywords

質的調査、民族誌

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習AII」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1~2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AII」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート（8000字程度）を書くことをめざす。したがって原則として「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講（1・2学期受講）を義務づける。

1学期は、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会学的なものの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) レポート・論文の書き方

さらに、社会学的な調査を用いた基礎的な文献を報告してもらう。

同時並行的に、自らが書く論文・レポートについても準備をすすめる。まず、各自が「テーマ」と「問い」をたてる。その上で、自らのたてた「問い」について関連する文献のリストを作成する。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『「二ート」って言うな』、本田由紀・内藤朝雄・後藤和智、光文社新書、2006

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会学的なものの見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会学的なものの見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会学的なものの見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 第1回レポート検討会
- 第6回 論文・レポートの書き方
- 第7回 情報収集の仕方(1)
- 第8回 情報収集の仕方(2)
- 第9回 第2回レポート検討会
- 第10回 分析実例(1) - 『「二ート」って言うな』第1部
- 第11回 分析実例(2) - 『「二ート」って言うな』第2部
- 第12回 分析実例(3) - 『「二ート」って言うな』第3部
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 第3回レポート検討会
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...40% 課題...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること（様式等は授業中に指示する）。
報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジユメを準備すること。
報告者以外の者は（当然のことながら）事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

教養演習 AI 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

すべての「大学生」として欠かすことのできない人文的教養の育成を目的として、古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。1学期は、フロイトの素晴らしい宗教論「幻想の未来」を読む。この演習を通して、人生全般に対する甘い幻想を捨て去り、多少ともシニカルで批判的な大人の思考力を身につけることができるようになれば、それで目的を達成したことになる。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- テリー・イーグルトン『宗教とは何か』（大橋洋一・小林久美子訳）青土社
- ダニエル・C・デネット『解明される宗教——進化論的アプローチ』（阿部文彦訳）青土社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスI (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンスII (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 復習と補助学習I
- 14回 復習と補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、第三回か第四回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある (税込760円) 。授業前の準備事項として、訳者の中山元氏による「解説文」および「フロイト年譜」(テキスト377~436頁) を読み込んでくること。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。
同担当者による授業科目「思想と現代」を履修済みであり、なおかつその試験で「B」以上の成績を収めている学生は優先的に配慮する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査) と「復習」(授業議事録の作成) が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしても自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。
 また、キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして関わりながら、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養ってきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス
- 2 回リーダーとリーダーシップ
- 3 回安全性と有効性
- 4 回キャンプ実習の計画（1）リーダーとしての関わり
- 5 回キャンプ実習の計画（2）安全性と有効性
- 6 回キャンプ実習の計画（3）プログラム作成
- 7 回キャンプ実習の実施
- 8 回キャンプ実習の評価
- 9 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（1）安全性と有効性
- 10 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（2）プログラム作成
- 11 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（3）プログラム作成
- 12 回中高齢者にあった身体活動プログラムの実施（1）
- 13 回中高齢者にあった身体活動プログラムの実施（2）
- 14 回中高齢者にあった身体活動プログラムの評価
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 キャンプ実習については、別途参加費がかかります。（約4000円）。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。本年度は、平成23年度開講予定の「北九州の政治行政」、平成24年度開講予定の「北九州の経済」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、内容に応じて積極的に情報検索を試みてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの積極的参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

* 教養演習 A II もあわせて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。DNAとは何か？ 遺伝子とは何をしているものなのか？ 本演習では「DNA・遺伝子・生命」を主たるテーマとし、関連図書・DVDを用いて学習するほか、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。さらに関連した科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」D. サダヴァ他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の説明【細胞】【遺伝】【染色体】
- 3回 基本的事項の説明【DNA】【RNA】【タンパク質】
- 4回 基本的事項の説明【遺伝子】【ゲノム】
- 5回 実験と実習【DNAの構造】
- 6回 実験と実習【DNAの抽出】
- 7回 科学記事よりトピックを選んで解説(1)
- 8回 科学記事よりトピックを選んで解説(2)
- 9回 科学記事よりトピックを選んで解説(3)
- 10回 科学記事よりトピックを選んで解説(4)
- 11回 科学記事よりトピックを選んで解説(5)
- 12回 関連映画作品等鑑賞(1)
- 13回 関連映画作品等鑑賞(2)
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・80%、課題・・・20%
(毎回カードを配布する。授業中の発表のほかに、カードに記入したコメント・質問を重視する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 2学期
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ論文をかいてもらう(400字×30枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。なお、そのための準備として、第2～7回の演習では近代文書の解読も練習する。

教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年)700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習運営方針に関する話し合い。
- 2～7回 各自の研究報告と近代文書の解読の練習。
- 7～14回 各自の研究報告(同時並行的に論文執筆)。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50%課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

明治時代に書かれた小説(森鴎外など)を読んで下さい。とにかく、旧字体・旧かな遣いに慣れること。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習AI」とセットで履修することを希望します。
AIを履修できない場合には、事前に相談して下さい。
この演習は1年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計で11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会へのアプローチ法を考える②：本演習では、教養演習 AI を踏まえて、質的調査から何を知ることができるのか、その可能性をさらに考えたい。演習の前半では教養演習 AI でとらえた実践の経験を踏まえ、研究対象や問題設定に応じて、インタビューや観察をより効果的に行うための質的調査の方法を学ぶ。演習の後半では、これまでの演習のまとめとして、自分の興味関心に適した質的調査を行うためのデザインの仕方を検討する。

教科書 /Textbooks

箕浦康子（編）1999 『フィールドワークの技法と実際』 ミネルヴァ書房
 谷岡一郎 2000 『「社会調査」のウソ：リサーチ・リテラシーのすすめ』 文藝春秋
 ※このほか受講者の関心に合わせて民族誌をもう1冊読む。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤郁哉 2002 『フィールドワークの技法：問いを育てる、仮説をきたえる』 新曜社
 ※そのほか必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1・2・3回 聞き取りや観察の方法について：教養演習 AI のレポートから
 第4回 実習（再）：記憶を語ること、記録されること
 第5回 調査をデザインするために：エスノグラフィーと調査者の立場のいくつかのパターン
 第6・7回 マイクロエスノグラフィーの手法について
 テキスト：箕浦康子（編）『フィールドワークの技法と実際』
 第8・9・10回 日常世界を分析するエスノグラフィー（輪読と議論）
 （受講者の関心に応じて読む民族誌を選択する。候補としては、A.R. ホックシールド2000『管理される心』、ロバート・J・スミス『須恵村の女たち』など。）
 第11・12・13回 事前準備のために（輪読と議論）
 テキスト：谷岡一郎『「社会調査」のウソ：リサーチ・リテラシーのすすめ』
 第14・15回 まとめとレポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告25%、中間レポート25%、期末レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第4回のあとに、インタビューや観察を用いた質的調査についての中間レポートを課します。教養演習 AI の復習を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

教養演習 AI を受講していること。やむを得ない事情で教養演習 AII のみの受講を希望する者は必ず事前に相談すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文、ゼミ論文などに、質的調査を取り入れてみたいと考える学生の受講を歓迎します。

キーワード /Keywords

質的調査、民族誌、

教養演習 AII (防衛セミナー) 【昼】

担当者名
 /Instructor

戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習AI」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。
 この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習AI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習AI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート（8000字程度）を書くことをめざす。したがって原則として「教養演習AI」「教養演習AII」の通年（1学期・2学期）受講を義務づける。

AII（2学期）では、まず、教養演習AIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

AIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 テキスト批評と議論
- 第3回 テキスト批評と議論
- 第4回 テキスト批評と議論
- 第5回 テキスト批評と議論
- 第6回 レポート検討会（4）
- 第7回 テキスト批評と議論
- 第8回 テキスト批評と議論
- 第9回 テキスト批評と議論
- 第10回 テキスト批評と議論
- 第11回 レポート検討会（5）
- 第12回 テキスト批評と議論
- 第13回 テキスト批評と議論
- 第14回 レポート検討会（6）
- 第15回 レポート報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...20% 課題（レポート）...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること（様式等は授業中に指示する）。
報告者は、（1）文献概要、（2）内容要約、（3）論点整理、（4）議論を記したレジюмеを準備すること。
報告者以外の者は（当然のことながら）事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

すべての「大学生」として欠かすことのできない人文的教養の育成を目的として、古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。2学期は、フロイトによる挑発的な文化論「文化への不満」を読む。この演習を通して、人生全般に対する甘い幻想を捨て去り、多少ともシニカルで批判的な大人の思考力を身につけることができるようになれば、それで目的を達成したことになる。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- 『フロイト著作集3』人文書院
- 『フロイト全集17(1919-22年)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 1学期の復習と内容確認
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 復習と補助学習I
- 14回 復習と補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(予習・議論・発言の積極性)...50% 課題(議事録作成)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、初回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある(税込760円)。
本演習は1学期からの続きである。授業前の準備事項として、1学期に読了した「幻想の未来」をきちんと読み直しておくことが全員に求められる。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。
同担当者による授業科目「思想と現代」を履修済みであり、なおかつその試験で「B」以上の成績を収めている学生は優先的に配慮する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査)と「復習」(授業議事録の作成)が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることに主眼をおく。さらに、身体活動を通して、初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていく。
 また、スキー実習（教養基礎演習II）のリーダーとして関わり、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス
- 2 回コミュニケーションゲーム (1)
- 3 回コミュニケーションゲーム (2)
- 4 回地域における健康ニーズ
- 5 回健康と体力
- 6 回地域住民に必要な体力とは
- 7 回健康増進プログラムの計画 (1) 体力測定
- 8 回健康増進プログラムの計画 (2) 安全性と有効性
- 9 回健康増進プログラムの計画 (3) プログラム作成
- 10 回健康増進プログラムの実施
- 11 回健康増進プログラムの評価
- 12 回スキー実習の計画 (1) 野外活動の意義
- 13 回スキー実習の計画 (2) 安全性と有効性
- 14 回スキー実習の計画 (3) プログラム作成
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 2学期
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。本年度は、平成23年度開講予定の「北九州の政治行政」、平成24年度開講予定の「北九州の経済」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、積極的に情報検索をしてみてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの積極的参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

* 教養演習 AI もあわせて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。DNAとは何か？ 遺伝子とは何をしているものなのか？ 本演習では「DNA・遺伝子・生命」を主たるテーマとし、関連図書・DVDを用いて学習するほか、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。さらに関連した科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」D. サダウア他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の説明【細胞】【遺伝】【染色体】
- 3回 基本的事項の説明【DNA】【RNA】【タンパク質】
- 4回 基本的事項の説明【遺伝子】【ゲノム】
- 5回 実験と実習【DNA鑑定実験1】
- 6回 実験と実習【DNA鑑定実験2】
- 7回 実験と実習【DNA鑑定実験3】
- 8回 科学記事よりトピックを選んで解説(1)
- 9回 科学記事よりトピックを選んで解説(2)
- 10回 科学記事よりトピックを選んで解説(3)
- 11回 科学記事よりトピックを選んで解説(4)
- 12回 関連映画作品等鑑賞(1)
- 13回 関連映画作品等鑑賞(2)
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・80%、課題・・・20%
(毎回カードを配布する。授業中の発表のほかに、カードに記入したコメント・質問を重視する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

家族法判例を素材として、家族に関する法律問題解明の方法を検討するとともに、問題発生の原因や要因を探りながら、問題を根本的に解決するために私たちはどうしたらよいかを一緒に考えて見ようと思っています。

教科書 /Textbooks

水野紀子他編著『家族法判例百選〔第7版〕』有斐閣（2008年10月）2,400円を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○泉 久雄『親族法』有斐閣 3,500円、○中川善之助=泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣 6,000円、○有地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社 3,800円。その他必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献検索の仕方
- 3回 判例研究の方法
- 4回 判例研究の方法
- 5回 判例研究の方法
- 6回 研究報告と討論
- 7回 研究報告と討論
- 8回 研究報告と討論
- 9回 研究報告と討論
- 10回 研究報告と討論
- 11回 研究報告と討論
- 12回 研究報告と討論
- 13回 研究報告と討論
- 14回 研究報告と討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容... 20% 討論への積極的参加度... 20% 期末のレポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「法律の読み方」、法学部の学生については特に「家族法」を合わせて受講すればより一層理解が深まると思います。また、「家族を問う」、「家族の再生」を受講していることも家族の現状を理解することの助けとなると思います。

履修上の注意 /Remarks

教養演習BIIもあわせて受講するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法律学は受講生が主体的に取り組むのでなければその成果は上がりません。自ら進んで研究報告に取り組むとともに、他の報告者の提供する議論の場にも積極的に参加するよう心がけてください。報告の際には、レジユメを用意してください。

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本の歴史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全履修生から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

瀧井一博『伊藤博文 - 知の政治家』（中公新書、2010年）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
 無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習 A I・II」「教養演習 B II」とセットで履修することを希望します。
 A I・IIを履修できなかった場合、事前に相談して下さい。
 この演習は1年生、2年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国家と社会についての重要文献読解：卒業論文の執筆を来年に控え、専門性の高い論文を読み始めた学生が、論文を読み進めるにあたってぶつかる壁のひとつは、文中に引用される古典文献を理解することであると思われる。本演習では、メインテキストである『社会とは何か』を読み進めつつ、言及されている論点の一つである国家と社会に関する引用古典文献を読み進めることを試みる。この作業を通して、原典に当たりながら論文を読み、考察することの重要性を実感してもらおう。

教科書 /Textbooks

竹沢尚一郎 2010 『社会とは何か』中公新書
 ユルゲン・ハーバーマス1994 『公共性の構造転換：市民社会の一カテゴリーについての探究（第2版）』細谷貞雄、山田正行（訳）未来社
 ベネディクト・アンダーソン 2007 『定本 想像の共同体：ナショナリズムの起源と流行』白石隆・白石さや（訳）書籍工房早山

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールで輪読と議論を進める。

- 第1回 導入(1)：演習の説明
- 第2回 導入(2)：社会と国家の概念について背景説明
- 第3回 『社会とは何か』1章
- 第4回 『社会とは何か』2章
- 第5・6・7・8回 『公共性の構造転換』
- 第9回 『社会とは何か』3章
- 第10回 『社会とは何か』4章
- 第11・12・13・14回 『想像の共同体』
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中の報告50%、提出物50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

多少難解なテキストを含むので、受講者の理解度を確認するために読書ノートの提出を義務付ける。

履修上の注意 /Remarks

教養演習BIも続けて受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

哲学思想の基礎を踏まえて論じられている文献を独力で読みこなすのは大変ですが、人文社会科学系の研究には重要なことです。上記のテーマに興味のある学生の出席を歓迎します。

キーワード /Keywords

社会、国家、公共性、ナショナリズム

教養演習BI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習BII」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1~2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習BI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、将来、自衛隊の幹部候補生試験を受ける可能性のある者は、受講を強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート(10000字程度)を書くことをめざす。したがって原則として「教養演習BI」「教養演習BII」の通年受講(1・2学期受講)を義務づける。

1学期は、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会学的なものの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) レポート・論文の書き方

さらに、社会学的な調査を用いた基礎的な文献を報告してもらう。

同時並行的に、自らが書く論文・レポートについても準備をすすめる。まず、各自が「テーマ」と「問い」をたてる。その上で、自らのたてた「問い」について関連する文献のリストを作成する。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかけることがある)。

教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『「二ート」って言うな』、本田由紀・内藤朝雄・後藤和智、光文社新書、2006

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会学的なものの見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会学的なものの見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会学的なものの見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 第1回レポート検討会
- 第6回 論文・レポートの書き方
- 第7回 情報収集の仕方(1)
- 第8回 情報収集の仕方(2)
- 第9回 第2回レポート検討会
- 第10回 分析事例(1) - 『「二ート」って言うな』第1部
- 第11回 分析事例(2) - 『「二ート」って言うな』第2部
- 第12回 分析事例(3) - 『「二ート」って言うな』第3部
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 第3回レポート検討会
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...40% 課題...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること(様式等は授業中に指示する)。
- 報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジユメを準備すること。
- 報告者以外の者は(当然のことながら)事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

教養演習BI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

すべての「大学生」として欠かすことのできない人文的教養の育成を目的として、古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。1学期は、フロイトの素晴らしい宗教論「幻想の未来」を読む。この演習を通して、人生全般に対する甘い幻想を捨て去り、多少ともシニカルで批判的な大人の思考力を身につけることができるようになれば、それで目的を達成したことになる。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- テリー・イーグルトン『宗教とは何か』（大橋洋一・小林久美子訳）青土社
- ダニエル・C・デネット『解明される宗教——進化論的アプローチ』（阿部文彦訳）青土社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスI (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンスII (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 復習と補助学習I
- 14回 復習と補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、第三回か第四回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある (税込760円) 。授業前の準備事項として、訳者の中山元氏による「解説文」および「フロイト年譜」(テキスト377~436頁) を読み込んでくること。

履修上の注意 /Remarks

本演習は1・2年生との合同演習となる。「教養演習BI」に授業登録をした3年生以上の方には、演習における議長を務めてもらうことがある。また、いわゆる『標準版 (Standard Edition) 』を用いて、上記テキストの英訳を日本語に翻訳してもらう場合もある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査) と「復習」(授業議事録の作成) が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践力・総合力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks
 適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習における議論への参加度20%
 活動への参加度50%
 活動報告書30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしても自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。また、社会人に必要なマナーや振る舞いについても考えていく。
 また、キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして関わりながら、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス
- 2 回リーダーとリーダーシップ
- 3 回安全性と有効性
- 4 回キャンプ実習の計画（1）リーダーとしての関わり
- 5 回キャンプ実習の計画（2）安全性と有効性
- 6 回キャンプ実習の計画（3）プログラム作成
- 7 回キャンプ実習の実施
- 8 回キャンプ実習の評価
- 9 回中高齢者にあつた身体活動プログラムの計画（1）安全性と有効性
- 10 回中高齢者にあつた身体活動プログラムの計画（2）プログラム作成
- 11 回中高齢者にあつた身体活動プログラムの計画（3）プログラム作成
- 12 回中高齢者にあつた身体活動プログラムの実施（1）
- 13 回中高齢者にあつた身体活動プログラムの実施（2）
- 14 回中高齢者にあつた身体活動プログラムの評価
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 キャンプ実習については、別途参加費がかかります。（約4000円）。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。DNAとは何か？ 遺伝子とは何をしているものなのか？ 本演習では「DNA・遺伝子・生命」を主たるテーマとし、関連図書・DVDを用いて学習するほか、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。さらに関連した科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」 D . サダヴァ他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」 東京大学生命科学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の説明【細胞】【遺伝】【染色体】
- 3回 基本的事項の説明【DNA】【RNA】【タンパク質】
- 4回 基本的事項の説明【遺伝子】【ゲノム】
- 5回 実験と実習【DNAの構造】
- 6回 実験と実習【DNAの抽出】
- 7回 科学記事よりトピックを選んで解説(1)
- 8回 科学記事よりトピックを選んで解説(2)
- 9回 科学記事よりトピックを選んで解説(3)
- 10回 科学記事よりトピックを選んで解説(4)
- 11回 科学記事よりトピックを選んで解説(5)
- 12回 関連映画作品等鑑賞(1)
- 13回 関連映画作品等鑑賞(2)
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・ 80%、課題・・・ 20%
(毎回カードを配布する。授業中の発表のほかに、カードに記入したコメント・質問を重視する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

家族法判例を素材として、家族に関する法律問題解明の方法を検討するとともに、問題発生の原因や要因を探りながら、問題を根本的に解決するために私たちはどうしたらよいかを一緒に考えて見ようと思っています。

教科書 /Textbooks

水野紀子他編著『家族法判例百選〔第7版〕』有斐閣（2008年10月）2,400円を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○泉 久雄『親族法』有斐閣 3,500円、○中川善之助=泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣 6,000円、○有地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社 3,800円。その他必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献検索の仕方
- 3回 判例研究の方法
- 4回 判例研究の方法
- 5回 判例研究の方法
- 6回 研究報告と討論
- 7回 研究報告と討論
- 8回 研究報告と討論
- 9回 研究報告と討論
- 10回 研究報告と討論
- 11回 研究報告と討論
- 12回 研究報告と討論
- 13回 研究報告と討論
- 14回 研究報告と討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容... 20% 討論への積極的参加度... 20% 期末のレポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「法律の読み方」、法学部の学生については特に「家族法」を合わせて受講すればより一層理解が深まると思います。また、「家族を問う」、「家族の再生」を受講していることも家族の現状を理解することの助けとなると思います。

履修上の注意 /Remarks

教養演習BIもあわせて受講するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法律学は受講生が主体的に取り組むのでなければその成果は上がりません。自ら進んで研究報告に取り組むとともに、他の報告者の提供する議論の場にも積極的に参加するよう心がけてください。報告の際には、レジユメを用意してください。

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ論文をかいてもらう(400字×30枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。なお、そのための準備として、第2～7回の演習では近代文書の解読も練習する。

教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年)700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習運営方針に関する話し合い。
- 第2回～7回 各自の研究報告と近代文書の解読の練習。
- 第7回～14回 各自の研究報告(同時並行的に論文執筆)。
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50%課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

明治時代に書かれた小説(森鴎外など)を読んで下さい。とにかく、旧字体・旧かな遣いに慣れること。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習AⅠ・Ⅱ」「教養演習BⅠ」とセットで履修することを希望します。
以上の科目を履修できなかった場合には、事前に相談して下さい。
この演習は1年生、2年生との合同演習です。受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

共同体と排除についての重要文献読解： 本演習は、教養演習BIの続きである。BIで取りあげたメイン・テキスト『社会とは何か』のもう一つの論点である、共同体と排除について、隣接する近年の文献と古典文献を関連付けながら理解を深める。この作業を通して、一つの文献から関連する他の文献へと思考を広げる訓練を行う。

教科書 /Textbooks

竹沢尚一郎 2010 『社会とは何か』 中公新書
 田辺繁治 2008 『ケアのコミュニティ』 岩波書店
 ミシェル・フーコー 1977 『監獄の誕生』 田村椒（訳）新潮社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールで輪読と議論を進める。

- 第1回 導入：共同体と排除の概念について
- 第2回 『社会とは何か』 第5章
- 第3・4・5・6回 『ケアのコミュニティ』
- 第7・8・9・10・11・12・13回 『監獄の誕生』
- 第14・15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、 演習中の報告50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

B IIのみの受講を希望する場合は、開講初日までに『社会とは何か』の第1章から4章まで読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

教養演習BIを受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フーコーの『監獄の誕生』は、哲学や社会学の研究者に限らず、その周辺分野の研究者にとっても重要な文献となっています。ですが、ヨーロッパの歴史的・思想的背景を知らずに、また彼の概念がどのような研究に用いられているのかわからずに、独力で理解するのはなかなか難しいです。演習を通して、数人で読むことにより、理解が深まると思います。この演習では、受け身でなく、自ら文章を読み込む意思のある学生の受講を歓迎します。

キーワード /Keywords

共同体・ コミュニティ・ 監視・ 排除・ 統治

教養演習BII (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習BI」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。
 この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習BI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習BI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、卒業後、幹部自衛官になることを希望する者は、受講を強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BII【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート(10000字程度)を書くことをめざす。したがって原則として「教養演習BI」「教養演習BII」の通年(1学期・2学期)受講を義務づける。

BII(2学期)では、まず、教養演習BIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告(テキスト批評)をしてもらい、議論を行う。なお、1~2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

BIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかける)。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 テキスト批評と議論
- 第3回 テキスト批評と議論
- 第4回 テキスト批評と議論
- 第5回 テキスト批評と議論
- 第6回 レポート検討会(4)
- 第7回 テキスト批評と議論
- 第8回 テキスト批評と議論
- 第9回 テキスト批評と議論
- 第10回 テキスト批評と議論
- 第11回 レポート検討会(5)
- 第12回 テキスト批評と議論
- 第13回 テキスト批評と議論
- 第14回 レポート検討会(6)
- 第15回 レポート報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...20% 課題(レポート)...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること(様式等は授業中に指示する)。
報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジюмеを準備すること。
報告者以外の者は(当然のことながら)事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

すべての「大学生」として欠かすことのできない人文的教養の育成を目的として、古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。2学期は、フロイトによる挑発的な文化論「文化への不満」を読む。この演習を通して、人生全般に対する甘い幻想を捨て去り、多少ともシニカルで批判的な大人の思考力を身につけることができるようになれば、それで目的を達成したことになる。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- 『フロイト著作集3』人文書院
- 『フロイト全集17 (1919-22年)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 1学期の復習と内容確認
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 復習と補助学習I
- 14回 復習と補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、初回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある (税込760円) 。
本演習は1学期からの続きである。授業前の準備事項として、1学期に読了した「幻想の未来」をきちんと読み直しておくことが全員に求められる。

履修上の注意 /Remarks

本演習は1・2年生との合同演習となる。「教養演習 B I」に授業登録をした3年生以上の方には、演習における議長を務めてもらうことがある。また、いわゆる『標準版 (Standard Edition) 』を用いて、上記テキストの英訳を日本語に翻訳してもらう場合もある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査) と「復習」(授業議事録の作成) が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名
 /Instructor

伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 3年次
 /Year

単位 2単位
 /Credits

学期 2学期
 /Semester

授業形態 演習
 /Class Format

クラス 3年
 /Class

対象入学年度
 /Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践力・総合力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度20%
 活動への参加度50%
 活動報告書30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力はもちろんのこと社会人として必要なマナー（振る舞いなど）を身につけることに主眼をおく。さらに、初めてあった人や普段話したことのない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいのかを見つける術について考えていく。
 また、スキー実習（教養基礎演習Ⅱ）のリーダーとして関わり、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス
- 2 回コミュニケーションゲーム (1)
- 3 回コミュニケーションゲーム (2)
- 4 回地域における健康ニーズ
- 5 回健康と体力
- 6 回地域住民に必要な体力とは
- 7 回健康増進プログラムの計画 (1) 体力測定
- 8 回健康増進プログラムの計画 (2) 安全性と有効性
- 9 回健康増進プログラムの計画 (3) プログラム作成
- 10 回健康増進プログラムの実施
- 11 回健康増進プログラムの評価
- 12 回スキー実習の計画 (1) 野外活動の意義
- 13 回スキー実習の計画 (2) 安全性と有効性
- 14 回スキー実習の計画 (3) プログラム作成
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト演習I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。JOB×HUNTERのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2010年度実績：JOB×HUNTER 2012、キャリアーナ、オープンキャンパス、北九州市漫画ミュージアム、Navy Wavy（ギラヴァンツ応援プロジェクト）

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。やる気のみです。

履修上の注意 /Remarks

- ※原則、2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。
- ※参加募集は随時行います。なお、参加人数には制限があります。
- ※自らプロジェクトを立ち上げたい人は是非ご相談ください。
- ※授業日は特に決まった曜日は設定しません。メンバーで相談して設定してください。
- ※教室は学生プラザのプロジェクトルームを予約して使用してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト期間中は他の課外活動との両立は難しくなりますのでご注意ください。途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいます。また、特に応募者が多いプロジェクトであれば、応募に外れた学生の気持ちも台無しにします。やり遂げる意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

経験から学ぶ力、キャリア、成長

プロジェクト演習II【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。JOB×HUNTERのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2010年度実績：JOB×HUNTER 2012、キャリアーナ、オープンキャンパス、北九州市漫画ミュージアム、Navy Wavy（ギラヴァンツ応援プロジェクト）

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。やる気のみです。

履修上の注意 /Remarks

- ※この演習を履修できるのは、原則2年次に『プロジェクト演習I』を履修した人です。ただし、オープンキャンパスなど期間限定のタイプは単独でも履修可能です。
- ※参加募集は随時行います。なお、参加人数には制限があります。
- ※自らプロジェクトを立ち上げたい人は是非ご相談ください。
- ※授業日は特に決まった曜日は設定しません。メンバーで相談して設定してください。
- ※教室は学生プラザのプロジェクトルームを予約して使用してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト期間中は他の課外活動との両立は難しくなりますのでご注意ください。途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいます。また、特に応募者が多いプロジェクトであれば、応募に外れた学生の気持ちも台無しにします。やり遂げる意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

経験から学ぶ力、キャリア、成長

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。授業とあわせて以下の本をよんでほしい。

教科書 /Textbooks

- 『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田末寿

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
 - 第一講 「今西錦司と自然学」
 - 第二講 「私とあなたの自然学」
 - 第三講 「バックミンスターフラーと自然学」
 - 第四講 「海と人の自然学1：沖縄の海人たち」
 - 第五講 「海と人の自然学2：ソロモンの海洋民たち」
 - 第六講 「海と人の自然学：軍艦島を考える」
 - 第七講 「風の谷のナウシカの自然学」
 - 第八講 「人の進化と自然学」
- 岩松
 - 第九講 人々はどのように自然に親しんできたか - 自然の中の旅と観光
 - 第十講 人々はどのように自然を観てきたか - 自然風景の感じ方
 - 第十一講 人々はどのように自然を利用してきたか - 日本の竹文化史
 - 第十二講 人々はどのように自然を利用していけるか - 日本の竹産業と政策
 - 第十三講 人々はどのように自然の中で暮らしているか - 日本の木造民家の生活
 - 第十四講 日本人と森林の関係にはどのような特徴があるか - 中国文化との比較
 - 第十五講 第九講～第十四講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

竹川 自分が生きている世界について野に出て考えてみたかったか 50%
岩松 平常点&小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本を読んでほしい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

動物園とのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来の姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論 1
- 2回 動物園学概論 2
- 3回 キーパーの仕事 1
- 4回 キーパーの仕事 2
- 5回 キーパーの仕事 3
- 6回 キーパーの仕事 4
- 7回 キーパーの仕事 5
- 8回 キーパーの仕事 6
- 9回 校外実習 1
- 10回 校外実習 2
- 11回 獣医の仕事 1
- 12回 獣医の仕事 2
- 13回 動物園学まとめ 1
- 14回 動物園学まとめ 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 80% 平常の学習状況 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球の生いたち【昼】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみや成り立ちを正しく理解し、地球規模でのバランス感覚を養っていく必要がある。

この授業の目標は、現在の地球のしくみと地球史を正しく理解することを通して、地球と人間との関係はどうあるべきかについて、自ら判断し考えることができるようになることである。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』(日本放送協会), 1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』(岩波書店), 861円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目: 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目: 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目: 生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目: 地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目: 地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目: 凍りついた地球【全球凍結】
- 7回目: 生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目: 生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目: 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目: 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目: 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目: 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目: 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目: 人間圏の成立と環境問題【人類と環境】
- 15回目: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 80%, 日常の授業への取り組み: 10%, 小テスト・ミニレポート: 10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球史を学ぶ事を通して、地球と人間との関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球史, 生命と地球, 共進化

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地です。また、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している当博物館を、まずみなさんに知ってもらうことが、この授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的にを行っています。講義では、海外の話題も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができると思っています。よりグローバルな視点から、自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各学芸員が担当する講義のテーマは下記の通りです（【】内はキーワード、（）内は担当学芸員名）。講義の順番は変更となる場合があります。北方キャンパスでの13回の講義のほか、北九州市立自然史・歴史博物館での講義および見学（学期内の特定の日曜日を使い2回実施）を予定しています。

- 1回 ガイダンス
 - 2回 昆虫分類学の歴史（上田）：【分類】【化石昆虫】
 - 3回 化石が語る魚類の進化（藪本）：【魚類化石】
 - 4回 二次的自然と哺乳類（馬場）：【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
 - 5回 鳥類の絶滅危惧と生物多様性の保全（武石）：【絶滅危惧】【生物多様性】
 - 6回 ちょっと前の自然～植物の世界を例に（真鍋）：【里山】【二次的自然】【生態遷移】
 - 7回 化石記録が物語るいのちのたび「絶滅と繁栄」（太田）：【化石】【生命史】【絶滅】
 - 8回 カエルとサンショウウオのはなし（山根）：【両生類】【身近な生き物たち】
 - 9回 宝石鉱物の魅力と不思議（森）：【宝石】【鉱物】
 - 10回 深海生物～その形と適応的意義～（下村）：【深海】
 - 11回 アンモナイトの古生物学（御前）：【系統進化】【携帯と機能】【恐竜】
 - 12回 骨から知る脊椎動物進化（大橋）：【化石】【進化】【古生態】
 - 13回 まとめ
- ※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ：<http://www.kmnh.jp/>

成績評価の方法 /Assessment Method

2回の博物館見学は必須となります。レポートで成績評価を行います。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし。

履修上の注意 /Remarks

講義に遅れてきたり、出席確認後に退席したりすることがないように、各自マナーを守るよう心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学【昼】

担当者名 /Instructor 秋貞 英雄 / Akisada Hideo / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

化学知識は生活に不可欠な知識です。化学物質は身近な物質として生活を豊かにするのに貢献しています。また”生命とは宇宙とは”豊かな発想や、豊かな未来社会を展望する上での必要な知識です。一方、地球環境汚染など否定的現象にも関わる知識です。また金銭を中心とする消費社会では、工セ科学を利用した詐欺的商法もあります。市民は其中で、単なる教養でなく、正しい判断のための正確な科学知識が必要とされます。

化学的知識の理解は、情報を受ける側の基礎知識と情報提供者の工夫によって進みます。化学の専門家でない者には、一つの知識の習得には多面的アプローチが重要です。したがって、講義は、高校理科・化学のまとめと補足のあと教科書より与えられるテーマをもとに、色々補足を加えて、身近な化学知識への興味と理解が進むように努めたい。

教科書 /Textbooks

学説・化学物質 - あなたの常識に挑戦する」John Emsley著、渡辺正訳 (丸善)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「沈黙の春」R. Carson著、青木梁一訳 (新潮社)
「奪われし未来」T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾力著 (翔泳社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義は、入門的に高校の理科・化学のまとめと補足を行い。引き続いて、教科書に与えられたテーマに基づき、補足、関連話題や解説を進めて理解の促進をはかる。

- 1) 化学の基礎1
- 2) 化学の基礎2
- 3) 香水(香料)・・・においの正体、対置する消臭
- 4) 砂糖と甘味料・・・甘味料の役割
- 5) 味と調味料・・・味覚と化学 (教科書外)
- 6) アルコール・・・酒と百薬の長・・・アルコールの体内挙動
- 7) コレステロール、脂肪、食物繊維・・・ダイエットとメタボ対策
- 8) くすり・・・毒と薬は紙一重
- 9) 洗剤・・・洗浄、きれいさ、その歴史と洗剤の多機能性 (教科書外)
- 10) 塩化ビニル・・・プラスチックと高分子の歴史
- 11) プラスチック・・・環境問題 (教科書+教科書外)
- 12) ダイオキシン・・・化学汚染、大気汚染・・・都市問題
- 13) 無機窒素肥料・・・化学肥料と有機肥料
- 14) 二酸化炭素・・・二酸化炭素と温暖化の科学的仕組み、地球温暖化、地球の歴史
- 15) 未来社会と化学 (教科書+教科書外)

成績評価の方法 /Assessment Method

簡単レポートや小テスト30%、期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校の理科、化学の教科書があると望ましい(手引き代わり)。テレビ新聞等の科学関連ニュースには注目して欲しい。疑問点は質問して欲しい。

履修上の注意 /Remarks

教科書外の内容も講義することがあるので、ノートはきちんととること。小テストやレポートが、ノートのに基づくこともある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間は社会的な存在であり、集団や社会から影響を受けて個人が成り立っていると同時に、各個人が集団や社会を成り立たせている。授業への参加が、このことを考えるきっかけになってほしい。日常生活における問題と心理学研究における問題とのつながりを理解することによって、自分、他者、集団、社会、というものの見方に深みが増すことを期待する。

教科書 /Textbooks

オリエンテーションの時に知らせる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション、心理学とは何か
- 第2回 心をどうとらえるか
- 第3回 心の柔軟性1(進化)
- 第4回 心の柔軟性2(脳)
- 第5回 心の柔軟性3(本能)
- 第6回 人間は世界をどう理解するか1(知覚)
- 第7回 人間は世界をどう理解するか2(記憶)
- 第8回 人間は世界をどう理解するか3(学習)
- 第9回 自分を顧みる1(親子関係)
- 第10回 自分を顧みる2(自己評価、自尊心)
- 第11回 自分達を顧みる1(消費と生産)
- 第12回 自分たちを顧みる2(性と年齢)
- 第13回 集団の心理
- 第14回 社会と自己
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(数回行います)・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

数のたのしみ 【昼】

担当者名 /Instructor 高妻 倫太郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中学校・高校で習う「数学」とは違い、文化的観点を取り入れた「数楽」を目標とする。
 1. 数の世界に対する関心・興味を持ってもらうこと。
 2. 数学的思考法を体感し、「考えることは楽しい」感覚を呼び覚ますこと。
 講義全体のキーワードは、数との親しみ・愉しみ。それらを通して世の中に数学的精神が息づいていることを伝えたい。

教科書 /Textbooks

講義資料を毎回準備するため、テキストの指定は特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

心躍る、3世紀にわたる数学者たちの、挫折と栄光と感動の物語として次を推奨する。
 ○サイモン・シン著・青木薫訳『フェルマーの最終定理』新潮社(2006年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 数の世界はどのようにして発見、発展させられてきたか。数学史を織り交ぜながら述べる。
2. 数学的な考え方の紹介。数(や図形)の問題を皆で考える。ただし、予備知識をなるべく仮定せず考えて欲しいと思われる問題。
 - 1回 古代の数学【バビロニア】、【エジプト】、【中国】、【インド】
 - 2回 かぞえること【数の発見】、【数の表記法】、ギリシャ数学のはじまり【ピタゴラス学派】
 - 3回 古代ギリシャの数学者・哲学者たち【ギリシャ三大作図問題】
 - 4回 円周率とは【 π の歴史】、【ビュフォンの針】
 - 5回 ギリシャ数学の末期【ディオファントスの「算術」】、中世の中国
 - 6回 中世の数学【インド】、【イスラーム】、【ヨーロッパ】、ふしぎの黄金比
 - 7回 いろいろな記号の起源、未知数がXになるまでの道のり、方程式の解法をめぐって
 - 8回 究極の折り紙
 - 9回 ルネサンスの絵画と幾何、17世紀の幾何学・確率論・数論
 - 10回 和算について【江戸時代】、19世紀の代数学・数論、19世紀までの主な数学分野
 - 11回 「テーマから考えてみよう」
 - 12回 フェルマーの最終定理が解かれるまで
 - 13回 暗号のはなし【公開鍵暗号】、【法の世界】
 - 14回 技術に生きる現代数学【RSA暗号】
 - 15回 技術に生きる現代数学【ISBN】

成績評価の方法 /Assessment Method

アンケート(毎回)およびレポートによる総合評価。
 「アンケート40%+レポート60%-欠席点数」で評価。3回以上の無断欠席は不可とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予備知識は特に仮定しない。数をたのしんでみようという心構え・やる気が必要である。
 上記の参考文献を読まれるとよい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義中の飲食・私語は禁止。
 携帯電話の電源は切り、鞆の中にしまっておくこと。

キーワード /Keywords

私たちと宗教【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本で生活するわれわれの大多数は、宗教を迷信ないしは縁遠いものと受けとめているのではないだろうか。しかしながら諸外国においては、宗教は抜き差しならない切実な問題であり、社会に大きな位置を占めて人々の倫理観や思考を深く規制している。振り返ってみれば、われわれ自身も実は決して無宗教というわけではない。この授業を通して人間社会における宗教の重要性を認識してもらいたい。授業ではとりわけ日本人にとって身近な宗教についての理解を深めてもらう。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）
○橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房・ちくま文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要について
- 2回 問題提起—宗教とはなにか？
- 3回 宗教の諸類型と世界の諸宗教
- 4回 一神教について1（一神教の発生）
- 5回 一神教について2（ユダヤ教）
- 6回 一神教について3（キリスト教）
- 7回 日本人の「宗教」観
- 8回 仏教について1（インドの仏教）
- 9回 仏教について2（中国の仏教）
- 10回 仏教について3（日本の仏教）
- 11回 神道について1（神道の特色）
- 12回 神道について2（神道の形成）
- 13回 神道について3（神道の特色）
- 14回 日本の宗教風土
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% レポート... 20% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布した資料は下読みしておくこと。
レポートの作成には数冊の本を読んでもらうことになります。それなりの時間とお金を必要とします。計画的に作業を進めてレポートを提出して下さい。

履修上の注意 /Remarks

レポートを提出しない者は、期末試験を受験することができません。
レポート提出の遅延は認めません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

宗教を信じることを勧める授業ではありません。宗教というものが人間や文化にとって重要な位置を占めるものであることを理解し、日本の宗教風土の特色を理解してもらって授業です。

キーワード /Keywords

宗教 一神教 多神教 神道 仏教

思想と現代【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴール】
- 4回 実存の思想(3)【ハイデガー】
- 5回 実存の思想(4)【サルトル】
- 6回 実存の思想(5)【メルロ=ポンティ】
- 7回 中間総括(確認テスト)
- 8回 精神分析の思想(1)【フロイト1】
- 9回 精神分析の思想(2)【フロイト2】
- 10回 精神分析の思想(3)【メラニー・クライン1】
- 11回 精神分析の思想(4)【メラニー・クライン2】
- 12回 フェミニズムの思想(1)【第一波】
- 13回 フェミニズムの思想(2)【第二波】
- 14回 フェミニズムの思想(3)【現代】
- 15回 総括と補足

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト... 50% 期末レポート... 50%
(※確認テストを受験していない者は、期末レポート提出の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第7回にテスト(第3回~第6回の内容確認)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。なお、このテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ろくに事前連絡もなく、授業最終日になってから「忙しくて確認テスト受けられませんでした」などと言いに来る者もいるが、この手のチープな言い訳はまったく通用しない。その場合は当然不合格となる。
本授業に対しては、一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。また、授業内で指示する課題内容から外れたレポート、無断引用(コピペ等)が発覚したレポートは即座に0点となる。

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明や、現代の商業的、歴史上の風刺画などをとりあげてイメージとしての〈日本〉について多様な角度から言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。さらに、後半では、テーマ研究として具体的なテーマに焦点を絞り、表象についての理解を深めていく。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 【表象論事始め】 理論的背景
- 3回 イメージとしての〈日本〉①
- 4回 イメージとしての〈日本〉②
- 5回 イメージとしての〈日本〉③
- 6回 中間テスト
- 7回 【表象分析事始め】方法としての「比較」
- 8回 映画分析①
- 9回 映画分析②
- 10回 【テーマ研究】表象を論じるためのテーマ
- 11回 戦争と表象①
- 12回 戦争と表象②
- 13回 戦争と表象③
- 14回 テーマ研究をふりかえって
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(課題・コメントカードなど) ... 10% 中間・期末テスト ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習は特に必要ないが、毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められるので、緊張感をもった態度で受講してほしい。単位取得のためには、2回の試験において十分な準備が要求される。全体的にハードなプログラムであることを受講希望者は意識しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 花田 伸一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国内外の現代美術の事例を、鑑賞・趣味の対象としてではなく、批評・実践のツールとして紹介します。必要に応じて美術以外の諸分野も取り上げます。

教科書 /Textbooks

ナシ

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

今道友信『美について』(講談社現代新書)
佐々木健一『美学への招待』(中公新書)
暮沢剛巳編『現代美術を知るクリティカル・ワーズ』(フィルムアート社)
ほか、できるかぎり近辺の展覧会に足を運び、現場での実体験をすること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 美をめぐる言葉の整理：美×美術×美術館×美学
- 2回 作品鑑賞1：学内作品鑑賞
- 3回 作品鑑賞2：抽象美術作品鑑賞
- 4回 美術の現場1：美術館展覧会の舞台裏
- 5回 美術の現場2：アートプロジェクトとは
- 6回 美術と近代化1：近代日本美術の成立
- 7回 美術と近代化2：東南アジアの現在：ラオス、カンボジア
- 8回 美術と近代化3：東南アジアの現在：タイ
- 9回 芸術と権力：ファシズムと祝祭性について
- 10回 芸術と宗教：ニューエイジについて
- 11回 美術と教育：美術教育の現場から
- 12回 芸術と生活：限界芸術、民芸
- 13回 美術と地域：福岡県内プロジェクト事例紹介
- 14回 北九州・福岡アートシーン紹介1
- 15回 北九州・福岡アートシーン紹介2

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記の講義内容は予告なしに変更する場合があります。
また講義室内での受講にとどまらず、できる限り近隣の美術館・ギャラリー等で行われる展覧会・レクチャー・トーク・ワークショップ等に足を運び、「現場」での体験と省察とを心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争と人間【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター, 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「戦争」は、人類が抱え込んできた難問であり続けている。「獣」は人間のような過剰な殺戮をおこなわないという観察的事実から、過剰な殺戮・すなわち虐殺こそが人間の特色であるという見方も、不可能ではない。戦争とは、人間にとってどのような営みなのか、という根源的な問いを踏まえ、近代の総力戦以降、私たちはどのように戦争を遂行し、またどのような体験をしてきたのか、幅広く戦争という営みを見据えたい。そして人間にとっての戦争を、政治、文化、記憶と歴史そして哲学と倫理等の側面から多角的に検証し、戦争と共生のはざままで今日の我々が共有すべき問いについて考える。

教科書 /Textbooks

必要な資料はプリントとして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は、複数の教員が各々の専門と関心から同一テーマに従って輪番で講義を進行させてゆく「オムニバス授業」である。政治学(戸蒔)、政治・外交史(小林)、哲学・倫理学(伊原木)を中心とし、他学部の教員も加えて授業展開してゆく予定である。授業テーマや担当者については初回授業で説明するので、必ず出席すること。参考までに、昨年度の共通テーマは「敵概念」であった。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート 80% 授業内小レポート 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』(早川書房)
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』(早川書房)
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房)
- 平井亮輔編『正義』(嵯峨野書院)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社)
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社)
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』(法律文化社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 本講義の構成と概説
- 第2回 現代正義論とは(続)
- 第3回 「正義」の応用問題(生命倫理と法)[~第7回まで]
脳死・臓器移植①
- 第4回 脳死・臓器移植②
- 第5回 脳死・臓器移植③
- 第6回 安楽死・尊厳死① 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第10回 現代正義論③ ~ 共同体主義と多文化主義
- 第11回 現代正義論④ ~ アマルティア・センの正義論
- 第12回 現代正義論⑤ ~ センとロールズ・ノージック
- 第13回 現代正義論⑥ ~ 狭義の(ロールズ以後の)「現代正義論」のまとめ
- 第14回 法と正義 ~ 狭義の現代正義論と正義の応用問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送され、話題となったマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、きわめて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたい。

教科書 /Textbooks

レジュメの配布を基本とするが、S・シャピロ『民主主義論の現状』（慶応義塾大学出版会、2010年）（○）も多く用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社、2003年）（○）
J・リンズほか『大統領制民主主義の失敗』（南窓社、2003年）（○）
L・ダイヤモンドほか『シビリアン・コントロールとデモクラシー』（刀水書房、2006年）（○）
中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房、2006年）（○）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞・グローバル化と民主主義【第三の波】【市民社会】
- 第2 - 3回 「デモス」と「クラティア」について【イソノミア】【イセゴリア】【イソモイリア】
- 第4 - 5回 二つの民主主義伝統について【G・セイバイン】【自由】【平等】
- 第6 - 7回 近代市民革命と自由民主主義について【C・シュミット】【自由主義】【民主主義】
- 第8 - 9回 現代民主主義の諸類型【エリート主義】【参加民主主義】【共生の民主主義論】
- 第10 - 11回 議院内閣制民主主義と大統領制民主主義について【政治的安定性】【首相公選制】
- 第12 - 13回 民主主義批判の思想について【全体主義】【ポスト・デモクラシー】
- 第14回 デモクラシーの徹底化について【C・ムフ】【多様性】【複数性】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への積極的取組状況考慮、小テストによる問題の解説と添削、レポート任意提出可、定期試験と講義への積極的取組などで総合評価
講義への積極的取組 10%、小テスト... 10% レポート(任意) 10% 試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布したレジュメに目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問い直す機会としたい。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題について、その事例を説明できる。
4. 自分自身と人権との関わりが理解できる。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『不思議な力 夜間中学』（宇多出版企画発行）
 『部落問題資料と解説』（解放出版社発行）
 必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 自分にとっての人権課題
- 2 「人権とは何か」
- 3 「人権獲得の歴史」
- 4 「世界人権宣言採択の歴史的経緯と意義」
- 5 「部落問題について」
- 6 「部落差別の事例と当事者の声」
- 7 「在日外国人と人権課題」
- 8 「在日コリアンについて」
- 9 「ハンセン病とは、元患者の事例」
- 10 「識字問題～読み書きができないことがもたらす人権侵害」
- 11 「教育と人権～教育を受ける権利が保障されていない人たちの状況」
- 12 「障害者の立場からみる人権課題」
- 13 「戦争と人権 / 女性と戦争」
- 14 「アジアの人権状況」
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50% 期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人権論 【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心を持ち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生自身が持つ「学ぶ権利」を認識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、なぜ「男は仕事、女は家事・育児・介護」は自然な役割だと思われているのか、なぜ男女の賃金格差があるのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか-そのような日常的な「当たり前」をジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。

教科書 /Textbooks

『ジェンダー・スタディーズ-女性学・男性学を学ぶ』（牟田和恵編）大阪大学出版会 2,520円
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『岩波女性学事典』（井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編）岩波書店 4,830円
『フェミニズム理論辞典』（マギー・ハム著）明石書店 7,140円
R.W. Connell, Gender: Short Introduction, Polity, 2003 .

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 日本語とジェンダー-日本の戦後から現代までの歌謡曲【女言葉・男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別役割分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャルな関係】【性のダブル・スタンダード】
- 7回 学校教育の今昔-学園ものTVドラマの系譜【ジェンダー・トラッキング】【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-米映画『フローズン・リバー』【シングル・マザー】【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【家族経営協定】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-比映画『ケア・ギバー』【移住労働】【性別分業の再配置】
- 14回 テートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン...30%、レポート...30%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書、資料は事前に読んでおくこと。
ワークショップでのプレゼンにはパワーポイントを使用するため、プレゼンおよびパソコンPPT作成スキルを身につけておくこと。PPTは8枚にまとめること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

メディア表現、ジェンダー不平等な法制度の改正、日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

ジェンダー論【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「グローバル化」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定でいる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回～4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回～第8回：「文化モデル」の可能性、自閉症児者との共生をめぐる【文化モデル】【文化相対主義】【自閉症】
- 第9回～12回：日本の福祉制度の現状と課題【当事者の声】
- 第13回～14回：自己の問題としての障がい
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor 山本 光英、法学部教員

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、さまざまな極めて複雑な関係から成り立っている。我々は個人としてどのような関係の中で生活しているのか、どのような関係の中で生活すればよいのかを考えなければならない。我々の生活が、およそ一人では成り立たない以上、他者との関係、すなわち、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係などさまざまな関係の中で成り立っていることを考えなければならない。他者との共存ないし共生は我々の生活には不可欠なものであり、そのためにお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いを守るべきルール、平たくいえばマナー（作法といってよい）を知ることが必要である。今現在、そのような他者との関係がどのようになっているのかを考え、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えるのが本講座の目的である。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、規範意識とは何か（3銭の電気窃盗）（山本）
- 第2回 裁判とは何か（民事裁判、刑事裁判、行政裁判、裁判の関係者など）（岡本）
- 第3回 相隣関係とは何か（隣接する土地所有権相互の利用を調整することの意味）（福本）
- 第4回 民事少額訴訟とは何か（小池）
- 第5回 基本的人権とは何か（基本的人権と公共の福祉、法の下での平等、プライバシーの権利、国民相互間の基本的人権など）（植木）
- 第6回 社会福祉の視点から（狭間）
- 第7回 雇用とは何か（雇用関係の成立、雇用関係の展開、雇用関係の終了）（津田）
- 第8回 犯罪とは何か（構成要件、違法、責任、罪刑法定主義）（大杉）
- 第9回 契約とは何か（法律関係の主体、契約自由の原則、契約の成立と効力、契約の履行など）（中山）
- 第10回 財産とは何か（さまざまな財産、物権と債権、財産権の保障、財産権とその制約、財産権と公共の福祉など）（中山）
- 第11回 労働者の権利と生活の保障（労働法の出現、社会法の原理、労働法の内容、争議権と公共の福祉、社会保障など）（津田）
- 第12回 生存と環境保護（公害をめぐる法規制、環境保護政策の展開、循環型社会へ向けての法規制、個人・国境・世代をこえる環境問題など）（岡本）
- 第13回 国際社会と日本（二宮）
- 第14回 Pacta sunt servanda とは何か（「契約」と「約束の違い、契約の成立から終了までのプロセス）（福本）
- 第15回（予備日）

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート（計3本）を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による（鉛筆書きは不可、パソコン・ワープロで書いたものは不可とする）。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容に合わせて必要と思われる情報を収集しておくこと。復習が必要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、全ての授業終了後に学籍番号に応じて指定しますから、全て授業に出席していなければ、レポートは書けないこととなりますので注意してください。

共生の作法【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

キーワード /Keywords

北九州学【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目は、地域社会の発見学です。私たちの大学のある北九州、この地域の歴史や伝統文化を知り、人々の暮らしや風土に根ざした心を理解し、ものづくりやまちづくりへの取り組みを確認してみようと思います。北九州の発見を通じて、生活するためのヒント、他の文化とつながる知恵や未来への発展可能性を開く手がかりを得ようというものです。本年度は、「北九州の政治行政」を講義の主なテーマとします。講義全体のキーワードは『知っとーと！？北九州？？？』です。

教科書 /Textbooks

使用しません。毎回レジュメと資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、その都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 北九州の歴史-小倉藩の治世
- 3回 北九州の歴史-小倉の五街道
- 4回 北九州の歴史-軍都小倉
- 5回 北九州市誕生
- 6回 北九州の政治
- 7回 北九州の住民自治
- 8回 北九州の教育行政
- 9回 北九州の交通行政
- 10回 北九州の環境行政
- 11回 北九州の安全対策
- 12回 北九州の福祉行政
- 13回 北九州のスポーツ行政
- 14回 北九州の観光行政
- 15回 まとめ

* 毎回ゲストをお招きして、各テーマについてお話を伺います。上記の内容は一応の予定です。現在検討中です。講義内容の詳細は開講時に配布します。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取り組み... 10% 課題... 10% 期末のレポート... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義中にノートをしっかりつけてください。

キーワード /Keywords

市民活動論 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 枠組みの設定
 - 3回 民衆行動の分析①
 - 4回 民衆行動の分析②
 - 5回 市民運動の分析
 - 6回 市民の活動の展開 / 戦前 (上)
 - 7回 市民の活動の展開 / 戦前 (下)
 - 8回 市民の活動の展開 / 戦後 (上)
 - 9回 市民の活動の展開 / 戦後 (下)
 - 10回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (上)
 - 11回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (下)
 - 12回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (上)
 - 13回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (下)
 - 14回 市民活動の現在
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本は、かのアジア太平洋戦争に敗北した。その後の日本は、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。その後、欧米から日本の経営とも賞賛された日本の企業社会であるが、そのピーク＝破壊たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた10年さらには15年とも評価されるにいたっている。

終身雇用（＝ライフタイム・コミットメント、広義には職場共同体感）・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液状化して剥き出しの資本制経済の荒波にさらされている。日く、ワーキングプア・ネットカフェ難民・格差から貧困。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義（マーケット型資本主義）路線。すなわち市場＝マーケット万能路線である。そこでは、市場から脱落・排除（彼女／彼らはこれを退出という）された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである。

これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものが、こうした人々を支えるセーフティネットをもっていたと判断される。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである。

そうすると行き着くところ、社会というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないものだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ことに格差と貧困に関わるテーマを扱った雑誌『世界』・岩波新書等の最新の文献。國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房（2009年）・見田宗介（真木悠介）の社会学入門に関する文献は一冊、用意したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会とは(社会認識の諸類型)。資本制経済(資本家的生産様式)。【社会認識】
- 2回 同上
- 3回 【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】
現代社会の物質代謝＝商品による商品の生産。現代社会の物質代謝と再生産＝商品流通(C-M-C)による社会の再生産→この商品流通から、ふたつのタイプが見いだされる。→C-M-C(私たち)とM-C-M(資本家)。私たちと資本家は、商品流通のレベルでは仲良く相対しているかのようだ。この市民社会＝市民法レベルでの社会の再生産とその実態(秘密)。
- 4、5回 同上
- 6回 【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】 市民社会の歴史的創出＝本源的蓄積過程。商品流通(C-M-C)の内実たるM-C-Mでの剰余価値の生産。資本家と労働者。
- 7、8、9回 同上
- 10回【現代社会における二者闘争性(白と黒)】【労働組合】【福祉国家】【ケインズ政策】
市民社会と階級関係の二者闘争性。セーフティネット装置＝福祉国家。戦後のケインズ政策。
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 福祉国家の行き詰まりから、資本主義の原点回帰へ。新自由主義の台頭。【新自由主義】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)。【システム統合】【社会統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】【現代社会における二者闘争性（白と黒）】【労働組合】【福祉国家】【ケインズ政策】【新自由主義】【システム統合】【社会統合】

つながりの人間学【昼】

担当者名 /Instructor 地域共生教育センター 坂本毅啓、石谷百合加、奥村貴仁

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動へ参加する入門科目として、以下の6点をねらいとします。

- ①地域活動に関する実践的方法論の習得
- ②マッチング型などへの参加学生への指導
- ③プロジェクト型等は基盤演習
- ④実際に1つ以上の地域活動を体験することを通して、地域活動への参加意欲を高める
- ⑤既に地域活動に参加している学生によるシンポジウムを開催し、参加意欲を高める。
- ⑥地域活動家による講演会を開催し、地域活動への理解を深める。

教科書 /Textbooks

講義時に適宜紹介

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス
講義の目的、留意事項、421Lab.の紹介
- 第2回目 地域活動概論①
地域活動の紹介、北九州市への理解
- 第3回目 地域活動概論②
コミュニティワークの紹介と応用
- 第4回目 地域活動家特別講演会(予定)
- 第5回目 地域活動参加学生によるシンポジウム(予定)
- 第6回目 演習:基本的コミュニケーション技術
話し方、姿勢・立ち位置、表情
- 第7回目 プロジェクトドライブ①
情報収集
- 第8回目 プロジェクトドライブ②
企画作成
- 第9回目 プロジェクトドライブ③
模擬作成したプロジェクトのプレゼンテーション
- 第10回目 プロジェクトドライブ④
記録、報告、連絡、相談
- 第11回目 マナー講座①
- 第12回目 マナー講座②
- 第13回目 地域活動と価値観
- 第14回目 地域活動とキャリアプラン
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に課す小レポート(50点)
期末レポート試験(50点)
合計100点評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講を希望するものは、ボランティア活動、地域活動に関する文献を1冊以上は読んでおくこと。

つながりの人間学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

2011年度から初めて地域共生教育センターが担当します。詳細については、第1回目の講義時に資料を配布しますので、そちらを必ずご参考ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、2010年度に開設された地域共生教育センターが提供する初めての科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、より深く地域活動をとらえて学びたい方は、基盤教育の教養基礎演習、教養演習も履修していただきたいです。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、キャリア観形成

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』(山内友三郎・塚崎智監訳)昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 現代における人命の価値(1)【生命の神聖説】
- 3回 現代における人命の価値(2)【積極的行為と消極的行為】
- 4回 現代における人命の価値(3)【最大幸福原理】
- 5回 現代における人命の価値(4)【完全義務と不完全義務】
- 6回 現代における人命の価値(5)【自己意識】、【FLO】
- 7回 小テスト+解説
- 8回 現代における差別の問題(1)【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題(2)【種差別】
- 10回 現代における差別の問題(3)【間接的功利主義】
- 11回 現代における公平性の意義(1)【共有地の悲劇】、【救命ボート倫理】
- 12回 現代における公平性の意義(2)【公平主義】
- 13回 現代における公平性の意義(3)【援助義務論】
- 14回 現代における公平性の意義(4)【ケイバビリテイ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の概要、より詳しい参考文献の紹介は初回に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

今年度より本授業の期末試験は持ち込みが一切不可(プリント・ノート類も禁止)となる。
また、それに応じて成績評価のハードルもかなり高くなる。このため、受講者には継続的な学習意欲とそれ相応の記憶力が要求される。この方式変更に伴うリスクと負担をよく理解した上で講義に臨むこと。

キーワード /Keywords

生命 功利主義 義務論 公平性

現代社会の諸問題【昼】

担当者名 山本 光英、法学部法律学科教員
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会においては、従来見られなかった問題や、従来潜在的なものであったが近年顕在的となり、議論されるようになった様々な問題がある。われわれはそのような現代的な諸問題をどのように理解し、どのように考えたら良いのであろうか。

本講座は、そのような現代において生起している様々な問題の幾つかを取り上げ、それらの正確な理解と問題解決の方向を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、裁判員制度(山本)
- 第2回 「民法(債権法)改正とその問題点」(福本)
- 第3回 「マイノリティーの人権保障—障害のある人の権利の問題を中心に—」(植木)
- 第4回 「ドメスティックバイオレンスと児童虐待」(小野)
- 第5回 「日本における法の継受」(岡)
- 第6回 「現代正義論の展望」(重松)
- 第7回 「情報公開制度の現状と課題」(岡本)
- 第8回 「M&Aとは何か」(高橋)
- 第9回 「現代型犯罪の原因と予防」(朴)
- 第10回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第11回 「現代刑事裁判の諸問題」(吉村)
- 第12回 「保険広告から見えるもの」(今泉)
- 第13回 「脳死と臓器移植」(大杉)
- 第14回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第15回 (予備日)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート(計3本)を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による(パソコン・ワープロを用いた記述は不可、鉛筆書きは不可とする)。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容に応じて情報を収集し、復習をしておくことが必要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、全ての授業終了後に学籍番号に応じて指定しますから、全ての授業に出席しないと書けないことになるので注意してください。

キーワード /Keywords

現代の国際情勢【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を、ポストコロナリズムという現代思想の問題提起に沿って考察する。

教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロナリズム』知の攻略、思想読本4 (作品社、2003) 2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要
- 2~3回 なぜ今、ポストコロナリズムなのか (1) (2)
- 4回 第IV部の総論 姜尚中論文
- 5回 第II部の総論 本橋哲也論文
- 6回 第II部の「近代」 松葉祥一論文
- 7回 第II部の「性・文化」 竹村・毛利論文
- 8回 第II部の「日本」 小森陽一論文
- 9回 第II部の「第三世界」 小倉英敬論文
- 10回 第II部の「国家」 嚮田竜蔵論文
- 11回 第III部の1 朴一・村井寛志論文
- 12回 第III部の2、趙慶喜論文
- 13回 第III部の3、高橋哲也論文
- 14回 第III部の4、野村・鄭論文
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告レジュメ1回(10%)、レポート3回(90%、1回30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書に登場する概念、理論などを自主的に勉強すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のテーマは「日本における民族関係の社会的考察」である。
グローバル化の進展に伴って、定住外国人の「統合」や多文化共生の地域づくりが重要な課題となってきた。こうした課題について考えるための基礎知識を提供する。また、グローバルな現象をローカルな場（地域）において実証的に把握していく方法についても学ぶ。
授業では、まずグローバル化の現状を紹介するとともに日本への人の流れについて概説する。
ついで、日本における出入国管理の仕組み等について紹介した後、①これまで1世紀近くにわたって形成されてきた在日韓国・朝鮮人と日本人との民族関係、②近年顕著になった日系ブラジル人と日本人との民族関係について紹介し、共生社会の形成メカニズムについて考察する。

教科書 /Textbooks

なし（プリント配布）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『在日韓国・朝鮮人の「世界」と「帝国」国家』、西成田豊著、東京大学出版会
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマの紹介
- 第2回 グローバル化の進展と国際労働力移動【グローバル化】【エスニシティ】
- 第3回 出入国管理について【外国人登録】【出入国管理】
- 第4回 エスニシティ理論【道具主義】【原初主義】【分断労働市場】【オリエンタリズム】
- 第5回 在日韓国・朝鮮人と日系ブラジル人について【特別永住者】【定住者】【永住者】
- 第6回 日本と朝鮮半島の近現代史①（外国語学部総田先生による講義）
- 第7回 日本と朝鮮半島の近現代史②（外国語学部総田先生による講義）
- 第8回 日本と朝鮮半島の近現代史③（外国語学部総田先生による講義）
- 第9回 在日韓国・朝鮮人と日本社会①【民族関係】
- 第10回 在日韓国・朝鮮人と日本社会②【剥奪仮説】
- 第11回 日系ブラジル人と日本社会①【国境を越えた雇用システム】
- 第12回 日系ブラジル人と日本社会②【顔の見えない定住化】
- 第13回 日系ブラジル人と日本社会③【非正規雇用】【教育達成】
- 第14回 統合と多文化共生社会の形成に向けて - 国・自治体・NGOの役割
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 15 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布したプリントをよく読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会の性質を簡単に紹介した上で、国連を中心として、国際機構が世界の安全保障において、どんな役割を有しているのかを考えることが目的です。現代社会の理解には、それまでの歴史的展開の理解が不可欠であると考えますので、時系列的に古い話から、徐々に現代にテーマを移してゆくようにします。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。各テーマごとにレジュメ(説明プリント)を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第3回 国際機構の定義～「国際」とは何か？ 国際機構とは何か？ 主権国家とは何か
- 第4回～第5回 国際機構の歴史～国際機構の誕生、国際連盟の画期性、国際連盟の欠陥
- 第6回～第8回 国際連合の成立～国際連合の創設過程、国際連合の成立
- 第9回～第10回 国際連合の展開I～国連軍、安保理の機能不全
- 第11回～第12回 国際連合の展開II～日本の国連加盟、途上国の台頭、中国の代表権問題
- 第13回 冷戦終結と国連～冷戦終結による変化、変化への対応、成功と失敗
- 第14回 国際安全保障の展開～国際社会が協力して安全保障をし始めたのはいつ？なぜ？国連の安全保障の特徴
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民族・エスニシティ問題【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ・人種に関する議論も活発化している。これらは、きわめて新しい政治現象であると思われがちであるが、決してそうではない。民族・エスニシティ問題は、政治・経済・文化・社会のさまざまな領域にかかわるきわめて現代的な事柄であるが、同時に、それが現在にいたる歴史的経緯もまた重要である。この授業では、民族・エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション / アメリカ合衆国における移民・エスニシティ
- 2回 同化・統合の諸概念 【るっぽ】【サラダ・ポウル】
- 3回 黒人史と公民権運動 【アフリカ系アメリカ人】【公民権運動】
- 4回 マイノリティをめぐる政策：アフーマティブ・アクション(1) 【起源】
- 5回 マイノリティをめぐる政策：アフーマティブ・アクション(2) 【展開】
- 6回 自らを知る：日系アメリカ人 【強制収容】【第二次世界大戦】
- 7回 今日のエスニシティ状況 【ヒスパニック】【不法移民】
- 8回 欧州における「ネイション」と「エスニシティ」【ネイション】【エスニシティ】
- 9回 イギリスにおける民族とエスニシティ(1) 【連合王国】【ロンドン同時爆破事件】
- 10回 イギリスにおける民族とエスニシティ(2) 【オルダム暴動】【多文化主義】
- 11回 イギリスにおける民族とエスニシティ(3) 【ブリクストン暴動】【スカーマン報告】
- 12回 イギリスにおける民族とエスニシティ(4) 【サッチャー主義】【イスラム嫌い】
- 13回 フランスにおける民族とエスニシティ(1) 【都市郊外暴動】【サルコジ】
- 14回 フランスにおける民族とエスニシティ(2) 【ライシテ】【スカーフ問題】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（統治）」の意味を世界各地の国や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループ・ワークを通じて回答を出してもらいます。

教科書 /Textbooks

その都度配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、バングラデシュ、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 「開発と統治」をはじめるにあたって		担当：三宅
2回 民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当：伊野
3回 民主化問題を考える視座(2)		担当：伊野
4回 理論と現実-ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当：伊野
5回 援助と民主主義：バングラデシュの事例	【援助】	担当：チョウドリ・三宅
6回 選挙を通して見たバングラデシュの政治活動	【バングラデシュ】	担当：チョウドリ・三宅
7回 途上国と一村一品運動	【一村一品運動】	担当：チョウドリ・三宅
8回 グラミン銀行と地域社会のガバナンスの変化	【グラミン銀行】	担当：チョウドリ・三宅
9回 1970年代の韓国の開発と民主化運動	【韓国】	担当：申
10回 韓国：1990年代以降の民主化と環境政策	【環境政策】	担当：申
11回 滞在経験を通して感じた米国のガバナンス	【米国】	担当：申
12回 地域社会から見たガバナンス	【地域社会】	担当：三宅
13回 日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
14回 ガバナンスに関するグループ・ワーク		担当：指名教員
15回 まとめ		担当：三宅

成績評価の方法 /Assessment Method

小課題の提出 ... 30 % 試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報をキャッチしておくこと。また、時々、小課題を出すので、提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 バングラデシュ 子供会 グループ・ワーク

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科, 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化とは何か、世界経済への影響、グローバル化の歴史、国や地域による違いを念頭に入れながら、グローバル化を包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

木暮太一(2010)『経済が世界—シンプルにつかめる本』明日香出版社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

野田稔(監修)(2010)『ポン!とわかる日本経済』宝島SUGOI文庫。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード) ※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえます。

第1回	シラバス詳細版配布、授業の説明、イントロダクション	【グローバル化】
第2回	世界で何が起きている?	【サブプライム問題】
第3回	世界で何が起きている?	【WTO】【BRICs】
第4回	商品にまつわる話	【海外進出】【立地】
第5回	商品にまつわる話	【人件費】【為替レート】
第6回	食べ物にまつわる話	【食料自給率】
第7回	食べ物にまつわる話	【エコビジネス】【脱炭素燃料】
第8回	生活環境にまつわる話	【円高・円安】【人件費】
第9回	生活環境にまつわる話	【雇用慣行】【労働移動】
第10回	人の力にまつわる話	【人口減少】【貯蓄率】
第11回	人の力にまつわる話	【年金】
第12回	国の持ち物にまつわる話	【自由貿易】
第13回	国の持ち物にまつわる話	【多国籍企業】
第14回	お金と為替にまつわる話	【基軸通貨】
第15回	お金と為替にまつわる話	【変動相場制】

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニテスト(6、7回実施): 20~30%、学期末試験: 70~80%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当部分を事前に講読しておくこと。また、必要に応じて配布されるプリントも予習・復習の際に参考にすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 テロリズムとは何か。
テロの定義の難しさ、佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか、911の特異性、テロの定義、テロの特徴、テロのグレーゾーン
- 5回 テロの歴史
テロの起源、19世紀のテロ、アナキスト、国粋主義、ナショナリズム
- 6回～8回 現代テロの登場
国際化(1968年エルアル機ハイジャック)、反米化(TWA機ハイジャック)、無差別化・自爆テロ(1972年ロッド空港事件)、劇場型テロ(ミュンヘンオリンピック事件)
- 9回 反近代・脱近代のテロ
オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回～11回 無差別大量殺戮テロ
オウム真理教地下鉄サリン事件など
- 12回～14回 911米同時多発テロ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀の日本外交の現状を概観した上で、第二次世界大戦後の日本と国際社会の関わりの変化を概観する。講義の軸となるのは三つある。第一は政治面での軸であり、アメリカによる占領改革と独立の回復、冷戦期における日米同盟の発展、そしてポスト冷戦期に進められた日本の国際的役割の再定義が、その主な内容である。第二が経済面での軸であり、アメリカと東アジア諸国との連携の上に高度経済発展を遂げたこと、そして1970年代にはいって経済大国として世界経済の安定に中心的な役割を果たすようになっていったことを取り扱う。そして、第三に文化面での軸であり、西洋思想の吸収と安定した民主主義体制の建設を検討する。このような諸側面を見ることによって歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『戦後日本外交史』新版(有斐閣 2007年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【21世紀の日本】
- 第2回 敗戦時の日本【ポツダム宣言受諾】【占領軍進駐】【戦犯逮捕】
- 第3回 占領改革【日本国憲法制定】
- 第4回 朝鮮戦争と日米安保条約1【対日講和交渉】【冷戦のアジアへの波及】
- 第5回 朝鮮戦争と日米安保条約2【吉田茂政権】【日米安保条約制定】
- 第6回 自主外交と日本における二大政党制【鳩山一郎政権】【日ソ共同宣言】
- 第7回 岸外交と日米安保条約の改定【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 第8回 池田政権と高度経済成長【所得倍増】【沖縄問題】
- 第9回 佐藤政権の時代【沖縄復帰】【ベトナム戦争】【米中接近】
- 第10回 石油ショックと日本の新しい役割1【田中角栄政権】【第一次石油ショック】
- 第11回 石油ショックと日本の新しい役割2【角福戦争】【第二次石油ショック】【日米同盟】
- 第12回 中曽根政権と自由主義的改革【中曽根政権】【貿易摩擦】
- 第13回 湾岸戦争と自民党政権の崩壊【冷戦の終結】【湾岸戦争】【非自民連立政権】
- 第14回 21世紀における日本と世界【9/11とテロとの戦い】【自公政権】
- 第15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容は国際関係の授業とあわせて学習すると、国際関係の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習復習をしっかりとください。

キーワード /Keywords

日本政治 歴史 第二次世界大戦後

歴史の読み方【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日でも「サムライ日本」「武士の情け」「武士に二言はない」という言葉にあらわれるように、日本の社会と風土の中に「武士」という存在が大きな影響を与えています。

ここでは古代における武士の登場以来、800年間におよぶ武士の歴史から、中世の武士と近世の武士のモラルの違いやわれわれが知っている「武士道」が江戸時代ではなく近代になって作られたものであることを学びます。

また我が国における近代国家の形成の意味を「廃藩置県」「国語」をキーワードとして学びます。

教科書 /Textbooks

レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 野口実『武家の棟梁の条件』(中公新書)
- 関幸彦『武士の誕生』(日本放送協会出版)
- 元木泰雄『武士の成立』(吉川弘文館)
- 池上英子『名誉と順応-サムライ精神の歴史社会学-』(NTT出版)
- R・ベネディクト『菊と刀』(社会思想社)
- 勝田政治『廃藩置県-「明治国家」が生まれた日』(講談社)
- 長志珠絵『近代日本と国語ナショナリズム』(吉川弘文館)他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス①授業の進め方
 - 2回 【武士道】の成立①新渡戸稲造の武士道
 - 3回 【武士道】の成立②『鸚鵡籠中記』と『葉隠』
 - 4回 【武士道】の成立③【名誉型個人主義】
 - 5回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
 - 6回 『平家物語』を読む②【言葉戦】
 - 7回 武士の起源-【領主】か【職能民】か
 - 8回 東日本型武士団と西日本型武士団-源平の歴史-
 - 9回 【征夷大將軍】とは何か
 - 10回 【廃藩置県】
 - 11回 【戊辰戦争】
 - 12回 【国語】の成立①
 - 12回 【国語】の成立②
 - 13回 【国語】の成立③
 - 14回 【国語】の成立④
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生の人数によって筆記試験もしくは筆記試験と毎回の授業レポートにより評価する。筆記試験と毎回の授業レポートによる場合は、原則として筆記試験50%、授業レポート50%の配分とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジユメ・参考文献をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

旧憲法下最長の政権担当者であり、日英同盟（1902）、日露戦争（1904 - 05）、韓国併合（1910）を行った桂太郎の生涯（1847 - 1913）を中心に、幕末から大正政変までの明治の政治史を概説します。桂と言えば、「非立憲的政治家」として有名ですが、その実像はどうだったのか。この講義では、木戸孝允から「政府にとって軍隊とは一体何か」ということを学び、やがて、政党政治家に転身しようとして果たせなかった桂の運命的生涯を辿っていきます。

教科書 /Textbooks

小林道彦『日本評伝選・桂太郎』（ミネルヴァ書房、3,000円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『日本の大陸政策1895 - 1914』、○伊藤之雄『日本評伝選・明治天皇』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 明治維新と桂太郎
- 第3回 ドイツ留学と陸軍の建設
- 第4回 日清戦争への道
- 第5回 政治への目覚め（陸相時代）
- 第6回 伊藤博文との対決（最初の組閣）
- 第7回 日英同盟と日露戦争
- 第8回 国家目標の模索
- 第9回 桂園体制
- 第10回 原敬との駆引き（2回目の組閣）
- 第12回 現状打破への衝動
- 第13回 明治という時代の終わり - 大正政変
- 第14回 桂太郎 - 明治国家の光と影
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

桂太郎 政党政治 陸軍 大正デモクラシー

そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科, 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科, 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

世界史を日本史・東洋史・西洋史に分けてとらえるのではなく、同時代に世界ではいったい何が起こっていたのか、そしてそれはどのように相互に関連していたのか、という観点から世界の動きをよりいきいきととらえて、新しい「世界史」を学生諸君に提示したいと思います。今年度は「1960年代の世界」というテーマを設定して、その時の世界の有様を日本、ベトナム、フランス、ドイツ、アメリカ、中国といった地域での動きを中心にオムニバス方式で講義していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2・3回 日本(小林)【60年安保】、【所得倍増政策】
- 第4・5回 ベトナム(伊野)【ベトナム戦争】
- 第6・7回 フランス(伊原木)【パリ五月革命】
- 第8・9回 ドイツ(中道)【学生運動】
- 第10・11回 アメリカ(寺田)【公民権運動】
- 第12・13回 中国(下野)【文化大革命】
- 第14回 1970年代への展望
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20%小テスト...20%レポート...60%
上の数値は一応の目安です。実際には、1、各教員担当講義の2コマ目の最後に、出席者に「感想文」を提出してもらいます。一回でも未提出があったら、単位は認定されません。2、レポート提出...6人の教員の中から任意の講義を2つ選び、それについてのレポートを提出してもらいます(課題は別途指示。1,200字×2本)。コピーは不正行為と見なします。3、以上の総合評価で成績評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※講義の順番や担当者(地域)は変更になることもあります。「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦後の日本経済【昼】

担当者名 迎 由理男 / mukai yurio / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

第2次世界大戦以降の日本経済の発展過程を講義します。第二次世界大戦の敗戦から日本経済がどのように立ち直り、いかに経済成長を遂げてきたのか、日本的経済システムというのはどのようなものなのか。これらの問題を当時のニュースビデオなどを利用して解説してゆきます。

教科書 /Textbooks

毎回用意するレジュメにしたがって授業を進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

第1回授業で参考文献を挙げます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 戦後改革
- 2回 経済復興
- 3回 産業政策の効果
- 4回 メインバンクシステム
- 5回 安定株主化
- 6回 重化学工業化
- 7回 農工間人口移動
- 8回 大衆消費社会
- 9回 エネルギー革命
- 10回 石油危機
- 11回 赤字国債
- 12回 サービス経済化と産業構造の変化
- 13回 債権大国
- 14回 アジアの成長と日本経済
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト25%、期末テスト70%、平常の学習状況5%で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前回のレジュメによってしっかり復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市と農村の生活文化史 【昼】

担当者名 /Instructor 福間 裕爾 / Yuji FUKUMA / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自由で豊かな暮らしを求めて、人々が都市への集住を強めた20世紀。各地で都市化が進み、農村も相応の変化を強いられてきた。これを「向都離村」という言葉で説明することがあり、都市集住がすべてバラ色ではなかったことを示してきた。にもかかわらず、この傾向は現代においても未だに続いている。果たして、人々を幻惑する都市の魅力とは何か、また農村から都市へと移動する人々が直面した困惑と持ち帰った文化的価値とは何か。

この講義では、都市から農村を見ていくことで、両者のダイナミズムやそのなかに秘められた人々を相対化する技法を考える。また、文献等に残ることが少ない生活の営みをどのように整理し、現場のなかでいかに問題を発見し理論化するか、というフィールドワークの基本にも触れることができる内容としたい。何気ない日常に焦点をあて、そのなかから理論を析出するおもしろさを伝えたい。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。必要な資料はプリントで適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに 「都市の誘惑」 ガイダンス
- 第2回 「都市と農村 / 都会と田舎」 都市と農村のイメージ
- 第3回 「都市の言葉と話芸の誕生」 言葉から都市と農村を見る
- 第4回 「都会という感覚」 都会の指標としての祭礼
- 第5回 「都会のハビトゥス1」 出会いと社交の技法
- 第6回 「都会のハビトゥス2」 結集の理法
- 第7回 「都会のハビトゥス3」 不文律の妙
- 第8回 「都会人の気質」
- 第9回 「三つ子の魂、百まで」 ある日本画家の原風景
- 第10回 「都市の人生と漁村」 人と物の交流と人生儀礼
- 第11回 「都鄙連続論」 都市と農村の繋がりを考える方法
- 第12回 「都鄙連続論の検証」 山笠に見る文化伝播
- 第13回 「都市の再生産」
- 第14回 「都市と農村の身体性」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートまたは試験 80% 授業中の小レポート等20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「話を聞く」ことを重視する。授業をしっかりと聞き、十分にノートをとること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

もの与人間の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノ与人間の関わり方の現場に焦点を絞り、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。今年度は自動車を取りあげる。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストは、ガイダンス時に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 カと近代【蒸気機関、内燃機関、原子力】
- 第3回 自動車の時代の終わり？【ICT、高付加価値生産】
- 第4回 自動車をめぐる国民文化【大衆社会、トクヴィル】
- 第5回 ヘンリー・フォードとアメリカ【ヘンリー・フォード】
- 第6回 内燃機関と身体【職人文化】
- 第7回 フォード・システムと大衆【フォーディズム】
- 第8回 フォード対GM 【柔軟な大量生産システム】
- 第9回 ポスト・フォーディズムへ【ポスト・フォーディズム】
- 第10回 自動車と国家【産業政策、安全保障政策】
- 第11回 自動車と都市政治【住宅開発、道路建設、交通事故】
- 第12回 「家庭」という価値と自動車【新中間層】
- 第13回 自動車とメディア【広告、メディア】
- 第14回 自動車と20世紀文明【大衆社会、大量生産】
- 第15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

近代化をめぐる政治、経済、文化の議論を展開しますので、政治学や経済学、カルチュラル・スタディとあわせて勉強すると、よく授業内容が分かります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自動車から開けていく様々な事柄を紹介しますので、多方面のことに興味を持って勉強して下さい。

キーワード /Keywords

大量生産システム、民主主義、比較文明論

人物と時代の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 新村昭雄(文)、三宅博之(法)、乗口眞一郎、山崎勇治

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

四人の教員が、日本・アメリカ・インド・英国の代表的な人物について、人物と時代について語る。

はじめに、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道(Bushido)が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。

江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰(アイヌや南方諸島に残る)や弥生信仰に代わって、聖徳太子(厩戸皇子)は仏教を大和(やまと)の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が繁栄したのか。

次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)について。

次に今や中国とともに、次世代を握るインドの話である。まず、マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史について語る。「ガンディ」の映画を鑑賞したのち、マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?について考える。

最後は、世界大学ランキング1位を維持し続けているケンブリッジ大学を擁する英国について、「世界恐慌を救ったケンブリッジ大学のM・ケインズ」、「湯布院のモデルとなった湖水地方のベアトリクス・ポター」、「『イギリス病』を救った鉄の女、M.サッチャー」について語る。

教科書 /Textbooks

資料を配付します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

それぞれの人物について、自伝や歴史書などを中心に読んでおくこと。
山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国—産業革命からサッチャー改革まで>—』(ミネルヴァ書房、2008年6月)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする

- 第1回 はじめに。「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と幕末・明治維新
- 第2回 江戸時代、壊滅的な藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
- 第3回 幕府の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
- 第4回 親鸞と平安・鎌倉時代
- 第5回 聖徳太子と飛鳥・奈良時代
- 第6回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
- 第7回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
- 第8回 歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)
- 第9回 マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史
- 第10回 「ガンディ」の映画鑑賞
- 第11回 マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?
- 第12回 明治維新を側面から支援したスコットランド人、トーマス・グラバー
- 第13回 湯布院のモデルとなった湖水地方のベアトリクス・ポター
- 第14回 世界恐慌を救ったケンブリッジ大学のM・ケインズ
- 第15回 「イギリス病」を救った鉄の女、M.サッチャー—総まとめ—

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【ラスト・サムライ】【武士道】【幕末・明治維新】【壊滅的な藩の財政を立て直した】【儒教的経営とは】【江戸幕府の礎を築いた】家光の弟・保科正之【民衆に根ざした仏教】【平安・鎌倉時代】【一七条の憲法】【聖徳太子（厩戸皇子）】【飛鳥時代】【オバマ大統領】【ノーベル平和賞】【奴隷解放運動の歴史】【アメリカ歴代大統領】【マハトマ・ガンディ】【イギリス植民地史】【なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか】【ヘアトリクス・ポター】【湖水地方】【湯布院】【ケインズと世界恐慌】【サッチャー】【英国病】

教養特講I【昼】

担当者名 /Instructor 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

講義名：東南アジアを知ろう！

現代東南アジア諸国の政治を、独立まで遡って、国民国家建設、民主化、経済発展などのプロセスと問題点、アジア経済危機のインパクトとその後の体制変動などを概観する。東南アジア諸国の急激な経済発展や社会変動、アジア経済危機の影響など政治と経済の相互作用とともに、貧困層、女性や子供など弱者に対する視点も講義する。ダイナミックに変動する東南アジアを学ぶ面白さを味わってもらいたい。

テキストには、清水一史・田村慶子・横山豪志編『東南アジア現代政治』（ミネルヴァ書房）を使用する。講義担当者はすべてこの本の執筆者であり、若手・中堅の東南アジア研究者である。受講生は執筆者の講義を直接受けることができるだけでなく、執筆者の東南アジアとの関わりなど興味深いエピソードも聞くことができよう。

教科書 /Textbooks

○清水一史・田村慶子・横山豪志編『東南アジア現代政治』ミネルヴァ書房、2011年3月、予定価格2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

上記教科書の各章末に参考文献、読書案内が明記されている。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	授業の説明、オリエンテーション	田村慶子
第2回	東南アジア概論(1)：東南アジアとは何か	田村慶子
第3回	東南アジア概論(2)：国民国家の創造と課題	田村慶子
第4回	マレーシア(1)：独立と国家建設	篠崎香織
第5回	マレーシア(2)：開発体制とその溶解	篠崎香織
第6回	インドネシア(1)：独立と国家建設	横山豪志
第7回	インドネシア(2)：開発体制とその溶解	横山豪志
第8回	ミャンマー(1)：独立と国家建設	伊野憲治
第9回	ミャンマー(2)：独裁政治体制と民主化	伊野憲治
第10回	シンガポール(1)：独立と国家建設	田村慶子
第11回	シンガポール(2)：開発体制と民主化	田村慶子
第12回	ASEAN(1)：ASEANの結成と発展	清水一史
第13回	ASEAN(2)：アジア地域統合に向けて	清水一史
第14回	(講演)「東南アジアの人身取引被害者保護・自立支援プロジェクト」未定	
第15回	まとめと補足	

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト100%・・・各担当者の2回目の講義終了時に30分ほどのテストを実施する。
病気などのやむを得ない理由でテストを受験できなかった受講生にのみ、レポート提出を認める。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各講義の前に、必ず『東南アジア現代政治』の該当する章を読んで予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義を通して、多様な民族、言語、文化、宗教が存在する豊穡で国際色豊かな東南アジアを好きになってください！

キーワード /Keywords

東南アジア、植民地支配、国民国家建設、インドネシア、マレーシア、シンガポール、ミャンマー、ASEAN

教養特講II【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

宇宙、生命、そして人間について、未知なるもののロマンから最先端の技術にいたるまでのトピックに触れながら、科学的なものの見方や考え、文系の学生にとって必要な理科系の素養、社会で通用する「科学力」を身につけることを目標とする。

20世紀後半から21世紀にかけて宇宙と生命の科学は飛躍的に進歩した。それによってもたらされた成果は先端技術という形で我々の身近な生活にすでに着々と根付いている。これらをただ享受するだけではなく、根底にある科学の面白さを理解し学ぶことは、これからの社会を生き抜くために極めて重要である。これまで理科系科目が苦手だった学生もそうでない学生も、本講によって新たな世界への扉を開き、視野の広い心豊かな人間形成の一助としてほしい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「宇宙と生命の起源 ビッグバンから人類誕生まで」 嶺重慎、小久保英一郎編著 岩波ジュニア新書、2004年
- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」D. サダヴァ他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

宇宙の話題は中尾、生命と人間の話題は日高が担当する。【】内はキーワード。

- 1回 ガイダンス
- 2回 この宇宙のすがた 【ビッグバン】【銀河】【太陽系】【ダークマター・ダークエネルギー】
- 3回 星の一生と生命との関わり 【星の進化】【元素】【超新星爆発】【ブラックホール】
- 4回 太陽の活動と地球の環境 【太陽黒点】【コロナ】【太陽風】【オーロラ】【地球磁場】
- 5回 天体の衝突と生物絶滅 【小惑星】【彗星】【クレータ】【生物絶滅】
- 6回 もう1つの地球をさがす 【太陽系外惑星探査】【地球外生命体】
- 7回 地球上の生物共通の文字DNAとは? 【DNA】【RNA】【タンパク質】
- 8回 生命の誕生と生物の進化 【生物多様性】【突然変異】
- 9回 人類のルーツを探れ 【ミトコンドリア】【DNA鑑定】
- 10回 ヒトゲノム計画で何が見えたか 【DNA解析】【遺伝情報】【遺伝と疾患】
- 11回 遺伝子組換え作物は安全か 【遺伝子組換え技術】【ベクター】
- 12回 ヒトは何歳まで生きられるか 【テロメア】【老化】【がん】
- 13回 クローン人間は作れるのか 【ES細胞・iPS細胞】【再生医療】【生命操作】
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み50%、レポート50%(中尾25%・日高25%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講III 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本年度の「教養特講III」は、警察実務に携わっておられる方々によるオムニバス方式の講義です。警察実務家の立場から犯罪の発生状況及びその対策等について説明をしていただき、社会の安全・安心の確保に関する政策の一つである「犯罪等の統制に関する政策」の現状と課題を考察することを目的としています。警察本部長をはじめ、公共の安全と社会秩序を維持するために日々活動している現役警察官等の方々から、治安状況や警察活動・公務の重要性、法律が具体的に実社会でどのように役立っているかを学ぶとともに、安全で安心して生活できる社会を実現するにはどうすればよいかを考えていただきたいと思います。

教科書 /Textbooks

使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 警察捜査
- 2回 科学捜査
- 3回 捜査をめぐる諸問題
- 4回 警察捜査の概要と福岡県警の取組み
- 5回 性犯罪等の身近な犯罪を抑止するために
- 6回 被害者支援の在り方
- 7回 少年犯罪と少年警察、暴走族・少年犯罪対策
- 8回 犯罪の起きにくい社会づくり
- 9回 組織犯罪対策① 暴力団対策
- 10回 組織犯罪対策② 外国人組織犯罪・テロ対策
- 11回 組織犯罪対策③ 薬物対策
- 12回 サイバー犯罪の現状と対策
- 13回 交通警察
- 14回 新しい犯罪対策
- 15回 まとめ

* 毎回講師をお招きしてお話を伺います。上記の内容、スケジュールは講師の都合等により変更になることがあります。変更があればその都度お伝えします。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取組み・・・10% 期末レポート・・・90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義中にノートをしっかりつけてください。

キーワード /Keywords

教養特講Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「法律学の“い・ろ・は”」
 私たちが生活する現代社会では、非常に多くの事柄が「法」によって規律されています。普段はその存在すら感じられない「法」ですが、ひとたびトラブルが起きると、事態は「法」にしたがって解決されることとなります。このような社会では、多少なりとも法律知識があることで、日常生活において、あるいは仕事の場において、トラブルを避けることができ、またトラブルに適切に対処することができるようになります。そうした法律知識を必要に応じて探し出し、法律を活用し、場合によっては弁護士などの助力を受けるにも、法律学のスキル（技術）が必要となります。法律が「お約束の世界」だからです（これが法律を疎遠にしている主因でもあるのですが……）。
 平穏で快適な生活をおくるためにも、いざという時に「法」を味方に行きわたることができる法律学の基礎技術を学んでいきましょう。

教科書 /Textbooks

テキストを特に指定しません。必要に応じて、適宜、レジュメを配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に』（弘文堂・2010.04）ISBN：9784335313127
 和田寛伸ほか『法律学の礎』（八千代出版・2002.10）ISBN：9784842912530

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～ 3回 とても身近な日常の出来事と「法」との関係
- 4回 法律学への入門① 法律を学ぶ＝条文の暗記？
- 5回 法律学への入門② 法令の種類と体系
- 6回 法律学への入門③ 法律を使う～佐藤君は犬？～
- 7回 法律学への入門④ 考える材料を集めよう～なぜ資料が必要か～
- 8回 法律学への入門⑤ 法令を探す
- 9回 法律学への入門⑥ 文献資料を探す
- 10回 紛争を解決するには～訴訟と裁判外紛争解決手続～
- 11回～12回 裁判へ行ってみよう～民事裁判と刑事裁判～
- 13回～14回 法理論と紛争解決
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への取り組み...50% レポート...50%
 講義の中でさまざまな「問いかけ」がなされます。恥ずかしがらずに、自分の考えを明らかにしてください。内容の良し悪しではなく、「積極性」を評価したいと考えています。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回のテーマを考える「素材（具体的事例）」を提供します。その事例を、自分だったら「どう解決する」のか、そう解決するのは「なぜか」をまとめてみてください。自分なりの考えの筋道と、講談（講壇？）で披露される解決策とを比較して、その違いを考えてみてください。

履修上の注意 /Remarks

この科目と並行して、「法律の読み方」「現代正義論」「現代社会の諸問題」「共生の作法」といった、法学系科目を履修されることをお勧めします。それらの科目で、ここで学んだスキルをさらに磨いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

具体的事例をもとに、法を用いた解決策を考えていきます。この科目で問われる問題に、残念ながら、「正解」はありません。「自分だったらどう解決するか」、「なぜその解決が支持されるのか」を、じっくり考えてみてください。そして、周りの人々と意見を交換してください。法の正当性は、社会、すなわち多数の人々の確信によって支えられていることです。だからこそ多数の人との意見交換が重要となります。

キーワード /Keywords

法学 法学入門

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

境界・境域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」の輪郭を示していく。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』（講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年）
- 村井章介『境界をまたぐ人びと』（山川出版社、2006年）
- 小熊英二『〈日本人〉の境界』（新曜社、1998年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本史を学ぶこととは
- 第2回 「日本」の誕生
- 第3回 「鎖国」と「開国」
- 第4回 蝦夷地とアイヌ
- 第5回 近代化とアイヌ社会
- 第6回 琉球の形成と環シナ海世界
- 第7回 幕藩体制下の琉球から沖縄へ
- 第8回 中世における対馬と朝鮮
- 第9回 対馬からみた日朝関係
- 第10回 〈日本人〉の境界
- 第11回 「帝国日本」の形成(1)【台湾】
- 第12回 「帝国日本」の形成(2)【朝鮮】
- 第13回 「帝国日本」の形成(3)【満洲】
- 第14回 「帝国日本」の解体
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

境界、境域、国家

西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 疇谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、ヨーロッパ諸国の動向と植民地帝国の編成・変化を見ることによって、「西洋史」を立体的に把握することを目指します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 中世ヨーロッパの世界観【プレスター・ジョン】
 - 3回 イベリア諸国の形成【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガル【アヴィス朝革命】
 - 5回 大航海時代と「世界分割」【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガルのアジア進出【アルブケルケ】
 - 7回 ポルトガルによる植民地帝国の形成①【点と線の支配】
 - 8回 ポルトガルによる植民地帝国の形成②【南蛮貿易】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成①【エンコミエンダ制】
 - 10回 スペインによる植民地帝国の形成②【ポトシ】
 - 11回 オランダ、イギリスの台頭【東インド会社】
 - 12回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編【三角貿易】
 - 13回 環大西洋世界の展開①【環大西洋革命】
 - 14回 環大西洋世界の展開②【産業革命】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史 【昼】

担当者名 /Instructor 藤野 月子 / FUJINO TSUKIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国の統一というと、単に国内のみの問題という向きがあるかもしれない。しかし、古来から中国は近隣の様々な民族を吸収しつつ変容を繰り返している。また、近隣諸地域もその影響を受けつつ独自の国家形成を行ってきており、こうした関わりは密接なものである。本講義では、東アジアを中心にその歴史の変遷を考察することにより、①中国・朝鮮・日本を始めとする東アジア諸地域の特性について明らかにし、②さらにそれを通じて東アジア諸地域の今後のあり方を自ら模索出来る力を養いたい。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに - 講義のガイダンス -
- 第2回 秦の始皇帝による統一 - 中華思想・漢民族の形成 -
- 第3回 漢と匈奴 - 中国と北方騎馬民族との関係 -
- 第4回 中国の外交政策 - 冊封体制を中心に -
- 第5回 前漢の政治と思想 - 儒教との関わり -
- 第6回 後漢の政治と思想 - 外戚と宦官 -
- 第7回 三国志の時代 - 三国の領土拡大と親魏倭王 -
- 第8回 西晋による三国統一 - 西晋の内乱と諸民族の動向 -
- 第9回 東晋南朝の社会 - 貴族の変遷 -
- 第10回 五胡十六国北朝の時代 - 北中国における民族融合 -
- 第11回 南北朝と朝鮮・日本 - 朝鮮・日本の中国外交 -
- 第12回 隋唐による統一 - 世界帝国の成立と政治制度 -
- 第13回 唐と朝鮮・日本 - 唐の朝鮮政策と白村江の戦い -
- 第14回 唐と北方騎馬民族国家 - 唐の近隣支配体制の変遷 -
- 第15回 安史の乱後における唐の滅亡 - 世界帝国の衰退と東アジアへの影響 -

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20%・定期試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会学 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、現代社会の諸問題を社会的に解釈していく力を身につけることにある。授業では、まず、社会学の基本的な考え方についてデュルケムやウェーバーらの古典的著作を例にとりながら紹介していく。ついで、「集団・組織」、「家族」、「階層」、「国際化」といった社会の各領域について社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『現代の社会的解読』(山本努・辻正二・稲月正著、学文社、2006)
その他、講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 社会学の基本的な考え方
- 第3回 社会と個人をつなぐ1 - デュルケムの方法1
- 第4回 社会と個人をつなぐ2 - デュルケムの方法2
- 第5回 社会と個人をつなぐ3 - ウェーバーの方法1
- 第6回 社会と個人をつなぐ4 - ウェーバーの方法2
- 第7回 集団と組織1 - 集団・組織の種類と機能
- 第8回 集団と組織2 - 官僚制の逆機能
- 第9回 家族1 - 家族の種類と機能
- 第10回 家族2 - 近代化と家族
- 第11回 社会階層と社会移動1 - 階層化の趨勢
- 第12回 社会階層と社会移動2 - 階層化のメカニズム
- 第13回 グローバル化とエスニシテイ1 - グローバル化の趨勢
- 第14回 グローバル化とエスニシテイ2 - 統合のメカニズム
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人文地理学 【昼】

担当者名 /Instructor 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人文地理学は地表に展開する人文現象を対象として地域的差異に注目し、それがなぜ生ずるのか、そのメカニズムを明らかにすることが重要な課題の一つである。本講義では自然環境が人間および人間社会、ないしは地域にいかに関与するか、社会環境の変化によって地域がいかに関与するかを具体的な事例を豊富に取り上げて説明する。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。随時、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

富田和暁『地域と産業 新版』原書房、2006年。
井関弘太郎『沖積平野』東京大学出版会、1988年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに～地理学あるいは人文地理学とは
- 2回 地理学説史～近代地理学について
- 3回 自然的条件と人間①～地形、気候が人間に及ぼす影響
- 4回 自然的条件と人間②～沖積層と地盤沈下
- 5回 自然的条件と人間③～沖積層と工業立地
- 6回 歴史的条件と地域①～日本の地域構造の変遷。地域間交流、東と西
- 7回 歴史的条件と地域②～幕藩体制における地域編成と近代以降の地域編成
- 8回 交通条件の変化と地域の変貌①～交通ターミナル都市の変貌(下関の事例)
- 9回 交通条件の変化と地域の変貌②～農業経営方式の変化
- 10回 交通条件の変化と地域の変貌③～観光地の変化
- 11回 産業構造の変化と地域の変貌①～エネルギー需給の変化と地域の変貌
- 12回 産業構造の変化と地域の変貌②～製鉄業の立地変化
- 13回 地域の盛衰～中心地域と周辺地域
- 14回 中心市街地の変貌と振興
- 15回 おわりに～21世紀の国土～これからの日本

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70% 日常の授業の取組み20% レポート10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳持参が望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

水河制海面変動 沖積層 貴族世界と武家世界 高速交通 産業構造

土地地理学 【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面に生起する自然、人文の諸現象を「地域的観点」から究明する科学である。そのため、地理学を研究する場合、必ず必要になるのが地図である。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図に関して学ぶとともに、地図や空中写真を利用した実習を行い、地理学的知見を高めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし (適宜、プリントを配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「地理的情報の分析手法」(菅野峰明・安仁屋政武・高阪宏行著 古今書院 3,675円)
- 「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門」大沼一雄著 東洋選書 2,625円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか。【自然地理学】【人文地理学】
- 2回 地図の役割。【地図の能力】
- 3回 地図の歴史。
- 4回 地図には、どのような種類があるか。【一般図】【主題図】
- 5回 地図は、どのように作られるか。【地図投影】【図法】
- 6回 地図記号から景観を読む。【図式】
- 7回 山の地形を地形図から描くI (講義・実習)。【等高線】
- 8回 山の地形を地形図から描くII (実習)。
- 9回 地図を利用して地表の状態を調べる。【地形計測】
- 10回 地形図を利用して山の体積を測定するI (講義・実習)。
- 11回 地形図を利用して山の体積を測定するII (実習)。
- 12回 空中写真の利用。【リモートセンシング】
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)。
- 14回 リモートセンシング、衛星データの利用。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考書や配布する資料などを読んでおくとより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマは「日本地誌」。特定の地域は様々なレベルの空間スケールから考察し説明することができる。地誌学は特定地域の諸側面を多面的に分析し、総合して地域の性格を明らかにするものである。本講義では主として日本全体の地域構造を明らかにした後、特定地域を事例として取り上げ、その説明を通して地域の姿を解明する方法を教授する。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。
講義中に資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

矢ヶ崎典隆、加賀美雅弘、古田悦造編著『地誌学概論』(地理学基礎シリーズ3)朝倉書店、2007年。
平岡昭利編『九州 地図で読む百年』古今書院、1997年。
平岡昭利編『中国・四国 地図で読む百年』古今書院、1999年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに～地誌とは【多面性】【分析】【総合】
- 2回 日本の地誌①～古代における地域構造の形成【律令体制】
- 3回 日本の地誌②～中世から近代における地域構造の形成【朝廷と幕府】
- 4回 日本の地誌③～現代日本の地域構造①【欧化主義】【近代工業の導入】
- 5回 日本の地誌④～現代日本の地域構造②【経済の高度成長】【過疎・過密】
- 6回 九州地方の地誌①～九州の地域構造：地域の多様性と変容【北部と南部】【東部と西部】
- 7回 九州地方の地誌②～九州における拠点の移動を中心に【長崎・熊本・福岡】
- 8回 九州地方の地誌③～北部九州：福岡県、佐賀県、長崎県の地誌
- 9回 九州地方の地誌④～中部九州：熊本県、大分県の地誌
- 10回 九州地方の地誌⑤～南部九州：宮崎県、鹿児島県、沖縄県の地誌
- 11回 福岡地域の地誌①【大宰府】【九州探題】
- 12回 福岡地域の地誌②【アジア】【玄関口】
- 13回 関門地域の地誌①～門司・下関地区の歴史【西廻航路】【五市合併】
- 14回 関門地域の地誌②【炭鉱地帯】【八幡製鉄所】【リサイクル】
- 15回 おわりに～すべての地域が生き生きと【多様性】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70% 日常の授業への取組み20% レポート 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域構造 過疎過密 産業再編成 九州 関門地域

日本国憲法 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにしていきたい。

教科書 /Textbooks

大隈義和、大江正昭編『憲法学へのいざない』（青林書院・2008年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』（日本評論社・2006年）
- 高橋和之他編『憲法判例百選I・II(第5版)』別冊ジュリ186・187(有斐閣・2007年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法の意義
- 第2回 憲法の展開
- 第3回 人権総論
- 第4回 人権各論①(幸福追求権)
- 第5回 人権各論②(平等原則)
- 第6回 人権各論③(信教の自由)
- 第7回 人権各論④(表現の自由)
- 第8回 国民主権論
- 第9回 権力分立
- 第10回 日本の政治制度
- 第11回 平和主義論①
- 第12回 平和主義論②
- 第13回 平和主義論③
- 第14回 日本憲法史
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に必要なし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

哲学や宗教との関わりを通して「倫理」という言葉の基本的な意味を概観したあと、古代から現代にいたる主要な倫理学説を紹介してゆく。西洋の歴史において倫理思想がどのように発展してきたのかを学びつつ、倫理学についての基本的知識を身につけることが本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田靖夫ほか『西洋思想のあゆみ--ロゴスの諸相』有斐閣、1993年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書、2006年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 倫理学の考え方
- 2回 哲学と倫理 (1) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ソクラテス】
- 3回 哲学と倫理 (2) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【プラトン】
- 4回 哲学と倫理 (3) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【アリストテレス】
- 5回 宗教と倫理 (1) ユダヤ-キリスト教の倫理【ユダヤ教】
- 6回 宗教と倫理 (2) ユダヤ-キリスト教の倫理【原始キリスト教】
- 7回 宗教と倫理 (3) ユダヤ-キリスト教の倫理【教父哲学】
- 8回 小テスト+解説
- 9回 近代倫理学の誕生 (1) 【イギリス経験論】
- 10回 近代倫理学の誕生 (2) 【契約説】
- 11回 近代倫理学の発展 (1) 【功利主義】
- 12回 近代倫理学の発展 (2) 【カント】
- 13回 近代倫理学への批判 (1) 【ニーチェ】
- 14回 近代倫理学への批判 (2) 【徳倫理】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 学期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教養教育科目の「現代社会と倫理」・「思想と現代」とあわせて受講すれば、この分野に関する理解がいつそう深まるはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教職科目という性質上、当然ながら一般的な授業よりも採点基準は厳しくなる。テストは持ち込み一切不可。最終的な成績は、日頃の学習態度と記憶力の程度によって大きく異なってくるだろう。初回の授業では「小テスト」の日程・方法について詳しい説明するので、必ず出席すること。

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、エンドユーザの立場から、職場や家庭、大学等の様々な環境において必要不可欠な情報に関する技術や知識を習得し、コンピュータを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 情報社会におけるエンドユーザの役割を説明できるようになります。
- Webページを閲覧する際に、そのページの作成元や信頼度を判断する基準を理解できるようになります。
- データベースとはどのようなものか具体的な例に基づいて説明することができるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。特に指定はしません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エンドユーザコンピューティングを学ぶために【エンドユーザ】
- 2回 コンピュータ内部のデータ表現【2進数】【ビット・バイト】【文字コード】
- 3回 ハードウェア【CPU】【メモリ】【ハードディスク】【フラグメンテーション】
- 4回 ソフトウェア【OS】【拡張子】
- 5回 ネットワークの仕組み【サーバ】【LAN】【IPアドレス】【ドメイン名】
- 6回 情報システムの利用者としての心得(1)【PDCA】【パスワード】
- 7回 情報システムの利用者としての心得(2)【リスク分析】
- 8回 情報システムの利用者としての心得・まとめ
- 9回 情報セキュリティ対策(1)【コンピュータウイルス】【Windows Update】【スパイウェア】【ファイアウォール】
- 10回 情報セキュリティ対策(2)【SSL】【クッキー】
- 11回 情報セキュリティ対策・まとめ
- 12回 データベースの基礎(1)【正規化】【主キー】
- 13回 データベースの基礎(2)【SQL】
- 14回 データベースの基礎・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画が変更になる可能性があります。変更がある場合は、授業中にお伝えします。ただし、授業内容を大幅に変更することはありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

情報分野の専門用語を数多く学習していきます。あまり興味のない人にとっては、慣れない専門用語がたくさんあるかもしれません。授業中の説明を1度聞いただけで理解できると考えずに、毎回、しっかりと復習をしてください。そして、わからない事があれば、授業中に質問してください。

キーワード /Keywords

エンドユーザ、情報セキュリティ、データベース

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 光藤 雄一 / Yuichi Mitsudo / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- タッチタイピングや見やすい表の作成ができるようになります。
- 本学が提供しているグループウェア、Webメールなどのネットワーク環境を使いこなし、ルールを守ったメールの送受信ができるようになります。
- ネットワークを正しく安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基本的な知識を習得することができます。
- 表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成ができるようになります。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境を知る【ID】【パスワード】【グループウェア】
- 2回 文字入力を正確に行う【タッチタイピング】
- 3回 ネットワークコミュニケーションの技法を知る【電子メール】【SSL通信】
- 4回 ネットワークの光と影を知る【情報倫理】【著作権】【個人情報保護】
- 5回 きれいな表を作る【セル】【シート】【書式】【ページ設定】【印刷プレビュー】
- 6回 計算式を作る【セルの参照】【コピー】【ペースト】
- 7回 いろいろなグラフを作る【グラフ】
- 8回 グラフをカスタマイズする【グラフ編集】
- 9回 基本的な関数を利用する【関数】【引数】
- 10回 さまざまな関数を利用する【関数の挿入】
- 11回 表計算演習1【表・グラフ作成】
- 12回 表計算演習2【条件分岐】【ソート】
- 13回 表計算演習3【表の参照】
- 14回 総合課題に取り組む
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%，積極的な授業参加（タイピング，電子メール送受信，情報倫理の理解等を含む）... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作（キーボードで文字を入力する，マウス操作など）ができるようになっておくと受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度，情報システムの状況によっては，「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので，タイピングやマウス操作が苦手な人は自ら練習する姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 山田 寛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- タッチタイピングや見やすい表の作成ができるようになります。
- 本学が提供しているグループウェア、Webメールなどのネットワーク環境を使いこなし、ルールを守ったメールの送受信ができるようになります。
- ネットワークを正しく安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基本的な知識を習得することができます。
- 表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成ができるようになります。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境を知る【ID】【パスワード】【グループウェア】
- 2回 文字入力を正確に行う【タッチタイピング】
- 3回 ネットワークコミュニケーションの技法を知る【電子メール】【SSL通信】
- 4回 ネットワークの光と影を知る【情報倫理】【著作権】【個人情報保護】
- 5回 きれいな表を作る【セル】【シート】【書式】【ページ設定】【印刷プレビュー】
- 6回 計算式を作る【セルの参照】【コピー】【ペースト】
- 7回 いろいろなグラフを作る【グラフ】
- 8回 グラフをカスタマイズする【グラフ編集】
- 9回 基本的な関数を利用する【関数】【引数】
- 10回 さまざまな関数を利用する【関数の挿入】
- 11回 表計算演習1【表・グラフ作成】
- 12回 表計算演習2【条件分岐】【ソート】
- 13回 表計算演習3【表の参照】
- 14回 総合課題に取り組む
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%，積極的な授業参加（タイピング，電子メール送受信，情報倫理の理解等を含む）... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作（キーボードで文字を入力する，マウス操作など）ができるようになっておくと受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度，情報システムの状況によっては，「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので，タイピングやマウス操作が苦手な人は自ら練習する姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

情報表現【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業は、Windows PCを利用して、前半ではHTMLを使ったWebページの作成、後半ではプレゼンテーションソフトを使った発表用スライドの作成、及び、発表用スライドを利用した発表を行います。本授業の目的は、文字や画像などのメディアを総動員して、多角的な情報伝達手段を習得し、それらを作成して情報発信の主体となるための技法を身に付けることです。具体的には、以下のような項目を身に付けることができます。

- ・ HTMLの文字装飾や背景色、画像・表の挿入、リンクの貼り付け等の技術を活用したWebページの作成ができるようになります。
- ・ 作成したWebページを、Webサーバへアップロードできるようになります。
- ・ Microsoft PowerPointを使って、文字装飾やスライドのレイアウト・デザインの設定、画像、図形、表、グラフ、リンクといった授業で取り扱う技術を駆使した発表用スライドを作成することができるようになります。
- ・ 発表するときのポイントや注意点等が考慮された発表を行なうことができるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【マルチメディア】、【情報圧縮】
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法【HTML】、【タグ】
- 3回 HTMLによるWebページ作成演習1【Webページの構成】
- 4回 HTMLによるWebページ作成演習2【Webページのデザイン】
- 5回 グループ作業によるWebページ作成方法【企画書】、【著作権】、【FTP】
- 6回 グループ作業によるWebページ作成実習
- 7回 グループ作業によるWebページ作成のまとめ
- 8回 プレゼンテーション用スライド作成方法【プレゼンテーションソフト】
- 9回 プレゼンテーション用スライド作成演習
- 10回 グループ作業によるスライド作成方法【ストーリー性】
- 11回 グループ作業によるスライド作成実習
- 12回 発表のポイント【発表の心構え】、【プレゼンテーション】、【説得力】、【主張ポイント】
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表とプレゼンテーションのまとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

情報処理教室のパソコン台数に制限がありますので、履修希望者数が多数の場合は、受講者数調整を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一度理解に躓くと、その先の授業についてこれなくなる可能性があります。難しく感じたり、よく分からない内容が出てきた場合は、早目に質問して、解決するようにしてください。また、本授業では、グループによる学習も導入しています。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけてください。

キーワード /Keywords

HTML、プレゼンテーション、マルチメディア

情報表現【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業は、Windows PCを利用して、前半ではHTMLを使ったWebページの作成、後半ではプレゼンテーションソフトを使った発表用スライドの作成、及び、発表用スライドを利用した発表を行います。本授業の目的は、文字や画像などのメディアを総動員して、多角的な情報伝達手段を習得し、それらを作成して情報発信の主体となるための技法を身に付けることです。具体的には、以下のような項目を身に付けることができます。

- ・ HTMLの文字装飾や背景色、画像・表の挿入、リンクの貼り付け等の技術を活用したWebページの作成ができるようになります。
- ・ 作成したWebページを、Webサーバへアップロードできるようになります。
- ・ Microsoft PowerPointを使って、文字装飾やスライドのレイアウト・デザインの設定、画像、図形、表、グラフ、リンクといった授業で取り扱う技術を駆使した発表用スライドを作成することができるようになります。
- ・ 発表するときのポイントや注意点等が考慮された発表を行なうことができるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【マルチメディア】、【情報圧縮】
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法【HTML】、【タグ】
- 3回 HTMLによるWebページ作成演習1【Webページの構成】
- 4回 HTMLによるWebページ作成演習2【Webページのデザイン】
- 5回 グループ作業によるWebページ作成方法【企画書】、【著作権】、【FTP】
- 6回 グループ作業によるWebページ作成実習
- 7回 グループ作業によるWebページ作成のまとめ
- 8回 プレゼンテーション用スライド作成方法【プレゼンテーションソフト】
- 9回 プレゼンテーション用スライド作成演習
- 10回 グループ作業によるスライド作成方法【ストーリー性】
- 11回 グループ作業によるスライド作成実習
- 12回 発表のポイント【発表の心構え】、【プレゼンテーション】、【説得力】、【主張ポイント】
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表とプレゼンテーションのまとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

情報処理教室のパソコン台数に制限がありますので、履修希望者数が多数の場合は、受講者数調整を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一度理解に躓くと、その先の授業についてこれなくなる可能性があります。難しく感じたり、よく分からない内容が出てきた場合は、早目に質問して、解決するようにしてください。また、本授業では、グループによる学習も導入しています。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけてください。

キーワード /Keywords

HTML、プレゼンテーション、マルチメディア

プログラミング基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

みなさんが利用しているコンピュータの中のソフトウェアは、すべてどこかの誰かが作成したプログラムによって出来ています。この授業では、「データ処理」で学習した表計算ソフトの高度な利用方法を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムを自分で作れるようになることを目指します。自分でプログラムを作成できるようになると、より賢くコンピュータを利用できるようになり、世界が広がります。

コンピュータプログラムは、機械が理解できる言葉（プログラミング言語）で書いてやる必要があります。そのため、プログラムの学習は言葉の学習に似ています。この授業で使用するプログラミング言語はVBA（Visual Basic for Application）です。この言語は、表計算ソフトExcelに付属しており、Excelが利用できる環境であればVBAが利用できるようになっています。

この授業は、パソコンを利用して授業を行います。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 表計算ソフトにおいて、マクロを利用して同じ手順を自動的に処理できるようになります。
- 現在のコンピュータが行っている情報処理の流れを理解し、論理的な思考ができるようになります。
- プログラミングの基本を知り、プログラムを自分で作成できるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プログラムとはなにか【VBA】【マクロ】
- 2回 同じ操作をなんどもくりかえす【マクロの記録】【セキュリティ】
- 3回 プログラムの基本1：プログラミングに使う道具を知る【変数】【関数】
- 4回 プログラムの基本2：プログラムがおこなう動作を知る【演算】【メソッド】
- 5回 プログラムの処理の流れを理解する【フローチャート】
- 6回 プログラムの構造1：枝分かれする処理を行う【条件分岐】【if】
- 7回 プログラムの構造2：くりかえし処理を行う【ループ構造】【for】
- 8回 ユーザとのやりとりをデザインする【ユーザフォーム】【GUI】
- 9回 ユーザとのやりとりをプログラムする【イベント処理】
- 10回 変数の有効範囲を設定する【変数のスコープ】【配列変数】
- 11回 プログラミング課題1：サンプルプログラムを解説する
- 12回 プログラミング課題2：サンプルプログラムを変更する
- 13回 プログラミング課題3：オリジナルプログラムを作成する
- 14回 作品発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%，プログラミング作品提出 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの操作（タイピング等）にある程度習熟しておくことをおすすめします。

履修上の注意 /Remarks

情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがあります。
また、1年次配当科目の「データ処理」を受講しておくといでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミング初心者にも分かるように、基本的なことから授業します。

キーワード /Keywords

プログラミング マクロ フローチャート GUI

プログラミング基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

みなさんが利用しているコンピュータの中のソフトウェアは、すべてどこかの誰かが作成したプログラムによって出来ています。この授業では、「データ処理」で学習した表計算ソフトの高度な利用方法を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムを自分で作れるようになることを目指します。自分でプログラムを作成できるようになると、より賢くコンピュータを利用できるようになり、世界が広がります。

コンピュータプログラムは、機械が理解できる言葉（プログラミング言語）で書いてやる必要があります。そのため、プログラムの学習は言葉の学習に似ています。この授業で使用するプログラミング言語はVBA（Visual Basic for Application）です。この言語は、表計算ソフトExcelに付属しており、Excelが利用できる環境であればVBAが利用できるようになっています。

この授業は、パソコンを利用して授業を行います。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 表計算ソフトにおいて、マクロを利用して同じ手順を自動的に処理できるようになります。
- 現在のコンピュータが行っている情報処理の流れを理解し、論理的な思考ができるようになります。
- プログラミングの基本を知り、プログラムを自分で作成できるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プログラムとはなにか【VBA】【マクロ】
- 2回 同じ操作をなんどもくりかえす【マクロの記録】【セキュリティ】
- 3回 プログラムの基本1：プログラミングに使う道具を知る【変数】【関数】
- 4回 プログラムの基本2：プログラムがおこなう動作を知る【演算】【メソッド】
- 5回 プログラムの処理の流れを理解する【フローチャート】
- 6回 プログラムの構造1：枝分かれする処理を行う【条件分岐】【if】
- 7回 プログラムの構造2：くりかえし処理を行う【ループ構造】【for】
- 8回 ユーザとのやりとりをデザインする【ユーザフォーム】【GUI】
- 9回 ユーザとのやりとりをプログラムする【イベント処理】
- 10回 変数の有効範囲を設定する【変数のスコープ】【配列変数】
- 11回 プログラミング課題1：サンプルプログラムを解説する
- 12回 プログラミング課題2：サンプルプログラムを変更する
- 13回 プログラミング課題3：オリジナルプログラムを作成する
- 14回 作品発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%，プログラミング作品提出 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの操作（タイピング等）にある程度習熟しておくことをおすすめします。

履修上の注意 /Remarks

情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがあります。
また、1年次配当科目の「データ処理」を受講しておくといでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミング初心者にも分かるように、基本的なことから授業します。

キーワード /Keywords

プログラミング マクロ フローチャート GUI

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 晶子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語の基本的な読解力を養成することが目的です。日常会話で用いられる程度の英語を読んだり聞いたりした際に、その内容を把握できるよう、ある状況下で用いられる表現や語彙をできる限り覚えていきます。読解力の度合いを測るためにTOEICでスコア400点を目指します。授業では、TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学びます。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 (1995円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 3回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 4回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 5回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 6回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 7回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 8回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 9回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 10回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 11回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 12回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 13回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 14回 Review Test 1 (Unit1 ~ 6)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・課題 40% と 期末試験 60% に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価します。(正当な理由無く4回欠席した場合は、期末試験を受験することはできません。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に復習テストを実施するので、復習にも力を入れてください。
高校入試レベルでよいので、文法書を準備しておくこと役立ちます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 人 1 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語の4技能を習得する際、どれが一番重要であるかは一概には判断できないことであるかもしれない。しかしながら、英語で話をするにしても、英語で何かを表現するにしても、発信するだけの英語が身につけていなければ、つまり英語がインプットされていなければ、アウトプットすることなどがなうものではない。

この授業は、アウトプットを念頭に置きながらインプットを主体としたものにした。だからと言って、インプットの方法は書かれている英文の日本語訳を作るだけではない。(その日本語訳も単に英文を日本語に直訳したものではなく、あくまで内容を理解していることを明示出来るものとする。つまり、translateではなく、interpretすることを目的とする。)さらに、英文を身につけるためには、昨今言われ続けているように音読を重視した授業を展開したい。

教科書 /Textbooks

Eat the World Alive by Richard Bear and Shiro Yamamoto (SEIBIDO,2011)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

初回の授業では、授業の進め方を説明するが、その後は16のUnitに沿って展開する。Unitは大まかに(1)Society,(2)Media,(3)Life, (4)Earthを内容としたものになっており、それぞれ4つの章から成り立っている。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30% (出席と予習状況など。予習していない場合は欠席とみなす。)
定期試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習して臨むこと。その際、「音読」を授業の目標に挙げているので、英文の内容をつかむだけではなく、個々の単語の発音や、文節等にも注意して前もって「音読」しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、またエッセイや英字新聞の記事を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング プレテスト、リーディング ユニット1
- 3回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット2
- 4回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット3
- 5回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット4
- 6回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット5
- 7回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット6
- 8回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット7
- 9回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット8
- 10回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット9
- 11回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット10
- 12回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット11
- 13回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット12
- 14回 リスニング ユニット12、リーディング まとめ
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 渡邊 晶子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語の基本的な読解力を養成することが目的です。日常会話で用いられる程度の英語を読んだり聞いたりした際に、その内容を把握できるように、ある状況下で用いられる表現や語彙をできる限り覚えていきます。読解力の度合いを測るためにTOEICでスコア500点を目指します。授業では、TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学びます。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 (1995円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 3回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 4回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 5回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 6回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 7回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 8回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 9回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 10回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 11回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 12回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 13回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 14回 Review Test 2 (Unit7 ~ 12)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・課題 50% と期末試験 50% に、出席状況・学習態度を加味して総合的に評価します。(正当な理由無く4回欠席した場合は、期末試験を受験することはできません。) また、最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校入試レベルでよいので、文法書を準備しておくこと役立ちます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期と同じテキストEat the World Alive --- 16 Hot Global Topics (成美堂) を利用し、学生が苦手とする英文の構造に習熟していく。その際、TOEICなどの検定試験も考慮し、語彙力を定着させるために基本的な単語(特に動詞)を含んだ短い英文を暗記する。

教科書 /Textbooks

Eat the World Alive --- 16 Hot Global Topics --- (成美堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1学期での進度によるが、2回の授業で1Unitを進めていく。
 1・2 Unit 9 Fighting is Good for You
 3・4 Unit 10 Food is Fuel
 5・6 Unit 11 But It's the Right Answer!
 7・8 Unit 12 University is a Waste of Time
 9・10 Unit 13 The Aliens Have Landed
 11・12 Unit 14 The Real Star Trek
 13・14 Unit 15 A Time Machine at Last!
 15 Unit 16 The End of the World As We Know It

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点30% 定期試験70%
 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1学期同様、予習・復習を徹底すること。単に知らない単語を調べるだけでなく、この授業の狙いでもある文構造を意識して内容を把握した上で授業に臨むこと。それが出来ていない場合は欠席扱いとする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Score Goals in TOEIC Test Listening 500 松柏社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Picture Questions + Reading
- 2 回 Picture Questions + Reading
- 3 回 Picture Questions + Reading
- 4 回 Question-Response + Reading
- 5 回 Question-Response + Reading
- 6 回 Question-Response + Reading
- 7 回 Short Conversations + Reading
- 8 回 Short Conversations + Reading
- 9 回 Short Conversations + Reading
- 1 0 回 Short Conversations + Reading
- 1 1 回 Short Talks + Reading
- 1 2 回 Short Talks + Reading
- 1 3 回 Short Talks + Reading
- 1 4 回 Short Talks + Reading
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取組み ... 10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。プリントを使ったリーディングについては、予習が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 人1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

『Conversations in class: new edition』 (2009) Richmond, S. and Vannieu, B., Alma Publishing (アルマ出版) ¥2520

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Sounding natural 1: silence and conversation
- 4回 Talking about daily life
- 5回 Sounding natural 2: dynamic conversations
- 6回 Giving longer answers and answering implicit questions
- 7回 Talking about university life
- 8回 Talking about skills
- 9回 Talking about family
- 10回 Talking about travel
- 11回 Talking about free time
- 12回 Talking about money
- 13回 Talking about our hometowns
- 14回 Talking about our futures
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III 【昼】

担当者名 /Instructor ジャマール・ミラー / JAMAR MILLER / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is an English communications course that develops the four English language skills of listening, speaking, reading, and writing. The main Objective of this course is to help you improve each of these skills as presented in various different circumstances.

教科書 /Textbooks

Interchange 2 by Jack C. Richards. Cambridge University Press. ISBN: 0-521-60203-3

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Teacher and Student self Introductions, and course review
2. Past Tense
3. Wh-questions using adverbs of Quantity
4. Evaluations
5. Comparisons
6. Simple Past vs present perfect
7. Future plans
8. Giving Suggestions
9. Making request
10. Infinitives and Gerunds
11. Apologizing and giving excuses
12. Imperatives and infinitives for giving suggestions
13. Relative clauses of time
14. Group Discussion on Given Topic
15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking 35% Writing 25% Participation 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

No credit will be given to students who are absent four or more times.

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students will study the four main language skills. The focus will be on hearing and speaking. They will progress through the chapters in the text as the teacher sees fit. Each unit will take approximately one class period. Dialog tests will be administered at the end of each unit, and cumulative dialog tests compiling materials from the previous three units and whatever else has been covered will be administered after every three chapters.

教科書 /Textbooks

Take It Easy by Herman Bartelen published by Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N/A

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

During each semester approximately 1/2 of the text will be used. After each unit, a short dialog test will be given. Cumulative dialog tests will be administered after each three units. These are long dialogs using materials the class has covered so far in the text. Also, at the end of each three units there will be a written grammar test of material from the three units completed.

- 1回 Student Information Cards & Getting Acquainted
- 2回 Meeting & Greeting People
- 3回 Past Tense Q. & A.
- 4回 Expressing Frequency
- 5回 Written Grammar Test Units 1 ~ 3 and Cumulative Dialog Test
- 6回 Writing Assignment
- 7回 Speeches & Evaluation of Last Week's Writing Assignment
- 8回 Making Plans
- 9回 Expressing Likes and Dislikes
- 10回 Future Tense Q. & A.
- 11回 Written Grammar Test Units 4 ~ 6 and Cumulative Dialog Test
- 12回 Writing Assignment
- 13回 Speeches & Evaluation of Last Week's Writing Assignment
- 14回 Speeches Continued
- 15回 Wrap Up

成績評価の方法 /Assessment Method

Students' marks will be made up of an average of marks from by-weekly dialog tests, larger tests, and writing assignments. Absence and lateness will definitely affect the final mark.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

N/A

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ジャマール・ミラー / JAMAR MILLER / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is an English communications course that develops the four English language skills of listening, speaking, reading, and writing. The main Objective of this course is to help you improve each of these skills as presented in various different circumstances.

教科書 /Textbooks

Interchange 2 by Jack C. Richards. Cambridge University Press. ISBN: 0-521-60203-3

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Teacher and Student self Introductions, and course review
2. Talking about Change
3. Describing Possibilities
4. Describing Abilities
5. Talking about Personality Traits
6. Talking about Landmarks and Monuments
7. Describing Countries
8. Inquiring about one's past
9. Describing Movies
10. Body Language and Gestures
11. Speculating about the past and future
12. Reporting what people say
13. Japan's Economic Situation
14. Group Discussion on Given Topic
15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking 35% Writing 25% Participation 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

No credit will be given to students who are absent four or more times.

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students will study the four main language skills. The focus will be on hearing and speaking. They will progress through the chapters in the text as the teacher sees fit. Each unit will take approximately one class period. Dialog tests will be administered at the end of each unit, and cumulative dialog tests compiling materials from the previous three units and whatever else has been covered will be administered after every three chapters.

教科書 /Textbooks

Take It Easy by Herman Bartelen published by Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N/A

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

During each semester approximately 1/2 of the text will be used. After each unit, a short dialog test will be given. Cumulative dialog tests will be administered after each three units. These are long dialogs using materials the class has covered so far in the text. Also, at the end of each three units there will be a written grammar test of material from the three units completed.

- 1回 Student Information Cards & Getting Acquainted
- 2回 Meeting & Greeting People
- 3回 Past Tense Q. & A.
- 4回 Expressing Frequency
- 5回 Written Grammar Test Units 7 ~ 9 and Cumulative Dialog Test
- 6回 Writing Assignment
- 7回 Speeches & Evaluation of Last Week's Writing Assignment
- 8回 Making Plans
- 9回 Expressing Likes and Dislikes
- 10回 Future Tense Q. & A.
- 11回 Written Grammar Test Units 10 ~ 12 and Cumulative Dialog Test
- 12回 Writing Assignment
- 13回 Speeches & Evaluation of Last Week's Writing Assignment
- 14回 Speeches Continued
- 15回 Wrap Up

成績評価の方法 /Assessment Method

Students' marks will be made up of an average of marks from by-weekly dialog tests, larger tests, and writing assignments. Absence and lateness will definitely affect the final mark.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

N/A

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れ、出題傾向に即して学習し、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Essential Approach for the TOEIC Test 「TOEICテストへのニューアプローチ」 大須賀直子他著 成美堂 \2000

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、Pre - Test及び解説
- 2回 Unit1 Arts & Amusement [名詞・代名詞]
- 3回 Unit2 Lunch & Parties [形容詞・冠詞]
- 4回 Unit3 Medicine & Health [副詞]
- 5回 Unit4 Traffic & Travel [比較]
- 6回 Unit5 Ordering & Shipping [動詞・時制]
- 7回 Unit6 Factories & Production [未来表現など]
- 8回 Unit7 Research & Development [主語と動詞の呼応・時制の一致]
- 9回 Unit8 Computers & Technology [能動態・受動態]
- 10回 Unit9 Employment & Promotions [不定詞・動名詞]
- 11回 Unit10 Advertisements & Personnel [分詞]
- 12回 Unit11 Telephone & Messages [助動詞]
- 13回 Unit12 Banking & Finance [接続詞]
- 14回 Unit13 Office Work & Equipment [関係代名詞・関係副詞]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験(80%)、小テストによる平常点と出席状況・学習態度(20%)、TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語小テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学ぶことを目的とする。さらに毎回、各種演習に取り組むことで、リスニング力を伸ばし、文法の知識を増やしていく。

教科書 /Textbooks

安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂、2011年
Seize the Essence of the TOEIC Test 『TOEICテストのエッセンスを学ぶ』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『TOEICテスト新公式問題集』(TOEIC運営委員会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 2回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 3回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 4回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 5回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 6回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 7回 Review Test 1 (Units 1-6)
- 8回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 9回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 10回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 11回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 12回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 13回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 14回 Review Test 2 (Units 7-12)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(20%)、復習テストや定期試験など(80%)。TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習をすること。辞書を持参すること。
単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の四技能を総合的に鍛えることが必要である。この授業では、TOEICにおける高得点の獲得を目標に実際の訓練を行う。

教科書 /Textbooks

Successful Keys To the ToEIC Test 2 by Kirihara Shoten

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1 . 単語のテスト 2 . Listening 3 . 読解。

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

単語のテスト ... 1 0 % 試験 ... 9 0 %

4 回以上の欠席は、受験資格を失う。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語のテストの準備 C Dを聞いて、Self Study Quizの予習をしてくる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れ、出題傾向に即して学習し、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

The Next Stage to the TOEIC Test : Intermediate 「CD-ROMで学習するTOEICテスト：中級編」 ハーパート久代他著 金星堂 \2100

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、プリント演習
- 2回 Unit1 Dining and Shopping [形容詞]
- 3回 Unit2 Computers [動詞]
- 4回 Unit3 Science and Technology [不定詞]
- 5回 Unit4 Entertainment [強調・倒置]
- 6回 Unit5 Advertisement [否定]
- 7回 Unit6 Medicine [使役]
- 8回 Unit7 Transportation [仮定法]
- 9回 Unit8 Business Trips [分詞]
- 10回 Unit9 Environment [助動詞]
- 11回 Unit10 Office Work (1) [副詞]
- 12回 Unit11 Economy [主語と動詞の一致]
- 13回 Unit12 Industry [関係詞]
- 14回 Unit13 Personnel [比較]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験(80%)、小テストによる平常点と出席状況・学習態度(20%)、TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に小テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ三大ネットワークの一つ、CBS放送の情報番組 "The Early Show" の中からニュースを取りあげた教材を用いて、生の英語ニュースを聴き、映像をヒントに内容を理解します。また内容を理解した後にシャドーイングを行って音声面の強化を図り、他の演習問題に取り組んで総合的に英語力を伸ばします。

教科書 /Textbooks

熊井信弘 / Stephen Timson編
CBS News Show : Listening and Shadowing Practicre 成美堂、2011年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
How Texting Could Kill You?
- 2回 Getting Paid to Learn
- 3回 For One Company, Fun Is Job Priority No.1
- 4回 Teens Tied to the Screen
- 5回 Lost Generation of Workers
- 6回 Overcoming Internet Addiction
- 7回 Avatar Passes Titanic Record
- 8回 Dog Helps Boy with Allergy
- 9回 Al Gore's Climate Crisis Goal
- 10回 Women Rise in Workforce
- 11回 Michelle Obama Tackles Issue of Childhood Obesity
- 12回 Teen Cyber-bullied to Death?
- 13回 School Sued for Watching Students
- 14回 Presentation
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テスト含む) ... 20% 課題 ... 20% 期末試験 ... 60%
TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト付属のDVDを活用して必ず予習・復習をすること。辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の四技能を総合的に鍛えることが必要である。この授業では、TOEICにおける高得点の獲得を目標に実際の訓練を行う。

教科書 /Textbooks

Successful Keys To the ToEIC Test 2 by Kiri-hara Shoten

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1 . 単語のテスト 2 . Listening 3 . 読解。

- 1 回 Management
- 2 回 Management
- 3 回 Purchasing
- 4 回 Purchasing
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Finances
- 1 0 回 Finances
- 1 1 回 Media
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Entertainment
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

単語のテスト ... 1 0 % 試験 ... 9 0 %

4 回以上の欠席は、受験資格を失う。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語のテストの準備 C D を聞いて、Self Study Quiz の予習をしてくる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of Human Relations' majors' in regards to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple. Paulette Dale - James C. Wolf - Pearson Longman - Third Edition (the student will also need a memory stick)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course and Introductions - Picture Story Speech
- 第2回 Delivering Your Message
- 第3回 Putting Your Speech Together
- 第4回 Outlining and Writing - A Personal Experience
- 第5回 Delivery-Group 1 - A Personal Experience Speech - 1
- 第6回 Outlining and Writing - A personal Experience
- 第7回 Delivery-Group 2 - A Personal Experience - Speech 1
- 第8回 Outlining and Writing - A Meaningful Object
- 第9回 Delivery-Group 1 - A Meaningful Object - Speech 2
- 第10回 Outlining and Writing - A Meaningful Object
- 第11回 Delivery-Group 2 - A Meaningful Object - Speech 2
- 第12回 Speaking to Inform - Outlining and Writing - An Informative Speech
- 第13回 Delivery-Group 1 - An Informative Speech - Final Speech
- 第14回 Speaking to Inform - Outlining and Writing - An Informative Speech
- 第15回 Delivery-Group 2 - An Informative Speech - Final Speech

成績評価の方法 /Assessment Method

60% Class Work and 40% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Write and practice assigned speech.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII【昼】

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course practices the four English skills using communicative tasks while studying about the world.

教科書 /Textbooks

Milner, Martin. World English I. Heinle Cengage Learning. 2010.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N/A

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Introduction
- Week 2: People and Occupations
- Week 3: People from Around the World
- Week 4: Work, Rest and Play
- Week 5: Talking About Daily Schedules
- Week 6: Ask for and give personal travel information
- Week 7: Conversations at Travel Destinations
- Week 8: Discussing unusual and favorite foods
- Week 9: In a restaurant
- Week 10: Favorite Sports and Adventure Holidays
- Week 11: Every day activities vs today's activities
- Week 12: Discoveries from the past
- Week 13: Describing personal experiences
- Week 14: Review
- Week 15: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Written assignments and oral class participation: 70% Exam 30 %
No credit will be given to students who are absent four or more times.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Read text material ahead of class, watch video and do accompanying online quiz.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introductions and Orientation
- 2 回 Text Unit 1 "Weekends"
- 3 回 Text Unit 2 "Excuses"
- 4 回 Text Unit 3 "Life Events"
- 5 回 Text Unit 4 "Travel"
- 6 回 Text Unit 5 "Culture Shock"
- 7 回 Text Unit 6 "Party Time"
- 8 回 Text Unit 7 "Describing People"
- 9 回 Game Day!
- 1 0 回 Text Unit 8 "Movies"
- 1 1 回 Text Unit 10 "Big Issues"
- 1 2 回 Text Unit 13 "Keepsakes"
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Test
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Active participation in class...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

Being late to class and being absent will lower your grade. Being absent more than 3 times will result in you failing the course.

No late homework will be accepted.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Homework must be completed every week before class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please be active and try to speak as much as possible in class. You will be graded every week on how much you speak and how active you are in class.

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 人 2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of Human Relations majors' in regards to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple. Paulette Dale - James C. Wolf - Pearson Longman- Third Edition (the student will also need a memory stick)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course and Introductions
- 第2回 Introduction to Persuasive Speaking
- 第3回 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- 第4回 Delivery - Group 1 - Speech 1
- 第5回 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- 第6回 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- 第7回 Delivery - Group 2 - Speech 1
- 第8回 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- 第9回 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- 第10回 Delivery - Group 1 - Speech 2
- 第11回 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- 第12回 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- 第13回 Delivery - Group 2 - Speech 2
- 第14回 Final Speech - Group 1
- 第15回 Final Speech - Group 2

成績評価の方法 /Assessment Method

60% Class Work and 40% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Write and practice assigned speech.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 人 2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course continues from the first semester. It practices the four English skills using communicative tasks while studying about the world.

教科書 /Textbooks

Milner, Martin. World English I. Heinle Cengage Learning. 2010.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Talk about personal communication.
- Week 2: Compare different types of communication.
- Week 3: Talk about plans
- Week 4: Discuss the future
- Week 5: Male comparisons
- Week 6: Understand and describe a process
- Week 7: Give Advice on healthy habits
- Week 8: Evaluate your lifestyle
- Week 9: Talk about today's chores
- Week 10: Discuss scientific achievements
- Week 11: Talk about how our actions can have positive consequences
- Week 12: Talk about managing money
- Week 13: Discuss ways to prevent habitat destruction
- Week 14: Review
- Week 15: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Written assignments and oral participation : 70% Exam 30%
No credit will be given to students who are absent four or more times.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Read text material ahead of class, watch video and accompanying online quiz.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 人2 - C
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation “My Summer”
- 2 回 Text Unit 15 “Sports”
- 3 回 Text Unit 18 “Mysteries”
- 4 回 Text Unit 19 “Shopping”
- 5 回 Text Unit 21 “Long Life”
- 6 回 Text Unit 22 “Job Share”
- 7 回 Game Day!
- 8 回 Text Unit 24 “Take a Risk”
- 9 回 Text Unit 26 “On the Go”
- 1 0 回 Christmas Lesson
- 1 1 回 Text Unit 27 “Behave Yourself”
- 1 2 回 Text Unit 28 “Jobs”
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Test
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Active participation in class...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

Being late to class or absent will lower your grade. Being absent more than 3 times will result in you failing the course.

No late homework will be accepted.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Homework must be completed every week before class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please be active and try to speak in class. You will be graded every week on how much you speak and on how active you are.

キーワード /Keywords

英語Ⅸ【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 比人3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

時事英語を題材にし、英語リスニングとリーディングの能力を伸ばすことをテーマとする。

教科書 /Textbooks

毎回、プリント配布予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

EDIC2 (英和・ 和英PC辞書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 政治
- 3回 ビジネス
- 4回 外交
- 5回 司法
- 6回 災害
- 7回 スポーツ
- 8回 まとめ(1)
- 9回 海外事情
- 10回 科学
- 11回 文化(1)
- 12回 文化(2)
- 13回 環境(1)
- 14回 環境(2)
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 25% 課題・小テスト ... 25% 期末試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅹ【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 比人3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

時事英語を題材にし、英語リスニングとリーディングの能力を伸ばすことをテーマとする。

教科書 /Textbooks

毎回、プリント配布予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

EDIC2 (英和・ 和英PC辞書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ (1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 25% 課題・小テスト ... 25% 期末試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の各都市の状況について理解します。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 <試用本> (『中国秀』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第四課 自己紹介【人称代名詞】【指示代名詞】【動詞の文】【是の文】
- 5回 第四課 自己紹介
- 6回 第五課 北京【形容詞の文】【名詞の修飾】【数字】
- 7回 第五課 北京
- 8回 第六課 天津【動詞が複数ある文】【時間詞】【量詞】
- 9回 第六課 天津
- 10回 第七課 上海【指示代名詞】【方位詞】【存在の在】【存在の有】【複文】
- 11回 第七課 上海
- 12回 第八課 蘇州と杭州【前置詞の在】【所有の有】【是～的】
- 13回 第八課 蘇州と杭州
- 14回 前期のまとめ
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 人 /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の各都市の状況について理解します。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 < 試用本 > (『中国秀』 編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 第九課 義烏【了】【動作の現在進行形】【助動詞】【前置詞】
- 2 回 第九課 義烏
- 3 回 第十課 西安と洛陽【動詞+過】【動作の回数】【結果補語】【状態補語】【助動詞】
- 4 回 第十課 西安と洛陽
- 5 回 第十一課 成都【前置詞】【複文】【結果補語】【動作の時間を表す単位】【動作の時間】
- 6 回 第十一課 成都
- 7 回 第十二課 昆明【複文】【結果補語】【前置詞】
- 8 回 第十二課 昆明
- 9 回 第十三課 広州【結果補語】【前置詞】【ちょっと、少しの表現】【複文】【方向補語】【把の構文】
- 10 回 第十三課 広州
- 11 回 第十四課 大連【比較表現】【比喻表現】【使役表現】【受身表現】
- 12 回 第十四課 大連
- 13 回 第十五課 日本の紹介【複文】【了】【助動詞】
- 14 回 第十五課 日本の紹介
- 15 回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ ・ 60% 小テスト・ ・ 20% 日常の授業への取り組み・ ・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 <試用本> (『中国秀』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 発音の総合練習
- 5回 第四課 初めまして
- 6回 第四課 初めまして、練習問題
- 7回 第五課 搭乗・入国
- 8回 第五課 搭乗・入国、練習問題
- 9回 第六課 レストランにて
- 10回 第六課 レストランにて、練習問題
- 11回 第七課 交通
- 12回 第七課 交通、練習問題
- 13回 第八課 観光
- 14回 第八課 観光、練習問題
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 <試用本> (『中国秀』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 銀行にて
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルにて
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 趣味
- 10回 第十三課 趣味、練習問題
- 11回 第十四課 語り合い
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・免税店にて
- 14回 第十五課 搭乗手続き・免税店にて、練習問題
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- (1)一年次に学びましたが、日本人にとって比較的把握が困難な文法事項を再確認し、定着させます。
 (2)長文読解や練習問題を通して、語彙力を増やし、中級レベルの文法と自然な言い回しを習得できます。(「読む・書く」面の強化)また中国の様々な現代事情について理解を深めます。
 (3)本文や会話のCDを聞く、練習することにより、「聞く・話す・読解」面の強化もはかります。

教科書 /Textbooks

『ときめき中国-ぼくらの新‘漢流’生活-』(張国璐・池上貞子著)朝日出版社 2000円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書(CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文法確認【結果補語】【方向補語】
- 2回 文法確認【様態補語】【可能補語】
- 3回 文法確認【把構文】【被構文】
- 4回 文法確認【比較表現】【複文】
- 5回 小テスト
- 6回 第一課 80後と90後 本文【複文】【副詞】【可能補語】
- 7回 第一課 80後と90後 会話
- 8回 第一課 80後と90後 練習問題 小テスト
- 9回 第二課 いまどきの大学生 本文【助動詞】【複文】【動作の回数】
- 10回 第二課 いまどきの大学生 会話
- 11回 第二課 いまどきの大学生 練習問題 小テスト
- 12回 第三課 若者と住宅問題 本文【語気助詞】【助動詞】【結果補語】
- 13回 第三課 若者と住宅問題 会話
- 14回 第三課 若者と住宅問題 練習問題 小テスト
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- (1)長文読解や練習問題を通して、語彙力を増やし、中級レベルの文法と自然な言い回しを習得できます。(「読む・書く」面の強化)
- (2)中国の様々な現代事情について理解を深めます。
- (3)本文や会話のCDを聞く、練習することにより、「聞く・話す・読解」面の強化もはかります。

教科書 /Textbooks

『ときめき中国-ぼくらの新'漢流'生活-』(張国璠・池上貞子著)朝日出版社 2000円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書(CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第四課 中国人とお金 本文【副詞】【部分否定】【状態の持続】【助動詞】【結果補語】
- 2回 第四課 中国人とお金 会話
- 3回 第四課 中国人とお金 練習問題 小テスト
- 4回 第五課 金持ちだから 本文【副詞】【助動詞】【存在・所有】【複文】
- 5回 第五課 金持ちだから 会話
- 6回 第五課 金持ちだから 練習問題 小テスト
- 7回 第六課 中国人の面子 本文【助動詞】【強調】【二重目的語】
- 8回 第六課 中国人の面子 会話
- 9回 第六課 中国人の面子 練習問題 小テスト
- 10回 第七課 あるハリー族 本文【過去の経験】【様態補語】【前置詞の在】
- 11回 第七課 あるハリー族 会話
- 12回 第七課 あるハリー族 練習問題 小テスト
- 13回 第八課 ジェネレーション・ギャップ 本文【助動詞】【複文】
- 14回 第八課 ジェネレーション・ギャップ 会話
- 15回 第八課 ジェネレーション・ギャップ 練習問題 小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

担当者名 /Instructor 馮 雅蓮 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済営人律政群 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
(2)ビジネスに必要な語彙を増やし、業務の様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『体験汉语100句・公務類』中国・高等教育出版社(褚佩如 等)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO 等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 挨拶・紹介 フレーズ 1～3
- 2回 挨拶・紹介 フレーズ 4～6
- 3回 挨拶・紹介 フレーズ 7～9
- 4回 挨拶・紹介 フレーズ 10～12
- 5回 事務用品の使用 フレーズ 13～15
- 6回 事務用品の使用 フレーズ 16～18
- 7回 スケジュールの手配 フレーズ 19～21
- 8回 スケジュールの手配 フレーズ 22～24
- 9回 スケジュールの手配 フレーズ 25～28
- 10回 場所の確認 フレーズ 29～31
- 11回 場所の確認 フレーズ 32～34
- 12回 称賛・褒め称える フレーズ 35～39
- 13回 連絡 フレーズ 40～42
- 14回 連絡 フレーズ 43～45
- 15回 招請・宴席への招待 フレーズ 46～48

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗誦テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語VIII 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
(2)ビジネスに必要な語彙を増やし、業務の様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『体験汉语100句・公務类』中国・高等教育出版社(褚佩如 等)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 招請・宴席への招待 フレーズ49～52
- 2回 招請・宴席への招待 フレーズ53～56
- 3回 感謝 フレーズ57～59
- 4回 クレーム・催促 フレーズ60～63
- 5回 クレーム・催促 フレーズ64～67
- 6回 要求・務め フレーズ68～70
- 7回 要求・務め フレーズ71～73
- 8回 要求・務め フレーズ74～77
- 9回 アポイント・変更 フレーズ78～80
- 10回 アポイント・変更 フレーズ81～83
- 11回 アポイント・変更 フレーズ84～87
- 12回 問い合わせ フレーズ88～90
- 13回 問い合わせ フレーズ91～94
- 14回 お別れ・見送り フレーズ95～97
- 15回 お別れ・見送り フレーズ98～100

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗誦テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

上級中国語I 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

上級中国語I・IIは、中国語初・中級をひとつおわり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、文章の購読、理解、作文練習などの技能を修得することを重点に置き、読むおよび書くことの能力の養成に配慮し、中国語の文章の読解能力、作文力を身につけることを目標とする。
テキストを中心に朗読、翻訳、作文練習を重ねて行う。テキスト以外にビデオ、参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

教科書 /Textbooks

名和又介『ビデオで学ぶ中国文化』金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

名和又介『ビデオで学ぶ中国文化』金星堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1学期
- 第1回 吉祥紅I
- 第2回 吉祥紅II
- 第3回 吉祥紅III
- 第4回 作文練習
- 第5回 淮揚菜I
- 第6回 淮揚菜II
- 第7回 淮揚菜III
- 第8回 紹興与酒I
- 第9回 紹興与酒II
- 第10回 紹興与酒III
- 第11回 作文練習
- 第12回 第一家電視台I
- 第13回 第一家電視台II
- 第14回 朗読練習
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況30% 作文、朗読などの練習40% 定期試験30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習および復習する必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

上級中国語I・IIは、中国語初・中級をひとつと終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、文章の購読、理解、作文練習などの技能を修得することを重点に置き、読むおよび書くことの能力の養成に配慮し、中国語の文章の読解能力、作文力を身につけることを目標とする。
テキストを中心に朗読、翻訳、作文練習を重ねて行う。テキスト以外にビデオ、参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

教科書 /Textbooks

名和又介『ビデオで学ぶ中国文化』金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

名和又介『ビデオで学ぶ中国文化』金星堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第2学期
- 第1回 八達嶺I
 - 第2回 八達嶺II
 - 第3回 八達嶺III
 - 第4回 作文練習
 - 第5回 潮州功夫茶I
 - 第6回 潮州功夫茶II
 - 第7回 潮州功夫茶III
 - 第8回 作文練習
 - 第9回 漢字簡化方案I
 - 第10回 漢字簡化方案II
 - 第11回 朗読練習
 - 第12回 天壇説九I
 - 第13回 天壇説九II
 - 第14回 天壇説九III
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況30% 作文、朗読などの練習40% 定期試験30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習および復習する必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級中国語Ⅲ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英国済営比人3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎を習得した学生を対象に、やや複雑な文章や長文の読解、作文を教授学習する。なお、「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」四つの能力を総合的にバランスよく基本的な表現方式を実習し、一場面ずつ簡単なビジネス中国語を身に付け、将来の就職に役に立つように気を配る。

教科書 /Textbooks

『就職に役立つ中国語』 [改訂版] 王占華・劉慶 駿河台出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『中国語学概論』(改訂版) 王占華 他 駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義の目標と進め方について これまで習った内容の復習
- 2回 面接、【動詞と時量】
- 3回 電話を掛ける【呼び方】
- 4回 復習、中間小テスト
- 5回 ホームページのアドレスと電子メール【開始+動詞】
- 6回 約束【全面否定・肯定】
- 7回 復習、中間小テスト
- 8回 空港への出迎え【願望】
- 9回 食事に招待する【比況表現】
- 10回 復習、中間小テスト
- 11回 町を見物する【軽量表現】
- 12回 空港見送り【仮定表現】
- 13回 ホテルの予約【起点、終点】
- 14回 総合復習
- 15回 試験

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20% 中間小テスト...30% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生の耳と口と手を使った積極的な予習と反復練習を望む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級中国語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎を習得した学生を対象に、やや複雑な文章や長文の読解、作文を教授学習する。なお、「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」四つの能力を総合的にバランスよく基本的な表現方式を実習し、一場面ずつ簡単なビジネス中国語を身に付け、将来の就職に役に立つように気を配る。

教科書 /Textbooks

『就職に役立つ中国語』 [改定版] 王占華・劉慶 駿河台出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『中国語学概論』(改訂版) 王占華 他 駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義の目標と進め方について、1学期習った内容の復習
- 2回 税関で【結果補語1】
- 3回 タクシーに乗る【距離表現】
- 4回 復習、中間小テスト
- 5回 チェックイン【受身主語文】
- 6回 道をたずねる【連鎖表現】
- 7回 復習、中間小テスト
- 8回 両替【等分表現】
- 9回 レストランで食事する【結果補語2】
- 10回 復習、中間小テスト
- 11回 サンプルを送る【比較表現】
- 12回 列車の乗車券を買う【強調表現】
- 13回 おみやげを買う【疑問詞の非疑問用法】
- 14回 総合復習
- 15回 試験

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20% 中間小テスト...30% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生の耳と口と手を使った積極的な予習と反復練習を望む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 人 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書 /Textbooks

金貞愛 他 『しっかり初級韓国語』白水社 (2008年4月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音【基本母音】
- 3回 基本子音(平音)とその発音【基本子音】
- 4回 基本子音(平音)とその発音【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音【派生母音1】
- 8回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 9回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 12回 辞典を引いてみよう【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～です/ですか】
- 14回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～といたします】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・小テスト・態度...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的な単語をテーマ別に分類している『暮らしの単語集 韓国語』(野間秀樹・ナツメ社)を薦める。

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう!

キーワード /Keywords

朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 人 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語の初級文法・基本語彙などを習得し、簡単な作文と読解ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

金貞愛 他 『しっかり初級韓国語』白水社 (2008年4月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 これは何ですか【指示代名詞】【体言否定】【助詞1】
- 3回 これは何ですか【指示代名詞】【体言否定】【助詞1】
- 4回 このコンピュータは誰のものですか【人称・所有代名詞】【助詞2】
- 5回 トイレはどこにありますか【存在の有無】【助詞3】
- 6回 それから何をしますか【用言の基本形・丁寧形】【助詞4】
- 7回 それから何をしますか【用言の基本形・丁寧形】【助詞4】
- 8回 二日間予約したいですが【漢数詞】【年月日の言い方】
- 9回 今、何時ですか【固有数詞】【時間・年齢の言い方】
- 10回 今、何時ですか【固有数詞】【時間・年齢の言い方】
- 11回 土曜日には会社に行きません【用言の否定形】
- 12回 海に行きたいです【願望形】
- 13回 とてもうれしかったです【過去形】【助詞5】
- 14回 とてもうれしかったです【過去形】【助詞5】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・小テスト・態度...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的な単語をテーマ別に分類している『暮らしの単語集 韓国語』(野間秀樹・ナツメ社)を薦める。

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう!

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 人 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階ではハングル文字と発音を正確に習得することを目指す。ハングル文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られている文字であり、パズルのように子音と母音を組み合わせれば容易に覚えらる。この講義では一言会話とともに、ハングルを見て正確に声に出して読めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社）定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 基本文字について【基本母音と基本子音①】
- 2回 書き方と発音【基本子音と基本子音②】
- 3回 書き方と発音【激音と濃音】【合成母音字】
- 4回 バッチム【終声①】
- 5回 バッチム【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 単語と音の変化【その他の発音法則】
- 9回 尋ねる時の表現（～ですか？）【指定詞の丁寧形①】
- 10回 自己・物を紹介する時の表現①（～です、～ではありません）【指定詞の丁寧形②】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現②（～といます）
- 12回 存在の有無を尋ねる時の表現（～がありますか？～いますか？）
【存在詞のうちとけた丁寧形①】【場所をあらわす助詞】
- 13回 存在の有無を尋ねる時の表現（～に～があります。います）
【存在詞のうちとけた丁寧形②】【時を表す単語および助詞】
- 14回 物・場所を尋ねる時の表現（～は何ですか？～はどこですか？）
【指示代名詞】【疑問代名詞】【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30% 授業中の参加意欲及び発言状況・・・20% 定期試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 人 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常会話程度の短いダイアログを覚えて、対話形式で話すことができる。初級テキストにあげる朝鮮語の基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようにする。また、日本語に訳すことができるようにする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ!韓国語』(金順玉・阪堂千津子、白水社) 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館) 定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回前期のまとめ
- 2 回「これは何ですか?」①【指示代名詞】【疑問代名詞】【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 3 回「これは何ですか?」②【指示代名詞】【疑問代名詞】【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 4 回「日曜日に何をしますか?」①【曜日】【助数詞】【動詞・形容詞のうちけた丁寧形】
- 5 回「日曜日に何をしますか?」②【漢数詞】【時間】【月日】【電話番号】
- 6 回「何が好きですか?」①【動詞・形容詞の否定形①】
- 7 回「何が好きですか?」②【動詞・形容詞の変則】
- 8 回「週末に何をしましたか?」①【動詞の過去形】【時を表す単語】
- 9 回「週末に何をしましたか?」②【願望表現】【形容詞の過去形】
- 10 回「一週間の予定」【接続詞①】【確認表現】
- 11 回「明日は何をするつもりですか?」①【意思表現】【推測表現】
- 12 回「明日は何をするつもりですか?」②【進行や状態の継続表現】【接続詞②】
- 13 回「スープが冷たくておいしいです」①【動詞・形容詞の否定形②】【逆説表現】
- 14 回「スープが冷たくておいしいです」②【並列表現】【比較表現】
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30% 授業中の参加意欲及び発言状況・・・20% 定期試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営比人律政群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級レベルでは学習しなかった、より高度な会話や文章の読解を目指す。主として表現・文法の学習を中心とし、その学習を効果的に行うため、会話や読解、作文練習などに力を入れる。

教科書 /Textbooks

『韓国語を学ぶ 中級』（李昌圭、朝日出版社、2,300円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 何を食べましょうか【注文に関する表現】【提案と勧誘の表現】(1)
- 3回 何を食べましょうか【注文に関する表現】【提案と勧誘の表現】(2)
- 4回 電話番号を教えてください【理由の表現】【否定文】(1)
- 5回 電話番号を教えてください【理由の表現】【否定文】(2)
- 6回 趣味は何ですか【仮定・連体形】(1)
- 7回 趣味は何ですか【仮定・連体形】(2)
- 8回 ビデオ上映
- 9回 仁寺洞にはどのように行きますか【道を尋ねる表現】【地下鉄の路線図を読む】(1)
- 10回 仁寺洞にはどのように行きますか【道を尋ねる表現】【地下鉄の路線図を読む】(2)
- 11回 風邪はすっかり治ったんですか【前置き・禁止・可能の表現】【病気に関する表現】(1)
- 12回 風邪はすっかり治ったんですか【前置き・禁止・可能の表現】【病気に関する表現】(2)
- 13回 連休に何をするつもりですか【予定の表現】【譲歩・同時進行の表現】(1)
- 14回 連休に何をするつもりですか【予定の表現】【譲歩・同時進行の表現】(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級レベルでは学習しなかった、より高度な会話や文章の読解を目指す。1学期に引き続き、主として表現・文法の学習を中心とし、その学習を効果的に行うため、会話や読解、作文練習などに力を入れる。

教科書 /Textbooks

『韓国語を学ぶ 中級』（李昌圭、朝日出版社、2,300円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 雨が結構降っているみたいですね【推測の表現】【引用・伝聞の表現】(1)
- 3回 雨が結構降っているみたいですね【推測の表現】【引用・伝聞の表現】(2)
- 4回 プルゴギを作ることができますか【注文に関する表現】【提案と勧誘の表現】(1)
- 5回 プルゴギを作ることができますか【注文に関する表現】【提案と勧誘の表現】(2)
- 6回 このズボン、履いてみてもいいですか【理由の表現】【否定文】(1)
- 7回 このズボン、履いてみてもいいですか【理由の表現】【否定文】(2)
- 8回 韓国文化とのふれあい
- 9回 テーマに沿って自由会話(1)
- 10回 テーマに沿って自由会話(2)
- 11回 発表(1)
- 12回 発表(2)
- 13回 発表(3)
- 14回 発表(4)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、会話練習を中心に行い、朝鮮語による表現力と基礎的な日常会話の運用能力を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他『ちょこっとチャレンジ!』白水社(2011年3月)、2,400円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 3回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 4回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 5回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 6回 魚は焼かないでください。【きまりを言う】
- 7回 魚は焼かないでください。【きまりを言う】
- 8回 花火を見にいこうと思います。【チャレンジ】
- 9回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 10回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 11回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 12回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 13回 ファンの集いへ行ってみたんですけど...【感想を言う】
- 14回 ファンの集いへ行ってみたんですけど...【感想を言う】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、先週のできことを発表してもらう。
予習が必須なので必ず予習をすること。

履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう!

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、会話練習を中心に行い、朝鮮語による表現力と基礎的な日常会話の運用能力を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他 『ちょこっとチャレンジ!』 白水社 (2011年3月)、2,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自由会話【夏休みの出来事】
- 2回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 3回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 4回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 5回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 6回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 7回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 8回 いちど行ってみてください。【チャレンジ】
- 9回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 10回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 11回 今日は来られないそうです。【話を伝える<間接話法>】
- 12回 今日は来られないそうです。【話を伝える<間接話法>】
- 13回 久しぶりに来てみて、どうですか？【思い出を話す】
- 14回 久しぶりに来てみて、どうですか？【思い出を話す】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、先週のできことを発表してもらう。
予習が必須なので必ず予習をすること。

履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語I【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時に応用作文の練習も行い、文章力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』 白帝社 (2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』 (小学館) (毎回持参)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介【講読】
- 3回 自己紹介【作文】
- 4回 私の家【講読】
- 6回 私の家【作文】
- 7回 私の学校【講読】
- 8回 私の学校【作文】
- 9回 病院と薬局【講読】
- 10回 病院と薬局【作文】
- 11回 手紙【講読】
- 12回 手紙【作文】
- 13回 趣味【講読】
- 14回 趣味【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、訳を作成してもらうので、予習が必須となる。

履修上の注意 /Remarks

テキストに出る文型や語句を覚えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時に応用作文の練習も行い、文章力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』 白帝社 (2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』 小学館 (毎回持参)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 映画【講読】
- 3回 映画【作文】
- 4回 地下鉄【講読】
- 5回 地下鉄【作文】
- 6回 感想文【講読】
- 8回 感想文【作文】
- 9回 日記【講読】
- 10回 日記【作文】
- 11回 試験【講読】
- 12回 試験【作文】
- 13回 韓国と日本【講読】
- 14回 韓国と日本【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、訳を作成してもらうので、予習が必須となる。

履修上の注意 /Remarks

テキストに出る文型や語句を覚えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅲ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『韓国語 上級』（李昌圭、白帝社、2,800円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 1課 病院で(1)
- 3回 1課 病院で(2)
- 4回 2課 バス停で(1)
- 5回 2課 バス停で(2)
- 6回 3課 銀行で(1)
- 7回 3課 銀行で(2)
- 8回 4課 本を読む(1)
- 9回 4課 本を読む(2)
- 10回 5課 韓国料理(1)
- 11回 5課 韓国料理(1)
- 12回 6課 天気(1)
- 13回 6課 天気(1)
- 14回 まとめ(1)
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『韓国語 上級』（李昌圭、白帝社、2,800円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 7課 趣味は何ですか(1)
- 3回 7課 趣味は何ですか(2)
- 4回 8課 約束(1)
- 5回 8課 約束(2)
- 6回 9課 道を歩く(1)
- 7回 9課 道を歩く(2)
- 8回 10課 引越(1)
- 9回 10課 引越(2)
- 10回 11課 明けましておめでとうございます(1)
- 11回 11課 明けましておめでとうございます(2)
- 12回 12課 中秋節(1)
- 13回 12課 中秋節(2)
- 14回 まとめ(1)
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2-3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor: ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次 単位 /Credits: 1単位 学期 /Semester: 1学期 授業形態 /Class Format: 講義 クラス /Class: 済営比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks
「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課①【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課②【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課①【教室でロシア語】
- 9回 第2課②【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課①【家族の紹介】
- 12回 第3課②【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 済営比人1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】 「
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済誉比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「百万人のロシア語」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 <СКОРО ПЕРВОЕ СЕНТЯБРЯ> 名詞の性、不規則変化動詞、形容詞前置格
- 2 回 <МАМА И ФУТБОЛ> 多義動詞の用法、関係副詞構文、形容詞短語尾、全否定構文
- 3 回 <МАТЬ> 関係副詞構文、関係代名詞構文、不規則変化動詞、名詞単数・複数の使分け
- 4 回 <САЛЮТ> 複文の種類と構造、不規則変化動詞、第二生格
- 5 回 <ГИПНО'З> 不定人称文、「・・する」の後結合、完了動詞・不完了動詞
- 6 回 <ВАЖНЫЙ РАЗГОВОР> 願望を意味する動詞と複文、運動の動詞の派生語
- 7 回 <ТРУДНЫЙ ЭКЗАМЕН> 動詞の格支配、複文、否定生格
- 8 回 <ДОМ ОТДЫХА> 時の表現、動詞の体
- 9 回 <БАБУШКА И ВОВКА> 動詞の格支配、不規則変化動詞
- 10 回 <ВТОРАЯ МОЛОДОСТЬ> 複文、動詞の体
- 11 回 <О ЧЁМ ДУМАЕТ МАРАБУ> 年月日表現、年齢表現、形容詞格変化復習
- 12 回 <КАК Я ВСТРЕЧАЛ НОВЫЙ ГОД> 不定法構文、無人称文
- 13 回 <ЛЮБИМЫЙ ПРАЗДНИК> 個数詞+形容詞+名詞の語結合、所有形容詞
- 14 回 <ЭТО СЛУЧИЛОСЬ В ВОЗДУХЕ> 「互いに」の表現、運動の動詞、不定代名詞
- 15 回 まとめと復習：構文

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営比人律政2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会話テキスト「ロシアでの一ヶ月」の読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「ロシアでの一ヶ月」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА	その1	読み、訳、練習問題
2回	ГОСТИНИЦА	その2	読み、訳、練習問題
3回	СТОЛОВАЯ	その1	読み、訳、練習問題
4回	СТОЛОВАЯ	その2	読み、訳、練習問題
5回	ГАСТРОНОМ		読み、訳、練習問題
6回	УНИВЕРМАГ		読み、訳、練習問題
7回	ТРАНСПОРТ		読み、訳、練習問題
8回	ПОЧТА		読み、訳、練習問題
9回	ТЕЛЕФОН		読み、訳、練習問題
10回	ВОКЗАЛ		読み、訳、練習問題
11回	ПОЛИКЛИНИКА		読み、訳、練習問題
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ		読み、訳、練習問題
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その1	読み、訳、練習問題
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その2	読み、訳、練習問題
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その3	読み、訳、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス
/Class

済営比人律政2年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り・会話」と「作文」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課① 【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА?】
- 2回 第7課② 【気温】、【雨が降る】
- 3回 第7課③ 【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ?】
- 4回 ビデオ学習① 【В ГОСТИНИЦЕ】
- 5回 ビデオ学習② 会話練習
- 6回 第8課① 【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ?】
- 7回 第8課② 【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
- 8回 第8課③ 【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ?】
- 9回 ビデオ学習③ 【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
- 10回 ビデオ学習④ 会話練習【У ВРАЧА】
- 11回 ビデオ学習⑤ 作文【Я И СПОРТ】
- 12回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ?】
- 13回 第9課② 【買い物】、【値段】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor: ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオ学習① 【В ГОСТЯХ】
- 2回 ビデオ学習② 会話練習【В ГОСТЯХ】
- 3回 ビデオ学習③ 作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ】
- 4回 第10課①【モスクワの町】
- 5回 第10課②【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、
【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】
- 6回 第10課③【モスクワの町】、【単文と複文】
- 7回 第10課④【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】
- 8回 ビデオ学習④【ИСТОРИЯ С УЧЕБНИКОМ ИСТОРИИ】
- 9回 ビデオ学習⑤ 会話【В МАГАЗИНЕ】、【ПОКУПКА КНИГИ】
- 10回 ビデオ学習⑥ 作文
- 11回 読み物 【СОВЕТ ВРАЧА】
- 12回 読み物 【ДВА ТОВАРИЩА】
- 13回 読み物 【ЛЕГЕНДА ОБ АНГАРЕ】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 人 /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代のドイツは拡大するEU（ヨーロッパ連合）の政治、経済、文化の中心として重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に用いているドイツ語を学習することを通して、ドイツ語圏とヨーロッパへの関心、知識および理解を深めていきます。学生の到達目標は、基本単語を用いて口頭による日常的なコミュニケーションがとれるようになること。初歩的な文法を理解し、運用できるようになること。さらに、ドイツ語圏の社会と文化について簡単な説明ができるようになることです。

教科書 /Textbooks

『話すぞドイツ語！ V2』 在間進 朝日出版社 本体2,800円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の時間に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 つづりと発音 読んでみよう！ 挨拶をしてみよう！
- 2回 動詞の形（人称変化）、語順
- 3回 自己紹介をしてみよう！
- 4回 名詞の形1（1格）
- 5回 数字を使ってみよう！
- 6回 名詞の形2（4格）
- 7回 注文をしてみよう！
- 8回 名詞に付けて用いる語（所有冠詞など）
- 9回 趣味を尋ねてみよう！
- 10回 ニつ以上のものを表す表現（複数形）
- 11回 「いくつ？」と尋ねてみよう！
- 12回 名詞の形3（2格と3格）、人称代名詞
- 13回 感想を尋ねてみよう！
- 14回 名詞と一緒に用いる語（前置詞）
- 15回 時刻を尋ねてみよう！

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%
日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回の授業で用いる会話表現の意味を確認し、覚えておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な会話テキストを通して、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。

キーワード /Keywords

パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代のドイツは拡大するEU（ヨーロッパ連合）の政治、経済、文化の中心として重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に用いているドイツ語を話すことを通して、ドイツ語圏とヨーロッパへの関心、知識及び理解を深めていきます。学生の到達目標は、基本単語を用いて口頭による日常的なコミュニケーションがとれるようになること。初歩的な文法を理解し、運用できるようになること。さらに、ドイツ語圏の社会や文化について簡単な説明ができるようになることです。

教科書 /Textbooks

『話すぞドイツ語！ V2』 在間進 朝日出版社 本体2,800円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の時間に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 二つの部分に分かれる動詞（分離動詞）
- 2回 週末の予定を尋ねてみよう！
- 3回 動詞を従える動詞（話法の助動詞）/（未来形）
- 4回 電話をかけてみよう！
- 5回 過去のことを表す動詞の形（現在完了形）
- 6回 休暇に何をしたら尋ねてみよう！
- 7回 形容詞の形（形容詞の格変化）
- 8回 誕生日や日付を尋ねてみよう！
- 9回 人や事物を比べる表現（比較級、最高級）
- 10回 何が一番好きか尋ねてみよう！
- 11回 「・・・される」ことを表す動詞の形（受動態）
- 12回 副文を作る接続詞（従属接続詞）
- 13回 話されている言語について尋ねてみよう！
- 14回 非現実的なことを表す動詞の形（接続法第2式）
- 15回 丁寧に頼んでみよう！

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%
日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

今回の授業で用いる会話表現の意味を確認し、覚えておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な会話テキストを通して、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。

キーワード /Keywords

パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 人 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 人 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫げて話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くととき
- 8回 綴りを聞くととき、英語の分る人を探すとき、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くととき、道順・方向を聞くととき、距離を聞くととき
- 11回 時刻を聞くととき、時間を聞くととき、曜日を聞くととき、日付を聞くととき
- 12回 値段を聞くととき、数量を聞くととき、方法を聞くととき、理由を聞くととき
- 13回 目的を聞くととき、住所を聞くととき、出身地を聞くととき、生年月日を聞くととき
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』 熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 人 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎文法の習得を目標とします。具体的には、簡単な文をつくるために必要な要素である名詞・代名詞・動詞・形容詞・冠詞・前置詞について、また文の種類（肯定文・否定文・疑問文）を学びます。音声化を重視してつづり字の読み方を早く覚え、積極的に発音し、文を音で覚えるようにします。6月に実施される実用フランス語技能検定試験5級に合格すれば成績Cが保証されます。その場合でも、定期試験は必ず受験すること。

教科書 /Textbooks

太田浩一他著、『フランス語文法の基礎』（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発音の方法とつづり字の読み方
- 2回 名詞、冠詞、エリズイオン
- 3回 人称代名詞（主語）、動詞 <etre>、形容詞
- 4回 動詞 <avoir>、il y a 構文、否定文の作り方
- 5回 1群動詞 <-er> の活用
- 6回 疑問文 1 疑問詞のない疑問文の作り方
- 7回 指示形容詞、所有形容詞
- 8回 中間まとめ
- 9回 動詞 <aller> の活用、前置詞の縮約、近接未来について
- 10回 動詞 <venir> の活用、前置詞の縮約、近接過去について
- 11回 疑問文 2 疑問代名詞・疑問形容詞・疑問副詞を用いる疑問文の作り方
- 12回 2群動詞 <-ir> の活用
- 13回 比較級・最上級
- 14回 非人称構文
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70%、平常の授業への取り組み 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 人 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一学期に引き続き文法の基礎知識を広げて表現力の充実を目標とします。具体的には、過去時制・複文・法（モード）について学びます。11月の仏検4級を合格すると成績Cが保証されます。その場合でも定期試験は必ず受験すること。

教科書 /Textbooks

太田浩一 他著 『フランス語文法の基礎』（白水社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期の復習
- 2回 人称代名詞(2) 直接目的語、その語順
- 3回 人称代名詞(2) 間接目的語 その語順
- 4回 直説法複合過去
- 5回 代名動詞
- 6回 直説法単純未来
- 7回 特殊な代名詞(中性代名詞)
- 8回 直説法半過去
- 9回 過去時制のまとめ
- 10回 受動態
- 11回 法(1) 条件法
- 12回 法(2) 接続法
- 13回 関係代名詞
- 14回 現在分詞とジェロンディフ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70% 平常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 人 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。1学期は「実用フランス語検定5級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊! 1』 (藤田裕二著 朝日出版社 ¥2500)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則各回1課進み、1学期で終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍・職業をいう
- 3回 名前・持ち物をいう
- 4回 友人・家族を紹介する
- 5回 人・物を説明する
- 6回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 7回 人、物、場所、時についてたずねる
- 8回 食べ物・飲み物についていう
- 9回 時刻・天候をいう
- 10回 人・物を比較する
- 11回 人称代名詞目的語を使った表現
- 12回 過去のことを話す
- 13回 代名動詞を使った表現
- 14回 未来のことを話す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 定期試験...80%

(仏検受験者へ：今年6月の仏検5級以上合格者には最低合格点Cは保証、ただし、仏検合格の場合も定期試験は必ず受験すること。また、仏検合格を単位認定として希望する者は定期試験時に必ず合格通知を提示すること、以後の連絡には応じない。なお、定期試験の日時が合格通知に先行する場合は、試験前の最終講義日までにその旨を申し出ること)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。
遅くとも3回目の講義までには教科書を用意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。
授業中の飲食・私語は禁止します。
遅刻・途中退室は欠席扱いとします。
携帯電話の電源は切り、机の上には置かずにしまっておくこと。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 人 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。2学期は「実用フランス語検定4級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『ラビッド・フランス語会話II』（加藤雅郁著 駿河台出版社 ￥2310）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全10課、配列に従って原則毎回3ページずつ進む。

簡単な会話のスケッチの聞き取りと解説の後、書かれた質問に答えて会話内容の確認と書く練習を行い、次いで聞こえてきた質問に答えて聞き取り練習を行う。

- 1回 映画を見に行く
- 2回 家族の誕生日について話す
- 3回 レストランで注文する
- 4回 住んでいた町について話す
- 5回 昨日したことを話す
- 6回 宿題について話す
- 7回 知っている人・好きな人のことを話す
- 8回 電話をする
- 9回 将来のことを話す
- 10回 頼みごとをする
- 11回 明日のことを話す
- 12回 会う約束をする
- 13回 自分の趣味・意見を言う
- 14回 自らの考え・気持ちを話す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 定期試験...80%

(仏検受験者へ：今年11月の仏検4級以上合格者には最低合格点Cは保証、ただし、仏検合格の場合も定期試験は必ず受験すること。また、仏検合格を単位認定として希望する者は定期試験時に必ず合格通知を提示すること、以後の連絡には応じない。なお、定期試験の日時が合格通知に先行する場合は、試験前の最終講義日までにその旨を申し出ること)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。

教科書は1回目の講義には用意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の飲食・私語は禁止します。

遅刻・途中退室は欠席とします。

携帯電話の電源は切り、机の上には置かずにしまっておくこと。

キーワード /Keywords

様々な会話の場面

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済誉比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次に学んだ初級文法の復習にくわえ、さらに上の段階の文法を習得することで、中級レベルのフランス語の運用能力を身につけてもらうことを目標にしています。また教科書とは別に、フランス映画『アメリ』を鑑賞したいと考えています。そのさいフランスのユーモアを知り、フランス語らしい表現を学んでもらえればと思います。

教科書 /Textbooks

『新・エスカルゴ 2』（藤田裕二、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	フランス語の「音」についての復習、	『アメリ』より	L'enfance d'Aémié
2回	再帰代名詞、	『アメリ』より	Monmartre(1)
3回	再帰代名詞の複合過去、	『アメリ』より	Monmartre(2)
4回	過去分詞の一致のまとめ、	『アメリ』より	La boîte aux souvenirs(1)
5回	半過去と大過去、	『アメリ』より	La boîte aux souvenirs(2)
6回	半過去と複合過去、	『アメリ』より	A la recherche de Bretodeau(1)
7回	関係代名詞、	『アメリ』より	A la recherche de Bretodeau(2)
8回	補語人称代名詞、	『アメリ』より	Amélie, ange gardien(1)
9回	命令法と補語人称代名詞、	『アメリ』より	Amélie, ange gardien(2)
10回	現在分詞とジェロンデフ(1)、	『アメリ』より	L'âme soeur(1)
11回	現在分詞とジェロンデフ(2)、	『アメリ』より	L'âme soeur(2)
12回	疑問代名詞 lequel、	『アメリ』より	Amélie a encore frappé(1)
13回	受動態、	『アメリ』より	Amélie a encore frappé(2)
14回	最上級と副詞、	『アメリ』より	Colignon crêpe chignon
15回	まとめ		

成績評価の方法 /Assessment Method

基本的に出席を絶対条件とします。その上で、宿題として課される練習問題の評点を50%、期末試験の結果を50%とします(ただし練習問題の評点、もしくは期末試験の結果で著しい成果を上げた場合には、別途考慮します)。また6月の仏験3級以上の合格者には最低合格点Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1年次に学んだ初級文法を確認しておいてください。この講義は復習を前提としています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期と同様に、1年次に学んだ初級文法の復習にくわえ、さらに上の段階の文法を習得することで、中級レベルのフランス語を完全に身につけてもらうことを目標としています。またひき続きフランス映画『アメリ』を鑑賞しながら、フランス語らしい表現を学んでいきます。

教科書 /Textbooks

『彼女は食いしん坊2』（藤田裕二、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	強調構文、	『アメリ』より	Amélie cherche Nino(1)
2回	中性代名詞(1)、	『アメリ』より	Amélie cherche Nino(2)
3回	中性代名詞(2)、	『アメリ』より	Jeux de piste
4回	条件法現在、	『アメリ』より	Nouveaux stratagèmes
5回	条件法過去、	『アメリ』より	L'inconnu démasqué(1)
6回	接続法現在、	『アメリ』より	L'inconnu démasqué(2)
7回	接続法過去、	『アメリ』より	Où est quand(1)
8回	直接話法と間接話法、	『アメリ』より	Où est quand(2)
9回	時制の一致(1)、	『アメリ』より	RDV au photomaton(1)
10回	時制の一致(2)、	『アメリ』より	RDV au photomaton(2)
11回	前置詞と接続詞(時の表現)、	『アメリ』より	Le kouing amann(1)
12回	前置詞と接続詞(場所の表現)、	『アメリ』より	Le kouing amann(2)
13回	前置詞と接続詞(論理の表現)、	『アメリ』より	Saisir sa chance(1)
14回	単純過去、	『アメリ』より	Saisir sa chance(2)
15回	まとめ		

成績評価の方法 /Assessment Method

基本的に出席を絶対条件とします。その上で、宿題として課される練習問題の評点を50%、期末試験の結果を50%とします(ただし練習問題の評点もしくは期末試験の結果で著しい成果を上げた場合には、別途考慮します)。また11月の仏検準2級以上の合格者には最低合格点Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

一年次に学んだ初級文法を確認しておいてください。講義は復習を前提としています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次に習得したフランス語能力を再確認し、さらに応用力を身につけることを目指す。

テキストは入門者用のものを使用するが、内容は長文や練習問題が充実しているので、上記の目標を達成するのに適切であると思われる。

特に基礎文法事項を徹底的に復習する。

短文や長文を読解するだけでなく、正確に発音できるよう指導し、適宜、暗記することを課す。

時間の許す限り、フランス文化についての知識も教授する。

フランス語検定試験3級程度の実力を旨す。6月に行われる検定試験3級に合格した受講生には単位取得を保障する。

教科書 /Textbooks

澤田直之他2名『アミカルマン』（駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Bonjour Madame
- 2回 Dans le Quartier Latin
- 3回 長文読解 (フランス)
- 4回 Les deux amis au téléphone
- 5回 Un Anglais à Paris
- 6回 長文読解 (パリ)
- 7回 Philippe à la poste
- 8回 La jolie robe
- 9回 長文読解 (カフェ)
- 10回 Nathalie appelle un taxi
- 11回 Dans le taxi
- 12回 長文読解 (学生生活)
- 13回 Bon anniversaire!
- 14回 L'addition, s'il vous plaît!
- 15回 長文読解 (パン、ワイン、チーズ)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1年次のフランス語を受講していること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期のフランス語VIIに引き続き、1年次に習得したフランス語能力を再確認し、さらに応用力を身につけることを目指す。

テキストは入門者用のものを使用するが、内容は長文や練習問題が充実しているので、上記の目標を達成するのに適切であると思われる。

特に基礎文法事項を徹底的に復習する。

短文や長文を読解するだけでなく、正確に発音できるよう指導し、適宜、暗記することを課す。

時間の許す限り、フランス文化についての知識も教授する。

フランス語検定試験準2級程度の実力を旨す。11月に行われる検定試験準2級に合格した受講生には単位取得を保障する。

教科書 /Textbooks

澤田直之他2名『アミカルマン』（駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 L'interview d'un champion
- 2回 Le cours de tennis
- 3回 長文読解 (ブルターニュ)
- 4回 A la cinémathèque
- 5回 Après le film
- 6回 長文読解 (プロヴァンス)
- 7回 Philippe à Nancy
- 8回 Cher Philoppe
- 9回 長文読解 (アルザス)
- 10回 Le programme des visites
- 11回 Le dîner en famille
- 12回 長文読解 (政治)
- 13回 Une invitation
- 14回 La fin des vacances
- 15回 長文読解 (フランス病)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1年次のフランス語および前期のフランス語VIIを受講していること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

第一言語・母語として、中国語に次ぎ世界第2の話者人口を持つスペイン語を初歩から学習します。と同時に、その文化(圏)を少しなりとも理解し身に付けます。*我が国ではスペイン語は普通、西語、と表記されます。

教科書 /Textbooks

青木・辻・マリア J. H. 共著『スペイン語で表現しよう』、弘学社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。西和辞典又は電子辞書必携

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語のアルファベット・発音
- 2回 発音・アクセント
- 3回 名詞の性と数・冠詞
- 4回 主格人称代名詞・動詞について
- 5回 直説法現在規則活用
- 6回 基本的な文章(肯定文・否定文・疑問文)
- 7回 疑問詞(QUE・QUIEN・DONDE)
- 8回 国名とその言語
- 9回 不規則活用(主要三動詞、SER・ESTAR・HABER)
- 10回 形容詞の性・数
- 11回 主要三動詞例文
- 12回 疑問詞(COMO)・指示詞・所有形容詞
- 13回 他の不規則動詞
- 14回 不規則動詞例文
- 15回 不定詞の用法

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

初めての外国語を学ぶには、興味を持つことが第一条件です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

西語の発音は、日本語を母語とする者にとっては、非常に容易です。逆に、文法や動詞の活用は、難解で複雑です。特に、初歩段階が肝腎です。欠席は好ましくありません。

キーワード /Keywords

スペイン語の世界的位置 スペイン語圏

スペイン語II 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

西語 I を継続し、ほぼ初級の文法を終えます。

教科書 /Textbooks

西語 I と同じ。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。西和辞典又は電子辞書必携。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 代名詞(与格・対格)
- 2回 G U S T A R 類の動詞
- 3回 代名詞(前置詞格)
- 4回 日付・曜日・時刻
- 5回 数詞(序数の使用)
- 6回 不定過去・不完了過去・現在完了(規則活用)
- 7回 動詞の種類
- 8回 不定語と例文
- 9回 天候・季節の表現と例文
- 10回 不定過去・不完了過去(不規則活用)
- 11回 現在分詞とその用法・例文
- 12回 名詞節・副詞節・形容詞節と例文
- 13回 未来・条件未来・過去完了の活用と用法
- 14回 直接話法・間接話法(時制の一致)
- 15回 再帰動詞と用法

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語Iをよく理解・学習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席は好ましくありません。

キーワード /Keywords

スペイン語の世界的位置 スペイン語圏

スペイン語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、日常の生きた初歩的な会話表現を重点的に学び、スペイン語の入門の基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式を採用いたします。また、ときどき、映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『オラ!』第三書房、2010年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウン西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的なお話、スペイン語とスペイン語圏について
- 2回 アルファベット、単語の読み方
- 3回 名詞の性と数、冠詞、挨拶表現
- 4回 動詞serを用いた表現
- 5回 形容詞・指示形容詞(動詞serを用いて)
- 6回 規則動詞(1)、基本的表現
- 7回 規則動詞(2) 基本的表現
- 8回 規則動詞(3) 基本的表現
- 9回 動詞(tener), 所有形容詞
- 10回 3つの規則動詞活用の復習
- 11回 動詞(estar,hay..)の基本用例
- 12回 動詞活用と基本表現のブラクティス
- 13回 重要な不規則動詞の基本表現
- 14回 便利な日常会話表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

外国語を学ぶには辞書は不可欠です。聴いて話す(発声)ことを反復すること。動詞の活用が難解です。この入門編でスペイン語の基礎を学部こととなりますが、出だしが肝心です。意欲的に取り組んでください

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は1学期開講のスペイン語Ⅲの続編です。初歩的な会話表現に重点を置き、入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『オラ!』第三書房、2010年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅲの復習-動詞の活用と基本表現
- 2回 直説法現在：不規則動詞、人称代名詞(目的格)
- 3回 人称代名詞を用いた表現
- 4回 近接未来表現など天候表現、時刻表現
- 5回 不規則動詞、不定詞表現、所有形容詞(その2)
- 6回 gustar(~が好きです)系の表現、間接目的格
- 7回 前置詞に導かれる人称代名詞
- 8回 復習：日常的表現
- 9回 再帰動詞(1)
- 10回 再帰動詞(2)
- 11回 ビデオでイスパニア圏を旅する
- 12回 比較級と最上級
- 13回 現在完了形
- 14回 現在進行形
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...70% 小テスト...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから動詞の活用を繰り返し練習。辞書はいつでも携帯する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済誉比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅰ・Ⅱを復習・継続し、初級の文法を完了します。

教科書 /Textbooks

スペイン語Ⅰ・Ⅱと同じ(青木・辻・マリア J. 共著『スペイン語で表現しよう』、弘学社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。西和辞典又は電子辞書必携。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 接続法とは何か
- 2回 接続法現在・規則活用
- 3回 接続法現在・不規則活用
- 4回 接続法現在の用法
- 5回 命令法・命令形
- 6回 感嘆文
- 7回 比較級
- 8回 相対・絶対最上級
- 9回 不定詞を用いた放任・使役の動詞
- 10回 不定詞を用いた忠告・命令・許可・禁止の動詞
- 11回 SEの受身文
- 12回 SEの無人称文
- 13回 接続法の過去・現在完了・過去完了
- 14回 接続法の用法(独立文)
- 15回 接続法の例文

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語Ⅰ・Ⅱを良く理解・学習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席は好ましくありません。

キーワード /Keywords

スペイン語圏

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペインの文化・風土・歴史などを織り込んだ中級程度のスペイン語の文章を読みます。スペイン語及びスペインに関する幅広い知識を身に付けます。

教科書 /Textbooks

青木文夫・辻光博共著『現代スペイン語：文法と表現』（弘学社）の、講読部分（別冊。500円）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。西和辞典又は電子辞書必携。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

* スペイン語講読・説明・解説

- 1回 第一課 【位置】
- 2回 第二課 【風土】
- 3回 第三課 【行政】
- 4回 第四課 【生活】
- 5回 第五課 【バルセローナ】
- 6回 第六課 【マドリード】
- 7回 第七課 【中世文学】
- 8回 第八課 【レコンキスタ】
- 9回 第九課前半 【古代ローマ治下】
- 10回 第九課後半 【イスラーム治下】
- 11回 第十課 【セビージャ】
- 12回 第十一課前半 【レコンキスタの完了】
- 13回 第十一課後半 【スペイン帝国】
- 14回 第十二課 【ドン・キホーテ】
- 15回 第十三課 【バスク自治州】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語Ⅱ・Ⅴを良く理解・学習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席は好ましくありません。

キーワード /Keywords

古代ローマ帝国 イスラーム レコンキスタ

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ(会話表現)を更に発展させていきます。テキストの文法事項を押さえ、それぞれの文法テーマに沿った会話表現を学び、応用できるようにしましょう。また、適宜音声教材やDVD教材などを使用し、ネイティブの話すスペイン語理解(聞き取り)も行います。

教科書 /Textbooks

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳのテキストの続きから使用します。(前年度テキスト:エウヘニオ・デル・ブラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008)
また、ビデオ・DVD・音声教材なども利用し、その際にはプリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語Ⅲ・Ⅳの復習(会話表現、聞き取り)
- 2回 前年度スペイン語Ⅲ・Ⅳの復習(目的格人称代名詞、再帰動詞などを中心に)
- 3回 過去分詞、現在完了、「ミゲルはもう到着したの?」
- 4回 不定語・否定語、「何か言った?」
- 5回 直説法点過去(1)、「いつスペイン語の勉強を始めましたか」
- 6回 直説法点過去(2)、「夏休みはどこに行きましたか」
- 7回 直説法線過去、「若いころあのレストランへよく行っていた」
- 8回 点過去と線過去、「電話がなったとき、本を読んでいた」
- 9回 スペイン語圏についてのDVD教材
- 10回 現在分詞、「私は音楽を聴きながら通学する」
- 11回 直説法未来、直説法過去未来「明日はハイメとテニスをするだろう」
- 12回 直説法過去完了、「私が到着したとき、もうパーティは始まっていました」
- 13回 DVD教材(スペイン語で見る・1)
- 14回 DVD教材(スペイン語で見る・2)
- 15回 直説法の動詞のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 60%、日常の授業への取り組み 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

スペイン語初級(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor トマス・マリン・アルビ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語VIIを更に発展させていきます。テキストの文法事項を繰り返し押さえ、それぞれの文法テーマに沿った会話表現を学び、応用できるようにしましょう。また、簡単な表現を使い、スペイン語での発表も行います。

教科書 /Textbooks

スペイン語VIIのテキストを引き続き参照します。
(スペイン語VII: エウヘニオ・デル・プラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008)
また、読み物、ビデオ・DVD・音声教材などを利用し、その際にはプリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語VIIの復習 (DVD教材)
- 2回 スペイン語VIIの復習 (直説法のまとめ)
- 3回 接続法現在、(1)、独立文、「いい天気になればいいなあ」
- 4回 命令形、「どうぞこちらへ来てください」
- 5回 接続法現在(2)、名詞節、「ホセに本当のことを言ってもらいたい」
- 6回 接続法現在(3)、形容詞節・副詞節、「ペットが飼える家を探しています」
- 7回 接続法過去、「こんなに人気があったとは、知らなかった」
- 8回 接続法過去完了、「あの時すでにメキシコに住んでいたなんて、知らなかった」
- 9回 接続法、条件文、「あの時返事をしていれば、今頃はペルーにいるはずだったのに」
- 10回 DVD教材など、会話練習
- 11回 スペイン語で発表(1)
- 12回 スペイン語で発表(2)
- 13回 スペイン語で映画などを見る 前半
- 14回 スペイン語で映画などを見る 後半
- 15回 接続法のまとめと会話について

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、授業内のスペイン語での発表 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

スペイン語初級(I・II・III・IV)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター, 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 留学生1年 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Aでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」と「日本語表現力」に焦点を当てる。「大学生生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『大学生の日本語トレーニング』(世界思想社編集部、世界思想社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

<小林担当分>	<清水担当分>
1回 オリエンテーション	1回 オリエンテーション
2回 高校・日本語学校と大学の違い	2回 大学生と論理的思考力
3回 履修登録とシラバス	3回 リストアップする
4回 キャンパスツアー	4回 マッピングする
5回 大学教員・職員との付き合い方	5回 キーワードを繋げる
6回 図書館ツアー	6回 イラストから読み取ったことを表現する
7回 情報の探し方	7回 定義をする
8回 勉強以外の大学生生活	8回 日本語の語順に沿って考える
9回 留学生の進路	9回 時間軸に沿って考える
10回 留学生と日本人学生	10回 主張に理由を加えて表現する
11回 試験に備える：試験勉強	11回 主張に理由や具体例を加えて表現する
12回 試験に備える：レポート	12回 総合的に表現する
13回 試験に備える：期末試験	13回 論理的に考えて表現する
14回 大学生としての自分	14回 日本語で表現することと自分
15回 総括	15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70%(学習者評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Aと日本語Bは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) 日本語表現力

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語 (ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語 (キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語 (アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。

日本語Bでは、特に「聞く・話すこと」に焦点を当てる。講義を聞き取る聴解スキルや、発表に必要な語彙・表現を身に付け、実際に課題テーマのプレゼンテーションをおこなうことで、「発表」の方法を学ぶ。さらに、「質疑応答」「評価 (自己評価)」では建設的な意見交換やコメントができることを目標とする。

教科書 /Textbooks

犬飼康弘『聴解・発表ワークブック』スリーエーネットワーク
上村和美・内田充美『プラクティカル・プレゼンテーション』くろしお出版

参考書 (図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三浦香苗他『アカデミックプレゼンテーション入門』ひつじ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 内はキーワード)
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 ノートテイキング【メモ】【構成】
 - 3回 基本練習テーマ「食中毒」【全体の流れ】【基本的表現】
 - 4回 「言葉と文化」【背景説明】【方向付け】
 - 5回 「不登校」【予告】【データの提示】
 - 6回 「高校生とバイク」【データの説明・解釈】
 - 7回 「食料自給率」【データ比較】
 - 8回 応用練習テーマ「少子化」(1)【序論構成】
 - 9回 「少子化」(2)【本論構成①】
 - 10回 「少子化」(3)【本論構成②】
 - 11回 「少子化」(4)【結論の提示】
 - 12回 プレゼンテーションの基礎【プレゼンテーションとは】
 - 13回 クラスメイト紹介 (1)【他者紹介】
 - 14回 クラスメイト紹介 (2)【インタビュー】
 - 15回 セルフチェック (1)【姿勢・表情・視線】【身振り・手振り】【声】
 - 16回 セルフチェック (2)【チェックシート・評価シート】
 - 17回 施設紹介 (1)【相手の視点に立った情報整理】
 - 18回 施設紹介 (2)【サンドイッチ構成】
 - 19回 日常生活で目にするものを説明する (1)【比較】
 - 20回 日常生活で目にするものを説明する (2)【マトリックス】
 - 21回 アンケート (1)【調査項目】
 - 22回 アンケート (2)【アンケート用紙】
 - 23回 ポスター発表 (1)【ポスターの構成】
 - 24回 ポスター発表 (2)【ポスター作成】
 - 25回 ポスター発表 (3)【ポスター発表】
 - 26回 案内状を作る (1)【5W1H】
 - 27回 案内状を作る (2)【案内状】
 - 28回 案内状を作る (3)【当日の進行】
 - 29回 1年間を振り返る【時系列】【トピック】
 - 30回 まとめ【評価】【自己評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・・・40% 授業への取り組み・・・40% 自己評価・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本語B 【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生 (文学部比較文化学科日本語教師養成課程) が授業の一部を担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Aと日本語Bは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター, 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Cでは、特に「読むこと」に焦点を当てる。タスクを用いた読解トレーニングにより、論理的思考力を伸ばすことと、ピア・リーディングによる読み方の変化と読みにおける他者の存在の有効性に気付くことで、留学生一人一人に「日本語で読むこととは何か」を問いかける。

教科書 /Textbooks

『大学・ 大学・ 大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○一橋大学留学生センター『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』スリーエーネットワーク

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

< 小林担当分 >	< 則松担当分 >
1回 オリエンテーション	1回 オリエンテーション
2回 大学生に求められる読む力	2回 学術的文章の特徴
3回 自己評価	3回 テーマに合う文献を探す
4回 絵やイラストを読む	4回 文献を読んで研究テーマを
5回 文章を読んで図や表にする	5回 ピア・リーディングとは何か
6回 表やグラフを読み取る	6回 ピア・リーディング：読みの個人差に着目する
7回 表やグラフ以外のものを読み取る	7回 ピア・リーディング：読む過程を重視する
8回 マッピングしながら読む	8回 ピア・リーディング：協同的に読む
9回 登場人物になったつもりで読む	9回 ピア・リーディング：読み方を変える
10回 どちらがいかを考えながら読む	10回 ピア・リーディング：他者の視点で読む
11回 理由を考えながら読む	11回 主体的・ 能動的な読み
12回 前後の文脈から推論しながら読む	12回 読みにおける他者の存在
13回 総合的に読む	13回 自分で書いた文章のピア・リーディング：初回
14回 日本語で読むことと自分について考える	14回 自分で書いた文章のピア・リーディング：修正
15回 総括	15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Cと日本語Dは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング ストラテジー

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Dでは、日本語で書くことを中心とする。特に、情報を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけではなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る】
- 2回 授業の目的及び必要性を知る【課題の条件を確認する】
- 3回 レポートとは何かを考える【論証型レポート】
- 4回 レポートとは何かを考える【根拠の大切さを知る】
- 5回 レポートのテーマを考える【構想マップ】
- 6回 レポートのテーマを考える【練る】
- 7回 情報をカード化する【情報の信頼性】
- 8回 情報をカード化する【調べる】
- 9回 目標を仮に規定する【情報の整理】
- 10回 目標を仮に規定する【絞る】
- 11回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 12回 アウトラインを作る【組み立てる】
- 13回 パラグラフライティング【中心文】
- 14回 パラグラフライティング【説明文・指示文】
- 15回 パラグラフライティング【引用】
- 16回 パラグラフライティング【引用文献リスト】
- 17回 文章を点検する【校正】
- 18回 文章を点検する【表現の点検】
- 19回 文章を点検する【形式の点検】
- 20回 文章を点検する【ピア・レスポンス】
- 21回 レポートの完成【体裁】
- 22回 レポートの完成【最終稿】
- 23回 発表を準備する【発表の意義・レジユメの作成】
- 24回 発表を準備する【発表の練習】
- 25回 発表する【話し手】
- 26回 発表する【聴き手】
- 27回 発表する【司会】
- 28回 発表する【相互評価】
- 29回 学習プロセスを振り返る
- 30回 まとめ【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40%
レポート・発表...40%
ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えていてください。

日本語D 【昼】

履修上の注意 /Remarks

日本語C及びDは、授業内容の関連性が深いので同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、3つの論文を題材とする。これらの題材をクラス内で議論しながら、最終的には一人ひとりが自分にとっての文化をレポートとしてまとめていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上弘美 『あるようなないような』 中公文庫
河合隼雄 「『母性』と『父性』の間をゆれる」 『国語総合』 大修館書店
細川英雄 『日本語教育と日本事情 - 異文化を超える - 』 明石書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「境目」を読む
- 3回 「境目」について話し合う
- 4回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
- 5回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
- 6回 「ことばと文化を結ぶために」を読む
- 7回 「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
- 8回 文化観を比較する
- 9回 レポートの作成(1)私にとって文化とは何か
- 10回 ピア・リーディング(1)クラスメートのレポートを読んでコメントする
- 11回 他大学学生とのレポート交換活動
- 12回 ピア・リーディング(2)他大学学生からのコメントを読む
- 13回 レポートの作成(2)修正する
- 14回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50% 自己評価 ... 30% ピア評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他大学の留学生とレポート交換活動をする予定である。

履修上の注意 /Remarks

昨年度開講されなかったため、2年次以上の学生を優先します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名 /Instructor ジェームズ・バスキンド / James Baskind / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Zen Culture and Japan

With D.T. Suzuki's publication of Zen and Japanese Culture, Zen came to be heralded as the quintessence of Japanese culture. However, the question remains: how much of Zen doctrine and history support this view? As the title of this course indicates, we will be turning Suzuki's contention on its head, as we examine the creation of a culture of Zen itself or a "Zen culture" that subsumes and informs much of what is considered "Japanese" both in Japan and the West. We will also consider Zen's history in India, China, and Japan, as well as "Zen" aspects of painting and poetry, martial arts, tea ceremony, literature, and its role in pop/modern culture in Japan and abroad. In addition to presenting the history and practice of Zen, this course aims to also provide a modern and international perspective on Zen.

教科書 /Textbooks

Textbook: Zen and Japanese Culture Daisetz T. Suzuki (Author) Richard Jaffe (Introduction). Princeton University Press, reprint edition. ¥ 1,900. Other materials will be distributed as needed.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

日本事情 (人文) B 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Schedule

Week 1

WHAT IS ZEN?

EARLY BUDDHISM: DOCTRINE AND PRACTICE

Week 2

ZEN PRACTICE

ZEN ANTECEDENTS: DAOISM AND THE VIMALAKIRTI SUTRA

Week 3

THE TRANSMISSION OF BUDDHISM TO CHINA

LEGENDARY BEGINNINGS OF ZEN: BODHIDHARMA

Week 4

INTRODUCTION OF ZEN TO JAPAN: THE RINZAI, SOTO, AND OBAKU SCHOOLS

Week 5

FORMS OF ZEN PRACTICE

Week 6

ZEN IN THE MODERN ERA: D.T. SUZUKI

Week 7

ZEN AESTHETICS AND THE TEA CEREMONY

Week 8

ZEN AND MARTIAL ARTS: FACT, FICTION, AND FANTASY

Week 9

ZEN ARTS: PAINTING, GARDEN DESIGN AND POETRY

Week 10

MIDTERM EXAM

Week 11

ZEN IN THE WEST: THE BEGINNINGS

Week 12

BEAT ZEN SQUARE ZEN: THE BEATNIKS, ZEN AND AMERICAN SUBCULTURE

Week 13

ZEN IN MEDIA AND POP CULTURE

Week 14

IMAGE AND IDEAL: ZEN PRACTICE CENTERS ABROAD

Week 15

ZEN IN THE WEST: TENSIONS AND CONFLICTS, CONCLUSIONS (FINAL PAPER DUE)

成績評価の方法 /Assessment Method

Assessment

Participation/daily effort 30%

Midterm exam 30%

Paper 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本事情 (人文) B 【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

No familiarity with Japanese religions is required.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Zen, Japanese culture, Buddhism, arts, D.T. Suzuki

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 国際教育交流センター 山崎 勇治
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

留学生のための講座である。1年生と短期交換留学生の混合授業である。また中国、韓国、アメリカ、オーストラリア、イギリスからの留学生と、国際的な講義である。
そこで、日本を知る上で必要な観点から、外部講師を招聘して講義をしていただく場合もある。例えば、大学生協の店長が寿司文化を語り、留学生にその作り方を実地で教え、試食させてくれるとかといった具合である。
日本社会を、社会科学分野から追求することを旨としているが、日本の伝統文化を知らないと日本の政治経済の理解が深まらない。それゆえ、多士済々の講師が登場するゆえんである。
これらの講義を通じて日本社会に興味をもち、積極的に参加してくれることを目的としている。

教科書 /Textbooks

口述講義により、教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 .私のデートコース案内-イギリスと北九州-
- 第3回 お伊勢参りから宇宙旅行までの日本人の旅行ブーム
- 第4回 TOTOのウォッシュレット開発
- 第5回 北九州空港と韓国仁川国際空港の役割
- 第6回 新幹線を作った男たち
- 第7回 トロンの世界
- 第8回 秀吉の朝鮮出兵と九州の窯元
- 第9回 安川電機とロボット産業軍事とアジアを読み解く
- 第10回 日本の経営の特徴とその変化
- 第11回 戦後日本経済(1)
- 第12回 戦後日本経済(2)
- 第13回 戦後日本経済(3)
- 第14回 軍事とアジアを読み解く
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 50%

授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語で講義をするので、日本語を上達させておくこと。

日本の政治経済の動きを理解するために、新聞を毎日読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本滞在を有効にするために、この講義に参加している日本人学生との交流を積極的に行ってもらいたい。

キーワード /Keywords

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 国際教育交流センター 山崎 勇治
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

講義の目的・韓国、中国、オーストラリア、イギリス、日本の学生と一緒に集まって、さまざまなテーマについて日本と自国との比較検討をする。
使用言語は主として日本語である。ただし英語も一部使用する。理由は、イギリスやオーストラリアからの留学生にとって複雑な内容を日本語で説明するには無理があるときがあるからである。

教科書 /Textbooks

口頭講義である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 自己紹介 オリエンテーション 山崎勇治
- 第2回 関門地域をめぐる日本の近代化一、中国、韓国、アメリカ、イギリス
- 第3回 雇われ外国人たちと日本の近代化ートーマス・グラバー
- 第4回 官営八幡製鉄所の北九州に果たした役割
- 第5回 新幹線を開発した男たち
- 第6回 TOTOと日本のトイレ革命
- 第7回 公害問題の発生と母親たちの反対運動
- 第8回 安川電機と産業用ロボット(宗像志功、孫文)
- 第9回 松本清張と朝鮮戦争
- 第10回 森川知治 生協食堂店長:「オーストラリアに定着させた寿司文化」
- 第11回 北九州市役所 西之原局長 「北九州市と国際化」
- 第12回 出光興産と美術館
- 第13回 カーディフ炭と日本海海戦
- 第14回 バーナード・リーチと小鹿田焼き
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%

授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本についての関心事を絶えずもち続けること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

認知心理学【昼】

担当者名 /Instructor 福田 恭介 / Kyosuke Fuikuda / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

われわれが生きていくためには、外界から情報を取り入れなければならない。さらにその情報を取り入れて保存し、必要に応じていつでも取り出せるようにしておき、必要な情報だけを取り出して問題を解決する必要がある。このような一連の流れを認知と言う。このように認知機能という側面からヒトの心の機能に迫ることは、注意や問題解決など人間のさまざまな側面からの理解につながり、将来の実践的な仕事に就いたときも役立つ資質となる。

認知心理学では、認知のしくみ（注意、記憶、理解など）および認知過程を明らかにする方法論（再生・再認率、反応時間、脳波・眼球運動測定など）について話していき、われわれが情報を処理するときの不思議なメカニズムについて体験的に理解を深めることを目指す。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、レポート執筆に必要

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋 2010 認知心理学 (New Liberal Arts Selection) 有斐閣
その他は、授業中に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 心理学における「認知心理学」の学問的位置づけと定義
- 2 認知心理学の歴史
- 3 注意の仕組み
- 4 注意についての理論
- 5 注意障害を持った人々 1：半側空間無視
- 6 注意障害を持った人々 2：自閉症，ADHD
- 7 記憶の仕組み 1：感覚記憶，短期記憶
- 8 記憶の仕組み 2：長期記憶，プライミング
- 9 理解
- 10 脳波と覚醒水準
- 11 事象関連電位と認知過程
- 12 眼球運動と認知過程
- 13 瞳孔運動と認知過程
- 14 瞬目活動と認知過程 1：反射性瞬目、随意性瞬目、自発性瞬目
- 15 瞬目活動と認知過程 2：選択的注意と瞬目

成績評価の方法 /Assessment Method

授業へのコメント20%
レポート30%（遅れて提出した場合は評価点が下がる）
試験50%"

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポートにまとめることで、理解が深まるようにする。

履修上の注意 /Remarks

遅刻しないように。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際に実験を体験したり、となりの人の目の動きを観察したりして理解を深める。

認知心理学 【昼】

キーワード /Keywords

社会心理学【昼】

担当者名 田島 司 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、社会心理学における幅広い分野の研究を紹介していく予定である。基礎的な知識を学んでもらうと同時に、より深い社会心理学的な問題に興味をもってもらいたい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。必要な資料は授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 社会的推論
- 第3回 対人距離と他者の存在意義
- 第4回 対人葛藤と共感
- 第5回 自己意識, 自己概念
- 第6回 自己評価, 自尊心
- 第7回 自己と集団, 社会との関わりI
- 第8回 自己と集団, 社会との関わりII
- 第9回 集団の定義, 集団力学
- 第10回 個人的アイデンティティと社会的アイデンティティ
- 第11回 偏見, 同調, 服従
- 第12回 現代社会における自己, 大衆社会化, 都市化I
- 第13回 現代社会における自己, 大衆社会化, 都市化II
- 第14回 進化心理学と社会心理学
- 第15回 まとめと小テストの解説等

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 50% 小テスト... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

図書館等で参考になる本を自主的に探しておくことが望ましい。他の心理学関連の授業を合わせて受講するとわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

対人心理学 【昼】

担当者名 田島 司 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では対人行動に関わるさまざまな心理的側面について話題とする。講義を中心としながら小規模な実験や調査を体験してもらい、基礎的な知識のみならず最近の研究結果も紹介する予定である。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。必要な資料は授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 対人関係の心理に関わる古典的研究の紹介I
- 第3回 対人関係の心理に関わる古典的研究の紹介II
- 第4回 対人認知I
- 第5回 対人認知II
- 第6回 対人魅力I
- 第7回 対人魅力II
- 第8回 達成動機、親和動機
- 第9回 家族、性役割
- 第10回 組織行動、リーダーシップ
- 第11回 友人関係と孤独感
- 第12回 対人葛藤の効果
- 第13回 現代社会における対人心理の諸問題I
- 第14回 現代社会における対人心理の諸問題II
- 第15回 まとめと小テストの解説等

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 50% 小テスト... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

図書館等で参考になる本を自主的に探しておくことが望ましい。他の心理学関連の授業を合わせて受講するとわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

臨床心理学【昼】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Eriksonの漸成理論に準拠し、人間の各発達段階における発達課題と不適応の関係を概観しながら、不適応のメカニズム、発達援助のあり方について考究する。その際、実践に即した理解を深めるために、事例を紹介しながら進める予定である。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：臨床心理学とは何か
- 第2回 乳児期の発達課題と不適応：理論編【基本的信頼感】【愛着】
- 第3回 乳児期の発達課題と不適応：事例編①【発達障害】
- 第4回 乳児期の発達課題と不適応：事例編②【関係性障害】【親・乳幼児心理療法】
- 第5回 幼児期の発達課題と不適応：理論編【自律性】【積極性】
- 第6回 幼児期の発達課題と不適応：事例編【母子分離】
- 第7回 児童期の発達課題と不適応：理論編【勤勉性】【箱庭療法】
- 第8回 児童期の発達課題と不適応：事例編【遊戯療法】【自尊心】
- 第9回 青年期の発達課題と不適応：理論編【自我同一性】【友人関係】
- 第10回 青年期の発達課題と不適応：事例編【過食症】【同一性拡散】
- 第11回 壮年期の発達課題と不適応：理論編【生殖性】【中年期心性】
- 第12回 壮年期の発達課題と不適応：事例編【自我同一性の再体制化】
- 第13回 老年期の発達課題と不適応：理論編【統合】【抑うつ】
- 第14回 老年期の発達課題と不適応：事例編【心気症】【不定愁訴】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況(小テスト含む) ... 20% 試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義を受講前に「心理学概論」を受講しておくことを薦めます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

カウンセリング論【昼】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、心理アセスメントと心理療法に関する基礎的知識の習得を目指す。心理アセスメントでは、初回面接のあり方や心理アセスメントの諸技法について概観する。心理療法では、三大心理療法の精神分析、行動療法、クライアント中心療法について概観する。その際、実践に即した理解を深めるために、事例を紹介しながら進める予定である。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：心理療法とは何か
- 第2回 心理アセスメント(1)：初回面接と見立て【初回面接】
- 第3回 心理アセスメント(2)：精神医学的診断【病理水準】
- 第4回 心理アセスメント(3)：テストバッテリー【構造化面接法】
- 第5回 精神分析の理論と実践(1)【無意識】
- 第6回 精神分析の理論と実践(2)【メタ心理学】
- 第7回 精神分析の理論と実践(3)【自由連想法】
- 第8回 行動療法の理論と実践(1)【学習理論】
- 第9回 行動療法の理論と実践(2)【認知行動療法】
- 第10回 クライアント中心療法の理論と実践【受容】【共感】
- 第11回 三大心理療法の共通点と相違点
- 第12回 学校カウンセリングの実際：事例編
- 第13回 心理療法の実際（ビデオ学習等）
- 第14回 心理療法の実際（グループワーク）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況 ... 20% 試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義を受講する前に、1学期開講科目「臨床心理学」を受講されることを薦めます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション論【昼】

担当者名 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コミュニケーションは、自分の意図を相手（人，モノ，機械）に理解してもらうことである。つまり、「わかる」ということがコミュニケーションの本質である。どうわかってもらうかは、対面の場合、メディアを介したコミュニケーション、機械とのコミュニケーションの場合でそれぞれに異なっている。この講義では、「わかる」という問題についてまず考え、メディアによるコミュニケーション、機械とのコミュニケーションについて心理学的に考察する。

教科書 /Textbooks

資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 松尾太加志『コミュニケーションの心理学』ナカニシヤ出版
- 西林克彦『わかったつもり』光文社
- 吉井博明『情報化と現代社会（改訂版）』北樹出版
- 加藤隆『認知インタフェース』オーム社
- 海保博之・松尾太加志『キャリアアップのための発想支援の心理学』培風館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 コミュニケーションとは
- 3回 メンタルモデル
- 4回 上手なコミュニケーション
- 5回 スキーマによる対人認知
- 6回 ノンバーバルコミュニケーション
- 7回 対人距離
- 8回 メディアコミュニケーション
- 9回 携帯メールと人間関係
- 10回 CMC
- 11回 CMCの問題点
- 12回 ヒューマンインタフェース
- 13回 人と機械とのコミュニケーション
- 14回 ヒューマンインタフェースにおける人間の行動モデル
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

学習心理学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学習(learning)に関する心理学的アプローチについて概説する。特に、学習意欲、学習行動の基礎理論、知識と問題解決、教育との関連、学習の評価といった問題について、具体例を交えながら講義する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 授業のすすめ方について、意欲の問題 【意欲】
 - 2回 内発的動機づけと外発的動機づけ 【動機づけ】
 - 3回 行動主義 【行動】
 - 4回 認知主義 【認知】
 - 5回 状況主義 【状況】
 - 6回 知識と表象 【知識】
 - 7回 問題解決と学習 【問題解決】
 - 8回 教育との関連 【教育】
 - 9回 学習における個人差 【個人差】
 - 10回 記憶と学習 【記憶】
 - 11回 知能と学習 【知能】
 - 12回 発見学習と仮説実験授業 【仮説】
 - 13回 学習と評価 【評価】
 - 14回 自己学習 【セルフ】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度... 30% 授業中の小テスト... 30% テスト... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業毎に指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 村上 太郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育心理学では、教育の場における子どもの姿や教師の姿を心理学的側面からみていきます。子どもの学習過程について理解し、教師としての関わりについて学び、教師と子どもの人間関係についての考え方を身につけることを目標とします。講義を中心として、様々な例を通して具体的な関わりを考えることのできる機会を多く設ける予定です。質問や意見は、1回目の授業時に配布するフォローアップ・シートにて随時受け付けます。ぜひ活用してください。

教科書 /Textbooks

鎌原雅彦・竹綱誠一郎著「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ
毎回配布するプリントも併用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育心理学とは(ガイダンス)【心理学】【自己紹介】
- 2回 子供の発達【発達】【成熟】【学習】
- 3回 発達段階【発達課題】
- 4回 自己認識の発達【自己と他者】
- 5回 頭がいい、とは【知能】
- 6回 学習の仕組み(1)【記憶】【忘却】
- 7回 学習の仕組み(2)【学習】
- 8回 やる気【強化】【自己評価】
- 9回 教え方によって【教授方法】【効果】
- 10回 評価する【テスト】【絶対評価】【相対評価】
- 11回 学級という集団【同調行動】
- 12回 学級の中の人間関係【いじめ】【調査方法】
- 13回 個性とは【性格】
- 14回 カウンセリング・マインド【傾聴】【共感】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(ミニレポート含む)...30% 期末試験...70%

注:ミニレポートは毎回、講義中に記述してもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当する部分を事前に読んでくると、本講義の理解がより容易になります。また、自分の小中学校時代の経験と結びつけながら講義を聴くことで、理解が深まります。質問や疑問は、フォローアップ・シートを活用して積極的に解消してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導【昼】

担当者名 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えながら考える。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児・者心理学について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第6回 視覚障害について
- 第7回 聴覚障害について
- 第8回 姿勢・運動の障害について
- 第9回 知的障害について
- 第10回 自閉性障害について
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理療法論 【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

心理療法は学ぶことも教えることも難しい領域であるとされる。それは学ぶ者と教える者それ自身の人間性が大きく問われるからである。それ故、「心理療法に従事する人間は、いつも深い羞恥心と、へり下った態度をとること...これこそ心理療法の真の成功の秘密なのである」(霧山徳爾)といわれるのである。本講義は、心理療法に関する主要な各学派を概観しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、森田療法を中心に学習を進める。独創的な学説にふれることにより心理療法全般への展望と理解が広がり同時に自己のメンタルヘルスにも興味を持ってもらいたい。キーワードは【森田療法】である。

教科書 /Textbooks

テキスト 「森田療法」岩井寛 著 講談社現代新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「神経質の本態と療法」森田正馬著 白揚社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)

- 1回 心理療法の基礎問題
心理療法を困む問題 ・ 心理療法を学ぶ目的【傷つけざること第一なり】
- 2回 心理療法家としての心構え ・ 心理療法と発達理論 【発達理論】
- 3回 心理療法の歴史 【フロイト】
- 4回 心理療法の技法論 精神分析, ユング心理学【東洋の人間観】
- 5回 ヒューマニスティック・セラピー他 【全体観】
- 6回 森田療法とその主要理論 【あるがまま】【生の欲望】
- 7回から10回 森田療法とその基礎理論 【感情の法則】【目的本位】
- 11回から13回 森田療法の実際 【とらわれ】
- 14回 治療設定と留意点 【とらわれの本質】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート及び課題提出の内容...50% 授業と勉学への熱意...30% 毎回の授業態度...20%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

森田療法以外の心理療法として、現在ひろくおこなわれている「認知行動療法」についてもゲストを招いて学ぶ予定である、自分でも事前に調べて概略をつかんでいること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理統計【昼】

担当者名 /Instructor 原口 雅浩 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

心理学では、実験や検査を行ったら、その結果をレポート（論文）にまとめて報告することになる。このレポートは、問題と目的、方法、結果、考察という章立てとなる。本講義は、結果の段階に関連するものである。

そこで本講義では、心理学の実験や検査（調査）等から得られたデータの特徴を記述し（記述統計）、そのデータに基づいて行う母集団に関する一般的な推論の仕方（推測統計）について理解すること、および結果の記述の仕方（文章化）についても理解することを目標とする。あわせて、表計算ソフト（EXCEL）と統計ソフト（javascript star）の使い方について学ぶ。

教科書 /Textbooks

ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法 田中敏・山際勇一郎 教育出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 心理統計とは【母集団】【標本】
- 2回 代表値【平均】
- 3回 散布度【標準偏差】
- 4回 区間推定【不偏推定値】
- 5回 相関【相関係数】
- 6回 回帰直線【決定係数】
- 7回 検定のしくみ【有意水準】
- 8回 t検定【自由度】
- 9回 t検定【t検定】
- 10回 カイ二乗検定【期待度数】
- 11回 一要因分散分析【主効果】【平方和】
- 12回 多重比較【LSD】【HSD】
- 13回 二要因分散分析【交互作用】
- 14回 交互作用【単純主効果】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に行う小課題：60%
学期末に行うレポート：40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

USBメモリーを必ず準備しておいてください。
心理学実験、心理学研究法、心理学実習とあわせて受講すると理解しやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

老年心理学【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

主として老年期の知能、記憶・学習・情報処理、パーソナリティと適応について老年期特有の変化の有無とその要因について社会関係も視野に入れて説明する。また、精神疾患や社会問題等を通して、老年期の理解と認識を促すことをねらいとする。

教科書 /Textbooks

資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 老年期とは - 多様性と共通性【個人差、文化・社会的老年期のとらえ方】
- 第2回～第4回 老年期の知能【言語性能力、動作性能力】
- 第5回～第7回 老年期の記憶・学習・情報処理【再認と再生、日常生活における記憶、注意力の分散】
- 第8回～第10回 老年期の人格と適応【社会環境・社会適念・時代背景、成熟した人格、OldestOld】
- 第11回～第12回 老年期の精神疾患【うつ、認知症】
- 第13回～第14回 適応と生きがい【個人と社会】
- 第15回 まとめとして - 社会問題としての扱われ方

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 70% 授業態度 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生理心理学【昼】

担当者名 麦島 剛 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

心理学が研究対象とする知覚・認知・学習・情動・こころの不調などを理解するには、脳を中心とする身体のはたらきとの関係を検討することも意義深い。この授業ではまず神経科学の基本的知識を講義し、次にこころと脳(身体)との関係を解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

例えば良書としては 岡田隆他 (2005) 生理心理学 サイエンス社 など。
その他、適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 生理心理学とは。
- 第2回～第4回 神経細胞の構造と機能。
- 第5回～第8回 脳の構造と機能。
- 第9回 感覚・知覚。
- 第10回 覚醒・睡眠。
- 第11回 学習・記憶。
- 第12回 情動・動機。
- 第13～14回 こころの不調。
- 第15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校や教養教育科目などでの生物学・化学の履修状況にかかわらず、分かりやすく解説します。
脳とこころの関係について知りたい人は臆せず受講してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

活動電位 シナプス 神経伝達物質 脳幹 間脳 大脳基底核 大脳辺縁系 大脳新皮質 側抑制 脳波 REM睡眠 海馬 神経可塑性 統合失調症 抑うつ ADHD 臨床神経心理学

社会意識論 【昼】

担当者名
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の日常の生活のなかでは、人間の意識のほとんどは、個人的なもののように見える。しかし、我々の道徳意識や美意識等が、主に家族を通して内面化されているものであることから、意識（無意識も含めて）とは極めて集合的なものであり、歴史的なものであることが分かる。また、人間の思考の多くの部分は、社会的なものである言語によって支配されている。本講義においては、社会的なものとしての意識（無意識）が現代社会のなかで、内なる自然としての身体を持つ「個人」とおとして、どのように社会化され、さらに変容してゆくのかを考える。

教科書 /Textbooks

特になし（レジュメ資料を配付）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

須藤廣『観光化する社会』ナカニシヤ出版（2008年5月）2500円
J・リッツァ『マクドナルド化する社会』早稲田大学出版会（1999年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- （【 】はキーワード）
- 1回 【意識】とは何か
 - 2回 言語と意識との関係について
 - 3回 現象学は意識をどう捉えてきたか
 - 4回 構成主義、【構築主義】の社会学は意識をどう捉えてきたのか
 - 5回 【近代化】と意識1（E・デュルケムにとっての「意識」）
 - 6回 近代化と意識2（M・ウェーバーにとっての「意識」）
 - 7回 M・ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』解説
 - 8回 【個人主義化】と意識1（フロム、リースマン、ペラー論）
 - 9回 【ポストモダン】化と意識（ポストモダニズム論、ギデンズ論）
 - 10回 【消費社会化】と意識1（リッツァーの【マクドナルド化】論）
 - 11回 消費社会化と意識2（「デイズニー化」と意識）
 - 12回 日本人と意識の歴史1（戦後～70年代）
 - 13回 日本人と意識の歴史2（70年代以降）
 - 14回 メディアの変容と意識
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題30% 試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1学期に文化社会学の授業を受けていると理解がより深まる。

履修上の注意 /Remarks

理論的な解説が主になるので、背景の社会的知識が必要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化社会学 【昼】

担当者名
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の前半においては現代文化の特徴についての諸理論を解説し、後半はその応用領域として観光文化について、主に理論的に講義をする。本講義では文化を、「真/偽」「美/醜」「善/悪」等の基準はカッコに入れ、それらの基準を成り立たせているメカニズムとして分析的に考える。

教科書 /Textbooks

特になし（レジュメ資料を配付）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

須藤廣『観光化する社会』ナカニシヤ出版（2008年5月）2500円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 【文化】とは何か(【イメージ】の生産とイメージの解釈・消費のしくみについて)
 - 2回 【近代化】と文化1 (M・ウェーバーの近代化論を中心に)
 - 3回 儀礼と世俗化 (V・ターナーの通過儀礼論、PLバーガーの世俗化論を中心に)
 - 4回 【マクドナルド化】と消費社会化 (イメージの生産とイメージの消費についての近代システム)
 - 5回 【ポスト・モダニズム】と【消費文化】消費文化1 建築・絵画
 - 6回 【ポスト・モダニズム】と【消費文化】消費文化2 絵画・写真
 - 7回 【ポスト・モダニズム】と【消費文化】消費文化3 映画・音楽
 - 8回 現代社会と表象システム
 - 9回 【観光】文化とは何か (近・現代社会と場所の消費としての観光について)
 - 10回 日常世界の観光化と観光の日常化 (テーマパークとモールについて)
 - 11回 観光とメディア (ハワイの観光化過程を中心に)
 - 12回 観光とアイデンティティの政治学
 - 13回 グローバリゼーションと文化
 - 14回 【ディズニー化】と観光文化
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題30% 試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

9回以降では、指定された参考書に従って授業を進める。

履修上の注意 /Remarks

理論的な解説が主になるので、背景の社会学的知識が必要になる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

理論社会学【昼】

担当者名 鈴木 健之 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

概要：ヨーロッパの社会学理論の潮流とアメリカの社会学理論の潮流との交流において、社会理論・社会学理論の過去、現在、未来を描き出してみたい。第1部「ヨーロッパの古典社会学」、第2部「アメリカの古典社会学」、第3部「アメリカの準古典社会学」、第4部「ヨーロッパの準古典社会学」という構成で、下記の理論家を取り上げ、講義する。

ねらい：社会学の使命は「自由で平等な市民の連帯」の「可能性」（同時にその困難さ）を解き明かすことにある。理論社会学は、自由で平等な市民の連帯について、原理的な考察を加えていく社会学の下位領域である。授業では、社会学の古典に学びつつ、21世紀における市民の連帯について、皆さんと一緒に考えていきたい。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。授業開始時に「プリント」を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は授業において適宜指示するが、とりあえず以下の文献を参考書として挙げておく。

新睦人編『新しい社会学のあゆみ』有斐閣
鈴木健之『社会学者のアメリカ - 機能主義からネオ機能主義へ -』恒星社厚生閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第1部：ヨーロッパの古典社会学
- 第2回 A・コント
- 第3回 K・マルクス
- 第4回 E・デュルケム
- 第5回 M・ウェーバー
- 第2部：アメリカの古典社会学
- 第6回 G・H・ミード
- 第7回 A・シュッツ
- 第8回 T・パーソンズ
- 第3部：アメリカの準古典社会学
- 第9回 C・W・ミルズ
- 第10回 H・ガーフィンケル
- 第11回 J・アレクサンダー
- 第4部：ヨーロッパの準古典社会学
- 第12回 J・ハーバーマス
- 第13回 A・ギデンズ
- 第14回 Z・バウマン
- 第15回 試験

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(40%)、試験(40%)、出席(20%)を目安に総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中講義なので、毎回の出席は言うまでもない。集中講義期間中に読むべき文献とレポート提出にあたり読むべき文献をそれぞれ指示するので、リストに挙げられている文献はすべて必ず読んでほしい。

履修上の注意 /Remarks

とくになし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加をお願いしたい。

キーワード /Keywords

自由で平等な市民の連帯、絶対化と相対化、ユニバーサリズム (universalism)とパティキュラリズム(particularism)

教育社会学【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、家族、学校、地域社会等で観察される諸事象をとりあげて社会学的な視点から分析をし、教育社会学の基礎的な概念を提示していきながら、教育に関する事象について、社会学的な見方、考え方ができるようになることをめざす。

教科書 /Textbooks

プリント（講義レジュメ・資料）を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

配布プリントに提示する他、授業中、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育社会学の対象と方法
- 2回 家族の諸形態と教育の機能
- 3回 子どもの社会化の課題
- 4回 学校・教室空間と教育過程
- 5回 教師文化と生徒文化の生成・葛藤
- 6回 若者と職業をめぐる課題
- 7回 学校と地域の歴史
- 8回 「地域の教育力」をめぐる課題
- 9回 生涯学習社会における学び
- 10回 友人関係における葛藤
- 11回 高度消費社会に生きる若者
- 12回 新たなメディアのなかの関係
- 13回 少年非行と教育・社会の課題】
- 14回 教育における格差
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題（試験） 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたり、配布したレジュメ・資料をよく読むこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 明間 肇 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ポスト近代（情報社会・高度消費社会）が大きな近代化の流れの中でいかに成立してきたのか、また、社会意識がいかに変容してきたのかを考えていきます。現在の状況がいかに大きな転換点か、また、それがもつ意味について考えたいと思います。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

須藤廣『観光化する社会』ナカニシヤ出版（2008年5月）、田中義久編『関係の社会学』弘文堂（1996年2月）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要の説明：問題提起および問題意識の所在
- 2回 【市民社会】における【情報社会】の位置づけ：市民社会の歴史的な規定性の貫徹
- 3回 【脱魔術化】の過程としての【近代化】：【近代市民社会】の意識のあり方および【高度消費社会・情報社会】の位置づけ
- 4回 社会学の成立と近代の関係および補足：【資本制社会】の成立過程における個人と社会のあり方の変容
- 5回 補足・討論
- 6回 【ポスト近代】における【生産】と【消費】の関係の変容：情報の【商品化】。【アウラ】なき時代における【再魔術化】と【ブラックボックス化】
- 7回 【メディア】について 【記号性】の終焉とリアル：リアルという新たな【アイコン】の出現
- 8回 【メディア】について 【記号性】の終焉とリアル：リアルという新たな【アイコン】の出現（続き）
- 9回 【メディア】について 【身体性】とどう関係するのか
- 10回 補足・討論
- 11回 近代権力とは何か：近代化と【生-権力】の成立の関係
- 12回 主体の成立：【言語】と【主体】
- 13回 ポストモダニズムについて
- 14回 補足・討論
- 15回 試験

成績評価の方法 /Assessment Method

学習状況...40% レポート...30% 試験...30%
出席は毎回とりますので、出席状況も評価の対象となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

とくにありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的に質問していただくと、理解が深まるでしょう。

キーワード /Keywords

脱魔術化 アウラ 記号 シニフィアン シニフィエ 高度消費社会 ポストモダン

フィールドワーク論 【昼】

担当者名 藪田 慎司 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フィールドワークを行う学問分野は幅広い。この講義では特に科学的方法の一つとしてフィールドワークを論じる。従って、科学とは何かも考えることになる。具体例を多くあげて講義をする。具体例は、人類学、霊長類学、博物学などからとる。講師が専門とするのは自然科学の一分野である動物行動学であるが、この分野もまたフィールドワークを重要な方法論としている。この分野からも実例をあげながら講義を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) 「フィールドワーク」とは何か
- 2) 機能人類学とフィールドワーク
- 3) 博物学とフィールドワーク
- 4) 科学的方法論としてのフィールドワーク
- 5) 問い、科学、理論、観察、実験、フィールドワーク
- 6) 観察という方法論
- 7) 理論とは何か
- 8) 動物行動学とフィールドワーク1
- 9) 動物行動学とフィールドワーク2
- 10) フィールドを開く、フィールドに入る
- 11) フィールドワーカーと精神の不安
- 12) フィールドワーク小実習
- 13) 映像について
- 14) 横断性について
- 15) まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義期間中の小レポート (20%) と講義終了後のレポート (80%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自分の興味分野に関連してフィールドワークをしたらどんなふうになるか、考えておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の順序は、皆さんの反応を見ながら多少変更されます。

キーワード /Keywords

人間環境地理学【昼】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちは、豊かで穏やかな自然の中にいる時には、自然を安息と感じ、荒れ狂う自然の中では、自然を猛威と感じる。しかし、穏やかな自然も、荒れ狂う自然も共に自然の規則正しい営みであり、私たちは、そのような自然の営みの中で生活している。また、気候変動のように、気付かないうちに忍び寄ってくる猛威もある。しかしながら、このような認識は、当たり前のように、実感として理解するまでには至らないことが多い。この科目では、私たちの生活の場を地球規模で考えることができるようになることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし (授業時にプリントを配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「自然災害を読む」 (小島圭二著 岩波書店)
- 「気候が文明を変える」 (安田喜憲著 岩波書店)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 自然の猛威が私たちの住む場所を作っている。【自然の猛威】
- 2 回 自然の猛威とはなにか。
- 3 回 自然の猛威には、どのようなものがあるか。
- 4 回 世界にみる自然の猛威の分布。【変動帯】【安定帯】【気候】
- 6 回 生物に由来する自然の猛威。【生物災害】【疫病】
- 5 回 気象に由来する自然の猛威。【干ばつ】【砂漠化】
- 6 回 熱帯林と生物多様性、疫病。
- 7 回 日本は、災害の国。【島原大変】
- 8 回 火山の巨大噴火。【火山災害】
- 9 回 火山の噴火と気候変動。【小氷期】
- 10 回 豪雨と治水の歴史。
- 11 回 最近の治水についての考え方。【ハザードマップ】
- 12 回 環境と文明 I 気候の変動は文明に大きな影響を与えた。
- 12 回 環境と文明 II 縄文時代の始まりと終焉に気候変動が関わっている。
- 13 回 環境と文明 III 弥生時代の始まりの時期は、大規模な気候変動期でもあった。
- 14 回 自然の猛威とのつきあいかた
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 80% 小レポート... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献や授業中に配布する資料、および授業内容に関連する新聞記事などを読んでおくとより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間性の進化 【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「後日揭示」

教科書 /Textbooks

「後日揭示」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「後日揭示」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「後日揭示」

成績評価の方法 /Assessment Method

「後日揭示」

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「後日揭示」

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較表象文化 【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では声・身体を人間の最も身近なメディアとして位置づけプロフェッショナルな表現行為の分析を講義する。表象を比較するうえでの方法にも随時注意しながら、人間の感動、喜怒哀楽といった感情を引き起こすさまざまな技術、及びその技術を可能にしている条件について考えてみたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 発話の重層性① 落語(1) 【ひとり語り】
 - 第3回 発話の重層性② 落語(2) 【言葉と身体】
 - 第4回 発話の重層性③ 文楽【語り物】
 - 第5回 発話の重層性④ 文楽【多声性】
 - 第6回 ジャンルの連鎖① 浪花節(1) 【物語の構造】
 - 第7回 ジャンルの連鎖② 浪花節(2) 【盛衰】 【メディア】
 - 第8回 発話の時空① 紙芝居【大道】
 - 第9回 発話の時空② 紙芝居【教育】
 - 第10回 発話の重層性⑤ 語りの人格【声優】 【語り物】 【JPOP】
 - 第11回 発話の重層性⑥ 漫才【ダイアローグ】 【宗教性】
 - 第12回 発話の重層性⑦ 漫才【変貌と消費】
 - 第13回 声のメディア性① ニュースとは何か【日常会話化】 【アナウンス】
 - 第14回 声のメディア性② 深夜放送【若者文化】 【高齢者文化】
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(コメントカード、小テスト、課題、授業態度など) ...約20% 学期末レポート約80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の大衆文化【昼】

担当者名 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義で扱う「大衆文化」とは、メディア史・都市史を補助線としつつ形成されて流通してきた文化を指している。本講義では大衆文化史を、大衆芸能のジャンル生成を焦点としながら他分野にも目配せをして概観していく。なお授業では、メディア環境の転換点を見極めつつ、日常生活の変容、思想の変容を関係させながら、大衆文化を概観をする。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	ガイダンス	講義のデザイン
第2回	●近世●	近世都市の大衆①【印刷文化】
第3回		近世都市の大衆②【劇場】【寄席】
第4回	●近代●	幕末・文明開化【芸能統制】【改良言説】【新聞錦絵】
第5回		世紀転換期①【言文一致】【活動写真】
第6回		世紀転換期②【国家戦争】【レコード】
第7回		両大戦間期【民衆娯楽】【モダニズム】【労働問題】【大衆文学】
第8回	●近代～現代●	メディアの浸透①【電気吹き込み】【トーキー】
第9回		メディアの浸透②【ラジオ】
第10回		総力戦・戦後占領【国家総動員】【GHQ】【軍国主義から民主主義へ】
第11回	●現代●	民主主義の胎動 民間放送【グラビア雑誌】【視聴者参加】
第12回		高度経済成長①【ナショナルメディアとしてのテレビ】【映画における英雄像】
第13回		高度経済成長②【大衆文化論の系譜】
第14回		大衆文化の現在【サブカルチャー】【グローバリズム】
第15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(コメントカード、課題など)...約15%
学期末レポート...約85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備は特に必要ないが、各回の講義の内容は、以降の講義につねに関連していくことになる。したがって、講義内容を各自自主的に見直していく必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義、教師の役割、教師の職務内容等に関する知識の修得と、教職についての理解と考察の過程を支援することによって、教育と教職に対する実践意欲を喚起し、同時に教育と指導のあり方について助言する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回 教育とは何かI	【学校教育】 【学習と生活】
2回 教育とは何かII	【教育】 【学校】 【生活と文化】 【教育の二つの思潮】
3回 教育の目的	【教育目的論】 【学校と学習】
4回 教育の内容	【教育課程】 【教育課程の編成原理】 【教育課程の歴史】
5回 教育の方法	【指導の本質】 【指導の方法】
6回 生徒指導のあり方	【生徒指導の前提】 【生徒指導の伝統】
7回 職業指導・進路指導	【キャリア教育】 【職業選択の基礎理論】
8回 教師本来のあり方	【教師の仕事】 【子どもの見方】
9回 生徒の生きる力を育てる教育	【生きる力】 【青少年の意識】
10回 性の教育	【思春期の発達】 【カリキュラム】
11回 教育評価	【評価の種類】 【体罰と懲戒】
12回 いのちの教育	【生と死の教育課程】 【いのちの教育の方法】
13回 身体教育	【食教育】 【排便教育】
14回 これからの教育	【学校の役割】 【中等教育】
15回 教師の「資質」とは何か / まとめ	【教師の禁句】 【指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯学習学【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生涯学習社会への移行が叫ばれる現代、生涯にわたって私たちが主体的に学んでいくことの重要性が認識され、そうした学びをサポートする職員・指導者・リーダー・機関・施設・制度など条件整備が問われています。

本講義では、社会教育の法制度、国際的な生涯教育論の展開なども視野に入れつつ、生涯学習を支援・推進する制度・システムについて考えていきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- 『講座 主体形成の社会教育学』1～4巻、山田定市監修、北樹出版
- 『新社会教育講義』小川利夫編、大空社
- 雑誌『月刊 社会教育』国土社
- 雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会
- 雑誌『月刊 公民館』全国公民館連合会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生涯学習・社会教育の意義
- 2回 生涯学習ボランティア -学ぶことと成果の還元
- 3回 社会教育と生涯学習関連の法制度
- 4回 社会教育施設と生涯学習施設
- 5回 生涯学習関連施策の動向
- 6回 学習者の特性と学習の継続発展-学習相談、サービス、学習情報
- 7回 社会教育の内容・方法・形態-学級・講座の企画
- 8回 社会教育及び生涯学習関連の指導者とボランティア
- 9回 社会教育施設-公民館
- 10回 社会教育施設-博物館
- 11回 社会教育施設-図書館
- 12回 大都市における公民館-北九州市
- 13回 図書館、博物館における学習・グループ活動
- 14回 成人教育の国際的動向
- 15回 住民の力量形成と地域づくり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(授業中の小レポートを含みます。) ... 80% レポート ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学芸員資格や社会教育主事の必修科目の基本科目として、この授業を先に受講するか、あわせて受講すると、資格科目の理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

主体形成論 【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生涯学習社会への移行は私たち自身にも、これまで経験してきた知識中心の学習とは、まったく異なった学ぶ能力が必要になっていることを示しています。
本講義では、人間が主体的力量を形成していく（主体形成）とはどういうことか、その課題やプロセス、そして支援について、様々な領域の学習実践を取り上げながら考えていきます。
こうした検討を踏まえて、学習要求・ニーズと、学習必要・学習課題との区別と関連や、人間が主体的力量を形成していく意義、そして、それを支える専門性の重要な役割について理解を深めます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- 『講座 主体形成の社会教育学』1~4巻、山田定市監修、北樹出版
- 末本誠他編著『新版 生涯学習と地域社会教育』春風社
- 雑誌『月刊 社会教育』国土社
- 雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会
- 雑誌『月刊 公民館』全国公民館連合会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

生涯学習・社会教育の多様な活動、分野を取り上げながら、主体形成について考えます。

- | | |
|-----|-----------------------------|
| 1回 | 生涯学習・生涯発達をとらえる枠組み |
| 2回 | 生涯学習・生涯発達のプロセス-自己形成史を通して考える |
| 3回 | 消費者学習と主体形成 |
| 4回 | 自然環境と主体形成 |
| 5回 | 環境問題と社会教育-北九州市の公害学習 |
| 6回 | 持続可能な社会と主体形成 |
| 7回 | ジェンダーと主体形成 |
| 8回 | 男女共同参画と男女平等 |
| 9回 | 人権と主体形成 |
| 10回 | 平和と主体形成 |
| 11回 | 子どもと主体形成 |
| 12回 | 子育てと主体形成 |
| 13回 | NPOと主体形成 |
| 14回 | 地域づくりと主体形成 |
| 15回 | エンパワーメントの支援 |

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(授業中の小レポートを含みます。) ... 80% レポート... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1学期科目の生涯学習学とあわせて受講すると内容が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 2単位
学期 /Semester 1学期 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育相談の領域は、1.「学業的発達」、2.「キャリア的発達」、3.「個人・社会的発達」の三つに区分され、また、学校教育相談の機能は、① 一次的支援(開発的教育相談)、②二次的支援(予防的教育相談)、③「三次的支援」(問題解決的教育相談)から構成される。本授業では、学校教育相談の領域や機能について、教育相談の基本的な理論と技法の学習もふまえて提起していきたい。

さらに、不登校やいじめなど、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助、また、課題を抱える保護者への理解と援助を進めていく際の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1～4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の領域
- 3回 教育相談の機能 その1 - 一次的支援
- 4回 教育相談の機能 その2 - 二次的支援、三次的三次的支援
- 5回 教育相談の基本的な理念について
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 8回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 9回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 10回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 11回 不登校の子どもに対する教育相談
- 12回 保護者に対する教育相談
- 13回 教育相談活動における連携について - スクールカウンセラーとの連携に視点をあてて
- 14回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談、いじめ問題

生徒・進路指導論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義と課題について、積極的生徒指導(子どもの発達支援としての生徒指導)に視点をあてて検討していくこと。
 - ② 養育環境や発達上の困難な課題を抱える子どもの内面に寄り添う生徒指導の課題について検討していくこと。
 - ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を支える進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の社会情勢も含めつつ検討していくこと。
- 本授業のキーワードは、積極的生徒指導、児童虐待、進路指導である。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 生徒・進路指導論の意義と課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際 その1
- 3回 学校現場での生徒指導の実際 その2
- 4回 子どもの発達支援としての生徒指導の課題と方法 ー 文科省編「生徒指導提要」を手がかりに その1
- 5回 子どもの発達支援としての生徒指導の課題と方法 - 文科省編「生徒指導提要」を手がかりに その2
- 6回 生徒指導における関係諸機関との連携について - スクールソーシャルワークに視点をあてて
- 7回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導その1
- 8回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導 その2
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 今日の高等学校の問題状況と進路指導の課題
- 13回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 14回 虐待サバイバーに対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの第II部(5, 6章)をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達支援としての生徒指導、児童虐待、進路指導

次世代育成論 【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、子どもに対する教育活動を中心に、次の2つのことを柱にして授業を進めます。

①少子化社会や次世代育成について

②それぞれの発達段階における子どもたちの自立のプロセスを支援する地域活動、地域教育のあり方について実践報告を手がかりにしながら検討する。

こうしたことを踏まえて、子ども自身の活動や、子どもに関わる大人や地域・社会の課題や可能性について考えます。学外講師を招いて、実際の活動の状況や課題について理解を深めます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 少子化の現状と次世代育成の課題
- 2回 小学校に見る子どもの現状と課題
- 3回 中学校に見る子どもの現状と課題
- 4回 今日の子育ての危機と子育て支援、子育て共同、子育てネットワークの課題
- 5回 諸外国における少子化対策
- 6回 共同保育所みる子どもの成長と関わり
- 7回 障がいを持つ親子の居場所づくりの実践
- 8回 プレーパーク(冒険遊び場)
- 9回 子ども劇場、親子劇場
- 10回 子育て支援の現状と課題
- 11回 地域と子ども・子育て
- 12回 子ども会やPTA
- 13回 メディアと子ども
- 14回 次世代育成の到達点と課題
- 15回 子ども活動と子どもの権利の保障

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(授業中の小レポートを含みます。) ... 80% レポート... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回取り上げるテーマが異なるので、子どもや子育ての実情について理解を深めながら、関連する情報の整理を行い授業時のレポートに反映させて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会教育計画論【昼】

担当者名 相戸 晴子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会の課題解決に向けて、市民の主体的な学習活動が実践されている。そこには、一人一人が学習主体として学ぶ環境が醸成されていることによって、個々人の課題からの解放、地域や社会を創る学びへの展開がなされている。それら、各々の課題に向き合う学習主体の形成を引き出していくのは、社会教育関係者の学習支援によるものが大きい。

さらに、昨今の急激な社会の変化は、学習者の課題、社会教育・生涯学習を巡る法制度の改変、社会教育行政の縮小化（行政と民間の協働や社会教育施設への指定管理の導入、行政中心から民間の役割重視）等、社会教育の枠組みのとらえなおしを余儀なくされている。そこでは、現代の状況をとらえ、過去の歴史を学び、今後の方向性を見通し学びを組み立てていく社会教育関係者の計画化の資質が求められているのである。

そこで、本講義では、人が学ぶということ、社会教育を巡る歴史や法制度の基礎理解を踏まえながら、課題にアプローチする多様な学習実践を見つめ、「学習主体の形成」を支える社会教育の計画化とはどのような視点と実践が求められているのかについて探っていくこととする。

教科書 /Textbooks

- ・ なし
- ・ 適宜レジュメを配布する。
- ・ 必要な際は、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 藤田秀雄『ユネスコ学習権宣言と基本的人権』教育史料出版会、2001年、2,500円。
- 上田幸夫、辻浩編『現代の貧困と社会教育』国土社、2009年、2,000円。
- 末本誠・松田武雄編『生涯学習と地域社会教育』春風社、2004年、2,476円。
- 南里悦史編『教育と生活の論理』光生館、2008年、2,200円。
- 正平辰男、永田誠、相戸晴子『子どもの育ちと生活体験の輝き』、あいり出版、2010年、2,500円。
- 山本恒夫他『社会教育計画』文憲堂、2007年、1,800円。
- 南里悦史・松田武雄編『校区公民館の再構築-福岡の校区公民館の歴史と実践-』北樹出版、2005年、2,730円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション：人が学ぶということ～ユネスコ「学習権宣言」～
- 第2回社会教育の基礎理解1 法体系にみる社会教育を巡る変容
- 第3回社会教育の基礎理解2 公民館・社会教育施設を巡る変容
- 第4回社会教育計画の基本的考え方・社会教育調査とデータの活用
- 第5回現代社会の課題認識と社会教育事業の計画立案
- 第6回社会教育の対象理解と組織化1【事例】子ども主体の学び
- 第7回 “ 2【事例】子育て主体の学び
- 第8回 “ 3【事例】女性（問題）主体の学び
- 第9回 “ 4【事例】福祉のまちづくり主体の学び
- 第10回 “ 5【事例】自然環境の共生主体の学び
- 第11回 “ 6【事例】在日外国人主体の学び
- 第12回学習情報の収集整理と学習相談の方法
- 第13回社会教育の広報・広聴
- 第14回社会教育施設の経営と社会教育評価
- 第15回総括～社会教育計画で大切にしたい視点と実践～

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・60%、日常の授業の取組み・・・30%、小レポート・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この授業を受講する場合には、「社会教育」「生涯学習」の関連授業を履修していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

資料の管理やノート整理の徹底（持込試験のため）。議論は大いに私語は厳禁。授業への積極的参加。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多様な実践事例に触れながら、社会教育の担い手に求められる社会教育計画の資質を体験的に学びましょう。

社会教育計画論 【昼】

キーワード /Keywords

学習主体、地域参加、社会教育実践、学習支援、社会教育計画。

生涯学習編成論【昼】

担当者名 山下 厚生 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生涯学習時代といわれ、生涯にわたって学ぶことのできるようになった今日、生涯学習の意義や役割について具体的事例や学習集団による実践を示しながら授業を進めます。
併せて、新しい時代に対応した行政施策、運営のあり方、住民や学習者が求めている多様な要求・課題への取り組み等について考えながら、学校教育・社会教育・家庭教育との関連についても考察し、理解を深めます。

教科書 /Textbooks

とくに教科書は指定しません。毎回レジュメ・資料を配布します。また、授業の中で参考文献の紹介もその都度していきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「社会教育・生涯学習ハンドブック」第8版 社会教育推進全国協議会編 エイデル研究所
- 「岐路にたつ大都市生涯学習」上野景三・恒吉紀寿編著 北樹出版
- 「多文化共生のまちづくり」青春学校事務局編 明石書店
- 「現代社会教育の課題と可能性」松田武雄著 九州大学出版会
- 「現代の貧困と社会教育」上田幸夫・辻浩編著 国土社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1、概論
 - 第 1 回 社会教育・生涯学習の歴史と現在(いま)・・・全国・福岡県・北九州市
- 2、課題と実践
 - 第 2 回 子どもを取り巻く問題・・・子育て・子育て・親育ち、「あそびの学校」の実践を通して
 - 第 3 回 学習支援の形態と実践・・・識字と交流の自主教室『青春学校』を通して
 - 第 4 回 生涯学習時代の学習権を考える・・・～学ぶことは生きること～
 - 第 5 回 生涯学習とボランティア、少子高齢社会とボランティア活動
 - 第 6 回 生涯学習現場の実際活動から・・・講座・クラブ・サークル活動、郷土の歴史の掘り起こしと伝承 など
 - 第 7 回 地域づくり・まちづくりと生涯学習・・・「地域自治」と新しいコミュニティ
 - 第 8 回 学校教育と社会教育の連携・融合・・・北九州市で展開されている学社連携・融合事業
 - 第 9 回 生涯学習の現代的課題・・・少子高齢化、人権、男女共同参画、健康問題、地球環境、貧困と社会的排除 など
 - 第 10 回 女性と社会教育・生涯学習・・・社会教育からみた近代女性史、公民館等が取り組む女性の学習活動
 - 第 11 回 「青年教育」「青年問題」の歴史と課題・・・青年教育の流れと、現代の若者の課題
- 3、論者とディスカッション
 - 第 12 回 NPO、指定管理者制度等と社会教育・生涯学習
 - 第 13 回 「教育」と「福祉」の連携(関係)について考察
 - 第 14 回 北九州市の生涯学習、今後の課題と展望
- 4、「生涯学習編成論」のまとめ・レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50%
まとめのレポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会教育・生涯学習の基本法令(憲法・教育基本法・社会教育法)を入手(コピー等)しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

授業で配布するレジュメ・資料は、必ずファイルして毎回持参してください。

生涯学習編成論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 1、時間厳守、遅刻は成績評価に反映させます。
- 2、授業中の私語は、他人の「学習権」を侵害することになります。他人の迷惑になる行為は絶対に慎んでください。
- 3、参加型の授業も取り入れていきたいと思えます。積極的に発言・参画してください。

キーワード /Keywords

生涯学習 社会教育 公民館 市民センター 社会教育施設 地域課題 生活課題 自立 協働・共同
遊びと体験 学習権 学び 条件整備 高齢社会 生きがい 主権者 ボランティア 貧困

現代社会と社会教育 【昼】

担当者名 /Instructor 山口 保夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会には、少子高齢化、経済格差の拡大、非正規雇用の増大、社会保障費の急増、グローバル化、教育、人権、環境、国際貢献をはじめとする、さまざまな課題が山積している。

これらの課題を克服し、暮らしやすく生甲斐のある社会を永続的に構築していくために、社会教育はどのように関わり、いかなる役割を担うべきかについて学習し、理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『市民政治再考』(高島通敏著 岩波ブックレット ¥480)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- I. 現代社会の現状と課題 (1回～5回)
 - 1回 少子高齢化 (人口、少子化、高齢化～社会構造の変化)
 - 2回 格差社会 (経済・社会・教育～格差の拡大再生産)
 - 3回 社会保障費 (年金・生活保護・医療費の急増～財源問題)
 - 4回 男女共同参画 (ジェンダー・労働格差・子育て～役割分担)
 - 5回 国際貢献 (環境・国連・テロ対策・国防～平和憲法)
- II. 市民(個人)の主体性の確立 (6回～10回)
 - 6回 基本的人権
 - 7回 市民社会論
 - 8回 討議デモクラシー
 - 9回 市民政治
 - 10回 市民力の養成 (知識・判断力・実践力……自己実現派市民の育成)
- III. 社会教育の役割 (11回～15回)
 - 11回 公民館・市民センターの活動
 - 12回 図書館の役割
 - 13回 地域・コミュニティの活動
 - 14回 生涯学習の重要性
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・40% 小テスト・・・30% レポート・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日常の新聞等をよく読んで、現代社会の問題点を認識すること。
授業にあたって、各回授業で配布するレジュメをよく読み込んでいくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基本的人権 少子高齢化 人口減少 格差社会 社会保障 男女共同参画 国際貢献 市民の主体性
地域コミュニティ活動 生涯学習

教育学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授 - 学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授 - 学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授 - 学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授 - 学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出 (20%), レポート (30%), 試験 (50%) により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【昼】

担当者名 田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育も含む）における「道徳教育」について学修するためのものである。この「学校教育」における「道徳教育」については、「学習指導要領」に規定されているので、それを基礎にして、具体的な道徳教育のあり方と指導方法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
 - 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
 - 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
 - 4回 「特別活動」と道徳教育 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
 - 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【活動】
 - 6回 「道徳の時間」と道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
 - 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
 - 8回 「道徳の時間」の指導技術 【指導技術】 【指導事例】
 - 9回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
 - 10回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
 - 11回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
 - 12回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
 - 13回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
 - 14回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
 - 15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学 【昼】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校の教育も含む）における教育方法についての理論と具体的な方法・技術を学修する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著『教育の方法』ミネルヴァ書房、他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 「教育方法」とは何か 【教育方法の形態】 【比喩・モデル】
 - 2回 21世紀の教育方法 【指導】 【管理】 【生活と文化】 【対話】
 - 3回 「授業（学び）」の構想 【授業の三角形モデル】 【事前の教材解釈】
 - 4回 授業における展開と「タクト」 【競争原理】 【教授学的タクト】
 - 5回 学びを反省・評価する 【評価の方法】 【自己評価能力】
 - 6回 学びのシステムのこれまでとこれから 【出席と参加】 【学習規律】
 - 7回 「学び」の具体的システムづくり 【相互主体論】 【受容】
 - 8回 これからの学びを支える新しいネットワーク 【メディアリテラシー】 【情報活用能力】
 - 9回 情報機器と教材の活用 【マルチメディア】 【授業形態】
 - 10回 新しい教師への道を拓く 【教師の資質能力】 【ファシリテーター】
 - 11回 性教育の指導の視点 【ジェンダー】 【性】
 - 12回 学習遅滞の指導 【学習遅滞】 【学習障害】
 - 13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション 【発話】 【聴取】
 - 14回 教育方法における「近代」と「現代」 【連続と非連続】 【現代化】
 - 15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ 【指導】 【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論 【昼】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「世界が100人の村だったら」【世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ】【非識字者・同性愛者の人権】【人権教育のスキル・技能】
- 第2回 いじめ差別①(現状認識)【いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)】【各種調査(教育白書・国際調査等)】
- 第3回 いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)【いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理】【文部科学省のいじめ定義】【道徳教育と人権教育の相違点】
- 第4回 いじめ差別③(解決への教育創造)【文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」】【金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」】【自尊感情と学力形成の相関関係】【学校文化と子どもの居場所づくり】
- 第5回 子どもの人権と児童虐待防止法【児童虐待の現状認識(新聞記事・教育白書等)】【教師の責務と教育・啓発の教育創造】
- 第6回 ものけ姫①(メッセージからの課題)【物語の時代背景と登場人物から課題の整理】【ハンセン病問題と国の隔離政策】【国家賠償と社会復帰】
- 第7回 ものけ姫②(メッセージからの課題)【女性差別の歴史】【学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える】
- 第8回 同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)【身分差別をつくったのは、誰?】【中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義】
- 第9回 同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)【身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?】【「賤民」身分にされたのは、どんな人々?】【一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義】
- 第10回 同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)【解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?】【一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚】
- 第11回 同和問題との出会い直し④(文学者と部落差別)【小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)】
- 第12回 同和問題との出会い直し⑤(結婚差別)【結婚差別の事例からの課題と解決への展望】【しきたり・ならわし・慣習との出会い直し】
- 第13回 同和問題との出会い直し⑥(人権文化の創造)【教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度】
- 第14回 同和問題との出会い直し⑦(国の施策)【1965年の同和対策審議会・答申の意義】【1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義】
- 第15回 同和問題との出会い直し⑧(人権文化のまちづくり)【各地の人権文化のまちづくりの現状】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(30%)及び学期末のレポートによる評価(70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の中で課題を出します

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ① 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を理論的、実践的に深めること。
- ② 市民社会の担い手に求められる市民的スキルを学級活動などを通じて獲得させていく方法を実践的に学習すること。
- ③ 子どもたちの自治の力を育む生徒会活動、学校行事の在り方について、具体的な実践報告を踏まえつつ検討していくこと。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動 その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターン
- 5回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その3 - ロールプレイの取り組み
- 7回 すべての子どもの居場所となる学級づくりの課題 - 班ノート、班活動などに視点をあてて
- 8回 すべての子どもの居場所となる学級づくりの課題 - 班長・リーダー指導に視点をあてて
- 9回 子どもたちの自治の力を育てる生徒会活動の課題
- 10回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 体育祭の取り組み
- 11回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 文化祭・合唱コンクールの取り組み
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる学校行事の課題 - 修学旅行の取り組み
- 13回 荒れている学級をどう立て直すか? - 中学校の実践
- 14回 荒れている学級をどう立て直すか? - 高等学校の実践
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は人間関係学科の専門科目にもなっていますが、基本は教職課程の科目です。教師をめざす学生に求められる真摯な授業態度や積極的な活動への参加を期待します。

キーワード /Keywords

学級集団づくり、対立解決のスキル、自治能力の育成

博物館概論 【昼】

担当者名 永尾 正剛 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまでの日本の博物館の建設事情と経緯・変遷とともに、「博物館法」に定義された公立博物館を取巻く諸環境を検証しながら、博物館の事業の有り方と課題を考える。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを用意し、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 『博物館関係法令集』 (日本博物館協会)
- ・ 網干善教編『博物館学概説』 (関西大学出版)
- ・ 『博物館学講座』全10巻 (雄山閣)
- ・ 『月刊 博物館学研究』 (日本博物館協会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「博物館法」の理念を理解する
- 2回 日本の博物館の種別と建設事情
- 3回 博物館と学芸員資格
- 4回 公立博物館の運営基準
- 5回 博物館が抱える諸問題、特に経費と利用者
- 6回 博物館を取巻く自然環境と地域性
- 7回 博物館内部の環境と施設の配置
- 8回 博物館の事業①〈普及活動〉
- 9回 博物館の事業②〈資料の保存と活用〉
- 10回 市民との連携、特にボランティア・友の会活動
- 11回 学校教育の支援
- 12回 博物館と関連の法律①〈文化財保護法〉
- 13回 博物館と関連の法律②〈図書館法〉
- 14回 博物館の将来を考える
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験 (一部レポートの場合もある)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞などに取り上げられる博物館の情報に気を配るとともに、1~2の博物館を観覧しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

学芸員資格を取得するという強い意志を持つこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツ産業論【昼】

担当者名 /Instructor 中西 純司 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

[授業のねらい]

スポーツは、①個人的価値、②社会的価値、③鑑賞的価値、④経済的価値、④国際的価値といった様々な価値を有し、人々の暮らしや生活を豊かにする可能性を持った「文化」である。本授業では、こうした文化的観点からスポーツ産業を捉え、スポーツと社会・経済との関連性について説明する。

講義全体のキーワードは、「スポーツマネジメント」である。

[主要な学習内容]

スポーツ産業、とりわけ「スポーツサービス産業」について解説し、そうした産業基盤を支えるための「スポーツマネジメント」の知識と技術について学習することを主な内容とする。

[到達目標]

本授業を学習することによって、学生は以下のような知識を身に付けることができる。

1. スポーツ産業の概念と歴史的発展経緯について説明できる。
2. スポーツ産業の「文化産業」「教育産業」としての特性について指摘できる。
3. スポーツ産業の現状や事例について討議することができる。
4. スポーツマネジメントの知識について習得することができる。
5. スポーツビジネスの知識を深めることができる。

教科書 /Textbooks

山下秋二・原田宗彦編著「図解スポーツマネジメント」（大修館書店、2005）
（資料等については、必要に応じて、配布する予定である）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

原田宗彦他著「スポーツマネジメント」（大修館書店、2008）
原田宗彦他著「スポーツ産業論入門（第4版）」（杏林書院、2008）
山下秋二他著「スポーツ経営学」（大修館書店、2000）
山下秋二他著「改訂版 スポーツ経営学」（大修館書店、2006）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のような内容と計画で講義を行う。

1. オリエンテーション：学習の目的、内容、方法（授業方法や成績評価方法など）
2. スポーツ産業とは何か？【スポーツ産業の範囲と構造】【国民スポーツ総生産(GNSP)】
3. スポーツを動かす力【スポーツ】【マネジメント】【スポーツマネジメント】
4. スポーツサービス産業を支えるスポーツマネジメント基礎知識【スポーツ文化】【スポーツイノベーション】【スポーツアドミニストレーション】
5. スポーツ組織の仕事【スポーツビジネス】【スポーツマーケティング】【スポーツオペレーション】
6. スポーツ市場のメカニズム【スポーツコンシューマー】【購買プロセス】【スポーツブランド】
7. スポーツビジネスの発展【スポーツイベント】【クラブビジネス】【プロスポーツの組織化】
8. スポーツ組織のビジネス環境【スポーツスポンサー】【選手組合】【スポーツエージェント】
9. スポーツマーケティング・アプローチ【関係性マーケティング】【競争対応】【スポーツ倫理】
10. スポーツマーケティング・プロセス【ターゲティング】【スポーツ満足ポートフォリオ】【スポーツプロモーション】
11. スポーツプロダクトの概念【プロダクト構造】【プロダクトライフサイクル】【プロダクトミックス】
12. スポーツサービスの品質管理【サービス】【サービスオリティ】【サービス戦略】
13. スポーツのチームメイク【ゼネラルマネジャー】【スポーツスカウティング】【チーム戦略】
14. スポーツのコーチング【コーチング】【リーダーシップ】【モチベーションマネジメント】
15. スポーツゲームのプロデュース【スポーツプロデュース】【スターマネジメント】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験、平素の学習状況・授業態度及び授業中の課題レポートの総合点で評価する。それぞれの割合は以下の通りである。
定期試験：50%、平素の学習状況・授業態度：30%、授業中の課題レポート点：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スポーツ産業の現状と課題等について、インターネット等を通じて事前に情報収集しておいてください。

スポーツ産業論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

指定された教科書の購入を受講条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業であるとともに、経営学やマーケティングの知識が要求されるので、集中して受講すること。

キーワード /Keywords

スポーツ産業 スポーツサービス産業 スポーツビジネス スポーツマネジメント
スポーツマーケティング サービス・クオリティ 顧客満足

健康科学【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康とは、人間の幸福にとって、もっとも重要なことのひとつである。健康であるということは、人々がそれぞれの人生を豊かに過ごすための基本的条件であるといえる。
本講義では、健康とはどういう状態か。また、それを保持増進するためにはどうしたらいいのかということに主眼をおき、自分自身のライフスタイルと健康について考える。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康の概念
- 3回 健康指標
- 4回 健康観の変遷
- 5回 栄養・食生活と健康
- 6回 食育
- 7回 身体活動・運動と健康
- 8回 休養・こころの健康づくりと健康
- 9回 睡眠
- 10回 タバコ・アルコールと健康
- 11回 ヘルスプロモーション
- 12回 産業保健(1) VDT作業
- 13回 産業保健(2) 腰痛予防
- 14回 産業保健(3) メンタルヘルス
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストなど) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「身体適応論」とあわせて受講すれば、健康の保持増進・運動の効果について、さらに理解を深めることができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

健康教育、ライフスタイル

スポーツ心理学【昼】

担当者名 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

さまざまなスポーツ活動について、心理学的な観点から理解を深めることを目的とする。スポーツ場面でのやる気、チームワーク、運動スキルの向上、メンタルトレーニング、スポーツと心の健康などについて説明する。

教科書 /Textbooks

授業時に適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

杉原隆他編著『スポーツ心理学の世界』福村出版
調枝孝治監訳『運動学習とパフォーマンス』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スポーツ心理学とは
- 2回 スポーツのスキルの定義と分類
- 3回 スポーツスキルの獲得1【反応時間】【情報処理】
- 4回 スポーツスキルの獲得2【注意集中】【運動の記憶】
- 5回 合理的な練習【学習の過程】【練習の多様性】【集中練習・分散練習】
- 6回 メンタルトレーニング1【イメージトレーニング】【リラクゼーション】
- 7回 メンタルトレーニング2【集中力】【目標設定】
- 8回 スポーツと攻撃性【攻撃理論】【スポーツの攻撃性への影響】
- 9回 スポーツの楽しさ【楽しさの構造】【コミットメント】【バーンアウト】
- 10回 スポーツの動機づけ【原因帰属】【内発的動機づけ】【運動嫌い】
- 11回 スポーツにおける目標設定【目標の効果】【目標設定の理論と方法】【目標志向性】
- 12回 スポーツ集団とリーダーシップ【集団の機能】【チームワーク】【リーダーの役割】
- 13回 スポーツと性格【性格の分類】【スポーツの性格への影響】【競技者の心理的適性】
- 14回 スポーツとメンタルヘルス【心の健康と運動】【運動の心理的効果】【ストレス】
- 15回 まとめ(スポーツ心理学の応用)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学修状況 ... 30 % 授業中の課題 ... 20 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

心理学関係の授業や、スポーツ科学関係の授業を受講した場合は、本講義の理解がより深まる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

身体適応論 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間は、生きていく上で様々な環境に適応しながら生活をしている。その適応能も年齢や体力などによって異なる。その適応能を高め、健康を保持増進する手段として運動が有用である。本講義では、運動と身体適応能に着目し、その効果などについて理解を深め、個人の健康管理・健康教育のための知識を得ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 熱中症の予防
- 3回 運動とエネルギー代謝
- 4回 運動と肥満
- 5回 運動と骨格筋
- 6回 バイオメカニクス
- 7回 運動と神経系
- 8回 生理的限界と心理的限界
- 9回 運動と血圧
- 10回 運動と骨粗鬆症
- 11回 運動と呼吸系
- 12回 運動と疲労
- 13回 運動への行動変容(1)
- 14回 運動への行動変容(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストなど) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「健康科学」とあわせて受講すれば、健康管理、健康教育について、さらに理解を深めることができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

健康管理、体力、運動適応

身体スポーツ論【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持、増進、あるいは競技力を高めるために、ある程度の体力向上は必要である。ただ単にジョギングをしたり、筋力トレーニングをすれば十分であるというわけにはいかない。逆に過度になり過ぎ障害を起こすケースも少なくない。ここでは、身体発達や運動神経・運動機能の過程を調べ、幼児期からの成長段階に合わせた遊び環境や競技成績を上げるための練習やトレーニング、食事法、メンタル面などについて勉強する。

教科書 /Textbooks

授業中にプリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス
 - 2回 体力の考え方について【身体的要素・精神的要素】、【運動の必要性】
 - 3回 体力の加齢変化について、自己体力の認識と今後の運動
 - 4回 スポーツ成績を上げるための要因【体力の三次元】、【生理的限界・心理的限界】
 - 5回 運動神経について【運動センス】
 - 6回 " 【遺伝】
 - 7回 運動発達の段階について【幼児期】、【児童期】
 - 8回 " 【運動軸】、【調整能力】
 - 9回 " 【思春期】、【成熟期】
 - 10回 発達段階におけるトレーニング【ジュニア期のトレーニング】
 - 11回 筋線維の種類と特性
 - 12回 平衡性の相関について(多目的ホールで実施)
 - 13回 スポーツ栄養について【グリコーゲン】
 - 14回 スポーツ指導【コーチング】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃からスポーツに興味をもって、特集番組やニュース、新聞や雑誌など、意識的にスポーツに関わりを持つことをおすすめします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容は、運動やスポーツ活動からの視点だが、スポーツ経験のない学生は日常生活行動と重ねたり結びつけたりしながら受講すると理解しやすい。
現在、部活動で頑張っている学生については、授業の中で一つでも普段の練習に役に立つものが見つかれば嬉しいです。

キーワード /Keywords

講義全体のキーワード
【運動神経】、【幼児期から児童期の遊び環境】
【アスリート】、【競技スポーツ】

トレーニング論【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「体力を向上させたい、パワーをつけたい」などという言葉をよく耳にする。しかし、体力という言葉には多くの要素が含まれ、病気に耐えることや冷静に行動することなども広い意味での体力である。
この講義は、特に「筋力・持久力・瞬発力・柔軟性・調整力」の5つの要素をバランスよくレベルを高めていくことを目的としている。今や健康を月謝を払って買う時代になり、ジムに通う学生も多く、健康への関心が高まっている中で、週に1回では十分とは言えない頻度ではあるが、各自にあわせた授業を楽しく行う。尚、遅刻は認めないので自信のない人は受講しないでください。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ウォーミングアップ
- 2回 クールダウン
- 3回 形態測定・各種測定
- 4回 柔軟性・立位体前屈
- 5回 筋力・ベンチプレス
- 6回 パワー・垂直跳び
- 7回 スピード・10mダッシュ
- 8回 敏捷性・Tテスト
- 9回 体重とウォーキング1
- 10回 体重とウォーキング2
- 11回 体重とジョギング
- 12回 脈拍とランニング
- 13回 体幹のトレーニングとは
- 14回 トレーニングと栄養
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※主に実技を体育館2階、トレーニング場で行う。
トレーニングウェア、室内シューズ、ノート筆記用具は毎回持参してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理学研究法 【昼】

担当者名 /Instructor 原口 雅浩 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

心理学が実験科学として確立するためには科学的方法論を獲得する必要がある。本講義では人間のこころを科学的に研究するさまざまな心理学領域における方法論を学び、心理学的な知識について理解を深めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

高野 陽太郎・岡隆 (編) 『心理学研究法-心を見つめる科学のまなざし』 有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西口利文・松浦 均 (編) 『心理学実験法・レポートの書き方』 ナカニシヤ出版
小塩真司・西口利文 (編) 『質問紙調査の手順』 ナカニシヤ出版
松浦 均・西口利文 (編) 『観察法・調査的面接法の進め方』 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 心理学研究法とはなにか。【心理学研究法】
- 2回 実験と観察 【実験】 , 【観察】
- 3回 実証の手続き 【実証】
- 4回 独立変数の操作 1 【独立変数】
- 5回 独立変数の操作 2
- 6回 従属変数の測定 1 【従属変数】
- 7回 剰余変数の統制 1 【剰余変数】
- 8回 剰余変数の統制 2
- 9回 その他の実験法 【準実験】
- 10回 統計【分散分析】
- 11回 調査法【抽出】
- 12回 観察法【時間見本法】 , 【事象見本法】
- 13回 検査法【信頼性】 , 【妥当性】
- 14回 面接法【調査的面接】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の小課題 : 60%
学期末のレポート : 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

心理学実験および心理統計を受講しておくことと理解しやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理学実験実習II【昼】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科, 田島 司 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 実験・実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

心理学の研究法である実験・調査・観察の具体的方法を学ぶ。
心理学の研究法である心理査定、面接法等の具体的方法を学

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(実験実習の進め方、認定心理士について)
- 2回 対人認知 - 性格特性リストから判断される他者の特性【t検定】
- 3回 自己意識 - 20 答法の種類【 χ^2 検定】
- 4回 同調行動 - 他者の判断が錯視図形の知覚に与える影響【相関係数】
- 5回 集団間行動 - 内集団バイアスの実験【t検定】【分散分析】
- 6回 質問紙法の実践(1) - 質問項目の選定【妥当性】
- 7回 質問紙法の実践(2) - データの集計と分析【信頼性】【 α 係数】
- 8回 質問紙法による心理査定。【YG性格検査】【STAI】
- 9回 投影法による心理査定。【P-Fスタディ】
- 10回 知能検査による心理査定。【知能指数】【知能偏差値】
- 11回 箱庭療法による心理面接。【ラポール】【クライエント】【カウンセラー】
- 12回 催眠法による心理面接。【後倒法】【変性意識状態】
- 13回 心理面接における行動観察。【ノンバーバル行動】【行動評定】
- 14回～15回 まとめ(実験実習を体験しての集団討論)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前もって「心理学実験実習I」並びに「心理学研究法」を受講しておくことが望ましいです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境経済学 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義の目標は、様々な環境問題について理解すること、またそれらの問題について経済学の視点から検討できるようになることです。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

栗山・馬奈木、『環境経済学をつかむ』有斐閣(2008)
 時政・藪田・今泉・有吉編、『環境と資源の経済学』勁草書房(2007)○
 日引 聡、有村俊秀、『入門 環境経済学』、中公新書(2002)○
 マンキュー、『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』(第2版)東洋経済新報社(2005)○
 R. K.ターナー他、『環境経済学入門』、東洋経済新報社(2001)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：環境問題と環境経済学
- 2回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(1)、【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(2)、【需要】、【供給】、【市場】
- 4回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(3)、【消費者余剰】、【生産者余剰】
- 5回 なぜ環境問題は発生するのか？(1)【市場の失敗】、【外部性】
- 6回 なぜ環境問題は発生するのか？(2)【ゲーム理論】
- 7回 経済学の視点からの環境政策(1) 【直接規制】
- 8回 経済学の視点からの環境政策(2) 【経済的手段】
- 9回 地球温暖化の経済分析 【温室効果ガス】、【京都議定書】、【排出権取引】
- 10回 廃棄物問題の経済分析 【循環型社会】、【ごみ処理手数料】、【3つのR】
- 11回 資源管理の経済分析 【枯渇性資源】、【再生可能資源】、【コモンズ】
- 12回 経済発展と環境 【成長の限界】、【持続可能な発展】、【環境グズネッツ曲線】
- 13回 グローバル経済と環境 【国際環境協定】、【比較優位】
- 14回 環境評価 【支払意志額】、【受入補償額】、【費用便益分析】、【仮想評価法】
- 15回 まとめ・復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

ミクロ経済学、マクロ経済学を事前に学習していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職総合演習 【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は大きくは次の三点である。

1. グローバルエデュケーションに関する参加型学習の方法について、体験的に学習すること。
2. テーマを自分たち自身で設定し、プレゼンテーションを行なうことを通じて、共同学習のあり方、プレゼンテーションのあり方を学習すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献 環境教育指導者育成マニュアル 角田尚子・ER I C国際理解教育センター著他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 参加型教育実践の実際
- 2回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その1
- 3回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その2
- 4回 グローバルエデュケーションのワークショップ その1 - マジカルバナナ
- 5回 グローバルエデュケーションのワークショップ その2 - 地球家族のワークショップ
- 6回 グローバルエデュケーションのワークショップ その3 - 難民問題のワークショップ
- 7回 ホームレス問題に関するグループワーク その1
- 8回 ホームレス問題に関するグループワーク その2
- 9回 グループ決めとグループのテーマ決定
- 10回 グループごとのリサーチ
- 11回 グループごとのプレゼンテーションの準備
- 12回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その1
- 13回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その2
- 14回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その3
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート、プレゼンテーション) 60% 期末レポート 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グループのプレゼンテーションではかなりの授業時間外の準備が必要なことを覚悟しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多くの受講生は次年度に教育実習の実習校実習を行う学生だと思います。
来年度の教育実習に向けて、教員としての実践的指導力を磨くため、精一杯の努力をしてほしい。

キーワード /Keywords

グローバルエデュケーション、参加型学習の方法、プレゼンテーションのスキル

教育制度【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則(1) 教育制度とは
- 2回 教育制度の基本原則(2) 日本の教育法制
- 3回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、学校教育における中立性等
- 4回 学校制度の基本的事項(2) 義務教育
- 5回 学校制度の基本的事項(3) 学校体系
- 6回 教育課程の意義と編成(1) 教科書・教材、学習指導要領
- 7回 教育課程の意義と編成(2) 学校の教育課程編成
- 8回 教員制度の基本的事項(1) 教員免許法制、公務員としての教師
- 9回 教員制度の基本的事項(2) 教員の指導力、研修
- 10回 生涯学習制度 成人教育、学校教育と社会教育の連携
- 11回 子育てをめぐる諸問題 子育て不安、教育と福祉
- 12回 教育行財政の仕組み(1) 中央教育行政、地方教育行政
- 13回 教育行財政の仕組み(2) 教育委員会と学校
- 14回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人体の構造と機能及び疾病 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 二六一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

人体の構造と生理についての理解、臨床医学の概要。医療と介護、福祉の連携。
医事法制と保険医療などの理解

教科書 /Textbooks

人体の構造と機能及び疾病 黒田研二・住居広工 ミネルヴァ書房 ¥2,600

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 医学のあゆみ・概説
- 2回 人体構造と機能(細胞・血液)
- 3回 人体構造と機能(呼吸器・消化器)
- 4回 人体構造と機能(消化器・物質代謝・泌尿器)
- 5回 人体構造と機能(循環器・支持器官)
- 6回 人体構造と機能(内分泌・支持器官)
- 7回 人体構造と機能(神経・感覚器)
- 8回 先天性疾病(ヒトの体ができるまで)
- 9回 感染症1
- 10回 感染症2
- 11回 神経疾患
- 12回 その他の疾患1
- 13回 その他の疾患2
- 14回 その他の疾患3
- 15回 まとめ

* 各授業において適当にビデオも取り入れる。

成績評価の方法 /Assessment Method

1. 平素の授業態度(全欠席して試験のみは認めない)
2. 期末試験(持ち込みなし)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査の基礎【昼】

担当者名
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

適切な方法論にそった社会調査とその分析結果は、社会に生きる人々の全体的な意識や問題意識を把握することができる。本講義では、社会調査の基礎について学ぶことを目的とする。社会調査についての基礎的な概念の理解や、調査にあたって適切な方法論を選択するための問題設定について学びながら、実際の資料を用いての分析も試みる。

教科書 /Textbooks

大谷信介(共編),1999,『社会調査へのアプローチ：論理と方法』 ミネルヴァ書房
佐藤郁也,2002,『フィールドワークの技法』 新曜社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

安田三郎,1960,『社会調査ハンドブック』 有斐閣
Denzin, N. K. & Lincoln, Y. S. (共編),2006,『質的研究ハンドブック第1巻・第2巻』 北大路書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 01回 社会調査とは何か
- 02回 量的調査—アンケート調査の実際 【アンケート調査】
- 03回 量的調査—アンケート調査の実際 【測定尺度】
- 04回 量的調査—アンケート調査の実際 【調査統計】
- 05回 度数分布【階級】【相対度数分布】
- 06回 分散と標準偏差【平均】【分散】
- 07回 分散と標準偏差【標準偏差】
- 08回 分散と標準偏差【信頼区間】
- 09回 分散と標準偏差のまとめ・小テスト
- 10回 相関関係【単相関係数の推定・検定】 t 検定【母平均の検定】【対応あり・なし】
- 11回 カイ2乗検定【帰無仮説】【有意水準】
- 12回 分散分析【分散分析表】【F分布】【主効果】【交互作用】
- 13回 質的調査—フィールドワークとは何か【フィールドワーク】
- 14回 フィールドワークの方法論【参与観察】【インタビュー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度・・・20% 小テスト・・・30% 期末試験・・・50%
5回以上の欠席があった場合は、課題提出及び期末試験の受験資格を失うものとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

耳慣れない言葉が毎回出てきますので、都度習熟の上で次の講義に望んでください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の基盤と専門職 1 【昼】

担当者名
/Instructor

坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会福祉士および精神保健福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、相談援助の理念、そして相談援助における権利擁護の意義と範囲についての理解を目的とする。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基礎と専門職』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉士の役割と意義、【現代社会と地域生活】
- 2回 精神保健福祉士制度創設の背景、【ソーシャルワーカーとしての連携】
- 3回 相談援助の定義と構成要素1 【ソーシャルワークの概念】
- 4回 相談援助の定義と構成要素2 【ソーシャルワークの構成要素】
- 5回 相談援助の形成過程I1 【ソーシャルワークの源流と基礎確立期】
- 6回 相談援助の形成過程II2 【ソーシャルワークの発展期】
- 7回 相談援助の形成過程II3 【ソーシャルワークの展開期】
- 8回 相談援助の形成過程II4 【統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク】
- 9回 相談援助の理念I1 【ソーシャルワーカーと価値】
- 10回 相談援助の理念I2 【ソーシャルワーク実践と価値】
- 11回 相談援助の理念I3 【ソーシャルワーク実践と権利擁護】
- 12回 相談援助の理念I4 【ソーシャルワーカー倫理綱領】
- 13回 相談援助の理念II1 【クライアントの尊厳と自己決定】
- 14回 相談援助の理念II2 【ノーマライゼーションと社会的包摂】
- 15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小レポート含む)...30%、課題...10%、期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本科目は、社会福祉士国家試験受験資格取得のための必修科目である。社会福祉士国家試験受験資格を取得する予定の無い学生が受講する場合、事前に社会福祉に関する文献を1冊以上読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目であるが、教養として社会福祉について知りたい学生の受講を大いに歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

キーワード /Keywords

相談援助、専門職、ソーシャルワーク入門、社会福祉

相談援助の基盤と専門職 2 【昼】

担当者名 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理、総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容について理解することを目的とする。地域で「総合的かつ包括的な相談援助」を実践するという点について、自ら具体的に考えることができるようになることも目指す。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基礎と専門職』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 専門職倫理と倫理的ジレンマ1【専門職倫理】、【倫理綱領】
- 2回 専門職倫理と倫理的ジレンマ2【倫理的ジレンマ】
- 3回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像1【総合的かつ包括的な相談援助】
- 4回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像2【地域】、【基本的視座】、【八つの機能】
- 5回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論1【ジェネラリスト・ソーシャルワーク】
- 6回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論2【GSの特質】、【基礎理論】
- 7回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲1【相談援助専門職の概念】
- 8回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲2【相談援助専門職の範囲】
- 9回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能1【予防機能】
- 10回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能2【新しいニーズへの対応機能】
- 11回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能3【総合的支援機能】
- 12回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能4【権利擁護機能】
- 13回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能5【社会資源開発機能】
- 14回 地域創生とソーシャルワーカー【地域創生】、【ソーシャルワーカーの役割】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小レポート含む)...30%、課題...10%、期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。「相談援助の~1」での学習内容を復習して臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。したがって「相談援助の~1」からの連続通年受講が望ましい。もし「相談援助の~1」を受講していない者、あるいは同年度で受講していない者が受講を希望する場合は、あらかじめ予習する項目を伝えるので、担当教員にまで相談を申し出ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

キーワード /Keywords

相談援助、社会福祉士、ソーシャルワーク入門、専門職

相談援助の理論と方法 1 【昼】

担当者名 藤藪 貴治 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

みなさんが目指す社会福祉の仕事としては、生活保護のケースワーカー、児童福祉司、児童養護施設職員、高齢者福祉施設職員、ケアマネジャー、病院ソーシャルワーカーなどが考えられる。
そこで実践される社会福祉援助技術のほとんどが、個別援助技術であるケースワークである。
しかし、ケースワークとは「人々とその環境との間に、個々別々に意識的にもたらされる調整を通じて、人格の発達をはかる諸過程（リッチモンド）」と定義されるように、漠然としていてイメージを掴みにくい。社会福祉関連法の学習と比べても、相談援助を書籍に記載される理論だけで把握するのは困難である。
そこで、本講座では、生活保護のケースワークを中心に、具体的な事例演習を行うことにより、ケースワーク、個別援助の進め方を考えていく。

教科書 /Textbooks

福祉事務所ソーシャルワーカー必携-生活保護における社会福祉実践（全国社会福祉協議会）を予定していますが、正式には初回の授業でお伝えします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の授業で伝達します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ケースワークとは何か
- 2 ケースワークの原則
- 3 ケースワークを必要とする人々とは
- 4 ケースワークの実践モデル
- 5 ケースワークのアプローチ
- 6～8 ケースワークの諸過程
- 9～10 面接技法
- 11～14 事例演習
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% 期末テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

その他具体的な日程は、講義中に知らせる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 2 【昼】

担当者名 松川 素子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

ソーシャルグループワークは、ソーシャルワーカーが、グループメンバーの相互作用やプログラム活動を意図的に活用することによって、グループの発達ひいてはメンバー1人ひとりの成長や問題解決を援助する技術である。ソーシャルグループワークの歴史の変遷、原則、展開方法について概観すると共に、演習によって集団の力動を体験することによって、グループワークを展開するために必要となる実践的な援助技術の習得を目指す。

教科書 /Textbooks

教科書 使用しない
授業時にレジユメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 新・ 社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法II」中央法規出版 2730円
- ・ グループワーク論 ミネルヴァ書房 大塚達雄・ 硯川真旬・ 黒木保博 2310円
- ・ グループワーク 勁草書房 大利一雄 2400円
- ・ グループワークの専門技術 中央法規出版 黒木保博、横山穰、水野良也、岩間伸之 2625円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス ソーシャルグループワークを学ぶために
- 2回 人と人が関わることの意義とかかわりがもたらすもの
- 3回 人間の発達に果たす集団の役割
- 4回 「集団という場」で働く不思議な力
- 5回 リーダーシップの構造と機能【ソーシャルワーカーに求められるリーダーシップ】
- 6回 グループワークの歴史、定義、原則
- 7回 ソーシャルワーカーの自己覚知
- 8回 グループワークの構成要素
- 9回 グループワークの展開過程1 【準備期におけるワーカーの役割と技術】
- 10回 グループワークの展開過程2 【開始期におけるワーカーの役割と技術】
- 11回 グループワークの展開過程3 【作業期におけるワーカーの役割と技術】
- 12回 グループワークの展開過程4 【終結・移行期におけるワーカーの役割と技術】
- 13回 セルフヘルプグループのもつ力とその活用方法
- 14回 ソーシャルワーカーの自己活用のために 【ソーシャルワーカー自身のエンパワメント】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・ 50% 日常の授業への取り組み・・・ 30% 課題・・・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義は、様々なワークやディスカッションを用いて参加体験型で行う予定です。受講者の授業への積極的参加を希望します。

キーワード /Keywords

グループダイナミクス、シェアードリーダーシップ、相互援助システム、自己覚知、エンパワメント

相談援助の理論と方法 3 【昼】

担当者名 藤田 博久 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

次の4つの狙いにより授業を構成する。

1. 構造改革、貧困と格差の拡大、分権改革を軸とする関連政策動向（大状況）の分析を行う。
2. 社会問題、政策主体、社会運動の視座から、技術論の前提となる地域社会・地域福祉の現状と課題についての認識を深める。
3. コミュニティワーク（コミュニティ・オーガニゼーション）の全体像について理解を深める。
4. 調査、計画、組織化に係る技術と事例について学ぶ。

教科書 /Textbooks

レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献として、調査報告書、計画書、実践報告書の抜粋資料を必要に応じて配布・紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 地域福祉のパラダイム
- 2回 地域福祉の基盤としてのコミュニティ(1)【住民自治】
- 3回 地域福祉の基盤としてのコミュニティ(2)【社会関係資本】
- 4回 地域福祉の基盤としてのコミュニティ(3)【自治基本条例】
- 5回 ローカルマニフェスト
- 6回 社会福祉援助技術に関する用語の整理
- 7回 コミュニティ・オーガニゼーションの要点(1)【概念】【原理】【理論の問題点】
- 8回 コミュニティ・オーガニゼーションの要点(2)【過程】
- 9回 コミュニティ・オーガニゼーションの要点(3)【組織化に関する原則】【専門職の役割】
- 10回 地域福祉の調査(1)【アクションリサーチの設計】
- 11回 地域福祉の調査(2)【集計結果の分析】
- 12回 社会運動(当事者運動)を進める手法
- 13回 朝日訴訟、障害者自立支援法違憲訴訟と平和的生存権
- 14回 社会的孤立とこの課題への取組み
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度... 50% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レジユメを事前に読むこと(全体像を把握することが重要)。講義のメモを丹念にとること。不明な点などについては、その都度質問すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は禁止します。

キーワード /Keywords

コミュニティ・ソーシャルワーク ソーシャルアクション 無縁社会 つながりの資産 権利擁護

地域福祉の理論と方法 1 【昼】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂 等を含む）について理解する。
- ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。
- ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

福祉士養成講座編集委員会編（2008）『地域福祉論第4版』中央法規
福祉士養成講座編集委員会編（2009）『地域福祉の理論と方法』中央法規
牧里毎治（2007）『改訂版地域福祉論-住民自治と地域ケア・サービスのシステム化』日本放送出版協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域福祉の基本的考え方と理念【構造的アプローチ、機能的アプローチ】
- 2回 地域福祉の発展過程1【セツルメント運動、シーボーム報告、グリフィス報告】
- 3回 地域福祉の発展過程2【高齢化、社会福祉八法改正、非貨幣的コード】
- 4～5回 地域福祉の理念【人権尊重、社会連帯、ノーマライゼーション、福祉コミュニティ】
- 6回 地域のとらえ方と福祉圏域【コミュニティ、圏域、アソシエーション】
- 7回 コミュニティソーシャルワークの考え方【チームアプローチ、ニーズ】
- 8～9回 コミュニティソーシャルワークの方法【ケアマネジメント】
- 10回 行政と民間の協働1【地域福祉計画、社会福祉協議会、社会福祉法人】
- 11回 ゲストスピーカー
- 12回 行政と民間の協働2【ボランティア活動、民生委員、保護司、福祉ビジネス】
- 13回 ゲストスピーカー
- 14回 地域福祉の推進と福祉教育【福祉教育、在宅サービス】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度30% 期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に指定する参考文献の講読。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域福祉の理論と方法 2 【昼】

担当者名 /Instructor 渡辺 良司 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会保障や社会福祉の制度変革が進む中で、地域福祉の推進は、重要な課題となっている。
授業では、地域福祉の実践現場での動向をもとに、推進に関わる機関、団体、人材の状況を把握し、福祉コミュニティ創造に向けて、住民や専門職が実際にどのような役割を果たしているのかを理解する。また、今後どのような関わりが必要かを考察する。

教科書 /Textbooks

新・社会福祉士養成講座『地域福祉の理論と方法-地域福祉論』 中央法規出版、2009年3月、2,730円(出版当時)
(必要に応じてプリント)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『誰もが安心して生きられる 地域福祉システムを創造する』ミネルヴァ書房
『北九州市発21世紀の地域づくり』中央法規出版
『岐路にたつ大都市生涯学習』北樹出版
『地域を拓いた人たち』北九州市社会福祉協議会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

- 第 1 回～第 2 回 社会福祉協議会の役割と実際【社会福祉協議会】【社会福祉法人】
- 第 3 回～第 4 回 地域福祉の推進方法【ネットワーク】【住民参加】【地域組織】
- 第 5 回～第 6 回 地域福祉の人材【ボランティア】【民生委員】【保護司】【住民参加型サービス】【NPO】
- 第 7 回 ニーズ把握とコミュニティワーク【ニーズ】【コミュニティワーク】
- 第 8 回～第 9 回 コミュニティソーシャルワークの方法【日常生活自立支援事業】【苦情解決】【第三者評価】
- 第 10 回 当事者の組織化と自立生活支援【介護予防】【ホームレス支援】
- 第 11 回 地域福祉計画の実際【地域福祉活動計画】【地域福祉計画】
- 第 12 回 福祉教育の考え方と推進方法【社会福祉協力校】【体験学習】
- 第 13 回 地域福祉の財源【共同募金】【地域福祉基金】
- 第 14 回～第 15 回 事例研究

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度・平常点... 30%、 課題... 20%、 期末試験(レポート)... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講にあたっては、自分の暮らしてきた町や北九州市の地域福祉の状況について、できるだけ情報収集して授業にのぞむこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉行財政と福祉計画【昼】

担当者名 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の社会福祉サービスや支援は、国が基本的な政策の方向たて、市町村が住民により近い視点からベースとし、行政担当者とサービス利用者である住民及び事業者が参加して福祉計画を実施することが求められている。そこで、本授業では、社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行財政と福祉計画について概説する。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会『福祉行財政と福祉計画』中央法規（2009年3月）2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

坂本忠次『現代社会福祉行財政-社会保障をどうするか-』大学教育出版（2009年4月）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉行財政と福祉計画I【福祉制度】
- 2回 福祉行財政と福祉計画II【戦後社会福祉制度】
- 3回 福祉行政I【行政の骨格】【社会福祉と法制度】
- 4回 福祉行政II【福祉行政の組織】【社会福祉基礎構造】
- 5回 福祉財政I【財政理論】【公共財】
- 6回 福祉財政II【一般会計予算と社会保障関係費の動向】
- 7回 福祉財政III【地方自治体の財政と民生費の動向】
- 8回 福祉行政の組織・団体と専門職の役割【相談過程と体制】【地域相談システム】
- 9回 福祉行財政まとめ
- 10回 福祉計画の目的と意義【福祉援助】
- 11回 福祉計画の論理と技法I【福祉計画の視点と過程】
- 12回 福祉計画の論理と技法II【ニーズ把握】【評価】【住民参加】
- 13回 福祉計画の実際I【老人福祉計画】【介護保険事業計画】
- 14回 福祉計画の実際II【障害者・生涯福祉計画】【次世代育成支援行動計画】【地域福祉計画】
- 15回 福祉計画まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト・中間まとめ含む) ... 60% 期末試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを講義前に読んでおくこと。また、新聞等のメディアを通して福祉問題、財政、行政についての現状認識を深めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉サービスの組織と経営【昼】

担当者名 /Instructor 中園 紀明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまで日本の福祉サービスの提供は手厚い施設整備費補助と措置費による裁量の余地の小さな運営がモデルとなっていた。しかし、特に90年代以降、少子高齢化の影響は、公的給付総額の拡大や多様な福祉ニーズへの対応、認知症高齢者の増加等、規制改革とともに新たな福祉経営に転換する時代となった。本科目では公的介護保険の動向も視野に入れながら21世紀型の福祉経営について学習する。

教科書 /Textbooks

「福祉サービスの組織と経営 第2版」 ISBN974-4-8058-3258-5

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉サービスとは何か。福祉サービスの変遷
- 2回 福祉サービスの提供と制度の役割
- 3回 法人の基本形態とガバナンス
- 4回 社会福祉法人による経営の現状
- 5回 特定非営利活動法人(NPO)の特徴
- 6回 福祉施設経営戦略の基礎
- 7回 事業計画の策定と実行評価
- 8回 福祉施設におけるサービスの質の向上
- 9回 集団の力学理論(組織構造)
- 10回 福祉施設の管理運営の方法
- 11回 福祉施設のサービスの質の評価
- 12回 福祉施設のリスクマネジメント
- 13回 福祉施設の苦情など対応
- 14回 福祉施設における人事・労務管理
- 15回 福祉施設における人材育成

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% 平常の学習状況 20% 課題 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営のベースである理念・使命を理解しながら、福祉ニーズとサービスの提供、そしてそれを支える具体的な福祉施設の経営を理解する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会保障【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得のためのシラバス-①現代社会における社会保障制度の課題、②社会保障の概念や対象、理念についての理解、③社会保障の歴史的展開、④社会保障制度の体系、⑤年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容、⑥諸外国における社会保障制度の概要等に基づいて構成されている。
国家試験合格のための基本を押さえつつ、国家責任に基づく普遍的ナショナルミニマム達成のための社会保障制度を望ましい姿として、種々の社会保障の学説を紹介し検討をしていく。

教科書 /Textbooks

成清美治・真鍋顕久編著『イントロダクションシリーズ⑦ 社会保障』学文社、2011年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時多数紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社会保障制度の概要
- 第2回 現代社会における社会保障制度の課題
- 第3回 欧米における社会保障制度の歴史的展開
- 第4回 日本における社会保障の歴史的展開
- 第5回 社会保障の財源と費用
- 第6回 社会保険と社会扶助の関係
- 第7回 公的保険制度と民間保険制度の関係
- 第8回 社会保障制度の体系1-年金、医療、介護、労災
- 第9回 社会保障制度の体系2-雇用、社会福祉、
- 第10回 社会保障制度の体系3-生活保護、家族手当
- 第11回 年金保険制度の具体的内容
- 第12回 医療保険制度の具体的内容
- 第13回 諸外国の社会保障制度 【北欧諸国、ドイツ】
- 第14回 諸外国の社会保障制度 【イギリス、アメリカ】
- 第15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義時の小レポート(30点)+課題(20点)+期末試験(50点)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

現在において自分が加入している、もしくは家族が加入している社会保険(年金、医療、介護、雇用)について、ホームページや区役所の資料、入門解説書等で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

社会福祉士国家試験受験資格取得のシラバスに基づいていますが、教養として受講される学生も大歓迎します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会状況が不安定になるほど、社会保障の役割は大きくなります。現代だからこそ、社会保障はどうあるべきなのか、そして社会福祉学の立場から見て社会保障の望ましい姿について、考えてみたいと思います。そのために、まずは身近な社会保険から知ってみましょう。

キーワード /Keywords

社会福祉士、社会保障、社会政策、年金、医療、介護、雇用

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

産業化をベースとして、近代化が成熟するとともに、人口構造の高齢化が社会現象として多くの課題をもたらすことになった。更には人口減少が始まり、人口転換が急速に進展すると予測されている。このような現状では人口高齢化を単なる社会問題として把握するにとどまらず、社会経済的視野に立脚した人間洞察ができるような視点を身につけることが要求される。高齢者に対する支援と介護保険制度 1 では高齢者の生活実態と社会情勢、人口構造、介護需要とともに、介護の概念や対象及び理念、制度・政策の歴史的経緯、介護保険法や老人福祉法等の理解を目的とする。さらに、行政組織や民間団体の役割、財政等の理解を促すよう講義を進める予定。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉小六法 ミネルヴァ書房2011年版、須藤廣編著「看護と介護の社会学」明石書店
他は講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第2回 講義の進め方について、現代社会と人口減少、少子・高齢化問題と必要な政策課題【人口転換】
 第3回～第5回 高齢者の生活実態や社会関係及び高齢者の生活支援の課題【生活支援】
 第6回～第7回 老人福祉の歴史的経緯【施設・居宅サービス】【ノーマリゼーション】
 第8回～第9回 老人福祉の法律と制度【老人福祉】
 第10回～第11回 介護保険制度の概要【介護保険、権利擁護】
 第12回～第14回 行政組織や民間団体の役割、財政等【行財政、民間活動】
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験50% 授業態度20% 授業への参加(レポートなど)30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

現代社会と福祉を受講済みが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 【昼】

担当者名 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 では、各論として介護保険制度や老人福祉制度等、及び関連する法制度について理解することをねらいとする。また、介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方及び専門職としての人間観に基づく相談援助、認知症や週末期ケア等について理解を促す。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「社会福祉小六法」 ミネルヴァ書房2011年版、須藤廣編著「看護と介護の社会学」明石書店
その他は講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【キーワード】
- 第1回～第2回 講義の進め方について、老人福祉制度と関連法【老人福祉】
 - 第3回～第4回 介護保険法と制度【介護保険】
 - 第5回～第6回 介護保険法における組織及び団体【組織及び団体の役割】
 - 第7回～第8回 介護専門職の役割と地域包括支援センター【地域包括】
 - 第9回～第10回 介護予防に関する専門技術及び、相談援助の方法【介護予防】
 - 第11回～第12回 認知症や週末期ケア、高齢者虐待等と権利擁護【介護過程、権利擁護】
 - 第13回～第14回 老人福祉関連分野の活動 - 住宅、環境整備、サービス団体・組織【民間活動】
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 50% 授業態度 20% 課題の提出 (レポートなど) 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

現代社会と福祉を受講済みであることが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者に対する支援と障害者自立支援制度【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

障がいのある人の自立を支援する観点から、働く、住まう、余暇を楽しむなど生き生きと暮らすことが可能となるような社会の仕組みが求められてきた。障害者自立支援法がどのような役割を果たしてきたのかを、地域生活、施設利用などでの問題を取り上げながら、以下の点について吟味する。①障害者自立支援法の成立過程と法の具体的内容。②権利保障とは何かについて検討する。③また障害をもつ人たちが、地域で生きていくための諸条件を整理し、権利擁護システムを含めた、地域支援システムのあり方を検討する。④さらにはこれまでタブー視されてきた障害者の性を取り上げ、社会福祉援助の中にジェンダーや女性保護、性交に矮小化されることのない生と性の視点がどのように位置づいているのかについて考察する。

教科書 /Textbooks

小賀 久「障がいのある人の地域福祉政策と自立支援」法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、講義で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 受講上の諸注意と総論
- 2回 障害者施策の現状と課題① 【自立支援】
- 3回 障害者施策の現状と課題② 【地域生活】
- 4回 障害者施策の現状と課題③ 【ケアマネージメント】
- 5回 権利擁護システム① 【成年後見制度】
- 6回 権利擁護システム② 【地域福祉権利擁護・日常生活支援】
- 7回 権利擁護システム③ 【虐待・不適切な行為とオンブズ活動】
- 8回 障害者福祉実践の到達点と課題① 【労働支援】
- 9回 障害者福祉実践の到達点と課題② 【生活支援】
- 10回 障害者福祉実践の到達点と課題③ 【家族支援】
- 11回 障害者福祉のこれから① 【障害者介護】
- 12回 障害者福祉のこれから② 【施設解体】
- 13回 障害者福祉のこれから③ 【地域生活支援】
- 14回 障害者福祉のこれから④ 【性の支援】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義レジュメ・資料および参考文献の講読

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度【昼】

専門教育科目
選択科目

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日、児童と家庭の支援に関する法律・制度が著しく変化している。児童福祉施策では、子どもの福祉を支える家庭や親への支援などの重要性が認識され、社会福祉士養成のための教育課程においても、それらが強調された。本講義では、現代社会における児童家庭福祉問題に対応する児童家庭福祉に関する法制度、サービスについて理解する。また、主な児童福祉施設の活動については視聴覚機材などを用いることで、その実際が理解できるようにしたい。

教科書 /Textbooks

○社会福祉士養成テキストブック『児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度』ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 児童家庭福祉を支える法制度【児童福祉法】【母子及び寡婦福祉法】
- 第2回 児童家庭福祉にかかわる組織・団体、児童福祉施設の種類と専門職【児童委員】
- 第3回 児童相談所の役割と他機関との連携【児童福祉司】【一時保護】【児童虐待】
- 第4回 児童健全育成と児童厚生施設【児童遊園】【児童館】
- 第5回 母子保健【リプロダクティブ・ヘルス・ライツ】【性的自立】【母体保護法】
- 第6回 障害児の福祉【重症心身障害】【発達障害】
- 第7回 保育所と幼稚園【幼保二元化】【認定子ども園】
- 第8回 夜間保育所・認可外保育所・学童保育【多様な保育ニーズ】【待機児童】
- 第9回 乳児院と児童養護施設【要養護児童】【児童家庭支援センター】
- 第10回 グループホーム、里親ケア【養育里親】【専門里親】
- 第11回 児童自立支援施設と少年非行【自立援助ホーム】【少年法】
- 第12回 ひとり親家庭と母子生活支援施設【母子指導員】【母子自立支援員】
- 第13回 DV防止法【ドメスティック・バイオレンス】【配偶者暴力相談支援センター】
- 第14回 婦人保護施設・売春防止法【婦人相談員】【要保護女子】【性暴力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト・宿題など) ... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業において配布するプリントなどを整理するファイルを準備しておくこと。児童福祉論と合わせて受講すればわかりやすい。単元ごとに配布する復習のプリントで自己学習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

低所得者に対する支援と生活保護制度【昼】

担当者名 /Instructor 藤敷 貴治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

- 「ネットカフェ難民」「派遣切り」「年越し派遣村」など、現代日本では「貧困」が大きな社会問題となっている。しかし「貧困」問題は、近年発生したものではなく、昔から日本社会に存在していた。「貧困」は見ようとしなければ「見えない」のである。
本講義ではまず、「貧困」とは何か。「貧困」の実態を見つめ、その原因を探ることから始める。
- 日本において、人々を「貧困」から救うのは各低所得者に対する支援制度と生活保護法である。
特に生活保護法は社会保障、社会福祉の最後のセーフティネットである以上、福祉事務所のケースワーカーのみならず、福祉施設職員や、病院ソーシャルワーカー、ケアマネージャーなど社会福祉に携わるすべての職種が理解すべき重要な法である。
本講義では、「貧困」の実態を受けて、各低所得者に対する支援制度と生活保護法の仕組みを具体的なケースを通じて学ぶ。その際には、「生活保護運用の矛盾」も検討し、「貧困」問題を解決する責任はだれにあるのかを考えていく。

教科書 /Textbooks

保護のてびき平成23年度版(第一法規)を予定していますが、初回の授業で正式に伝達します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉六法、格差・貧困と生活保護(明石書店)、よくわかる公的扶助(ミネルバ書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 貧困・低所得者問題とは
- 2 見えない貧困を見る
- 3 現代貧困の諸相
- 4 福祉国家と公的扶助
- 5 公的扶助の歴史(イギリス)
- 6 公的扶助の歴史(日本)
- 7 生活保護制度の原理と種類
- 8 生活保護基準
- 9 保護の機関と費用、被保護者の権利義務、不服申し立てと行政訴訟
- 10 生活保護の実施体制
- 11 生活保護における援助活動
- 12 被保護者の動向と課題
- 13 低所得・貧困層への他の政策
- 14 自立支援プログラム他
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% 期末テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

その他詳しい日程は講義中に知らせる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

保健医療サービス【昼】

担当者名 /Instructor 来田 時子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

- (1)保健、医療、介護、社会福祉の連携や統合されたサービスの提供・利用が考えられるように、保健医療サービスに関わる領域の知識を獲得し、理解すること。
- (2)疾病を契機にした生活困難や生活障害の状態にある人や家族に対して、保健医療サービスを活用したソーシャルワークの実際を理解すること。
- (3)保健医療サービスの現状を歴史の流れで理解をすること。
- (4)保健医療サービスの現状と歴史から、今後のサービスのあり方や社会資源の開発の課題を考える態度を身につけること。
- (5)保健医療サービスでのソーシャルワークの方法を理解すること

教科書 /Textbooks

「新・社会福祉士養成講座 17 保健医療サービス」中央法規 ¥ 2 2 0 0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「社会福祉六法」(直近版)新日本法規
- 「社会保険の手引き」(直近版)社会保険研究所
- 「暮らしに役立つ制度のあらまし」(直近版)全国生活と健康を守る会
- 「生活保護手帳」2010年度版 中央法規

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 保健医療サービスと社会福祉
2. 医療保険制度概論
3. 医療保険制度～健康保険法
4. 医療保険制度～国民健康保険法
5. 医療保険制度～労働者災害保険法・公害健康被害補償法
6. 医療保険制度～診療報酬
7. 保健医療サービスとソーシャルワーク～病院
8. 保健医療サービスとソーシャルワーク～診療所
9. 保健医療サービスとソーシャルワーク～地域保健医療
10. 保健医療サービスにおける専門職の役割
11. 保健医療サービスにおける専門職のチームワーク
12. 関係者との連携と実際
13. 保健医療ソーシャルワーク論～概論
14. 保健医療ソーシャルワーク論～方法論
15. 保健医療ソーシャルワーク論～各論

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50%
日常の授業へのとりくみ・ 40%
レポート・ 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会保障制度、特に医療、介護制度の改革や変更がめまぐるしく行われていることや、社会生活の実際の中から学ぶことが大切なので、日ごろから新聞などを丹念に読み、保健医療サービスに関する記事などに注目しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特に医療は特殊な領域と言えます。分からないことはその場で聞いて、理解するようにしてください。

キーワード /Keywords

医療ソーシャルワーカー 連携 多職種 ケースカンファレンス ケースマネジメント 在宅医療

権利擁護と成年後見制度 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ・ 相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わりについて理解する。
- ・ 相談援助活動において必要となる成年後見制度（後見人等の役割を含む）について理解する。
- ・ 成年後見制度の実際について理解する。
- ・ 社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【講義の主な柱】

- ① 相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わり
- ② 成年後見制度
- ③ 日常生活自立支援事業
- ④ 成年後見制度利用支援事業
- ⑤ 権利擁護に係る専門職者、組織、団体の役割と実際
- ⑥ 権利擁護活動の実際

【講義テーマ・内容】

- 第1回目
オリエンテーション 全体を通しての講義内容の説明、講義の進め方など（小賀）
- 第2回目
権利擁護とは何か（小賀）
- 第3回目
権利擁護と関係諸法（弁護士）
- 第4回目
成年後見制度とは何か - 根拠法・仕組み・関係機関・団体など（弁護士）
- 第5回目
成年後見制度と弁護士の役割、活動（弁護士）
- 第6回目
権利擁護活動と自治体支援（自治体職員）
- 第7回目
権利擁護活動と社会福祉士の役割、活動（社会福祉士）
- 第8回目
日常生活自立支援事業（旧・地域福祉権利擁護事業）と社会福祉協議会（社協職員）
- 第9回目
成年後見制度と医師の役割、活動（医師）
- 第10回目
事例（成年後見制度と後見人①）（弁護士）
- 第11回目
事例（成年後見制度と後見人②）（社会福祉士）
- 第12回目
事例（成年後見制度と保佐・補助人②）（弁護士もしくは社会福祉士など）
- 第13回目
事例（日常生活自立支援事業①）（社協職員）
- 第14回目
事例（日常生活自立支援事業②）（社協職員）
- 第15回目
講義のまとめ

権利擁護と成年後見制度【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

コーディネーターの責任においてレポート(30%)および筆記試験(70%)を実施する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

多様な専門職者によって講義を構成するので、授業計画の内容に沿って事前学習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習 1 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し体系立てていくことができる能力を涵養する。
特に相談援助の対象となる人々への接近方法について、体験的に考察を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 相談援助の仕事に求められる生活問題認識 - その重層性と社会性について
- 3回 対象者理解の方法について
- 4回 自己覚知方法と心理検査
- 5回 基本的なコミュニケーション技術の習得
- 6回 基本的な面接技術の習得
- 7回 ソーシャルケースワークとカウンセリング
- 8回 カウンセリングマインドとは何か
- 9回 障害の状態像と社会的要因の関連
- 10回 ハンディキャップオリエンテーリングによる擬似的障害体験と障害理解への接近
- 11回 高齢者体験
- 12回 食事介助
- 13回 ブラインドウォークと車椅子での移動に関する援助
- 14回 実技的取り組みを理論化するための討議
- 15回 まとめの講義

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度 ... 30%、 レポート ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会福祉に関する新聞やテレビなどでの報道にも留意して、現状を知るための努力をしてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習 2 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 社会的排除とは何か
- 2 虐待の個性性と社会性
- 3 児童の虐待事例
- 4 高齢者の虐待事例
- 5 障害者の虐待事例
- 6 家庭内暴力 (D.V) の事例
- 7 低所得者と生活の貧困
- 8 ホームレスと支援法制
- 9 民法の改正と成年後見制度の登場
- 10 権利擁護システム [成年後見制度]
- 11 権利擁護システム [地域福祉権利擁護]
- 12 権利擁護システム [苦情解決の仕組み]
- 13 権利擁護システムと相談援助事例① 社会福祉士と成年後見人
- 14 権利擁護システムと相談援助事例② 弁護士と社会福祉士の連携
- 15 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容...50% レポート ... 30% 参加態度 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習での体験を次の授業で理論的に整理して参加すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習 3 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

[授業の目的・ねらい]
相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れた社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

[授業全体の内容の概要]
個別指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（面接の技法やロールプレイング等）を中心として取り組む。特に、多様な面接の技法や相談援助の方法を学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
対象者の生活困難場面に遭遇する相談援助実習では、社会福祉士である相談支援者が行なう様々な援助を目の当たりにする。援助の技法や意味、有効性などを事前に知ること、専門的知識と技術を統一的に把握することを課題とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 面接相談の技法とインテーク面接
- 2 アセスメント、プランニングと支援の実施
- 3 モニタリングと効果測定
- 4 終結とアフターケア
- 5 ワーカー・クライアント関係
- 6 専門職の倫理と倫理綱領
- 7 ゲーム理論
- 8 電話相談の技法
- 9 社会資源とは何か
- 10 社会資源の活用方法
- 11 ロールプレイ① アルコール依存症患者とMSW
- 12 ロールプレイ② 生活保護申請者と生活保護担当ケースワーカー
- 13 ロールプレイ③ 虐待加害者（母親）と児童相談所ケースワーカー
- 14 ロールプレイ④ 障害のある人とピアカウンセラー
- 15 援助技法に関する講評と授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容、参加態度、レポート提出を総合的に勘案する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前の学習に重点を置いて取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習 4 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士の相談援助に係る知識や技術を実践的に習得する。児童虐待や家庭内暴力や危機的状況にある相談事例などを活用する。個人や家族への介入、集団や地域への介入方法など具体的な援助場面を想定した実技指導によって、総合的・包括的な援助方法を習得する。

教科書 /Textbooks

○河嶋静代『ヘビーホテルと児童家庭問題』京都・法政出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小田兼三他編著『エンパワメント実践の理論と技法』中央法規
保田井進他編著『福祉グループワークの理論と実際』ミネルヴァ書房
久保紘章他編著『セルフヘルプ・グループの理論と展開』中央法規

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
グループ・プロジェクトの進め方と編成
- 2回 問題プロフィールにもとづく問題の明確化とアセスメント、介入の場、次元の選択【システムアプローチ】
- 3回 ①援助過程-インテークとケースの課題【生活モデル】
- 4回～12回 ②援助過程、実践の段階
個人への介入【ケースワーク】【ケースワークの原則】
ライフヒストリーと危機への対応【コンピテンス】【ナラティブアプローチ】【危機理論】
家族への介入【ファミリーケースワーク】【家族療法】【エコマップ】
集団への介入【グループワーク】【グループワークの原則】
当事者グループへの支援【セルフヘルプ】【エンパワメント】【アドボカシー】
地域への介入【コミュニティワーク】【ネットワーク】
- 13回～14回 ③援助過程、終結の段階【ソーシャルサポートネットワーク】
グループレポート提出と発表の準備
- 15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、授業への参加度50%、提出課題・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

限定された時間内でのグループ学習になるので、授業中にまとめられない場合は、グループメンバーと自主学習において補っておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助実習指導 1 【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

教科で学んだことが実践の場における実践技法や援助業務として統合されていくかを課題とし、①事前学習や見学実習を通して、社会福祉士として仕事をするうえで必要な専門知識、専門技術及び関連知識の内容の理解を深める。②専門知識や専門技術を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する「相談援助業務」に必要な資質・能力・技術を習得できるようにする。③職業倫理を身につけ、専門職としての自覚にもとづいた行動ができるようにする。④具体的な体験や援助活動を専門的技術として概念化・理論化し体系立てていくことができる能力を函養する。⑤関連分野の専門職との連携の在り方及び具体的内容を理解する。

教科書 /Textbooks

「社会福祉実習の手引き」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1、2回 オリエンテーション
 - 3、4回 実習前の準備・計画
 - 5、6回 実習対象となる社会福祉施設に関する学習
 - 7、8回 実習(学習)課題の設定
 - 9、10回 見学実習(1日・8時間)
 - 11、12回 見学実習(1日・8時間)
 - 13、14回 日誌の綴り方 - 実習(学習)課題に沿った記述方法、視点①
 - 15、16回 日誌の綴り方 - 実習(学習)課題に沿った記述方法、視点②
 - 17、18回 調書の作成①
 - 19、20回 調書の作成②
 - 21、22回 実習計画の作成①
 - 23、24回 実習計画の作成②
 - 25、26回 見学実習報告
 - 27、28回 実習課題の明確化
 - 29、30回 実習書類整備、確認
- および社会福祉施設・機関での現場実習

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度 ... 30% 現場実習 ... 60% 参加態度 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「社会福祉実習の手引き」の精読と理解

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助実習指導 2 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会福祉援助技術現場実習 2 は、社会福祉行政機関や社会福祉施設等で行う実習である。
 実習の目的は社会福祉行政機関や社会福祉施設における全般的な業務を理解することである。
 配属実習の振り返りを通して、相談援助に関する知識と技術について習得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理など、総合的に対応できる能力を習得する。

教科書 /Textbooks

社団法人日本社会福祉士養成校協会 『2012 社会福祉士国家試験問題過去問、専門科目編』中央法規

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士関連科目のテキスト

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 オリエンテーション、実習施設の種類に応じたグループ分け
- 2 回 社会福祉士の活動と社会福祉士の活動分野
- 3 回 社会福祉士の倫理綱領
- 4 回 社会福祉士国家試験問題
- 5 回～ 11 回 実習の振り返りと発表
- 12 回 実習の評価と全体の総括
- 13 回～ 14 回 社会福祉士の仕事と専門性 (外部講師)
- 15 回 社会福祉士国家試験申し込み手続き、受験対策等

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 50% レポート... 20% 発表... 20% 実習日誌及び配属実習の評価... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

福祉専門職としての資質や実習の心構えを確認するという意味で、出席状況や授業中の態度を重視します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会福祉士

相談援助実習【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 6単位 学期 集中 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

[相談援助実習の目的・ねらい]

相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

[相談援助実習全体の内容の概要]

①利用者、援助者、関係者間の基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係およびに援助関係を学ぶ。また、②権利擁護及び支援（エンパワメントを含む）とその評価方法を会得する。

[相談援助修了時の達成課題（到達目標）]

社会福祉現場での実習は、理論と思考を現実的に吟味できる唯一の機会である。社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解。組織の一員としての役割と責任への理解。そして何よりも対象者への責務を実感として肌身に感じ、これまでの学習の到達度と、今後の学習課題を確認することを課題とする。

教科書 /Textbooks

「実習の手引き」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

[実習における学習視点と目標]

- 1 利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
- 2 利用者理解と福祉的ニーズの把握及び支援計画の作成
- 3 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成
- 4 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む）とその評価
- 5 多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践
- 6 社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
- 7 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実践
- 8 当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
- 9 問題解決や疾病・障害の受容などによって利用者が変わりうるという発達の理解
- 10 記録や書類の作成・整理などの土台の上に素晴らしい相談援助が築かれるという認識の確立

成績評価の方法 /Assessment Method

実習態度、遅刻・欠席の有無、日誌の記述内容、実習評価、その他提出物の状況などを総合して評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会福祉施設・機関や社会福祉サービスの利用者に関する情報を集めること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児童福祉論 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の児童福祉問題と子どもを取り巻く社会環境について理解する。子どもとは何か、子どもの特性や子どもを理解する視点を踏まえ、子どものニーズに対応する社会システムについて考察する。
児童福祉の理念としての子どもの権利条約について学ぶ。

教科書 /Textbooks

- 「子どもたちは今」北九州版・子どもの人権レポート編集委員会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会福祉士養成講座「児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度」ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 児童福祉とは、子どものニーズと社会システム 【マズローのヒューマンニーズの階層】
- 2回 子どもの成長・発達 【アタッチメント】 【マザーリング】 【ソーシャルスキル】
- 3回 子どもの歴史と児童福祉の理念 【子ども理解の視点】
- 4回 子どもの権利条約 【能動的権利】 【受動的権利】 【子どもの意見表明権】
- 5回 子どもの権利条約【子どもオンブズパーソン】 【地方自治体子どもの権利条例】
- 6回 子どもの権利条約と児童福祉への影響 【エンゼルプラン】 【次世代育成事業】
- 7回～8回 児童虐待防止と児童相談所 【児童虐待防止法】
- 9回～10回 児童虐待とマルトリートメント 【親権】 【パターナリズム】
- 11回～15回 我国の子どもの権利をめぐる状況と課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト・宿題など) ... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布するレジユメを閉じる専用ファイルを準備すること。
単元ごとに配布する復習のプリントで自己学習をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

社会福祉士関連科目「児童や家庭に対する支援と児童家庭福祉制度」と合わせて学習すると総合的理解が得られる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者福祉論 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

障害をもつ人の自立と地域生活、施設利用などの問題を取り上げながら、権利保障とは何かについて検討する。また権利侵害の実態を紹介し、政府がつくる権利擁護システムの問題点や課題を整理し、あるべき権利擁護システムを検討する

教科書 /Textbooks

小賀 久『障がいのある人の地域福祉政策と自立支援』法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、講義で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 受講上の注意と講義の総論
- 2回 障害概念と障害者①【ICF】
- 3回 障害概念と障害者②【身体障害、知的障害】
- 4回 障害概念と障害者③【精神障害、内部障害等】
- 5回 現代社会と障害者福祉理念①【ノーマライゼーション、インテグレーション】
- 6回 現代社会と障害者福祉理念② - 理念の影響
- 7回 現代社会と障害者福祉理念③ - 我が国障害者の生活標準
- 8回 障害者福祉の法制度【障害者基本法と障害者計画】
- 9回 障がいのある人と虐待①【虐待調査から見る現状】
- 10回 障がいのある人と虐待②【虐待と親密圏】
- 11回 障害者福祉のサービス体系① - 児童福祉法と障害児サービス体系
- 12回 障害者福祉のサービス体系② - 身体障害者福祉法とサービス体系
- 13回 障害者福祉のサービス体系③ - 知的障害者福祉法とサービス体系
- 14回 障害者福祉のサービス体系④ - 精神保健福祉法とサービス体系
- 15回 関連法とサービス体系、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義レジュメ・資料および参考文献の講読

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

まず最初に、社会心理学の古典的文献を含めて基礎的ないくつかの論文を講読する。それらの演習を進める中で、理論研究と現実社会における様々な問題との関連を理解することをねらいとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマの決定
- 2回 先行研究を読む (日本語)
- 3回 先行研究を読む (日本語)
- 4回 先行研究を読む (日本語)
- 5回 先行研究を読む (日本語)
- 6回 先行研究を読む (英語)
- 7回 先行研究を読む (英語)
- 8回 先行研究を読む (英語)
- 9回 先行研究を読む (英語)
- 10回 現実社会の問題との関連を議論
- 11回 現実社会の問題との関連を議論
- 12回 資料収集と経過発表
- 13回 資料収集と経過発表
- 14回 データ分析の練習
- 15回 データ分析の練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性...50% 発表内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日常生活の中で心理学的な問題になりそうな事を挙げておく和良好的。統計の基礎的知識があると理解の助けになると思われる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

主として青年期の心理的特徴や人間関係に関する心理学的研究の文献を購読しながら臨床心理学の理論や知識に関する理解を深めるとともに、心理学的研究の進め方を学ぶ。その後、小グループに分かれてグループ研究（研究テーマの設定、先行研究の購読、研究計画の立案）を進める。尚、本演習に所属する学生は、臨床実践感覚を養うために学内外での臨床活動に参加することが求められる。

教科書 /Textbooks

心理臨床学研究、青年心理学研究、教育心理学研究、発達心理学研究等の学会誌から各自が興味を持った論文を選ぶ。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(演習の進め方、発表の順番決め)
- 2回～7回 文献購読1(毎回一人が論文をまとめてレジュメを作成・発表)
- 8回～13回 文研講読2(各グループで論文をまとめてレジュメを作成・発表)
- 14回 グループ研究検討会1
- 15回 グループ研究検討会2

成績評価の方法 /Assessment Method

平素 ... 20% 発表 ... 60% 討論への参加度 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表者は自分が選んだ論文に関してB4サイズ2枚程度でレジュメを作成し発表する。それ以外の者も事前に論文に目を通し、疑問点や批判点を明確にしておく。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コミュニケーションは、相手（人や機械）の意図をいかに「わかる」ということである。この演習では、「わかる」という問題について、様々な側面からアプローチする。それを心理学的にアプローチし、「わかりやすい」ようにするには、どうしたらよいかを考える。日本語の文献講読及び実験または調査を行う。文献は教員が与える。実験または調査では、計画、刺激・装置の準備、調査用紙の準備、実験や調査の実施、結果の整理、レポート作成まですべてを自分達で考えて行う。講読する文献と実験・調査の内容は年によって異なる。

教科書 /Textbooks

使わない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 松尾太加志『コミュニケーションの心理学』ナカニシヤ出版
- 利島保ほか『心理学のための実験マニュアル』北大路書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 文献発表のやり方の説明
- 3回 受講生による文献の発表
- 4回 受講生による文献の発表
- 5回 受講生による文献の発表
- 6回 受講生による文献の発表
- 7回 受講生による文献の発表
- 8回 受講生による文献の発表
- 9回 受講生による文献の発表
- 10回 ゼミ実験または調査の内容の検討
- 11回 ゼミ実験または調査の内容の検討
- 12回 ゼミ実験または調査の準備
- 13回 ゼミ実験または調査の準備
- 14回 ゼミ実験または調査の準備
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素...60% 課題...40%
(平素の演習での出席・発表・討論及び課題の内容を総合的に判断する。この割合はおよその目安)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から、「わかりにくい」という問題意識を持っていることが大切。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球環境は、自然のリズムをもって変動しています。しかし、近年は人間活動に起因する変化が付加され、環境問題を引き起こしています。今後、地球環境はどのように変化し、私たちの生活はどのような影響を受けるのでしょうか。それを推測するためには、過去において、環境がどのように変化してきたか（環境変遷）、それが人間にどのように影響を与えたかを知ることが必要です。この演習では、環境がどのように変化してきたかについて学習・研究します。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。使用する文献等は授業の中で適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 「気候が文明を変える」(安田喜憲著 岩波書店)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講生がテーマ設定して調査・研究し、その内容をゼミで発表して討論します。

- 1回 研究テーマの設定 1 上で述べたこの演習のテーマの中からトピックを探索する。
- 2回 文献検索方法の学習
- 3回 研究テーマの設定 2 テーマを決める。
- 4回 先行研究の学習 1 文献を読んで討論する
- 5回 先行研究の学習 2
- 6回 先行研究の学習 3
- 7回 先行研究の学習 4
- 8回 先行研究の学習 5
- 9回 先行研究の学習 6
- 10回 研究テーマの設定 3 研究テーマを再考し、より具体的にする。
- 11回 研究テーマの設定 4
- 12回 先行研究の学習 7 具体化したテーマについてより深く討論する
- 13回 先行研究の学習 8
- 14回 先行研究の学習 9
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性 ... 50% 発表の内容 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表にあたっては、十分な学習と効率的なプレゼンテーションの準備が必要です。また、討論に積極的に参加してください。自由で活発な討論が演習を充実させます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文化社会学、社会意識論のセミナーである。社会学の基本的な考え方を学び、それを応用できる能力を身につけることを授業のねらいとする。セミナーのなかにおいては、主として文化社会学、社会意識論に関する論文を読み、討論を行うが、学期内に何度もキャンパス外にて社会調査を行い、データの処理、報告書の作成等も課す。

教科書 /Textbooks

参加学生と話し合った後に指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参加学生と話し合った後に指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 論文を読み(又は社会調査を行い)参加学生がレジユメにて報告
司会、発表者、コメンテーター共に学生が分担して行う

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 20% レジユメ 50% 発表 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文化社会学の領域に興味がありかつ知識があることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会・環境・福祉・教育・心理・言語・宗教・芸術などすべてここに含まれる)のなかから自分のもつとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回
3年時は、予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。3年時後半から4年時前半に、長期調査によって、異文化体験をおしたあたらしいまなざしを身につける。4年時後半は、調査結果をもとに分析と理論化をすすめ、その成果を卒業論文にまとめる。卒業論文の中間発表は、4年次の9月末におこなう。ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。そういった意味で、自分が調査地に出ているときのぞき、ゼミには必ず参加すること、だって発表する人がかわいそうでしょう?ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション ... 50%
各自の調査研究 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

児童福祉施設等の見学を行う。座学では、学べない体験学習によって、児童福祉問題についての認識を深めることをねらいとする。事前に児童福祉施設の目的、機能・役割などについて学習をした上で、実践現場を訪問する。福祉従事者や利用者との意見交流を図る。事前学習、施設への連絡、質問事項の作成などは、学生が分担によって行う。施設等の訪問後は、各自のレポートをもとに討議をおこなう。訪問施設については、受講生の希望をもとに決定する。遠隔地の施設見学の場合においてはゼミ合宿を行うこともある。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○社会福祉士養成テキストブック『児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
2回 施設見学の計画
3回～12回 事前学習
施設見学
振り返り
- 児童養護施設、養育里親、児童自立支援施設、母子生活支援施設、情緒障害児短期治療施設、児童家庭支援センター、フリースクールなどから2～3箇所くらい訪問
- 13回～15回 振り返りとまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 40% 課題 40...% 発表... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学生が主体に施設見学等の計画をたて、施設への依頼や日程調整などを行う。
見学希望施設について考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会福祉の援助を必要としている人々が抱える生活問題を、現実の諸問題から謙虚に学び取っていくことによって、科学的社会観と科学的人間観を身につけていくことを授業のねらいとする。
3年1学期は社会福祉の基本的な文献を学習する。

教科書 /Textbooks

適時指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文献学習
- 3回 文献学習
- 4回 文献学習
- 5回 文献学習
- 6回 文献学習
- 7回 文献学習
- 8回 文献学習
- 9回 文献学習
- 10回 文献学習
- 11回 文献学習
- 12回 文献学習
- 13回 文献学習
- 14回 文献学習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度 ... 30% 報告 ... 40% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず無遅刻で出席し、担当部分のレポートをとること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育の内外の環境の中で、他者及び社会的諸関係との交流等によって、人間は、どのようにして、その人間性と人格を形成していくのかと
いうことを探求する。「基礎研究」「課題研究」「自由研究」の形態で実施する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】内はキーワード

- 第1回 人間教育についての「基礎研究」【人間性】
- 第2回 人間教育についての「基礎研究」【人間形成】
- 第3回 人間教育についての「基礎研究」【論理】
- 第4回 人間教育についての「基礎研究」【感情】
- 第5回 人間教育についての「基礎研究」【身体】
- 第6回 人間教育についての「課題研究」【経験】
- 第7回 人間教育についての「課題研究」【社会】
- 第8回 人間教育についての「課題研究」【文化】
- 第9回 人間教育についての「課題研究」【交流】
- 第10回 人間教育についての「課題研究」【対話】
- 第11回 人間教育についての「自由研究」【資料収集】
- 第12回 人間教育についての「自由研究」【研究方法】
- 第13回 人間教育についての「自由研究」【集団討議】
- 第14回 人間教育についての「自由研究」【シェアリング】
- 第15回 人間教育についての「自由研究」【研究発表】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に指示されたことを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

臨床教育学に関する諸問題について、参加者の興味・関心に合わせてテキストを選んで考えていきたい。主要なテーマとしては、DV（ドメスティックバイオレンス）、少年非行・少年犯罪、児童虐待、不登校などの問題の発生機序とその克服に向けての指導、援助の課題について、具体的な事例も踏まえて考察していきたい。
また、参加者の希望があれば、認知行動療法、対人関係療法などの心理療法の理論や技法についても実践的に学習する予定である。

教科書 /Textbooks

テキスト、参考文献については参加者と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

学生の興味・関心に合わせて指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 カウンセリングの基礎的な実習 その1
- 3回 カウンセリングの基礎的な実習 その2
- 4回 カウンセリングの基礎的な実習 その3
- 5回 文献購読 その1
- 6回 文献購読 その2
- 7回 文献購読 その3
- 8回 文献購読 その4
- 9回 文献購読 その5
- 10回 文献購読 その6
- 11回 文献購読 その7
- 12回 ビデオを使つての討論 その1
- 13回 ビデオを使つての討論 その2
- 14回 ビデオを使つての討論 その3
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点70% 期末レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文献購読のテキストは発表以外のときにも必ず読み込んで授業に参加し、自分の意見を言えるようにしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間が、歴史的社会的文脈の中に自己の存在を位置づけていく自己実現と相互承認の編成過程を分析することを課題とします。そのために、(1) グローバルな視点や歴史的な視点で課題をpushした上で、(2) 地域レベルでの行動の課題を、文化・教育・福祉・環境など幅広い分野における学習の契機や条件として把握し、検討します。(3) これらを踏まえて、現代社会における、人間そのものや、人間関係について、その到達点と可能性を明らかにしていきます。

教科書 /Textbooks

必要に応じて適宜、紹介する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 雑誌『月刊 社会教育』国土社
- 雑誌『公民館』全国公民館連合会
- 雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文献購読や、生涯教育・社会教育の基礎理論をテーマとした演習を行う。

第1回～第5回	「自分づくりの危機」の時代といわれる今日の課題について教育学的検討を行う ムを解明し、克服していこうとする実践について理解を深めていきます。	い、そのメカニズ
第6回～第10回	子どもから成人にわたる教育の論理(学習過程の独自性)について検討を行	う。
第11回～第15回	生活課題や地域課題について理解を深め、地域づくりの課題と可能性を解明	する。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業態度と発表...70% 討論への参加...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会問題について関心を持ち、その背景や論点の整理を通じて、自分なりの意見とその根拠を明確にするよう心がけておくこととゼミの内容が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育や子ども・若者に関する文献の検討や様々な教育問題の討論等を通して、教育学の基礎的な知識の習得や研究の仕方などを学ぶ。

教科書 /Textbooks

文献、テーマ等は初回に提示する。
必要に応じて、適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
 - 2回 テーマ学習(1)【子ども・若者】
 - 3回 文献検討(1)【子ども・若者】
 - 4回 文献検討(2)【子ども・若者と教育】
 - 5回 文献検討(3)【教育問題】
 - 6回 文献検討(4)【学校問題】
 - 7回 デイベート(1)【子ども・若者問題】
 - 8回 フィールドワーク(1)【事前学習】
 - 9回 フィールドワーク(2)【視点をもった観察】
 - 10回 フィールドワーク(3)【観察したデータの分析・考察】
 - 11回 テーマ学習(2)【教育に関する現代的テーマ】
 - 12回 面接調査(1)【質問事項の精査】
 - 13回 面接調査(2)【聴き取りの手法】
 - 14回 デイベート(2)【教育に関する時事的テーマ】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 課題 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本及び世界の教育に関する動きに関心を持ち、様々な情報にアクセスすること。
授業にあたり、配布したレジュメ・資料をよく読むこと。
それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習は学生の皆さん自身が積極的に関わることで更に豊かな学びとなります。
共に学びあいましょう。

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今やスポーツはプレイする人だけのものではなく、大会やイベントを支える側、観る側などあらゆる人たちのものである。様々な角度からスポーツを捉え、スポーツに関わる諸問題や影響などについて討論し、より理解を深める。

教科書 /Textbooks

学生の関心領域にあわせて選択する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各グループへテーマに応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、連絡網の作成
- 2回 遊び・体育・スポーツ・競技などについて検討する①
- 3回 遊び・体育・スポーツ・競技などについて検討する②
- 4回 文献購読①
- 5回 文献購読②
- 6回 4年生のプロポーザル発表へ参加
- 7回 文献購読③
- 8回 文献購読④
- 9回 グループ研究のテーマと研究内容①
- 10回 グループ研究のテーマと研究内容②
- 11回 グループ研究のテーマと研究内容③
- 12回 グループ研究発表①
- 13回 グループ研究発表②
- 14回 グループ研究発表③
- 15回 ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃からスポーツや身体活動に関心を持ち、新聞・情報誌などに載っている興味のある記事・写真などを切りとったりコピーしたりしておくことを勧めます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

できるだけ受講生の興味・関心を加味しながら、進めていく予定である。

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人生80年代といわれる今日、いかに長く生きながらえるかといった量的な問題よりも、いかに有意義に過ごすかといった質的な問題が重視されている。そのためには、運動・栄養・休養といった3つの柱を基本とした規則正しい生活習慣の確立が必要である。また、運動選手の競技力向上や健康管理を考える上でも、この3つの柱は重要なものである。

本演習では、健康科学、身体適応論などで学習した内容をもとに、健康の保持増進や体力の向上、さらにはスポーツ競技選手の直面する諸問題などを受講生の興味や関心にあわせて取り上げ、理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○J.R.トーマス&J.K.ネルソン 『最新 体育・スポーツ科学研究法』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康に関する諸問題について (1)
- 3回 健康に関する諸問題について (2)
- 4回 健康に関する諸問題について (3)
- 5回 スポーツ実施者の直面する諸問題について (1)
- 6回 スポーツ実施者の直面する諸問題について (2)
- 7回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション (1)
- 8回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション (2)
- 9回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション (3)
- 10回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション (4)
- 11回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション (5)
- 12回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション (6)
- 13回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション (7)
- 14回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション (8)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% プレゼンテーション ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各自、興味のあるテーマについてまとめ、発表する。発表者以外も疑問点などをしっかり質問をする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境社会学は、様々な環境と、その環境を創る（または環境によって創られる）社会構造とが結びつく仕組みを明らかにする学問分野である。よって環境学と社会学の両方に関心を持ち、それぞれの基礎的な知識を学ぶことが求められる。文献、論文講読を重ねながら研究テーマや研究方法を見つけ出すこと、そして各自が調査フィールドを設定して、調査の計画からフィールドとの関係づくり、調査実施、集計分析までを一貫して行っていくことを目的としている。

教科書 /Textbooks

特に決まったものは使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 研究分野と研究史
- 2回 文献講読の分担発表と討論
- 3回 文献講読の分担発表と討論
- 4回 文献講読の分担発表と討論
- 5回 文献講読の分担発表と討論
- 6回 文献講読の分担発表と討論
- 7回 論文講読の分担発表と討論
- 8回 論文講読の分担発表と討論
- 9回 論文講読の分担発表と討論
- 10回 論文講読の分担発表と討論
- 11回 論文講読の分担発表と討論
- 12回 調査研究の分担発表と討論
- 13回 調査研究の分担発表と討論
- 14回 調査研究の分担発表と討論
- 15回 1学期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 調査・発表内容...40% 討論への参加状況...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

調査研究を分担発表する場合は計画的に準備し、文献、論文講読の場合は、発表担当でなくても事前に予習しておくことが必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

発達心理学に関する文献購読を通して、コミュニケーション能力や社会性、母子関係や仲間づくりなど、ひとの発達現象について心理学の視点から理解を深める。同時に、研究論文の書き方、データの収集の方法、統計的分析についても学習を深める。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文献講読を中心に行う。文献は発達心理学に関連するものを受講者自身が探し発表してもらう。

また、文献講読を踏まえ、グループ研究のテーマ検討を行う。

第1回 オリエンテーション

○文献を探す際のキーワード例

母子関係、愛着、共同注意、心の理論、言語発達、育児ストレス、発達障害(自閉性障害、学習障害、精神遅滞、ADHD...)、発達援助、など

第2回 文献講読1

第3回 文献講読2

第4回 文献講読3

第5回 文献講読4

第6回 文献講読5

第7回 文献講読6

第8回 文献講読7

第9回 文献講読8

第10回 文献講読9

第11回 文献講読10

第12回 文献講読11

第13回 グループ研究1(研究テーマの検討)

第14回 グループ研究2(研究テーマの検討)

第15回 グループ研究3(研究テーマの検討)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、発表、授業への関与度等を総合的に評価 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
各グループで社会心理学的問題の一つずつとりあげ、仮説構成、実験や調査の計画、データ分析、結果と考察の発表、討議を行う予定である。

教科書 /Textbooks
特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 グループ分けと研究テーマの決定
- 2回 先行研究を読む (日本語)
- 3回 先行研究を読む (日本語)
- 4回 先行研究を読む (日本語)
- 5回 先行研究を読む (英語)
- 6回 先行研究を読む (英語)
- 7回 先行研究を読む (英語)
- 8回 先行研究を読む (英語)
- 9回 実験・調査の計画・実施
- 10回 実験・調査の計画・実施
- 11回 実験・調査の計画・実施
- 12回 データ分析
- 13回 データ分析
- 14回 データ分析
- 15回 発表

※合宿を行う予定である。

成績評価の方法 /Assessment Method
授業への参加の積極性...50% 発表内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
日常生活の中で心理学的な問題になりそうな事を挙げておくと良い。統計の基礎的知識があると理解の助けになると思われる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前半は、臨床心理学の実践について理解を深めるために、専門書購読を行う。後半は、1学期からのグループ研究を進めていく。具体的には、収集されたデータの分析、研究発表資料の作成・発表を行い、心理学研究の進め方を体験的に学び、卒業論文作成のための基礎力をつける。尚、本演習に所属する学生は、臨床実践感覚を養うために学内外での臨床活動に参加することが求められる。

教科書 /Textbooks

河合隼雄『カウンセリングの実践問題』誠信書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(演習の進め方、発表の順番決め)
- 2回～10回 専門書購読
- 11回～14回 グループ研究の検討
- 15回 グループ研究発表(卒業論文発表との合同による)

成績評価の方法 /Assessment Method

平素 ... 20% 発表・討論への参加度 ... 30% グループ研究 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

専門書購読の際には、発表者はレジユメを作成すること。
また、それ以外の者も事前に読んでおいて疑問点や批判点を明確にしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コミュニケーションは、相手（人や機械）の意図をいかに「わかる」ということである。この演習では、「わかる」という問題について、様々な側面からアプローチする。それを心理学的にアプローチし、「わかりやすい」ようにするには、どうしたらよいかを考える。英語の文献講読と1学期に行った実験・調査のデータ処理及び発表を行う。さらに、卒論のテーマについての予備的検討を行う。講読する文献と実験・調査の内容は年によって異なる。

教科書 /Textbooks

使わない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 松尾太加志『コミュニケーションの心理学』ナカニシヤ出版
- 利島保ほか『心理学のための実験マニュアル』北大路書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 受講生による英語文献の発表
- 3回 受講生による英語文献の発表
- 4回 受講生による英語文献の発表
- 5回 受講生による英語文献の発表
- 6回 受講生による英語文献の発表
- 7回 卒論中間発表会への参加（4年生と合同）
- 8回 受講生による英語文献の発表
- 9回 受講生による英語文献の発表
- 10回 ゼミ実験または調査のデータ分析
- 11回 ゼミ実験または調査のデータ分析
- 12回 ゼミ実験または調査の考察の検討
- 13回 ゼミ実験または調査の考察の検討
- 14回 ゼミ実験または調査の結果発表
- 15回 まとめと卒論テーマについての決め方の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

平素...60% 課題...40%
(平素の演習での出席・発表・討論及び課題の内容を総合的に判断する。この割合はおよその目安)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から、「わかりにくい」という問題意識を持っていることが大切。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学の学習の中で、最もおもしろくクリエイティブなものは、「研究」です。この演習では、人間環境学にかかわる研究テーマを探す方法を学び、研究のおもしろさを知る糸口をつかむことを目的とします。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。授業の中で適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文献を探す技術を身につけることも演習の目的の一つです。文献の検索法などを演習の中で指導するので、受講生は必要な文献を自ら探せるようになってほしいと思います。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講生が選んだテーマについて、自らが探した文献などを基に理解を深めます。さらにそのテーマに関連する身近なフィールドの調査・観察などによって得られたデータとその考察を発表し討論します。演習 A - 1 より深く、オリジナリティーの高い発表が期待されます。

- 1回 研究テーマの設定 1 テーマを考える。
- 2回 研究テーマの設定 2 テーマを決める。
- 3回 先行研究の研究 1 論文を読んで討論する。
- 4回 先行研究の研究 2
- 5回 先行研究の研究 3
- 6回 先行研究の研究 4
- 7回 フィールドの設定 1 テーマに合致した身近なフィールドを探す
- 8回 フィールドの設定 2 フィールドの決定
- 9回 フィールドの設定 3 フィールドワークの方法と目的を考える
- 10回 フィールドワーク 1 フィールドワークの結果の発表討論
- 11回 フィールドワーク 2
- 12回 フィールドワーク 3
- 13回 考察 1 フィールドワークの成果を考察する
- 14回 考察 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性 ... 50% ゼミ発表の内容 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究テーマを見つけるためには、その領域についての深い知識とともに、何が問題であるのか、また、解決すべき点は何なのかを自ら見いだす力が必要です。そのような力を身につけるためには、日常的に色々な事象に目を向け、それらを自分の頭で考えて、疑問点を整理してみるとよいでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文化社会学、社会意識論のセミナーである。社会学の基本的な考え方を学び、それを応用できる能力を身につけることを授業のねらいとする。セミナーのなかにおいては、主として文化社会学、社会意識論に関する論文を読み、討論を行うが、学期内に何度もキャンパス外にて社会調査を行い、データの処理、報告書の作成等も課す。

教科書 /Textbooks

学生と話し合った後に指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

学生と話し合った後に指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 論文を読み(又は社会調査を行い)参加学生がレジユメにて報告
司会、発表者、コメンテーター共に学生が分担して行う

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度20% レジユメ50% 発表30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文化社会学の領域に興味がありかつ知識があることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会・環境・福祉・教育・心理・言語・宗教・芸術などすべてここに含まれる)のなかから自分のもつとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回
3年時は、予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。3年時後半から4年時前半に、長期調査によって、異文化体験とおしたあたらしいまなざしを身につける。4年時後半は、調査結果をもとに分析と理論化をすすめ、その成果を卒業論文にまとめる。卒業論文の中間発表は、4年次の9月末におこなう。ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。そういった意味で、自分が調査地に出ているときのぞき、ゼミには必ず参加すること、だって発表する人がかわいそうでしょう?ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション ... 50%
各自の調査研究 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学問のプロセスとしての論文の研究方法や書き方を学ぶことで、物事を科学的に捉えたり、筋道たてて考えるプロセスや思考や物事を深く追求する姿勢を身につけてほしい。グループ討議や発表、論文作成などを通じて、一般論としての社会福祉理論ではなく、社会福祉に対して、自分なりの考えや理解がもてることを期待している。

教科書 /Textbooks

○河嶋静代『ベビーホテルと児童家庭問題』京都・法政出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

学生たちが卒業論文を書くために必要な基礎知識、論文作成の方法の学習(テーマの選択、研究方法、論文の構成、文献の入手の方法、関連文献、概念やキーワードの整理、出典の表示など)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 論文の書き方 (ビデオ)
- 3回～5回 テーマの選択、文献・資料などについての検討と収集
- 6回～13回 文献の輪読、発表
- 14回～15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 40% 課題 40...% 発表... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日常的に見る福祉問題等への関心を持ち、新聞記事など資料収集をしながら、卒業論文のテーマの選定に備えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会福祉的援助を必要としている人々が抱える生活問題を、現実の諸問題から謙虚に学び取っていくことによって、科学的社会観と科学的人間観を身につけていくことを授業のねらいとする。

3年2学期より障害者福祉、高齢者福祉を中心として現在の社会福祉問題を研究する。個々人の研究テーマは自由に設定できるが、テーマを設定する際の問題意識を明確に持たなければならない。

教科書 /Textbooks

適時指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文献学習
- 3回 文献学習
- 4回 文献学習
- 5回 文献学習
- 6回 文献学習
- 7回 文献学習
- 8回 文献学習
- 9回 文献学習
- 10回 文献学習
- 11回 文献学習
- 12回 文献学習
- 13回 個別研究テーマの設定
- 14回 個別研究テーマの設定
- 15回 個別研究テーマの設定

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度 ... 30% 報告 ... 40% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会福祉の諸問題に関して総論的に学習を進め、4年生からの卒業研究に関するテーマ設定の準備を行う。2学期が終了する春休みには合宿を行い、卒業論文のためのテーマ設定を行う。社会福祉施設などにもでかけ、フィールドワークをおこないたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育の内外の環境の中で、他者及び社会的諸関係との交流等によって、人間は、どのようにして、その人間性と人格を形成していくのかということを検討する。「基礎研究」「課題研究」「自由研究」の形態で実施する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】内はキーワード

- 第1回 人間教育についての「基礎研究」【人間性】
- 第2回 人間教育についての「基礎研究」【人間形成】
- 第3回 人間教育についての「基礎研究」【論理】
- 第4回 人間教育についての「基礎研究」【感情】
- 第5回 人間教育についての「基礎研究」【身体】
- 第6回 人間教育についての「課題研究」【経験】
- 第7回 人間教育についての「課題研究」【社会】
- 第8回 人間教育についての「課題研究」【文化】
- 第9回 人間教育についての「課題研究」【交流】
- 第10回 人間教育についての「課題研究」【対話】
- 第11回 人間教育についての「自由研究」【資料収集】
- 第12回 人間教育についての「自由研究」【研究方法】
- 第13回 人間教育についての「自由研究」【集団討議】
- 第14回 人間教育についての「自由研究」【シェアリング】
- 第15回 人間教育についての「自由研究」【研究発表】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に指示されたことを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

臨床教育学に関する諸問題について、参加者の興味・関心に合わせてテキストを選んで考えていきたい。
 現段階では発達障害の問題、学校ソーシャルワークの問題についてもできれば取り上げていきたいと考えている。
 また、参加者の希望を踏まえて、心理療法に関する学習も引き続き進めていきたい。
 また、後半では来年度の卒業論文執筆に向けての論文構想の発表と指導を行う予定である。

教科書 /Textbooks

テキスト、参考文献については参加者と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

学生の興味・関心に合わせて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文献購読 その1
- 3回 文献購読 その2
- 4回 文献購読 その3
- 5回 文献購読 その4
- 6回 文献購読 その5
- 7回 文献購読 その6
- 8回 文献購読 その7
- 9回 卒業論文構想発表 1
- 10回 卒業論文構想発表 2
- 11回 卒業論文構想発表 3
- 12回 卒業論文構想発表 4
- 13回 卒業論文構想発表 5
- 14回 卒業論文構想発表 6
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 70% 期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文献購読のテキストは発表以外のときにも必ず読み込んで参加し、自分の意見を言えるようにしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間が、歴史的社会的文脈の中に自己の存在を位置づけていく自己実現と相互承認の編成過程を分析することを課題とします。そのために、(1) グローバルな視点や歴史的な視点で課題を捉えた上で、(2) 地域レベルでの行動の課題を、文化・教育・福祉・環境など幅広い分野における学習の契機や条件として把握し、検討します。(3) これらを踏まえて、現代社会における、人間そのものや、人間関係について、その到達点と可能性を明らかにしていきます。

教科書 /Textbooks

必要に応じて適宜、紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 雑誌『月刊 社会教育』国土社
- 雑誌『公民館』全国公民館連合会
- 雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文献購読や、生涯教育・社会教育の基礎理論をテーマとした演習を行う。

第1回～第5回 地域における教育の構造や、その連関について理解を深めます。

第6回～第10回 NPOやNGOについての理解を深め、社会参画やボランティア活動について

検討を行います。

第11回～第15回 生涯学習社会における学校教育・家庭教育・社会教育について理解を深め、生
・制度と、その連携・ネットワークについて検討します。

生涯学習関連の諸活動

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業態度と発表...70% 討論への参加...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会問題について関心を持ち、その背景や論点の整理を通じて、自分なりの意見とその根拠を明確にするよう心がけておくこととゼミの内容が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習A-1での成果や課題をふまえ、教育や子ども・青年に関する文献の検討や様々な教育問題の討論等を通して、教育学の基礎的な知識の習得や研究の仕方などを学ぶ。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文献、テーマ等は初回に提示する。
必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
 - 2回 テーマ学習(1)【子ども・若者】
 - 3回 文献検討(1)【子ども・若者】
 - 4回 文献検討(2)【子ども・若者と教育】
 - 5回 フィールドワーク(1)【事前学習】
 - 6回 フィールドワーク(2)【視点をしぼった観察】
 - 7回 フィールドワーク(3)【観察したデータの分析・考察】
 - 8回 卒論中間発表【研究目的・方法の学習】
 - 9回 文献検討(3)【教育問題(諸外国)】
 - 10回 文献検討(4)【学校問題(諸外国)】
 - 11回 テーマ学習(2)【教育に関する現代的テーマ】
 - 12回 ディベート【教育に関する現代的テーマ】
 - 13回 課題意識検討会【研究テーマへの接近】
 - 14回 卒論発表会【研究成果のわかちあい】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 課題 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本及び世界の教育に関する動きに関心を持ち、様々な情報にアクセスすること。
授業にあたり、配布したレジюме・資料をよく読むこと。
「自分のテーマ」を見つけ、そのテーマに関する資料等をもとにプレゼンテーションを行うので、それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分自身が深めたい研究テーマは何か、じっくりと考えていきましょう。

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今やスポーツはプレイする人だけのものではなく、大会やイベントを支える側、観る側などあらゆる人たちのものである。様々な角度からスポーツを捉え、スポーツに関わる諸問題や影響などについて討論し、より理解を深める。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自のテーマに応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 各自で関心のある領域・テーマを見つける①
- 2回 各自で関心のある領域・テーマを見つける②
- 3回 先行研究の購読①
- 4回 先行研究の購読②
- 5回 先行研究の購読③
- 6回 先行研究の購読④
- 7回 4年生の合同中間発表資料を検討
- 8回 4年生の合同中間発表会に参加
- 9回 幼稚園児への運動プログラム計画・立案①
- 10回 幼稚園児への運動プログラム計画・立案②
- 11回 準備・作業
- 12回 (実践) 幼稚園児への運動プログラム提供
- 13回 反省会
- 14回 合同の卒業論文発表会の参加
- 15回 ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒論の領域やテーマを意識しながら、4年生の中間発表や卒論発表に参加して意識を高める。
資料収集に取り組む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人生80年代といわれる今日、いかに長く生きながらえるかといった量的な問題よりも、いかに有意義に過ごすかといった質的な問題が重視されている。そのためには、運動・栄養・休養といった3つの柱を基本とした規則正しい生活習慣の確立が必要である。また、運動選手の競技力向上や健康管理を考える上でも、この3つの柱は重要なものである。

本演習では、健康科学、身体適応論などで学習した内容をもとに、健康の保持増進や体力の向上、さらにはスポーツ競技選手の直面する諸問題などを受講生の興味や関心にあわせて取り上げ、理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○J.R.トーマス&J.K.ネルソン 『最新 体育・スポーツ科学研究法』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 科学研究の方法論(1)
- 3回 科学研究の方法論(2)
- 4回 科学研究の方法論(3)
- 5回 文献の探し方(1)
- 6回 文献の探し方(2)
- 7回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション(1)
- 8回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション(2)
- 9回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション(3)
- 10回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション(4)
- 11回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション(5)
- 12回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション(6)
- 13回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション(7)
- 14回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション(8)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% プレゼンテーション ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各自、興味のあるテーマについてまとめ、発表する。ディスカッションを通して、卒業論文のテーマ選定を考えていく。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境社会学は、様々な環境と、その環境を創る（または環境によって創られる）社会構造とが結びつく仕組みを明らかにする学問分野である。よって環境学と社会学の両方に関心を持ち、それぞれの基礎的な知識を学ぶことが求められる。文献、論文講読を重ねながら研究テーマや研究方法を見つけ出すこと、そして各自が調査フィールドを設定して、調査の計画からフィールドとの関係づくり、調査実施、集計分析までを一貫して行っていくことを目的としている。

教科書 /Textbooks

特に決まったものは使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 調査研究方法
- 2回 研究計画・準備
- 3回 研究計画・準備
- 4回 現地調査・分析と討論
- 5回 現地調査・分析と討論
- 6回 現地調査・分析と討論
- 7回 現地調査・分析と討論
- 8回 現地調査・分析と討論
- 9回 研究計画・準備
- 10回 研究計画・準備
- 11回 現地調査・分析と討論
- 12回 現地調査・分析と討論
- 13回 現地調査・分析と討論
- 14回 現地調査・分析と討論
- 15回 夏休みの調査計画

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 調査・発表内容...40% 討論への参加状況...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

調査研究を分担発表する場合は計画的に準備し、文献、論文講読の場合は、発表担当でなくても事前に予習しておくことが必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

発達心理学に関する研究テーマに従い、グループ演習を行う。コミュニケーション発達、母子関係など各グループでテーマを設定し、研究計画作成、データ収集・分析、研究レポート作成と研究実施における一連の手続きの学習を目的とする。また、学期最後には研究成果について発表会を行う。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 グループ研究：研究計画作成・関連研究のレビュー1
- 第3回 グループ研究：研究計画作成・関連研究のレビュー2
- 第4回 グループ研究：研究計画作成・関連研究のレビュー3
- 第5回 グループ研究：研究計画作成・関連研究のレビュー4
- 第6回 グループ研究：研究計画作成・関連研究のレビュー5
- 第7回 グループ研究：データ収集・分析1
- 第8回 グループ研究：データ収集・分析2
- 第9回 グループ研究：データ収集・分析3
- 第10回 グループ研究：データ収集・分析4
- 第11回 グループ研究：研究レポート作成1
- 第12回 グループ研究：研究レポート作成2
- 第13回 グループ研究：研究レポート作成3
- 第14回 研究発表会1
- 第15回 研究発表会2

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、発表、授業への関与度等を総合的に評価 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 近藤 倫明 / Michiaki Kondo / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文の基礎となるテーマを見つけ、各自文献研究および実験論文について発表し、自らの実験を計画し、データを収集し、結果の整理、さらに卒業論文としてまとめるために必要な具体的、実践的方法を学びます。(授業の中では自らの研究テーマに沿って発表し、議論します。)

教科書 /Textbooks

テキストは使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献、論文は適宜各自の研究テーマに沿って紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

4年生の演習は主として卒業論文作成のための基礎的指導をします。卒業論文作成の年間計画を3年生の3月に作成し個別指導と集団指導を組み合わせで行います。スケジュールは受講生個人によって異なるため記載不可。(授業時間以外での指導も含む。)

1回~3回 受講生の卒業テーマの検討【卒業研究】、【文献検索】

4回~14回 個別指導および集団指導

15回 卒業論文進行状況の報告会

(前年度(平成22年度)の研究テーマ事例)

「錯視に関する認知心理学的研究」

「形の知覚に関する視覚心理学的研究」

「パーソナルスペースに関する認知心理学的研究」

「記憶に及ぼす記憶材料の色の効果に関する研究」

「自伝的記憶に関する認知心理学的研究」

「人物評価に及ぼす色の効果」

成績評価の方法 /Assessment Method

発表20%、文献・実験研究50%、平素の総合評価30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒業論文に関する文献研究、そして実験・調査を計画し、データ収集を行い結果を分析するため授業以外での研究活動が重要です。授業時間にとられないで研究することを理解しておきます。卒業論文作成に必要なあらゆる準備を行います。

履修上の注意 /Remarks

個別必要な情報のやり取りはメールを通して指導します。授業時間だけでなく日常的な学習、研究が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4年生の演習は4年間の勉学・研究を総括する大学(高等教育)における最も重要な学習場面のひとつとして位置づけられています。過去3年間の学生生活で培った知識・経験を総合して自分のオリジナルな研究分野に挑戦し、研究を計画し、データを収集し、結果を分析し、考察し、その成果をまとめて下さい。

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各自の卒業論文作成の準備と、途中経過を発表し、議論に加わることで互いの研究を深めることがねらいである。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 研究の基礎
- 2回 研究の基礎
- 3回 各自の研究テーマ発表、議論
- 4回 各自の研究テーマ発表、議論
- 5回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 6回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 7回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 8回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 9回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 10回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 11回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 12回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 13回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 14回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 15回 各自の研究進捗状況発表、議論

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性...50% 発表内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒業論文の作成と平行してはじめて発表が可能になるので、各自がテーマをもって研究を進めていかなければならない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業研究に向けて、各自が興味・関心あるテーマを選び、そのテーマに関する国内外の文献研究を進め、討議を通じて問題・仮説の設定を行う。さらに、心理学研究方法を用いてデータの収集、分析を行い、論文にまとめる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに沿って適宜個別に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 進め方は以下の通り
 研究テーマの選定
 関連する文献の購読、討議
 研究計画の立案
 研究の実施
 研究結果の分析、検討
 卒業論文の作成、提出
 * 夏休み期間にゼミ合宿を行う。その際、各自の卒論研究について発表する。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素 ... 10% 発表 ... 20% 卒論の内容 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表の際には、レジュメを作成しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成に必要な方法論を学ぶ。卒論テーマの決め方，文献収集の仕方，実験や調査の準備・実施，データの分析方法について，個別の卒論テーマに沿って学習をする。授業時間以外で個別指導を行う。

教科書 /Textbooks

テキストは使わない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は，各自の卒論テーマに合わせて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 3回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 4回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 5回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 6回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 7回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 8回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 9回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 10回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 11回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 12回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 13回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 14回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 15回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論

成績評価の方法 /Assessment Method

平素...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

3年の2学期までに卒論のテーマを決めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者が演習A-2で設定したテーマについて専門的に研究し、最終的に成果を卒業論文としてまとめます。自らが研究テーマを発見し、その研究方法を開発したのちデータを収集し成果をまとめるという一連の作業のなかで、受講者には問題の発見と解決を自ら行う能力が身に付くことが期待できます。このような能力は、大学での学習だけでなく、社会においても広く応用が可能な能力であり、是非とも身につけておくべきものであると思います。この点に、本演習の重点を置きたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。授業の中で適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「大学生のための論理的に書きプレゼンする技術」(菊田千春ほか著 東洋経済新報社 1,575円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

論文をまとめるまでの過程はおおむね以下のようになります。

(1)問題発見期(テーマを設定する)(2)解決方法開発期(研究方法を開発する)(3)データ収集期(研究方法に従ってデータを収集する)(4)データ解析期(考察を行う)(5)総括期(設定した問題について論文としてまとめる)。この演習は、上記の過程の(1)から(3)の段階にあたります。

- 1回 解決方法の開発1 演習A-2で設定した研究テーマの研究方法を開発する。
- 2回 解決方法の開発2
- 3回 解決方法の開発3
- 4回 解決方法の開発4
- 5回 テータを収集し討論する1 フィールドワーク・実験・観察を行う
- 6回 テータを収集し討論する2
- 7回 テータを収集し討論する3
- 8回 テータを収集し討論する4
- 9回 テータを収集し討論する5
- 10回 テータを収集し討論する6
- 11回 テータを収集する7
- 12回 中間のまとめ1 得られたデータを整理する
- 13回 中間のまとめ2
- 14回 中間のまとめ3
- 15回 今後の方針の検討

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性 ... 50% ゼミ発表の内容 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究への積極的な意欲を持つことが最大の準備です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文化社会学、社会意識論のセミナーである。社会学の基本的な考え方を学び、それを応用できる能力を身につけることを授業のねらいとする。セミナーのなかにおいては、主として文化社会学、社会意識論に関する論文を読み、討論を行うが、年間に何度かキャンパス外にて社会調査を行い、データの処理、報告書の作成等も課す。しっかりとした（単なる作文ではない）卒論を仕上げるのが目標である。

教科書 /Textbooks

学生と話し合ってから指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

学生と話し合った後に指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回 レジユメ担当を決めテキストを読む
5月、7月に学外にて調査を行う予定である

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度20% レジユメ50% 発表30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

調査や発表等、授業時間外の準備時間が十分必要となるので注意。

履修上の注意 /Remarks

調査や発表等、授業時間外の準備時間が十分必要となるので注意。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会・環境・福祉・教育・心理・言語・宗教・芸術などすべてここに含まれる)のなかから自分のもつとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回
3年時は、予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。3年時後半から4年時前半に、長期調査によって、異文化体験をとおしたあたらしいまなざしを身につける。4年時後半は、調査結果をもとに分析と理論化をすすめ、その成果を卒業論文にまとめる。卒業論文の中間発表は、4年次の9月末におこなう。ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。そういった意味で、自分が調査地に出ているときのぞき、ゼミには必ず参加すること、だって発表する人がかわいそうでしょう?ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション ... 50%
各自の調査研究 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学問のプロセスとしての論文の研究方法や書き方を学ぶことで、物事を科学的に捉えたり、筋道たてて考えるプロセスや思考や物事を深く追求する姿勢を身につけてほしい。グループ討議や発表、論文作成などを通じて、一般論としての社会福祉理論ではなく、社会福祉に対して、自分なりの考えや理解がもてることを期待している。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

4年次は卒業論文について、各自、テーマを決定し、研究にとりくむ。研究計画を提出し、手順を踏まえながら研究を進め、卒論を完成できるように指導する。1学期は、テーマの選定、題目の決定、論文の構成まで進むように集団指導、個別指導を行う。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回～8回 テーマの選定と題目の決定
- 9回～12回 論文の構成、キーワード
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 40% 課題 40...% 発表... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒論テーマの決めるにあたって、日常的に自分の関心ある事柄について新聞記事などをスクラップするなど、資料を収集するようしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年生1学期より障害者福祉、高齢者福祉を中心とした現在の社会福祉問題を、具体的テーマの下、研究する。個々人の研究テーマは自由に設定できるが、テーマを設定する際の問題意識を明確に持たなければならない。そのためには障害者、高齢者、生活困窮者など、当事者が抱える生活現実から真摯に社会福祉要求を学び取っていくことが求められる。そのことが、“書かなければならない”卒論から、“自己実現のための”研究の転換へと私たちを導いてくれることと思う。

教科書 /Textbooks

適時指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 研究対象の検討
- 3回 研究対象の検討
- 4回 研究方法の検討
- 5回 研究方法の検討
- 6回 研究内容の検討
- 7回 研究内容の検討
- 8回 フィールドの検討
- 9回 フィールドの検討
- 10回 フィールドワーク
- 11回 フィールドワーク
- 12回 フィールドワーク
- 13回 フィールドワーク
- 14回 フィールドワーク
- 15回 個別報告

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度 ... 30% 報告 ... 40% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

4年生前期は卒業論文のテーマを個人若しくはグループで設定し、研究計画を考える。卒業論文に必要な諸資料、文献探索の方法についても指導する。夏期休暇中に合宿をおこない、卒業論文の骨子を検討する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育の内外の環境の中で、他者及び社会的諸関係との交流等によって、人間は、どのようにして、その人間性と人格を形成していくのかと
いうことを検討する。「基礎研究」「課題研究」「自由研究」の形態で実施する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】内はキーワード

- 第1回 人間教育についての「基礎研究」【人間性】
- 第2回 人間教育についての「基礎研究」【人間形成】
- 第3回 人間教育についての「基礎研究」【論理】
- 第4回 人間教育についての「基礎研究」【感情】
- 第5回 人間教育についての「基礎研究」【身体】
- 第6回 人間教育についての「課題研究」【経験】
- 第7回 人間教育についての「課題研究」【社会】
- 第8回 人間教育についての「課題研究」【文化】
- 第9回 人間教育についての「課題研究」【交流】
- 第10回 人間教育についての「課題研究」【対話】
- 第11回 人間教育についての「自由研究」【資料収集】
- 第12回 人間教育についての「自由研究」【研究方法】
- 第13回 人間教育についての「自由研究」【集団討議】
- 第14回 人間教育についての「自由研究」【シェアリング】
- 第15回 人間教育についての「自由研究」【研究発表】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に指示されたことを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

3年生での一年間の学習成果を踏まえて、卒業論文の執筆に向けての報告と検討を中心にして進める。各自の自覚的な取り組みを期待する。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 卒論の書き方についてのプレゼンテーション
- 3回 卒論構想発表 1
- 4回 卒論構想発表 2
- 5回 卒論構想発表 3
- 6回 卒論構想発表 4
- 7回 卒論構想発表 5
- 8回 卒論構想発表 6
- 9回 卒論構想発表 7
- 10回 卒論構想発表 8
- 11回 卒論構想発表 9
- 12回 卒論構想発表 10
- 13回 卒論構想発表 11
- 14回 卒論構想発表 12
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 70% 期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒業論文の完成に向けての文献の探索、研究方法の明確化を積極的に進めてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成の基礎となる研究を行います。
生涯学習・生涯教育の視点から見た現代社会の人間関係に関する課題と方法の設定について学び、文献研究などを行いながら、結果を発表し、討議します。
それらを踏まえて、各自で考察・検討を深め、自分なりの視点を客観的に説明できる力を養います。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

理論研究を中心に概ね以下のスケジュールで演習を行います。

1回～2回	理論的な考え方について
3回～4回	研究とは何か
5回～7回	テーマの設定と課題レポート作成計画の提出
8回	先行研究についての文献リストの作成
9回～10回	先行研究についての考察
11回～12回	分析視点と仮説の設定
13回～14回	それらの文章化
15回	まとめたものを発表しながら相互に検討・批評

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業態度と発表...70% 討論への参加...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会問題について関心を持ち、その背景や論点の整理を通じて、自分なりの意見とその根拠を明確にするよう心がけておくこととゼミの内容が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習A-1,A-2での成果や課題をふまえ、教育や子ども・若者に関する文献の検討や様々な教育問題の討論等を通して、教育学の基礎的な知識の習得や研究の仕方などを学ぶ。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 テーマ学習【子ども・若者】
- 3回 研究計画の検討(1)【研究目的・課題】
- 4回 研究計画の検討(2)【研究方法】
- 5回 卒業論文に関わる文献の検討(1)【文献リスト】
- 6回 卒業論文に関わる文献の検討(2)【先行研究の購読】
- 7回 卒業論文に関わる文献の検討(3)【先行研究の整理】
- 8回 卒業論文に関わる文献の検討(4)【先行研究の批評】
- 9回 卒業論文に関わる文献の検討(5)【課題の確定】
- 10回 フィールドワークの報告【観察分析の分かち合い】
- 11回 質問紙調査(1)【ワーディング】
- 12回 質問紙調査(2)【予備調査】
- 13回 研究計画の検討(3)【論文の構成】
- 14回 デイバート【教育に関する時事的テーマ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 40% 課題... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本及び世界の教育に関する動きに関心を持ち、様々な情報にアクセスすること。
授業にあたり、配布したレジュメ・資料をよく読むこと。
それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

研究テーマを決め、必要な情報や資料を収集していく段階にきました。
参加者が互いに刺激しあう演習にしていきたいと思います。

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

3年次で学んだことを生かして、各自関心ある領域から研究テーマを決め、卒業論文にむけての準備を行う

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の卒論テーマに応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒論の書き方の確認
- 2回 卒論のテーマ・研究対象の検討①
- 3回 卒論のテーマ・研究対象の検討②
- 4回 卒論のテーマ・研究対象の検討③
- 5回 プロポーザル発表に向けての資料づくり
- 6回 合同のプロポーザル発表会
- 7回 発表会のふりかえり
- 8回 研究方法の検討(アンケート・実験などに向けて)①
- 9回 研究方法の検討(アンケート・実験などに向けて)②
- 10回 研究方法の検討(アンケート・実験などに向けて)③
- 11回 研究内容の個別指導①
- 12回 研究内容の個別指導②
- 13回 研究方法の作業①
- 14回 研究方法の作業②
- 15回 研究方法の作業③

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

アンケート作成や実験を行う場合は、できるだけ夏期休暇に済ませる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人生80年代といわれる今日、いかに長く生きながらえるかといった量的な問題よりも、いかに有意義に過ごすかといった質的な問題が重視されている。そのためには、運動・栄養・休養といった3つの柱を基本とした規則正しい生活習慣の確立が必要である。また、運動選手の競技力向上や健康管理を考える上でも、この3つの柱は重要なものである。
本演習では、卒業論文作成について、テーマの選定、方法論について考え、実際に調査・測定を実施する

教科書 /Textbooks

適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○J.R.トーマス&J.K.ネルソン 『最新 体育・スポーツ科学研究法』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 卒業論文作成について (1)
- 3回 卒業論文作成について (2)
- 4回 卒業論文のテーマ決定
- 5回 卒業論文プロポーザル発表
- 6回 卒業論文の予備調査 (1)
- 7回 卒業論文の予備調査 (2)
- 8回 卒業論文の予備調査 (3)
- 9回 卒業論文の予備調査 (3)
- 10回 データ処理方法について (1)
- 11回 データ処理方法について (2)
- 12回 データ処理方法について (3)
- 13回 図表の書き方 (1)
- 14回 図表の書き方 (1)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% プレゼンテーション ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒業論文のテーマ決定を行い、なるべく早く調査・測定を実施します。それと同時に、文献研究も同時に行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境社会学は、様々な環境と、その環境を創る（または環境によって創られる）社会構造とが結びつく仕組みを明らかにする学問分野である。よって環境学と社会学の両方に関心を持ち、それぞれの基礎的な知識を学ぶことが求められる。文献、論文講読を重ねながら、卒論完成に向けた考察を深める。

教科書 /Textbooks

特に決まったものは使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 研究分野と研究史
- 2回 文献講読の分担発表と討論
- 3回 文献講読の分担発表と討論
- 4回 文献講読の分担発表と討論
- 5回 文献講読の分担発表と討論
- 6回 文献講読の分担発表と討論
- 7回 論文講読の分担発表と討論
- 8回 論文講読の分担発表と討論
- 9回 論文講読の分担発表と討論
- 10回 論文講読の分担発表と討論
- 11回 論文講読の分担発表と討論
- 12回 調査研究の分担発表と討論
- 13回 調査研究の分担発表と討論
- 14回 調査研究の分担発表と討論
- 15回 1学期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 調査・発表内容...40% 討論への参加状況...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

調査研究を分担発表する場合は計画的に準備し、文献、論文講読の場合は、発表担当でなくても事前に予習しておくことが必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各自の卒業論文作成と並行して、テーマ設定、関連文献の講読、研究計画について議論を行う。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各学生の卒業論文のテーマに沿って、各自の研究テーマや研究計画の検討、先行研究レビューの発表を行う。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 論文テーマ検討1
- 第3回 論文テーマ検討2
- 第4回 論文テーマ検討3
- 第5回 先行研究・文献レビュー1
- 第6回 先行研究・文献レビュー2
- 第7回 先行研究・文献レビュー3
- 第8回 先行研究・文献レビュー4
- 第9回 先行研究・文献レビュー5
- 第10回 研究計画検討1
- 第11回 研究計画検討2
- 第12回 研究計画検討3
- 第13回 研究計画検討4
- 第14回 卒業論文経過発表1
- 第15回 卒業論文経過発表2

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、発表、授業への関与度等を総合的に評価 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 近藤 倫明 / Michiaki Kondo / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期の認知心理学演習 B-1に引き続き、卒業論文に関して各自文献研究および実験論文について発表し、自らの実験を計画し、データを収集し、結果の整理、さらに卒業論文としてまとめるために必要な具体的、実践的方法を学びます。(授業の中では自らの研究テーマに沿って発表し、議論します。)

教科書 /Textbooks

テキストは使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献、論文は適宜各自の研究テーマに沿って紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

4年生の演習は主として卒業論文作成のための基礎的指導です。卒業論文作成の年間計画を3年生の3月に作成し個別指導と集団指導を組み合わせで行います。スケジュールは受講生個人によって異なるため記載不可。(授業時間以外での指導も含む。)

1回～2回 卒業論文進行状況の報告

3回～10回 個別指導および集団指導

11回 卒論中間発表会(11月下旬予定)

12回～14回 個別指導および集団指導

15回 卒業論文発表会(1月下旬予定)

(前年度(平成22年度)の研究テーマ事例)

「錯視に関する認知心理学的研究」

「形の知覚に関する視覚心理学的研究」

「パーソナルスペースに関する認知心理学的研究」

「記憶に及ぼす記銘材料の色の効果に関する研究」

「自伝的記憶に関する認知心理学的研究」

「人物評価に及ぼす色の効果」

成績評価の方法 /Assessment Method

発表20%、文献・実験研究50%、平素の総合評価30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒業論文に関する文献研究、そして実験・調査を計画し、データ収集を行い結果を分析するため授業以外での研究活動が重要です。授業時間にとられないで研究することを理解しておいて下さい。卒業論文作成に必要なあらゆる準備を行います。

履修上の注意 /Remarks

個別必要な情報のやり取りはメールを通して指導します。授業時間だけでなく日常的な学習、研究が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4年生の演習は4年間の勉学・研究を総括する大学(高等教育)における最も重要な学習場面のひとつとして位置づけられています。過去3年間の学生生活で培った知識・経験を総合して自分のオリジナルな研究分野に挑戦し、研究を計画し、データを収集し、結果を分析し、考察し、その成果をまとめて下さい。

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各自の卒業論文作成の準備と、途中経過を発表し、議論に加わることで互いの研究を深めることがねらいである。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 研究発表の練習
- 2回 研究発表の練習
- 3回 中間発表
- 4回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 5回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 6回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 7回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 8回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 9回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 10回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 11回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 12回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 13回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 14回 研究発表の練習
- 15回 最終発表

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性...50% 発表内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒業論文の作成と平行してはじめて発表が可能になるので、各自がテーマをもって研究を進めていかなければならない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続いて、卒業研究の作成を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに沿って適宜個別に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～14回 進め方は以下の通り
 研究テーマの選定
 関連する文献の購読、討議
 研究計画の立案
 研究の実施
 研究結果の分析、検討
 卒業論文の作成、提出
- 15回 卒業論文発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

平素 ... 10% 発表 ... 20% 卒論の内容 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表の際には、レジュメを作成しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成に必要な方法論を学ぶ。卒論テーマの決め方，文献収集の仕方，実験や調査の準備・実施，データの分析方法について，個別の卒論テーマに沿って学習をする。授業時間以外に個別指導を行う。

教科書 /Textbooks

テキストは使わない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は，各自の卒論テーマに合わせて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 受講生による卒論の進捗報告と問題点についての議論
- 3回 受講生による卒論の進捗報告と問題点についての議論
- 4回 受講生による卒論の進捗報告と問題点についての議論
- 5回 受講生による卒論の進捗報告と問題点についての議論
- 6回 卒業論文中間発表会の発表の仕方及び資料作成の指導
- 7回 卒業論文中間発表会
- 8回 受講生による卒論の進捗報告と問題点についての議論
- 9回 受講生による卒論の進捗報告と問題点についての議論
- 10回 受講生による卒論の進捗報告と問題点についての議論
- 11回 受講生による卒論の進捗報告と問題点についての議論
- 12回 受講生による卒論の進捗報告と問題点についての議論
- 13回 卒業論文の原稿作成及び提出に関する指導
- 14回 卒業論文発表会での発表の仕方および要綱集の執筆指導
- 15回 卒業論文発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

平素...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

4年の1学期までに卒論のデータを取り終えておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習B-1の最後で再検討した研究方針に基づいて、さらに深く研究を進めます。
自らが研究テーマを発見し、その研究方法を開発したのちデータを収集し、成果をまとめるという一連の作業のなかで、受講者には問題の発見と解決を自ら行う能力が身に付くことが期待できます。このような能力は、環境問題の学習だけでなく、社会において広く応用が可能な能力であり、大学在学中に是非とも身につけておくべきものであると考えます。この演習では、演習B-1と同様に、この点に重点を置きたいと思っております。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。授業の中で適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「大学生のための論理的に書きプレゼンする技術」(菊田千春ほか著 東洋経済新報社 1,575円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

論文をまとめるまでの過程はおおむね以下ようになります。
(1)問題発見期(テーマを設定する)(2)解決方法開発期(研究方法を開発する)(3)データ収集期(研究方法に従ってデータを収集する)(4)データ解析期(考察を行う)(5)総括期(設定した問題について論文としてまとめる) この演習は、この過程のうち(3)から(5)の過程になります。

- 1回 データを収集する 1
- 2回 データを収集する 2
- 3回 データを収集する 3
- 4回 データを収集する 4
- 5回 データを収集する 5
- 6回 データを収集する 6
- 7回 中間のまとめ
- 8回 中間のまとめ
- 9回 今後の方針の検討
- 10回 データを収集する 7
- 11回 データを収集する 8
- 12回 総括 1 全体の考察とまとめ、および論文文化
- 13回 総括 2
- 14回 総括 3
- 15回 卒論発表会へ向けたプレゼンテーションの作成

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性 ... 50% ゼミ発表の内容 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究への積極的な姿勢をもつことが最大の準備で、それが研究を楽しくします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文化社会学、社会意識論のセミナーである。社会学の基本的な考え方を学び、それを応用できる能力を身につけることを授業のねらいとする。セミナーのなかにおいては、主として文化社会学、社会意識論に関する論文を読み、討論を行うが、卒論に必要な学生は何度かキャンパス外にて社会調査を行い、データの処理、報告書の作成等も課す。しっかりとした(単なる作文ではない)卒論を仕上げるのが目標である。

教科書 /Textbooks

学生と話し合ってから指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

学生と話し合ってから指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～14回 卒論について構想を発表しながら、オリジナリティある卒論へと仕上げてゆく
15回 卒論発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度20% レジユメ50% 発表30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別な理由のない限り、授業を休むことはできない。

履修上の注意 /Remarks

調査や発表等、授業時間外の準備時間が十分必要となるので注意。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会・環境・福祉・教育・心理・言語・宗教・芸術などすべてここに含まれる)のなかから自分のもつとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回
3年時は、予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。3年時後半から4年時前半に、長期調査によって、異文化体験をとおしたあたらしいまなざしを身につける。4年時後半は、調査結果をもとに分析と理論化をすすめ、その成果を卒業論文にまとめる。卒業論文の中間発表は、4年次の9月末におこなう。ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。そういった意味で、自分が調査地に出ているときをのぞき、ゼミには必ず参加すること、だって発表する人がかわいそうでしょう?ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション ... 50%
各自の調査研究 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学問のプロセスとしての論文の研究方法や書き方を学ぶことで、物事を科学的に捉えたり、筋道たてて考えるプロセスや思考や物事を深く追求する姿勢を身につけてほしい。グループ討議や発表、論文作成などを通じて、一般論としての社会福祉理論ではなく、社会福祉に対して、自分なりの考えや理解がもてることを期待している。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

4年次の2学期は、個別指導を中心にを行い、卒論を完成できるように指導する。中間発表や卒論発表会において報告する。

- 1回 卒業論文の進捗状況についての報告、個別指導日程調整
- 2回～4回 個別指導
- 5回 中間発表
- 6回～12回 個別指導
- 15回 卒業論文発表会 総評

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 40% 課題 40...% 発表... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

個別指導の日程は学生と相談して決めますが、週1回の指導を受けるためには、教員から指摘された事項に応えられるように、加筆・修正するなど卒論執筆を進めておく必要があります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会福祉士国家試験を受ける学生には1月末の試験の準備ができるように、卒業論文は12月中に完成するようにスケジュールを組みます。

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年生2学期より障害者福祉、高齢者福祉、その他社会福祉領域を中心としてゼミ生各人が立てた研究計画の下、卒業論文を作成する。個々人の研究テーマは自由に設定できるが、テーマを設定する際の問題意識を明確に持たなければならない。そのためには障害者、高齢者、生活困窮者など、当事者が抱える生活現実から真摯に社会福祉要求を学び取っていくことが求められる。

教科書 /Textbooks

適時指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション・個別研究テーマの確認
- 2回 論文に関する個別指導
- 3回 論文に関する個別指導
- 4回 論文に関する個別指導
- 5回 論文に関する個別指導
- 6回 論文に関する個別指導
- 7回 論文に関する個別指導
- 8回 論文に関する個別指導
- 9回 論文に関する個別指導
- 10回 論文に関する個別指導
- 11回 論文に関する個別指導
- 12回 論文に関する個別指導
- 13回 論文に関する個別指導
- 14回 論文に関する個別指導
- 15回 論文発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度 ... 30% 報告 ... 40% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

4年生2学期は個人若しくはグループで設定した卒業論文のテーマを、具体的にまとめていく。卒業論文に必要な諸資料、文献探索の方法についても指導する。夏期休暇中に実施した合宿での卒業論文の骨子を具体化し、論文を作成する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育の内外の環境の中で、他者及び社会的諸関係との交流等によって、人間は、どのようにして、その人間性と人格を形成していくのかと
いうことを検討する。「基礎研究」「課題研究」「自由研究」の形態で実施する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】内はキーワード

- 第1回 人間教育についての「基礎研究」【人間性】
- 第2回 人間教育についての「基礎研究」【人間形成】
- 第3回 人間教育についての「基礎研究」【論理】
- 第4回 人間教育についての「基礎研究」【感情】
- 第5回 人間教育についての「基礎研究」【身体】
- 第6回 人間教育についての「課題研究」【経験】
- 第7回 人間教育についての「課題研究」【社会】
- 第8回 人間教育についての「課題研究」【文化】
- 第9回 人間教育についての「課題研究」【交流】
- 第10回 人間教育についての「課題研究」【対話】
- 第11回 人間教育についての「自由研究」【資料収集】
- 第12回 人間教育についての「自由研究」【研究方法】
- 第13回 人間教育についての「自由研究」【集団討議】
- 第14回 人間教育についての「自由研究」【シェアリング】
- 第15回 人間教育についての「自由研究」【研究発表】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に指示されたことを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1月の卒業論文指導に向けて、前半は構想発表、後半は個人指導を中心にして進める。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。参考文献は個々の学生に合わせて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

学生の卒論テーマに合わせて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション
- 2回 卒論構想発表 1
- 3回 卒論構想発表 2
- 4回 卒論構想発表 3
- 5回 卒論構想発表 4
- 6回 卒論構想発表 5
- 7回 卒論構想発表 6
- 8回 個別指導
- 9回 個別指導
- 10回 個別指導
- 11回 中間発表会
- 12回 中間発表会
- 13回 個別指導
- 14回 個別指導
- 15回 卒業論文発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 70点 卒論発表会 30点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

4年間の学びの集大成である卒業論文の完成に向けて、早い段階から執筆作業を始めてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 2 【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成の基礎となる研究を行います。
生涯学習・生涯教育の視点から見た現代社会の人間関係に関する課題と方法の設定について、資料や情報の整理、調査研究などを行いながら、結果を発表し、討議します。
それらを踏まえて、各自で考察・検討を深め、卒論作成につなげます。現代社会における人間の自己教育の到達点、諸活動の課題・可能性について教育学的に解明することを課題とします。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実証研究を中心に概ね以下のスケジュールで演習を行います。

- 1回～2回 実証研究とは何か
- 3回～4回 テーマの設定と関連活動の情報の収集・整理
- 5回～7回 課題レポート調査計画の提出
- 8回 調査活動の実施
- 9回～10回 調査結果の分析
- 11回 補足資料、補足調査の実施
- 12回～13回 それらの文章化
- 14回 まとめたものを発表しながら相互に検討・批評
- 15回 調査協力者への報告、提案

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業態度と発表...70% 討論への参加...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会問題について関心を持ち、その背景や論点の整理を通じて、自分なりの意見とその根拠を明確にするよう心がけておくとゼミの内容が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習A-1,A-2,B-1での成果や課題をふまえ、教育や子ども・青年に関する文献の検討や様々な教育問題の討論を通して、さらなる教育学知識の習得や研究の進め方・まとめ方などを学びます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 卒業論文完成に向けて【成果に学ぶ】
- 3回 卒業論文に関わる発表・討論1【本論・事例研究】
- 4回 卒業論文に関わる発表・討論2【本論・質問紙調査】
- 5回 卒業論文に関わる発表・討論3【本論・面接調査】
- 6回 卒業論文に関わる発表・討論4【本論・テキスト分析】
- 7回 フィールドワークの報告・検討【観察したデータの分析・考察】
- 8回 卒論・中間発表【研究目的・方法、論文構成】
- 9回 卒業論文に関わる発表1【論文の仕上げ・キーワード】
- 10回 卒業論文に関わる発表2【論文の仕上げ・リライト】
- 11回 卒業論文に関わる発表3【論文の仕上げ・最終チェック】
- 12回 卒業論文に関わる発表4【論文の仕上げ・要旨】
- 13回 課題意識検討会【研究テーマ接近への支援】
- 14回 卒論発表会【研究成果のわかちあい】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 課題 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習B-1に続いて、定期的な報告の機会を活用して研究を進め、卒業論文をまとめる。
授業に当たり、配布したレジュメ・資料をよく読むこと。
それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学での研究の集大成として卒業論文をまとめあげ、また、それぞれの知的成果をわかちあう時です。
存分に学びましょう。

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各自の卒論テーマに沿って、卒業論文の作成に必要な方法を学習する。データの収集、分析を行いながら論文をまとめていく。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の卒論テーマに応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資料収集と経過報告
- 2回 卒業論文までの計画表を発表
- 3回 論文に向けての個別指導①
- 4回 論文に向けての個別指導②
- 5回 論文に向けての個別指導③
- 6回 中間発表に向けての資料作成①
- 7回 中間発表に向けての資料作成②
- 8回 合同の中間発表会①
- 9回 合同の中間発表会②
- 10回 論文に向けての個別指導①
- 11回 論文に向けての個別指導②
- 12回 論文に向けての個別指導③
- 13回 卒論提出
- 14回 合同の卒業論文発表会
- 15回 ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各自のペースで卒論を仕上げていく。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人生80年代といわれる今日、いかに長く生きながらえるかといった量的な問題よりも、いかに有意義に過ごすかといった質的な問題が重視されている。そのためには、運動・栄養・休養といった3つの柱を基本とした規則正しい生活習慣の確立が必要である。また、運動選手の競技力向上や健康管理を考える上でも、この3つの柱は重要なものである。
本演習では、卒業論文完成に向けて、データ整理、結果の解釈について考え、卒業論文を完成させる。

教科書 /Textbooks

適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○J.R.トーマス&J.K.ネルソン 『最新 体育・スポーツ科学研究法』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 卒業論文のデータ整理 (1)
- 3回 卒業論文のデータ整理 (2)
- 4回 卒業論文のデータ整理 (3)
- 5回 卒業論文のデータ整理 (4)
- 6回 結果の解釈 (1)
- 7回 結果の解釈 (2)
- 8回 統計的解釈 (1)
- 9回 統計的解釈 (2)
- 10回 卒業論文中間発表
- 11回 卒業論文作成 (1)
- 12回 卒業論文作成 (2)
- 13回 卒業論文作成 (3)
- 14回 卒業論文作成 (4)
- 15回 卒業論文最終発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 20% 卒業論文 ... 50% プレゼンテーション ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒業論文で行った、調査結果を元に、パソコンを使って、見やすい表、わかりやすいグラフの作り方などについて考えていく。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境社会学は、様々な環境と、その環境を創る（または環境によって創られる）社会構造とが結びつく仕組みを明らかにする学問分野である。よって環境学と社会学の両方に関心を持ち、それぞれの基礎的な知識を学ぶことが求められる。本演習では最終的なフィールド調査・分析を行うとともに、各自が導いた論旨に関する先行研究を整理して、卒業論文を完成させる。

教科書 /Textbooks

特に決まったものは使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 これまでの調査研究成果の発表
- 2回 研究計画・準備
- 3回 研究計画・準備
- 4回 調査・分析と討論
- 5回 調査・分析と討論
- 6回 調査・分析と討論
- 7回 先行研究の整理
- 8回 先行研究の整理
- 9回 調査・分析と討論
- 10回 調査・分析と討論
- 11回 調査・分析と討論
- 12回 卒業論文のまとめと討論
- 13回 卒業論文のまとめと討論
- 14回 卒業論文のまとめと討論
- 15回 卒業論文発表

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 調査・発表内容...40% 討論への参加状況...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

調査研究を分担発表する場合は計画的に準備し、文献、論文講読の場合は、発表担当でなくても事前に予習しておくことが必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成と並行して、自身の研究のデータ分析、結果の解釈、論理的考察などについて心理学の立場から議論を深める。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究データ分析 1
- 第3回 研究データ分析 2
- 第4回 研究データ分析 3
- 第5回 研究データ分析 4
- 第6回 研究データ分析 5
- 第7回 卒業論文中間発表 1
- 第8回 卒業論文中間発表 2
- 第9回 卒業論文作成 1
- 第10回 卒業論文作成 2
- 第11回 卒業論文作成 3
- 第12回 卒業論文作成 4
- 第13回 卒業論文作成 5
- 第14回 卒業論文研究発表 1
- 第15回 卒業論文研究発表 2

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、発表、授業への関与度等を総合的に評価 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間関係学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor	高西 敏正 / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科											
履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class	1年			
対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 少人数での演習形式の授業やスポーツを通して、大学での教育を受け、各人が研究を進めていけるようになるための初歩的な知識や経験を得たり、対人関係の基礎となる言語的および非言語的なコミュニケーションのスキルを学ぶ場を提供する。

教科書 /Textbooks
 特に指定しない。授業の中で資料を配布する場合がある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 授業の中で各教員から指示がある。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 スポーツを通じたコミュニケーション 1
 - 3回 スポーツを通じたコミュニケーション 2
 - 4回 少人数形式の演習 1 図書館の使い方。
 - 5回 少人数形式の演習 2 文献の読み方
 - 6回 少人数形式の演習 3 意見のまとめ方
 - 7回 少人数形式の演習 4 発表の仕方
 - 8回 少人数形式の演習 5 発表の仕方
 - 9回 少人数形式の演習 6 発表の仕方
 - 10回 スポーツを通じたコミュニケーション 3
 - 11回 スポーツを通じたコミュニケーション 4
 - 12回 スポーツを通じたコミュニケーション 5
 - 13回 スポーツを通じたコミュニケーション 6
 - 14回 スポーツを通じたコミュニケーション 7
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業への取り組み ... 50% レポート ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 授業内容にあわせて、頻繁に教室等が変更されるので注意すること。オリエンテーションには必ず出席し、授業の進め方をよく把握しておくこと。スポーツを通じたコミュニケーションでは、運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間関係学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科, 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では人間関係学科の実験実習の入門演習及び上級生のゼミ参加などを行う。2年次の実験実習科目の選択、3・4年のゼミ選択に関しては、実際にある程度これらの授業を体験した上で判断することが望ましい。また、2年時以降の科目の履修においても、実践的な実習をした上で学ぶことが効果的である。そこで、この授業では、入門的な実験演習を4つの領域において学び、さらに3・4年生のゼミ、卒業論文発表会、実験実習の成果発表会などに参加することによって、人間関係学科の基礎的な学習を行う。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション
- 2回～3回 人間関係に関わる実習や観察を行い、レポートを書く。
- 4回～5回 人間に関わる自然・森林・環境に関する実習や観察を行う。
- 6回～7回 心理学に関する基礎的な実験・調査を行い、レポートを書く。
- 8回～9回 量的・質的データから、意味を、差異を、変化を、歴史を了解する。
- 10回 ゼミ・発表会などへの参加のオリエンテーション
- 11回～14回 ゼミ、発表会などへの参加
- 15回 実験実習の履修の仕方の説明
(実験実習の順序はグループによって異なる)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、4つの領域の実験実習で出された課題、ゼミ・発表会参加のレポートなどによって総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に指示された事項を守り、授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理学概論【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科, 田島 司 / 人間関係学科
税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会心理学、発達心理学、及び臨床心理学の基礎的内容が主要テーマである。まず、人間の社会的行動を、集団における人間関係、自己意識と社会システムの関係などから考察する。次に、ヒトの発達現象における心理学的な捉え方、生涯発達と発達課題、発達における障害について考察する。最後に、心理臨床の観点からパーソナリティ、ストレスと不応、心理的援助を考察する。

教科書 /Textbooks

適宜、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：本講義の概要について
- 第2回 心理学の研究方法について【実証主義】【仮説】【有意性】
- 第3回 社会心理学の基礎理論【原因帰属】【認知的不協和】
- 第4回 集団における人間関係【リーダーシップ】【集団凝集性】
- 第5回 自己と社会の関係【大衆社会化】【自分探し】
- 第6回 発達現象の心理学的な捉え方【遺伝と環境】
- 第7回 乳児期から児童期の発達理論【共同注意】【言語発達】【学習理論】
- 第8回 生涯発達と発達課題【発達段階】【アイデンティティ】
- 第9回 発達における障害①【肢体不自由】【知的障害】【発達障害】
- 第10回 発達における障害②【アセスメントと発達支援】
- 第11回 パーソナリティに関する心理学研究の歴史【類型論】【特性論】
- 第12回 パーソナリティの形成に関する心理学研究の歴史【愛着理論】
- 第13回 不応の理解と援助①【発生機序】【防衛機制】【不安】
- 第14回 不応の理解と援助②【心理アセスメント】【ラポール】【傾聴】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1学期開講の「基礎心理学」と併せて受講されることを薦めます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎心理学【昼】

担当者名 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では心理学の基礎分野を概観することによって、人間のこころを明らかにする基礎心理学の領域を学ぶことを目的としている。内容としては、心理学の歴史および、感覚、知覚、学習、記憶、認知、知的過程（思考と知識）、さらには人間と機械との関係を取り上げる。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○梅本堯夫・大山正編著 『心理学への招待』 サイエンス

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 基礎心理学とはなにか【こころの座】、【脳とこころ】
- 2回 基礎心理学の領域 【心理学の領域】、
- 3回 基礎心理学の歴史 【心理学の誕生】、【心理物理学】
- 4回 人間の感覚と知覚 その1【感覚様相】、【閾値】
- 5回 人間の感覚と知覚 その2【ウェーバーの法則】
- 6回 人間の感覚と知覚 その3【形の知覚】、【色の知覚】
- 7回 人間の認知過程 【人間の情報処理】、【イメージの処理過程】
- 8回 前半部分のまとめ
- 9回 人間の学習 その1【条件づけ】
- 10回 人間の学習 その2【認知的学習】
- 11回 人間の記憶と知識 その1【感覚記憶】、【短期記憶】、【長期記憶】
- 12回 人間の記憶と知識 その2【知識構造】
- 13回 人間と機械との関係 その1【ヒューマンインタフェース】
- 14回 人間と機械との関係 その2【メディアコミュニケーション】
- 15回 後半部分のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 70% 授業中の課題(レポート)...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

図書館で少なくとも1冊は心理学関係の専門書を読む。授業ではハンドアウトを配布するので講義中にメモを取っておくと同時に次回講義の前に必ず再度目を通して復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の中で、卒業論文やゼミでの実験や調査への協力をお願いすることがありますが、これも心理学を学んでいく上で大切なことですので、協力をお願いします。

キーワード /Keywords

社会学概論 【昼】

担当者名
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は人間関係学科の学生が人間関係学を学ぶための基礎科目として設定されている。人間が社会的存在である限り、人間関係学にとって社会学は欠かすことができない。現代社会の中において我々の人間関係や社会意識がどのようにあるのかがこの授業のテーマである。

教科書 /Textbooks

E. デュルケム『自殺論』（中公文庫）、
M. ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（岩波文庫）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業で指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 イントロダクション
 - 2回 社会学とは何か
 - 3回 【意味的行為】と人間
 - 4回 意味的行為と【間主観性】
 - 5回 意味的行為と【アイデンティティ】
 - 6回 意味的行為と現代社会
 - 7回 自殺論 1
 - 8回 自殺論 2
 - 9回 自殺論 3
 - 10回 集合的意味体系と社会関係
 - 11回 【近代化】、現代化と人間
 - 12回 プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神 1
 - 13回 プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神 2
 - 14回 プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神 3
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 40% 試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

7回以降では、指定されたテキストを読んできるところを前提に授業を進める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間環境概論 【昼】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現在、環境問題は早急な対応が必要な世界共通の課題である。そのためには、環境の正しい理解が必要であることはいうまでもない。しかし、(環境問題を引き起こした)人間と環境の関係についても考えをめぐらせる必要があることは、顧みられないことが多いと思われる。この授業では、環境(問題)と同時に、環境(自然)と人間との関わりについても理解することを目的としている。

教科書 /Textbooks

使用しない。プリントを用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

湯浅赳夫「環境と文明」(新評論)、○只木良也「森と人間の文化史」(NHKブックス)、○菅原 聰「森林 日本文化としての」(地人書館)、○樋口忠彦「日本の景観」(ちくま学芸文庫)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 地球環境の概観 【地球史】【環境問題】
 - 2回 環境問題のしくみ1 【地球温暖化】【オゾン層の破壊】
 - 3回 環境問題のしくみ2 【自然界のバランス】
 - 4回 私たちの住む場所・今という時 【自然の猛威】【災害】
 - 5回 環境と文明1 【気候変動】【文明の盛衰】
 - 6回 環境と文明2 【パラダイム】【産業革命】
 - 7回 1回～6回のまとめ
 - 8回 森林の多面的機能【公益的機能】【鎮守の森】
 - 9回 日本の地形と農山村景観【集落立地】【奥山と里山】
 - 10回 山村問題と住民生活【条件不利地域】【村落社会】
 - 11回 森林伐採と林業の歴史【人工林施業】【日本の森林資源】
 - 12回 木造住宅と木材流通【木材消費】【杉と檜の文化】
 - 13回 世界の森林資源利用と日本【林産物】【中国】
 - 14回 竹林資源利用と地域社会【生業】【たけのこ】
 - 15回 8回～14回のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

野井(1回～7回)小試験または小レポート...50%
岩松(8回～15回)岩松:平常点&小レポート...20% 試験...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献や授業中にあげた資料などに目を通しておくとより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人類学概論【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

いきなりだけど、今までに「自己」と「他者」の謎について考えてみたことはあるだろうか。自分と他人は、異なる身体を持ち、異なる価値観を持ち、異なる時間を生きているにもかかわらず、共感することができたり、相手のいうことが理解できたりするのはなぜだろう。「他人のことなんてわかるはずはない」といいながら、そんな他人を信じて毎日を生かされるのは、とても不思議だ。人類学では、理解できるはずのない他人に果敢にもフィールドワークという手法をつかって近づいていく。ちょっと難しいかもしれないけど、講義の中で人間の文化の多様性と他者認知や自己認知の普遍性について考えを巡らしながら、恋だの政治だの常識だの、みんなが大好きな人間関係のパワーゲームについて分析し、いろいろと回り道をしようと思う。そうすれば他人を知ることとは自分を知ることであるという異文化理解のもっとも基本的な道筋が見えてくるはずだ。
ビデオ・スライドをみながら異文化をイメージする

教科書 /Textbooks

講義中に紹介する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『フィールドワークへの挑戦-“実践”人類学入門』菅原 和孝(編集)
『うぬぼれる脳-「鏡のなかの顔」と自己意識』ジュリアン・ポール キーナン(著)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1講 文化とはなにか
第2講 近代とはなにか
第3講 共感とはなにか
第4講 他者とはなにか
第5-6講 交換とはなにか
第7講 社会とはなにか
第8講 政治とはなにか
第9-10講 信じるとはなにか
第11-12講 自然とはなにか
第13-15講 わかるとはなにか

成績評価の方法 /Assessment Method

自己と他者について考察する準備が整うこと ... 30%
異文化を相対的に考えられること ... 30%
人類学的な実践に興味を持ちながらを始めること ... 40%
試験は講義のどこかで日おこなう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

勉強したい人だけ受講すること。
自分で考えるために、本を読んで欲しい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育学概論【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育学概論では、学校や市民生活における課題のとらえ方、その克服の視点・方法・実践について基礎的な理解について考えていく。講義においては、以下の柱を中心として学習を進めていく。

- ①教育に関する基礎的な概念を通して「教育とは何か」ということの検討
 - ②今日の青少年の人格発達の問題をめぐる諸問題とその克服に向けての教育指導の課題の検討
 - ③現代社会における生涯学習・生涯教育の意義と課題の検討
 - ④人間形成と教育、子どもの教育環境についての検討
- こうした検討を踏まえて、人間形成と教育の違い、教育の意義や課題について理解を深める。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義は、4名の教員によって行われます。

- 1回 教育とは何か-教育学の視座-
- 2回 臨床教育学の視点から1 -児童虐待やネグレクトなど乳幼児期問題
- 3回 臨床教育学の視点から2 -いじめ・不登校など学童期問題
- 4回 臨床教育学の視点から3 -思春期問題
- 5回 教育論再考1 -幸福論
- 6回 教育論再考2 -自立論
- 7回 教育論再考3 -発達論
- 8回 主体形成のプロセスと援助1 -父親と子ども
- 9回 主体形成のプロセスと援助2 -子どもの遊び
- 10回 主体形成のプロセスと援助3 -子ども自身が学ぶ
- 11回 主体形成のプロセスと援助4 -デンマークの教育と日本
- 12回 教育行政学の視点から1 -学ぶことと子どもの権利
- 13回 教育行政学の視点から2 -学校と子どもの権利、父母・住民の権利
- 14回 教育行政学の視点から3 -生涯学習する権利とその保障
- 15回 まとめ -教育学の視点と意義

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%
(試験は、4人それぞれの担当者から各25点で出題、その合計点で評価します。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の内容を復習し、担当教員ごとに講義の内容について、自分なりの意見を整理していくと効果的な履修になると同時に、試験への準備になります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯スポーツ学概論 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

運動やスポーツは、体育実技という枠組みを超えて、われわれの生活の様々な局面に関わりを持つようになってきた。学校の授業として「まじめ」にからだを動かすことを強いられてきた体育実技とは異なり、からだを動かすことそのものの楽しさへの認識の高まりといえる。生涯スポーツ学概論では、このような観点に立って、多方面から「生涯スポーツ」について考える。

教科書 /Textbooks

授業中に資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

フィットネスシリーズ〔全9巻〕○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アスリートからの視点
- 2回 スポーツの発祥
- 3回 生涯スポーツについて(1)
- 4回 生涯スポーツについて(2)
- 5回 スポーツマンシップについて
- 6回 ドーピングと薬物について
- 7回 種目の特性(野球とサッカー)
- 8回 生涯スポーツと健康
- 9回 ライフスタイルと健康
- 10回 加齢と運動
- 11回 余暇と生活
- 12回 女性の運動・スポーツ
- 13回 スポーツの楽しみ方
- 14回 障がい者のスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

これからの自分の健康やスポーツとの関わり方を考えながら受講するとよいでしょう

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯スポーツ、QOL

現代社会と福祉 1 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会福祉の概念、対象、主体、目的についての理解を深める。社会福祉の歴史を通して社会福祉の機能と意義について考察する。社会福祉の理念や思想について理解する。近年の我が国の福祉をめぐる状況を踏まえながら、今後の社会福祉の在り方について検討する。

教科書 /Textbooks

特になし、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○社会福祉士養成講座編集委員会『現代社会と福祉』中央法規

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉の概念【目的概念】【実体概念】【ウェルビーイング】
- 2回 生活問題とソーシャルワーク【人間の基本的欲求】【個人と環境との不適合】【社会関係の主体的側面】
- 3回 社会福祉の制度・政策と実践・技術【ソーシャルウエルフェア】【ソーシャルワーク】
- 4回 社会政策と社会福祉【社会問題】【貧困問題】【生活問題】
- 5回 社会保障、社会保険、社会手当、公的扶助【最低賃金】【セーフティネット】【所得再分配】
- 6回 社会福祉の思想【ロールズの正義論】【センの潜在能力理論】
- 7回 社会福祉の理念と思想【ノーマライゼーション】【コミュニティケア】【生活の質】
- 8回 社会福祉の歴史(イギリス)【セツルメント】【慈善組織化活動】【劣等処遇の原則】
- 9回 社会福祉の歴史(日本)【救貧事業】【保護事業】【厚生事業】【社会福祉】
- 10回 社会福祉の歴史(日本)【福祉見直し論】【日本型福祉社会論】
- 11回 福祉改革と日本の動向【社会福祉基礎構造改革】【規制緩和】【格差社会】
- 12回 福祉政策の主体と手法【福祉ミックス】【福祉国家】【福祉社会】【福祉レジーム】
- 13回 現代社会の変化と福祉政策【ワーキングプア】【社会的排除】【社会的包摂】
- 14回 福祉政策の関連領域 【所得政策】【教育政策】【保健医療政策】【住宅政策】【雇用政策】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の学習状況(小テスト・宿題など) ... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業で配布したレジュメを閉じる専用ファイルを準備すること。前回の授業の復習のためにテスト用紙を配布、回答を求めらるので、参照のために毎回ファイルを持参のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と福祉 2 【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ・ 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
- ・ 福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割など）について理解する。
- ・ 福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。
- ・ 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中にその都度紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉政策の主要な論点と課題①【効率性と公平性、必要と資源】
- 2回 福祉政策の主要な論点と課題②【普遍主義と選別主義】
- 3回 福祉政策の主要な論点と課題③【自立と依存、参加とエンパワーメント】
- 4回 福祉政策における政府・市場・国民の関係と役割①
- 5回 福祉政策における政府・市場・国民の関係と役割②
- 6回 福祉政策における政府・市場・国民の関係と役割③
- 7回 福祉政策の手法と政策決定過程および政策評価
- 8回 福祉供給部門と福祉供給過程①【公私関係、非営利協働】
- 9回 福祉供給部門と福祉供給過程②【再分配、行財政、計画】
- 10回 福祉利用過程【スティグマ、情報の非対称性】
- 11回 福祉政策と教育政策【資格教育】
- 12回 福祉政策と住宅政策【貧困対策、障害・介護と住宅改修】
- 13回 福祉政策と労働政策【貧困対策、障害・高齢者と就労】
- 14回 福祉供給の政策過程と実施過程【供給システムの多元化】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布する講義レジュメ・資料、参考文献の講読

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理学実験実習I【昼】

担当者名 /Instructor 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 実験・実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

心理学の基礎実験を計画、実施し、そのデータ整理、レポート作成の一連の流れを実験者、実験参加者として実際に体験し、心理学における「こころ」を測定するための方法を実践的な実験を通して学ぶ。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 市川伸一 『心理測定法への招待』サイエンス社
- フィンドレイ 『心理学実験・研究レポートの書き方』北大路書房
- 利島保 『心理学のための実験マニュアル』北大路書房
- 木下是雄 『レポートの組み立て方』筑摩書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション【実験】
- 第2回 触2点閾の測定。【触覚】、【弁別閾】
- 第3回～第4回 盲点の大きさの測定。【盲点】
- 第5回～第6回 長さの弁別閾の測定。【弁別閾】、【心理測定関数】
- 第7回～第8回 心理尺度の構成。【心理尺度】、【間隔尺度】、【一対比較】
- 第9回～第10回 幾何学的錯視の測定。【ミュラーリヤー錯視】
- 第11回～第12回 フィッツの法則の実験。【速さと正確さのトレードオフ】
- 第13回 無意味綴りの記憶。【学習曲線】、【系列位置曲線】、【リハーサル】
- 第14回 心理学実験における倫理。【人権】
- 第15回 授業全体のまとめ

(実験の順序は変更する場合がある。4年生の卒業研究実験等に参加する場合がある。)

成績評価の方法 /Assessment Method

提出レポート100% 4種類の実験についてのレポート(4段階評価 : A,B,C合格、D不合格)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

図書館で少なくとも1冊は心理学実験関係の専門書を読むこと。実験を行うので動きやすい服装などに気をつける。データ処理には計算機を使用。図表を描く定規など必要なものを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査実習 (フィールドワーク) 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 梶原 宏之 / Hiroyuki Kajihara / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 (ペア) 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フィールドワークをの入門として、知らない人に会ってはなしをしたり、自分が知りたいことを教えてもらうためのノウハウを学ぶ。

まず、自分がいままでずっと持っていた疑問や、興味のあることを明らかにして、何を調べるかを考える。
つぎに、調べたいことを知るためにはどんな方法があるのかをみなで議論しながら検討する。
それから、実際に外に出て町をみたり人に会ったりする。
さらに、自分が聞いてきた話にどんな意味があるのか、そこにどんな発見があるのかを分析する。
そして、長年の謎を解きおもしろさを見つけ出す。
さいごに、そのおもしろさを人に伝える。

教科書 /Textbooks

興味に応じて適宜。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

フィールドワークは楽しい(岩波ジュニア新書) 岩波書店 / 岩波書店
フィールドワークへの挑戦〈実践〉人類学入門 菅原和孝 / 世界思想社
躍動するフィールドワーク研究と実践をつなぐ 井上真 / 世界思想社
京大式フィールドワーク入門 京都大学/京都大学東南アジア研究所 / NTT出版
高齢化社会における介護者と被介護者の研究地域看護学によるフィールドワークと考察 芝山江美子 / 新風舎
学生のためのフィールドワーク入門 アジア農村研究会 / めこん
老いと障害の質的社会学-フィールドワークから
山田富秋 / 世界思想社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 調査計画(planning):1-2
自分の知りたいことをみつける。
- 予備調査(field-work) 手法検討(discussion):3-4
人の話をどうやって聞くのか。他者との接点をどう築いていくのか
- 本調査(field-work) 資料検討(discussion):5-7
得られた資料の傾向や関連性を考える。ほかにどんな資料が必要か
- 資料分析(desk work)考察検討(discussion):8-9
資料から導き出されるもの、発見されたものの意味を考える
- 補足調査(field-work):10
考察に基づき不足する資料を補う
- 提示検討(discussion):11-14
発見したもの、考察したものを提示し、内容を検討する。どうやって人に伝えるかを考える
- 発表会(presentation):15
調査によって明らかにされたことを人にわかるように伝える 資料と結果をレポートにまとめる

成績評価の方法 /Assessment Method

企画会議での議論... 20% 調査研究... 20% 考察検討... 20% 発表... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各自、5つくらいをめぐりに自分が調べてみたいものを考えておく。
毎回、自分から調査研究を進めていく。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会調査実習（フィールドワーク）【昼】

キーワード /Keywords

社会調査実習 (サーベイ) 【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 (ペア) 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

調査とは何かについて学習した後、主にアンケート調査の基本を学ぶ。班別に学内外で実際に調査を行い、調査報告書を作り、調査結果の発表をする。

教科書 /Textbooks

印刷物をテキストとする

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で提示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 調査とは何か・オリエンテーション (サーベイとフィールドワーク)
- 2回 調査の手順概説・例示
- 3回 調査テーマのためのブレイン・ストーミング
- 4回 調査テーマ決定、班分け
- 5回 質問紙の設計
- 6回 質問紙の制作、印刷
- 7回 プリテストと調査票修正
- 8回 本調査実施準備と実施
- 9回 集計方法の概説
- 10回 集計の実施
- 11回 集計結果の確認
- 12回 報告書作成についての講義
- 13回 報告書作成
- 14回 報告書の点検、製本
- 15回 発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 20% 報告書 50% 発表 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この実習と同時に社会福祉調査法の授業を履修することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

欠席は、班の他のメンバーに迷惑がかかる他、報告書が作れなくなるので、極力避けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間環境実験・実習【昼】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 実験・実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目では、実習や観察を通して、環境と人間のかかわりについて学びます。人間関係学科では、いくつかの環境に関する科目がありますが、本科目は、演習を除けば、唯一の実験実習形式の科目です。講義等で得た知識は、この科目で、実際に試してみたり、観察したりすることで、より具体的で、身近な知識あるいは経験として定着することでしょう。「百聞は一見に如かず」という諺がありますが、この諺の通り、学習の中でも自分の手と目と耳で経験することが、最も大切であると思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。
別途配布の「手引き書」に従って進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 実験実習のスケジュールと安全学習
- 2～3回 自然の中にある楽しさと自然と人間の関わりを考える(間島の自然と文化)
- 4回 人間と環境の関係を遺跡から考える(遺跡見学)
- 5回 環境の変遷を調べる(花粉分析)
- 6回～7回 森林と人間のつながりを考える(森林観察と施行)
- 8回 環境に優しい木材の利用を考える
- 9回～12回 放置竹林問題を考える(竹林観察と竹の子の伐採)
- 13回～15回 照葉樹林と山岳信仰(宇佐神宮の森と求菩提山)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...80 % 授業態度...20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実習が中心の科目ですから積極的に参加することが望まれます。テーマごとにレポートの提出が必要です。「間島の自然と文化」、「森林観察と施行」、「竹林観察と竹の子の伐採」、「宇佐神宮の森と求菩提山」は、通常の時間割の時間ではなく後日通知する日程に従って実施します。これらの日程は、土曜日、日曜日または祝日になります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯教育・生涯スポーツ実習【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科, 高西 敏正 / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

子どもから高齢者を対象とする生涯教育や生涯スポーツに関わる活動のニーズの把握、事業・指導計画、生涯学習施設の経営など、生涯学習社会の構築に関わる専門的能力の育成(専門的な知見を踏まえた実践的な能力の向上、技術の習得)及び学習者とのコミュニケーション能力の向上を図ることを目的としています。

そのため、生涯教育・生涯スポーツに関わる施設や職員、市民活動などについて見学や体験、実習を行いながら、学習を支援する視点や技能を高めていきます。また活動についての聞き取りやアンケートなどを行いながら、支援者や学習者・参加者の視点や課題について理解を深めます。

教科書 /Textbooks

適時、プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションゲーム・スポーツ
- 3回 生涯教育支援の技法(1) ワークショップ1(コミュニケーションワークショップ)
- 4回 生涯教育支援の技法(2) ワークショップ2
- 5回 生涯教育支援の技法(3) ワークショップ3
- 6回 北方小学校運動プログラム(1) プログラム考案
- 7回 北方小学校運動プログラム(2) プログラム予行
- 8回 北方小学校へ運動プログラム実施(3) プログラム指導1
- 9回 北方小学校へ運動プログラム実施(4) プログラム指導2
- 10回 障がい者スポーツプログラム(1) 講義
- 11回 障がい者スポーツプログラム(2) 実習 「車いすバスケットボール」
- 12回 施設見学(子育て交流ふれあいプラザ)
- 13回 高齢者との交流プログラム(周望学舎)
- 14回 生涯学習・生涯スポーツの意義や課題についての考察
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...70% 課題レポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スポーツ・レクリエーションなどの活動時には、運動ができる服装と体育館シューズが必要

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外部の方々と積極的に関わりを持つように心がけましょう

キーワード /Keywords

法学総論【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、これから法学を学ぶ学生が法律の全体像を把握することをねらいとします。具体的な事件を解決するための手段である法律の基礎を体系的に理解することによって、法を身近なものとし、法に主体的に関わるための法の知識と考え方を修得します。

教科書 /Textbooks

伊藤真 著 『伊藤真の法学入門』 日本評論社 定価 (1500円 + 税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

村田彰 編 『リーガルスタディ - 法学入門』 定価 (3150円) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義ガイダンス、法とは何か
- 2回 法と規範、法規範の特質と機能
- 3回 日本における法の歴史と法意識
- 4回 法学の学び方 1(法解釈と価値判断)
- 5回 法学の学び方 2(法を学ぶことの意義、リーガルマインドについて)
- 6回 憲法と法
- 7回 法と正義
- 8回 法的安定性
- 9回 法の体系、法の種類
- 10回 法の目的と価値基準
- 11回 法の解釈と基準
- 12回 日本の裁判制度と判例
- 13回 法律の勉強
- 14回 法律文書の書き方、法情報の調べ方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...70% 平常の学習状況(小テスト、ミニツツペーパーを含む)...30%の配分の評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

問題意識を持って授業に臨まれば理解がより深まりますので、予習、復習をして授業に出席してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治学 【昼】

担当者名 /Instructor 松田 憲忠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「デモクラシー」は一般に「良いもの」として描かれています。しかし、デモクラシーを採用している国の政治を見てみると、「あまり良いものとは思えないなあ」「現実の政治はデモクラシーと何か違うなあ」と感じる人は少なくないでしょう。本講義は、理念としてのデモクラシーと現実のデモクラシーとの違いに注目して、政治学の基礎的な概念等を解説します。具体的には①デモクラシーを支える政治制度、②デモクラシーにおける市民・議員等、③地方・国・国際等のレベルとデモクラシーとの関係、④デモクラシーの確立に向けた制度設計について、社会科学的視点から考察します。

本講義のねらいは、受講生の皆さんが、政治学の基礎的な概念等を理解し、デモクラシー及びそれを支える政治制度に対する社会科学的な視点を習得することです。講義全体のキーワードは、デモクラシーの理念と現実及び政治制度の機能と設計です。

教科書 /Textbooks

講義ノート

(詳細については、第1回授業で説明いたします)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田浩・松田憲忠編(2009)『現代日本の政治-政治過程の理論と実際』ミネルヴァ書房。
その他、第1回授業で紹介いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

- 1回： イントロダクション 【科学としての政治学】 【政治学の社会的役割】
- 2回： デモクラシーと制度 【多数決原理】
- 3回： デモクラシーと安定性① 【政権交代】 【政党制】
- 4回： デモクラシーと安定性② 【二大政党制】 【中位投票者定理】 【多党制】
- 5回： デモクラシーと代表① 【直接民主制】 【間接民主制】 【議会主義】 【行政国家】
- 6回： デモクラシーと代表② 【代表と代表性】 【社会選択と投票方法】
- 7回： デモクラシーと代表③ 【参加デモクラシー】 【市民参加】
- 8回： デモクラシーと政治制度設計① 【制度設計指針】 【代表性と統治の効率性】 【拒否点】
- 9回： デモクラシーと政治制度設計② 【議院内閣制】 【大統領制】 【選挙制度の類型化】
- 10回： デモクラシーと政治制度設計③ 【小選挙区制】 【比例代表制】 【中選挙区制】 【混合型】
- 11回： デモクラシーと政治制度設計④ 【単一国家】 【連邦制国家】 【一院制】 【二院制】
- 12回： デモクラシーと政治制度設計⑤ 【重層的なデモクラシー】 【グローカリゼーション】
- 13回： デモクラシーの展望① 【デモクラシーの安定】 【デモクラシーと個人】
- 14回： デモクラシーの展望② 【政治的社会化】 【市民教育】 【利他的利己主義】
- 15回： 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%

(学期末試験では、本講義で提供された知識の習得、社会科学的思考の実践、社会問題や政治状況等についての日常的な観察といった多様な側面からの評価が行われます)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- 授業には、講義ノートの該当箇所を持参してください。
- 受講生の人数や理解度等に応じて、上記スケジュールは変更される可能性があります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

政治学 【昼】

キーワード /Keywords

国際関係論I【昼】

担当者名 /Instructor 小尾 美千代 / OBI Michiyo / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会の特徴を国内社会との相違から位置付け、国際関係の変遷や主要な課題に焦点をあてつつ、リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムを中心とする国際関係の主要な理論について学習する。国際関係を分析する上で基本的かつ重要な概念を理解し、各自が国際関係を多様な角度から捉える分析視角を習得することがこの授業のねらいである。

教科書 /Textbooks

主に以下の文献を利用する。

山田高敬・大矢根聡(編)『グローバル社会の国際関係論 [新版]』有斐閣、2011年。

原彬久(編)『国際関係学 講義 (第3版)』有斐閣、2006年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○John Baylis and Steve Smith (eds.), The Globalization of World Politics: An Introduction to International Relations, 4th ed. Oxford University Press, 2008.

○田中明彦、中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識』有斐閣、2004年。

田中明彦、中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識』[新版]、有斐閣、2010年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際関係学の誕生と展開【理想主義】、【現実主義】、【理論】
- 2回 国際社会の特徴【政治】、【アナーキー】、【主権国家】
- 3回 国際関係の分析視角(1)リアリズム【パワー】、【勢力均衡】、【集団安全保障】
- 4回 国際関係の分析視角(2)ネオ・リアリズム【ウォルツ】、【囚人のジレンマ】、【相対利得問題】
- 5回 国際関係の分析視角(3)リベラリズム、ネオ・リベラリズム【国際レジーム】、【民主主義平和論】
- 6回 国際関係の分析視角(4)コンストラクティビズム【観念的要素】、【社会構造】、【相互構築性】
- 7回 中間レビュー
- 8回 政治体制と国際安全保障【冷戦】、【安全保障のジレンマ】、【相互確証破壊】、【歴史の終焉】、【文明の衝突】、
- 9回 安全保障問題(1)：人間の安全保障【人道的介入】、【国際テロ】
- 10回 安全保障問題(2)：大量破壊兵器の管理【NPT】、【PTBT】、【CTBT】
- 11回 国際経済体制【ブレトンウッズ体制】、【IMF】、【IBRD】、【GATT】
- 12回 経済のグローバル化と貿易自由化【WTO】、【ドーハ・開発ラウンド】
- 13回 国際協力をめぐる理論【サミット】、【G 7/8/2 0】
- 14回 地域統合・地域経済協力【EU】、【FTA】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの講読は授業内容を理解する上で必要不可欠である。

また、特に理論や国際政治の概念については参考文献のThe Globalization of World Politicsが詳しい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際関係論II 【昼】

担当者名 藤井 大輔 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会が抱える様々な課題を取りあげ、その課題を解決するために取り組まれている諸活動を概観する。その際、単に諸問題の表層を捉えるのではなく、解決を困難にしている要因を歴史的側面からも分析する。また、様々な課題が互に関連し合っていることを横断的に捉え直すことで、複雑な現代世界の諸相を捉える視点を養う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

池尾靖志編著『平和学をつくる』晃洋書房、2009年1
細谷千博監修、滝田賢治・大芝亮編『国際政治経済：「グローバル・イシュー」の解説と資料』有信堂高文社、2008年
中村研一(2010)『地球的問題の政治学』岩波書店
John Baylis, Steve Smith, Patricia Owens (2008) The Globalization Of World Politics: An Introduction to International Relations, Oxford University Press

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1オリエンテーション
- 2国際システムの展開
- 3ポスト冷戦期の国際システム
- 4 9・11後の世界
- 5兵器不拡散レジーム
- 6小型武器問題とNGOの活躍
- 7累積債務問題
- 8貧困問題
- 9持続可能な開発
- 10地球温暖化防止レジーム
- 11人権の主流化
- 12国際人道法違反とそれへの対応
- 13ジェンダーの視点で捉える暴力
- 14私たちの暮らしと国際関係
- 15まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- * 平常の学習状況(20%)
- * 課題(20%)
- * 学期末試験(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

なし

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際関係を私たち市民の立場から考えていきましょう。

キーワード /Keywords

構造的暴力 集団安全保障 テロとの戦い レジーム 対人地雷禁止条約 石油危機 構造調整 南北問題 人間開発 京都議定書 エンパワメント フェア・トレード

博物館経営論・博物館情報論【昼】

担当者名 太田 正道 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

博物館経営論・博物館情報論においては現代博物館の社会的機能を達成するための理論を講義する。博物館の構成、事業、必要な施設等、博物館経営・情報に必要な内容を講義する。専門職として学芸員に求められる資料の登録事業、展示活動、ミュージアム・マネージメント、ミュージアム・マーケティング、マルチメディア、インターネットなどの情報論の基礎を講義する。

教科書 /Textbooks

博物館関係法令集 (日本博物館協会編)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博物館学教程 (大堀 哲 編著、東京堂出版)、博物館学経営論 (諸岡 博 著、信山社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1、博物館とその機能
- 2、博物館資料と博物館の種類
- 3、博物館の構成要素、博物館位置論
- 4、博物館の業務と組織
- 5、博物館資料の収集から登録、保管まで
- 6、博物館の施設
- 7、ミュージアム・マネージメント I
- 8、ミュージアム・マネージメント II
- 9、ミュージアム・マーケティング I
- 10、ミュージアム・マーケティング II
- 11、マルチメディア
- 12、博物館インターネット
- 13、アウトリーチ
- 14、ボランティアと博物館
- 15、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

初回の授業で説明します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

博物館資料論 【昼】

担当者名 永尾 正剛 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「博物館法」が理想とする博物館の運営に不可欠の「博物館資料」について、調査・収集・整理・保管・活用という一連の作業を理解する。博物館資料の取り扱いに関連の深い「文化財保護法」などの諸法令についても、その要点を学習する。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを用意、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 『博物館関係法令集』 (日本博物館協会)
- ・ 網干善教編『博物館学概説』 (関西大学出版)
- ・ 『文化財保護行政ハンドブッケー美術工芸品編一』 (ぎょうせい)
- ・ 『博物館学講座』 全10巻 (雄山閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「博物館法」と博物館資料について
- 2回 文化財保護法の理解①<文化財の種別>
- 3回 文化財保護法の理解②<文化財の活用>
- 4回 地方公共団体の文化財行政について
- 5回 博物館資料と文化財
- 6回 資料の調査方法と心構え
- 7回 資料の収集と目的
- 8回 資料の整理方法
- 9回 資料の保存と管理について
- 10回 資料の研究①<古文書の様式>
- 11回 資料の研究②<古文書の解読・理解>
- 12回 資料の取り扱い方①<梱包方法>
- 13回 資料の取り扱い方②<展示方法>
- 14回 博物館資料の評価方法
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験 (一部レポートの場合もある)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞など文化財や博物館に関するニュース・情報に気配りしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の歴史と社会【昼】

担当者名 /Instructor 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「江戸時代」は我々にとって最も「日常的な歴史」になっていますが、それゆえにそこには多くの誤解や先入観がまかり通っています。そこでこの授業では、「江戸時代」という時代を検証してみたいと思います。

教科書 /Textbooks

レジュメ・プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○高木侃『三下り半と縁切寺』(講談社現代新書) 山本英二『慶安の触書は出されたか』(山川出版社日本史リブレット) 他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 【近世】という時代
- 3回 【三行半】を読み直す①江戸時代の女性の地位
- 4回 【三行半】を読み直す②江戸時代の離婚
- 5回 【三行半】を読み直す③離婚理由と再婚許可文言
- 6回 『【女大学】』と『和俗童子君』①
- 7回 『【女大学】』と『和俗童子君』②
- 8回 【好色物】と女性の社会進出
- 9回 【縁切寺】の歴史
- 10回 【慶安御触書】を読み直す①榎本宗次説
- 11回 【慶安御触書】を読み直す②丸山雍成説
- 12回 【慶安御触書】を読み直す③木崎良美説
- 13回 【慶安御触書】を読み直す④神崎直美説
- 14回 【慶安御触書】を読み直す⑤山本英二説
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート...50% 筆記試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジュメ・参考文献をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済地理学I【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識できる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解できる。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 産業構造と産業立地。【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
- 3回 企業の立地行動(Ⅰ)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
- 4回 企業の立地行動(Ⅱ)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
- 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
- 6回 1～5回の復習とまとめ 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
- 7回 企業の立地行動(Ⅲ)・・・最小コストモデル 【ウェーバー】、【輸送費】、【集積】
- 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
- 9回 企業の立地行動(Ⅳ)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
- 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
- 11回 6～10回の復習とまとめ 【輸送費理論】【企業内空間分業】
- 12回 企業の立地行動(Ⅴ)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
- 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
- 14回 現代の立地行動 【空間克服】【接触の利益】【波及効果】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済地理学IIや地域経済I・IIなどを受講すると相互理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

立地論、企業立地、産業配置

経済地理学II 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済地理学IIは、日本の都市、地域構造と立地政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。学生は、経済地理学Iで学習した内容をふまえて、オフィス立地を学習したうえで都市内・都市間システムの理論を学ぶことになる。これによって都市の構造や都市間の相互作用を系統的に学習でき、地域構造の成り立ちを深く認識できることになる。後半では立地のメカニズムをもとに政策的な活用策を検討する。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN 【経済地理学】【都市】【地域】【地域政策】
- 2回 オフィスの立地論 【オフィス】【本社立地】【支店立地】【フェイス・トゥ・フェイス】
- 3回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】【付け値曲線】【土地利用】
- 4回 都市内システム 【都市】【パージェス】【ホイト】
- 5回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】【プレッド】【地方中枢管理都市】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 企業活動と地域 【企業機能】【地域間システム】【生活圏】
- 8回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業 【全総】【拠点開発方式】
- 9回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業 【定住圏構想】【テクノポリス】
- 10回 立地政策(3)・・・四全総 【中枢管理機能】【東京一極集中】【世界都市】
- 11回 6～10回の復習とまとめ
- 12回 産業立地と今後の地域構造・・・グランドデザイン 【多軸型国土構造】【産業創出の風土】
- 13回 立地から見た地域構造の変遷(1) 【立地論】【立地要因】【基礎的地域構造】
- 14回 立地から見た地域構造の変遷(2) 【現代的地域構造】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済地理学Iや地域政策などを受講していると相互理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

立地論、都市システム、立地政策

国際法I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 横田洋三編『国際法入門(第2版)』(有斐閣・2005)○
参考書 山手治之・松井芳郎・香西茂『ベーシック条約集』(東信堂・最新版)○
参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り」

- 第2回 条約の締結
- 第3回 条約の留保
- 第4回 条約の無効
- 第5回 まとめ

第II部「特別法と一般法、国内社会における国際法」

- 第6回 慣習国際法
- 第7回 慣習国際法の法典化
- 第8回 条約と第三国
- 第9回 条約の国内的効力
- 第10回 まとめ

第III部「国際社会における秩序の維持」

- 第11回 国際責任
- 第12回 紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止
- 第13回 自衛権
- 第14回 国際司法裁判所(ICJ)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。
課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

国際法I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。

国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】

国際法Ⅱ【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

教科書 /Textbooks

講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 横田洋三編『国際法入門(第2版)』(有斐閣・2005)○
参考書 山手治之・松井芳郎・香西茂『ベーシック条約集』(東信堂・最新版)○
参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」

- 第2回 国家と承認制度：国家承認
- 第3回 国家と承認制度：政府承認
- 第4回 国家の基本的権利
- 第5回 国家の基本的義務
- 第6回 まとめ

第II部「陸・海・空と国際法」

- 第7回 陸と国際法
- 第8回 海と国際法：海上交通
- 第9回 海と国際法：海洋資源
- 第10回 空と国際法
- 第11回 まとめ

第III部「国際法主体としての個人」

- 第12回 人権の国際的保障
- 第13回 国際犯罪
- 第14回 国際刑事裁判所(ICC)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。
課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system)の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

国際法II 【昼】

キーワード /Keywords

【国家の要件】 【承認】 【国家の基本的権利・義務】 【領域】 【個人】 【管轄権の競合と調整】 【国際法によるコントロール】

博物館実習I【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 実習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

3年

授業の概要 /Course Description

「博物館実習I」は「博物館実習II」の事前教育である。
実際の館務実習である「博物館実習II」の教育効果を高めるために文学部の担当教員のほか、各種の博物館・美術館で実際に勤務している学芸員の方々をも講師に招き、学内における講義・実習と学外の諸施設および展示の見学とを組合わせて行う。

教科書 /Textbooks

「博物館実習日誌」(生協にて販売)
「博物館学芸員資格取得についての手引き」(配付プリント)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は原則として隔週ごとの土曜日3, 4限に行う予定であるが、博物館・美術館の展示スケジュールや学芸員の勤務予定との関係で、学外見学を日曜や休日、休暇期間中に変更することもある。
歴史・民族・考古・美術・自然史・文学等の博物館を訪れる予定。
最初の授業の折にそのおよその授業の計画を説明するので、必ず出席のこと。
学外の諸施設や展示品の見学に際しては、学芸員の直接の指導を依頼することもあり、遅刻・欠席は許されないので要注意。
また見学に際しての交通費・入館費は各自の負担である。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度及び日誌、レポートの結果を総合的に判断して評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実習科目なので欠席は原則として認めない

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

博物館実習II【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 実習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

4年

授業の概要 /Course Description

博物館学芸員資格履修の仕上げの意味を持った館務実習です。実習は本学が委託した博物館・美術館で実施されますが、指導学芸員はじめ館員の方すべてが、激務のなかで時間を割いて機会を作ってください初めて実現しており、決して迷惑を掛けるようなことがあってはなりません。ことに取り扱うものは、金銭に換えがたい貴重な資料や作品です。当然慎重な取り扱いや真摯な研究態度が望まれます。

教科書 /Textbooks

「博物館実習日誌」(生協にて販売)
「博物館学芸員資格取得についての手引き」(配付プリント)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「博物館実習II」は4年次履修で、期間は2単位分2週間を、原則として大学が指定した博物館・美術館で夏休み期間中に行います。「博物館実習II」を履修するためには、その前年度に「博物館実習I」を履修合格しておくとともに、次の諸学科の単位を修得していなければなりません。

イ、博物館概論・博物館経営論・博物館情報論・博物館資料論
ロ、教育原理(比較文化学科の学生)・教育学概論(人間関係学科の学生)
ハ、選択科目2科目以上(2系列以上からそれぞれ1科目以上)

「博物館実習II」の受講申告者には5月頃に直前説明会を行います。説明会に欠席した場合は履修できません。また申込者であっても、実習生としてふさわしくないと判断した時は、履修を中止させる事があります。館務実習費・交通費などの諸費用は履修生が負担するものとします。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度及び日誌、レポートの結果を総合的に判断して評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

真摯な姿勢をもって実習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公民科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 飯田 直弘 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、公民科教育における知識および技能の習得をねらいとする。まず、公民科教育とはどのようなものかという点についての理解を深めるため、「公民科」の成立過程や位置づけ、現在の教育内容に関する講義を行なう。それらの内容を踏まえ、学生たちによる「公民科」の模擬授業を行なう。

教科書 /Textbooks

『高等学校学習指導要領解説 公民編』（文部科学省）
『中学校学習指導要領解説 社会編』（文部科学省）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会認識教育学会編『公民科教育法』学術図書出版社、2000年。
社会認識教育学会編『社会科教育のニューパースペクティブ』明治図書、2003年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 公民科とは何か～成立過程と位置づけ～
- 第2回 公民科のねらいと内容
- 第3回 現代社会の課題、模擬授業
- 第4回 経済社会と経済活動、模擬授業
- 第5回 民主主義と政治のしくみ、模擬授業
- 第6回 国際社会と日本、模擬授業
- 第7回 青年期の課題と自己形成、模擬授業
- 第8回 現代の特質と倫理的課題、模擬授業
- 第9回 宗教と倫理、模擬授業
- 第10回 経済格差、模擬授業
- 第11回 環境問題、模擬授業
- 第12回 日本国憲法の性格と現状、模擬授業
- 第13回 現代社会における戦争と平和、模擬授業
- 第14回 人種・民族問題、模擬授業
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 模擬授業... 40% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校時代に使用していた公民科（「現代社会」、「倫理」、「政治経済」）の教科書で、適宜、教育内容を確認することが望ましい。模擬授業については、自分の担当授業だけでなく、他の学生の授業に対する参加・評価のあり方も重要視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公民科教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 飯田 直弘 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、公民科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。前半では、新学習指導要領を取り上げ、現在の公民科教育の位置づけについて理解し、さらには教育方法論や授業理論について学習する。後半では、現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材開発につなげる。全体を通して、教授の基礎となるコミュニケーション能力の育成に重点をおき、上記の知識を習得した上で、受講者は模擬授業を行う。最終的には、学習指導要領と教科書を用いて、分かりやすく面白い授業が展開できるような技能の習得を目指す。

教科書 /Textbooks

『高等学校学習指導要領解説 公民編』（文部科学省）、授業の際に配布するレジュメ・資料等

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会認識教育学会編『公民科教育法』学術図書出版社、2000年
『中学校学習指導要領解説 社会編』（文部科学省）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 新学習指導要領における公民科の位置づけ
- 第3回 デューイの教育方法論、模擬授業
- 第4回 社会科初志の会の授業理論、模擬授業
- 第5回 ブルーナーの教育方法論、模擬授業
- 第6回 社会科学的手法について、模擬授業
- 第7回 意思決定の授業理論、模擬授業
- 第8回 提案する社会科の授業理論、模擬授業
- 第9回 社会参加の授業理論、模擬授業
- 第10回 グローバル化について、模擬授業
- 第11回 環境問題について、模擬授業
- 第12回 情報化社会について、模擬授業
- 第13回 政治・経済・法関連の重要トピックについて、模擬授業
- 第14回 規範意識について、模擬授業
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

模擬授業... 50% 模擬授業の際に提出する学習指導案... 30%
授業への積極的参加・貢献度... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

模擬授業はパワーポイントを使用して行うため、各自基本的なパソコン操作の技能を修得しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導等の理論や知識・技術を修得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育実習1」オリエンテーション	【教育実習】 【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】 【教師の勤務】
3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学校)	【教科指導】 【学級経営】
4回 教育実習生の体験から学ぶ(高等学校)	【教科指導】 【学級経営】
5回 子どもの問題状況と生徒指導	【生徒指導】 【子どもの理解】
6回 学級経営について	【学級集団づくり】 【学級通信】
7回 生徒指導と教育相談	【生徒理解】 【生徒指導体制】
8回 授業観察の方法	【授業観察の視点】 【授業記録シート】
9回 子どもの人権と教育	【人権】 【自尊感情】
10回 教材研究と授業構想	【刻々の教材研究】 【学習指導案】
11回 教師の資質とは何か	【教師の資質】 【事前の準備】
12回 模擬授業①(中学・高校別)	【授業構成】 【導入】
13回 模擬授業②(中学・高校別)	【指導技術】 【発問】
14回 模擬授業③(中学・高校別)	【指導技術】 【説明】
15回 模擬授業④(中学・高校別)	【指導技術】 【指示・助言】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%) 学期末の提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の事前に指示されたことを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 第 1 回 ; オリエンテーション | 【勤務】【連絡】 |
| 第 2 回 ; 中学校における教育実習 | 【中学生の特質】【中学生への支援】 |
| 第 3 回 ; 高等学校における教育実習 | 【高校生の特質】【高校生への支援】 |
| 第 4 回 ; 実習校実習① | 【教育実習指導】 |
| 第 5 回 ; 実習校実習② | 【教育実習指導】 |
| 第 6 回 ; 実習校実習③ | 【教育実習指導】 |
| 第 7 回 ; 実習校実習④ | 【教育実習指導】 |
| 第 8 回 ; 実習校実習⑤ | 【教育実習指導】 |
| 第 9 回 ; 実習校実習⑥ | 【教育実習指導】 |
| 第 10 回 ; 実習校実習⑦ | 【教育実習指導】 |
| 第 11 回 ; 実習校実習⑧ | 【教育実習指導】 |
| 第 12 回 ; 実習校実習⑨ | 【教育実習指導】 |
| 第 13 回 ; 実習校実習⑩ | 【教育実習指導】 |
| 第 14 回 ; 実習校実習⑪ | 【教育実習指導】 |
| 第 15 回 ; 教育実習反省会 | 【教師の資質】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習3 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- | | |
|-----------------|----------|
| 第 1 回 ; 実習校実習① | 【教育実習指導】 |
| 第 2 回 ; 実習校実習② | 【教育実習指導】 |
| 第 3 回 ; 実習校実習③ | 【教育実習指導】 |
| 第 4 回 ; 実習校実習④ | 【教育実習指導】 |
| 第 5 回 ; 実習校実習⑤ | 【教育実習指導】 |
| 第 6 回 ; 実習校実習⑥ | 【教育実習指導】 |
| 第 7 回 ; 実習校実習⑦ | 【教育実習指導】 |
| 第 8 回 ; 実習校実習⑧ | 【教育実習指導】 |
| 第 9 回 ; 実習校実習⑨ | 【教育実習指導】 |
| 第 10 回 ; 実習校実習⑩ | 【教育実習指導】 |
| 第 11 回 ; 実習校実習⑪ | 【教育実習指導】 |
| 第 12 回 ; 実習校実習⑫ | 【教育実習指導】 |
| 第 13 回 ; 実習校実習⑬ | 【教育実習指導】 |
| 第 14 回 ; 実習校実習⑭ | 【教育実習指導】 |
| 第 15 回 ; 実習校実習⑮ | 【教育実習指導】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科教育法C 【昼】

担当者名 /Instructor 坂口 一隆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会科教師を志向する学生に求められる基礎的・基本的な知識や技能の習得と、その過程を通して教職に対する認識の深化を図る。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領解説 社会編」(平成20年9月・文部科学省)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育の目的と社会科の役割
- 2回 地理的分野の目標と内容とその取り扱い
- 3回 世界と日本の様々な地域
- 4回 歴史的分野の目標と内容とその取り扱い
- 5回 歴史のとらえ方と古代・中世・近世・近現代の日本と世界
- 6回 公民的分野の目標と内容とその取り扱い
- 7回 私たちと現代社会・政治・経済と国際社会の諸問題(グループ討議)
- 8回 学習指導要領の変遷と社会科の歩み
- 9回 指導計画の作成と内容の取り扱い
- 10回 資料活用と作業的・体験的な学習
- 11回 指導案の作成と留意点
- 12回 政治及び宗教に関する事項の取り扱い
- 13回 戦前・戦後の社会科教育[戦前・戦後教育改革]
- 14回 学習指導要領の総則・学習基本法施行規則
- 15回 教科目標と各分野の目標

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ... 30% 演習 ... 30% レポート ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業で配布するレジュメと資料を読んでくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科教育法D 【昼】

担当者名 /Instructor 坂口 一隆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会科教師を志向する学生に求められる基礎的・基本的な知識や技能の習得と、その過程を通して教職に対する認識の深化を図る。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領解説 社会編」(平成20年9月・文部科学省)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 これからの学校教育に求められるもの
- 2回 教師に求められる資質能力
- 3回 学校の教育課程
- 4回 学習指導の評価
- 5回 生徒の実態把握と教材研究
- 6回 指導案の作成方法
- 7回 指導案の作成上の留意点
- 8回 地理的分野の学習と内容の取り扱い
- 9回 歴史的分野の学習と内容の取り扱い
- 10回 公民的分野の学習と内容の取り扱い
- 11回 模擬授業 その1 導入
- 12回 模擬授業 その2 展開
- 13回 教育基本法・学校教育法改正案の要旨
- 14回 学習基本法施行規則・地方教育行政法改正案要旨
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 … 30%、 レポート提出内容 … 40%、 授業中の質疑 応答での絶対での評価 … 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業で配布するレジュメや資料を読んでくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ペリー来航 (1853) から55年体制の成立 (1955) までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』(ミネルヴァ書房)、○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)、○岡義武『山県有朋』(岩波新書)、○岡義武『近衛文麿』(岩波新書)、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 不平等条約と条約改正【維新の三傑】
- 第3回 自由民権運動と朝鮮問題【伊藤博文】
- 第4回 日清戦争【陸奥宗光】
- 第5回 日露戦争【山県有朋】
- 第6回 大正政変 - 国家経営構想の分裂 - 【桂太郎】
- 第7回 21カ条要求【大隈重信】【孫文】
- 第8回 原敬と協調外交【原敬】
- 第9回 二大政党制と外交政策【加藤高明】
- 第10回 政党政治と満州事変【浜口雄幸】
- 第11回 2・26事件と日中戦争【近衛文麿】
- 第12回 破滅への道 - 太平洋戦争 - 【東条英機】【吉田茂】
- 第13回 戦後改革【マッカーサー】
- 第14回 55年体制の成立【自民党】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族を問う【夜】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちが共同生活を営んでいる社会の最小単位である家族、信頼のおけるかけがえのない存在であるこの家族に今何が起きているのか。迷走し、混迷する家族の実像から、現代の家族が抱える問題点を明らかにしてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 開講にあたって-問題の出発点-家族とは？
- 2回 家族の機能
- 3回 ハードウェアとしての家族
- 4回 システムとしての家族①
- 5回 システムとしての家族②
- 6回 システムとしての家族③
- 7回 システムとしての家族④
- 8回 現代家族の課題-夫婦①
- 9回 現代家族の課題-夫婦②
- 10回 現代家族の課題-親子①
- 11回 現代家族の課題-親子②
- 12回 現代家族の課題-親子③
- 13回 現代家族の課題-家族の危機
- 14回 現代家族の課題-家族モデル
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

キーワード /Keywords

人間と文化【夜】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いだろう。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。
グローバル化が進んだ現在でも、地域によって家族・親族関係のありかた、信仰のありかた、経済活動に関する考え方は大きく異なる。本講義では、(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学一年生という受講者が現在考えている「文化」を、世界各地の文化のありかたを参照することで相対化し、身の回りの現代社会について考察するひとつの手段を学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
春日直樹(編)2008『人類学で世界をみる』ミネルヴァ書房
作道伸介(編)2008『近代化のフィールドワーク』東信堂
宮島喬(編)2000『講座社会学7 文化』東京大学出版会
※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：グローバルでローカルな世界を想像するために
- 第2回 異文化の「発見」：文化を考察する視点について
- 第3回 文化の基礎としての環境との<共生>
- 第4・5回 経済活動にみる文化：贈与と交換から地域通貨まで
- 第6回 資本主義の受容と貧困
- 第7回 開発の現場における「文化の差異」
- 第8・9回 個人と集団：生殖医療の時代に家族・親族関係を考える
- 第10回 親族・家族関係から社会関係への拡張
- 第11回 ジェンダー
- 第12・13回 日常生活の中の儀礼からみえる世界観
- 第14回 宗教・呪術・占いの機能
- 第15回 まとめ：グローバル化のなかのローカルな文化と普遍的価値観

成績評価の方法 /Assessment Method

エッセイによる授業貢献20%、期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回最後の10-15分は授業の感想と、指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についてのエッセイを記述し、提出してもらいます。次回の講義の冒頭で、提出されたエッセイの中から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進めます。専門分野に関わらず、日常的に新聞、雑誌、書籍などを読む習慣をつけ、自分の考えをまとめる訓練を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「人間と文化」では、文化について生活に密着した側面に注目しています。来年度に2年次対象の「文化と政治」を受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、環境、共同体、社会関係

ことばの科学【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音声と音韻
- 第4回 連濁・鼻濁音
- 第5回 ことばの単位(2)：語
- 第6回 語の基本：成り立ち・構造・意味
- 第7回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第8回 言葉の単位(3)：文
- 第9回 動詞の自他
- 第10回 日本語と英語の受動態
- 第11回 数量詞
- 第12回 代名詞：「彼」「彼女」「自分」「自分自身」
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養としての平和学 【夜】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～5回 問題提起、戦争の定義
- 6回～8回 平和の定義、積極平和論
- 9回～11回 日本の平和主義
- 12回～13回 正戦論(正義の戦争はあるか)
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ウェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (1) 【官僚制】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (2) 【物象化】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (3) 【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (4) 【分業体制】
- 6回 生活世界論のはじまり(1) 【近代科学と現象学】
- 7回 生活世界論のはじまり(2) 【フッサールの近代批判】
- 8回 確認テストとその解説
- 9回 生活世界論のひろがり(1) 【アーレント、人と思想】
- 10回 生活世界論のひろがり(2) 【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1) 【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2) 【古代ギリシャにおける政治】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1) 【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2) 【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...50% 学期末試験...50%
(第8回に予定している内容確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。この場合、成績評価はE判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生向け科目であることを考慮に入れ、分かりやすい講義となるよう心がけたい。しかし、単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための人生のその時期、その時期での適切なストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
 - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
 - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤勉性と劣等感】
 - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
 - 6回から11回 青年期から壮年期までの人生と心の健康 【豊かな心とは】
 同一性の視点から ・遊びと人生
 配偶者の選択 ・病いと人生
 - 12回から13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体の行く末について。【老いと死の受容】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自分なりの心の健康法について、自覚して取り組んでいる実践や考え方を自分なりに整理して授業に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII【夜】

担当者名 /Instructor 内田 若希 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の身体とのつきあい方を身につけ、心身ともに健康なライフスタイルの維持・獲得に向けて、理論の学習と実習を行う。なお、実習では、既存のルールにとらわれない誰でも楽しむことのできる運動を取り入れ、生涯にわたる健康の自己管理能力を養うことを目指す。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 (講義) 運動と身体の健康【生活習慣病】【運動基準・指針】
- 3回 (実習) ウォーキングと至適運動強度
- 4回 (講義) 運動と心の健康【ストレス社会】【コーピング】
- 5回 (実習) コミュニケーションを楽しむ①(ふうせんバレー)
- 6回 (実習) コミュニケーションを楽しむ②(ソフトバレー)
- 7回 (講義) 運動の継続化を目指して【行動変容】
- 8回～9回 (実習) 生活に役立つテーピング・キネシオテープ実習
- 10回 (実習) 子どもが楽しめる運動(レクリエーション)
- 11回 (実習) 中高年が楽しめる運動(バドミントン)
- 12回 (実習) 高齢者が楽しめる運動(軽スポーツ)
- 13回～14回 (講義) 健康でステキな人生を送るために
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会調査（主に量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。調査法を学ぶ場合、統計ソフトが使えるようになることよりも、基本的な「考え方」の方が重要である。たとえば、「あることを主張するためにはどのようなデータを用い、どのような事実が観察される必要があるか」を考えることである。その上で、質問文の作り方、調査票の構成、サンプリング、データファイル作成、単純集計、記述統計量の計算、検定、クロス表の作成など、基本的な分析技法について学ぶ。なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行う可能性がある。

教科書 /Textbooks

『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
 - 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』、谷富夫編著、世界思想社、2008
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディングと調査票の作成（1）
- 第6回 ワーディングと調査票の作成（2）
- 第7回 ワーディングと調査票の作成（3）
- 第8回 サンプリング
- 第9回 調査の実施とデータファイルの作成（1）
- 第10回 調査の実施とデータファイルの作成（2）
- 第11回 分布と統計量
- 第12回 検定の考え方
- 第13回 クロス集計
- 第14回 相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストをよく読んでくること。
 「統計を読む・統計をつくる」（1学期）と合わせて受講することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【夜】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基礎(1) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 3回 バドミントンの基礎(2) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 4回 バドミントンの基礎(3) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 5回 バドミントンの基礎(4) サーブ(ロング・ショート)
- 6回 バドミントンの基礎(5) スマッシュ
- 7回 バドミントンの基礎(6) ルールの習得(シングルス)
- 8回 バドミントンの応用(7) ルールの習得(ダブルス)
- 9回 バドミントンの応用(1) フォーメーション
- 10回 バドミントンの応用(2) ゲーム展開
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装と体育館シューズを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、中学校教諭一種免許状（社会）や高等学校教諭一種免許状（公民）の取得を目指し、4年次に教育実習に行きたいと考えている学生のために、開講します。
 教育実習において、実習生は、実習先の学校で少なくとも数度の授業を担当することになります。塾などで実践経験を積み、自信满满で教育実習に臨む実習生もいるでしょうが、おそらく実習生の多くは、模擬授業を経験する十分な機会にも恵まれないまま、不安な気持ちを抱えながら、教育実習に臨むことになっているのではないのでしょうか。このクラスは、そのような不安を少しでも軽減するために、学習指導要領に対する理解を深めるとともに、模擬授業の実践と相互観察を通じ、受講生のティーチングスキルの向上を図ることを目的としています。
 なおこのクラスでは、高等学校における「現代社会」の授業を題材にして、授業を展開していくこととします。

教科書 /Textbooks

高等学校学習指導要領 解説（公民編）
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000_4_1.pdf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は、初回の授業時に、紹介します。
 また授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く
- 第3回 学習指導案の作成①【単元】【目標】【指導計画】【指導上の立場】
- 第4回 学習指導案の発表①
- 第5回 学習指導案の作成②【本時案の位置づけ・目標】【導入・展開・まとめ】【学習内容・学習活動】
- 第6回 学習指導案の発表②
- 第7回 模擬授業における相互観察のポイント【授業構成】【説明】【発問・指示】【板書】【レジユメ】
- 第8回 模擬授業と相互観察①
- 第9回 模擬授業と相互観察②
- 第10回 模擬授業と相互観察③
- 第11回 模擬授業と相互観察④
- 第12回 模擬授業と相互観察⑤
- 第13回 模擬授業と相互観察⑥
- 第14回 模擬授業と相互観察⑦
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、課題・模擬授業などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）によって総合的に評価することになります。
 ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学習指導案の作成や模擬授業の準備等、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
 受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

①教育実習1を受講していること、②社会科教育法ないしは公民科教育法を受講していること、を受講の条件とします。
 なお最大でも10人程度を予定しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を目指す人、自分の夢に向かって、自分の力を磨いてください。

キーワード /Keywords

【公民】【現代社会】【学習指導要領】【教材研究】【学習指導案】【模擬授業】【相互観察】

地球の生いたち【夜】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみや成り立ちを正しく理解し、地球規模でのバランス感覚を養っていく必要がある。

この授業の目標は、現在の地球のしくみと地球史を正しく理解することを通して、地球と人間との関係はどうあるべきかについて、自ら判断し考えることができるようになることである。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』(NHKブックス, 日本放送協会), 1071頁
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』(岩波書店), 861頁
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目: 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目: 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目: 生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目: 地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目: 地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目: 凍りついた地球【全球凍結】
- 7回目: 生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目: 生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目: 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目: 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目: 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目: 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目: 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目: 人間圏の成立と環境問題【人類と環境】
- 15回目: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 80%, 日常の授業への取り組み: 10%, 小テスト・ミニレポート: 10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球史を学ぶ事を通して、地球と人間との関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球史, 生命と地球, 共進化

思想と現代【夜】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTROダクシヨN
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴール】
- 4回 実存の思想(3)【ハイデガー】
- 5回 実存の思想(4)【サルトル】
- 6回 実存の思想(5)【メルロ=ポンティ】
- 7回 中間総括(確認テスト)
- 8回 精神分析の思想(1)【フロイト1】
- 9回 精神分析の思想(2)【フロイト2】
- 10回 精神分析の思想(3)【メラニー・クライン1】
- 11回 精神分析の思想(4)【メラニー・クライン2】
- 12回 フェミニズムの思想(1)【第一波】
- 13回 フェミニズムの思想(2)【第二波】
- 14回 フェミニズムの思想(3)【現代】
- 15回 総括と補足

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト... 50% 期末レポート... 50%
(※確認テストを受験していない者は、期末レポート提出の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第7回にテスト(第3回~第6回の内容確認)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。なお、このテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業に対しては、一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。
授業内で指示する課題内容から外れたレポート、無断引用(コピペ等)が発覚したレポートは即座に0点となる。

キーワード /Keywords

民主主義とは何か【夜】

担当者名 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、きわめて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたい。

教科書 /Textbooks

レジュメの配布を基本とするが、S・シャピロ『民主主義論の現状』（慶応義塾大学出版会、2010年）（O）も多く用いる。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィ』(日本経済評論社、2003年)(O)
J・リンズほか『大統領制民主主義の失敗』(南窓社、2003年)(O)
L・ダイヤモンドほか『シベリアン・コントロールとデモクラシー』(刃水書房、2006年)(O)
中道『政治思想のデッサン』(ミネルヴァ書房、2006年)(O)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 開講の辞・グローバル化とデモクラシー【第三の波】【市民社会】
第2-3回 「デモス」と「クラティア」について【イソノミア】【イセゴリア】【イソモイリア】
第4-5回 二つの民主主義伝統について【G・セイバイン】【自由】【平等】
第6-7回 近代市民革命と自由民主主義について【C・シュミット】【自由主義】【民主主義】
第8-9回 現代民主主義の諸類型【エリート主義】【参加民主主義】【共生の民主主義論】
第10-11回 議院内閣制民主主義と大統領制民主主義について【政治的安定性】【首相公選制】
第12-13回 民主主義批判の思想について【全体主義】【ポスト・デモクラシー】
第14回 デモクラシーの徹底化について【C・ムフ】【多様性】【複数性】
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への積極的取組考慮、小テストによる問題の解説と添削、レポート任意提出可、定期試験と講義への積極的取組などで総合評価
講義への積極的取組・・・10%、小テスト...10% レポート(任意) 20% 試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布したレジュメに目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権論 【夜】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問い直す機会としたい。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題について、その事例を説明できる。
4. 自分自身と人権との関わりが理解できる。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『不思議な力 夜間中学』（宇多出版企画発行）
『部落問題資料と解説』（解放出版社発行）
必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 自分にとっての人権課題
- 2 「人権とは何か」
- 3 「人権獲得の歴史」
- 4 「世界人権宣言採択の歴史的経緯と意義」
- 5 「部落問題について」
- 6 「部落差別の事例と当事者の声」
- 7 「在日外国人と人権課題」
- 8 「在日コリアンについて」
- 9 「ハンセン病とは、元患者の事例」
- 10 「識字問題～読み書きができないことがもたらす人権侵害」
- 11 「教育と人権～教育を受ける権利が保障されていない人たちの状況」
- 12 「障害者の立場からみる人権課題」
- 13 「戦争と人権 / 女性と戦争」
- 14 「アジアの人権状況」
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50% 期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心を持ち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

授業中の私語は厳禁

人権論【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生自身がもつ「学ぶ権利」を十分認識して取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【夜】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、なぜ「男は仕事、女は家事・育児・介護」は自然な役割だと思われているのか、なぜ男女の賃金格差があるのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか-そのような日常的な「当たり前」をジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。

教科書 /Textbooks

『ジェンダー・スタディーズ-女性学・男性学を学ぶ』（牟田和恵編）大阪大学出版会 2,520円
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『岩波女性学事典』（井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編）岩波書店 4,830円
『フェミニズム理論辞典』（マギー・ハム著）明石書店 7,140円
R.W. Connell, Gender: Short Introduction, Polity, 2003 .

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 日本語とジェンダー-日本の戦後から現代までの歌謡曲【女言葉・男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウエイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別役割分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャルな関係】【性のダブル・スタンダード】
- 7回 学校教育の今昔-学園ものTVドラマの系譜【ジェンダー・トラッキング】【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-米映画『フローズン・リバー』【シングル・マザー】【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【家族経営協定】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-比映画『ケア・ギバー』【移住労働】【性別分業の再配置】
- 14回 テートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン...30%、レポート...30%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書と資料を事前に読んでおくこと。
ワークショップのプレゼンでは、パワーポイントを使用するので、プレゼンおよびPPT作成スキルを身につけておくこと。PPTは8枚にまとめること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

メディア表現、ジェンダー不平等な法制度の改正、日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「グローバル化」

北九州学【夜】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目は、地域社会の発見学です。私たちの大学のある北九州、この地域の歴史や伝統文化を知り、人々の暮らしや風土に根ざした心を理解し、ものづくりやまちづくりへの取り組みを確認してみようと思います。北九州の発見を通じて、生活するためのヒント、他の文化とつながる知恵や未来への発展可能性を開く手がかりを得ようというものです。本年度は、「北九州の政治行政」を講義の主なテーマとします。講義全体のキーワードは『知っとーと！？北九州？？？』です。

教科書 /Textbooks

使用しません。毎回レジュメと資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、その都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 北九州の歴史-小倉藩の治世
- 3回 北九州の歴史-小倉の五街道
- 4回 北九州の歴史-軍都小倉
- 5回 北九州市誕生
- 6回 北九州の政治
- 7回 北九州の住民自治
- 8回 北九州の教育行政
- 9回 北九州の交通行政
- 10回 北九州の環境行政
- 11回 北九州の安全対策
- 12回 北九州の福祉行政
- 13回 北九州のスポーツ行政
- 14回 北九州の観光行政
- 15回 まとめ

* 毎回ゲストをお招きして、各テーマについてお話を伺います。上記の内容は一応の予定です。現在検討中です。講義内容の詳細は開講時に配布します。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取り組み... 10% 課題... 10% 期末のレポート... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義中にノートをしっかりつけてください。

キーワード /Keywords

市民活動論【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 枠組みの設定
 - 3回 民衆行動の分析①
 - 4回 民衆行動の分析②
 - 5回 市民運動の分析
 - 6回 市民の活動の展開 / 戦前 (上)
 - 7回 市民の活動の展開 / 戦前 (下)
 - 8回 市民の活動の展開 / 戦後 (上)
 - 9回 市民の活動の展開 / 戦後 (下)
 - 10回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (上)
 - 11回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (下)
 - 12回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (上)
 - 13回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (下)
 - 14回 市民活動の現在
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【夜】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本は、かのアジア太平洋戦争に敗北した。その後の日本は、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。その後、欧米から日本の経営とも賞賛された日本の企業社会であるが、そのピーク＝破壊たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた10年さらには15年とも評価されるにいたっている。

終身雇用（＝ライフタイム・コミットメント、広義には職場共同体感）・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液状化して剥き出しの資本制経済の荒波にさらされている。日く、ワーキングプア・ネットカフェ難民・格差から貧困。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義（マーケット型資本主義）路線。すなわち市場＝マーケット万能路線である。そこでは、市場から脱落・排除（彼女／彼らはこれを退出という）された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである。

これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものが、こうした人々を支えるセーフティネットをもっていたと判断される。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである。

そうすると行き着くところ、社会というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないものだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ことに格差と貧困に関わるテーマを扱った雑誌『世界』・岩波新書等の最新の文献。國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房（2009年）・見田宗介（真木悠介）の社会学入門に関する文献は一冊、用意したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会とは(社会認識の諸類型)。資本制経済(資本家的生産様式)。【社会認識】
- 2回 同上
- 3回 【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】
現代社会の物質代謝＝商品による商品の生産。現代社会の物質代謝と再生産＝商品流通(C-M-C)による社会の再生産→この商品流通から、ふたつのタイプが見いだされる。→C-M-C(私たち)とM-C-M(資本家)。私たちが資本家は、商品流通のレベルでは仲良く相対しているかのようだ。この市民社会＝市民法レベルでの社会の再生産とその実態(秘密)。
- 4、5回 同上
- 6回 【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】 市民社会の歴史的創出＝本源的蓄積過程。商品流通(C-M-C)の内実たるM-C-Mでの剰余価値の生産。資本家と労働者。
- 7、8、9回 同上
- 10回【現代社会における二者闘争性(白と黒)】【労働組合】【福祉国家】【ケインズ政策】
市民社会と階級関係の二者闘争性。セーフティネット装置＝福祉国家。戦後のケインズ政策。
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 福祉国家の行き詰まりから、資本主義の原点回帰へ。新自由主義の台頭。【新自由主義】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)。【システム統合】【社会統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】【現代社会における二者闘争性（白と黒）】【労働組合】【福祉国家】【ケインズ政策】【新自由主義】【システム統合】【社会統合】

現代社会と倫理【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』(山内友三郎・塚崎智監訳)昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 現代における人命の価値(1)【生命の神聖説】
- 3回 現代における人命の価値(2)【積極的行為と消極的行為】
- 4回 現代における人命の価値(3)【最大幸福原理】
- 5回 現代における人命の価値(4)【完全義務と不完全義務】
- 6回 現代における人命の価値(5)【自己意識】、【FLO】
- 7回 小テスト+解説
- 8回 現代における差別の問題(1)【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題(2)【種差別】
- 10回 現代における差別の問題(3)【間接的功利主義】
- 11回 現代における公平性の意義(1)【共有地の悲劇】、【救命ボート倫理】
- 12回 現代における公平性の意義(2)【公平主義】
- 13回 現代における公平性の意義(3)【援助義務論】
- 14回 現代における公平性の意義(4)【ケイバビリテイ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の概要、より詳しい参考文献の紹介は初回に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業の期末試験は、今年度より持ち込みが一切不可(プリント・ノート類も禁止)となる。
また、それに応じて成績評価のハードルもかなり高くなる。このため、受講者には継続的な学習意欲とそれ相応の記憶力が要求される。この方式変更に伴うリスクと負担をよく理解した上で講義に臨むこと。

キーワード /Keywords

生命 功利主義 義務論 公平性

現代の国際情勢【夜】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を、ポストコロナリズムという現代思想の問題提起に沿って考察する。

教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロナリズム』知の攻略、思想読本4 (作品社、2003) 2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要
- 2～3回 なぜ今、ポストコロナリズム七日(1)(2)
- 4回 第IV部の総論 姜尚中論文
- 5回 第II部の総論 本橋哲也論文
- 6回 第II部の「近代」 松葉祥一論文
- 7回 第II部の「性・文化」 竹村・毛利論文
- 8回 第II部の「日本」 小森陽一論文
- 9回 第II部の「第三世界」 小倉英敬論文
- 10回 第II部の「国家」 榎田竜蔵論文
- 11回 第III部の1、 朴一・村井寛志論文
- 12回 第III部の2、 趙慶喜論文
- 13回 第III部の3、 高橋哲也論文
- 14回 第III部の4、 野村・鄭論文
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告レジュメ1回(10%)とレポート3回(90%、1回10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書に登場する概念、理論について自主的に勉強すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【夜】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会の性質を簡単に紹介した上で、国連を中心として、国際機構が世界の安全保障において、どんな役割を有しているのかを考えることが目的です。現代社会の理解には、それまでの歴史的展開の理解が不可欠であると考えますので、時系列的に古い話から、徐々に現代にテーマを移してゆくようにします。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。各テーマごとにレジュメ(説明プリント)を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第3回 国際機構の定義～「国際」とは何か？ 国際機構とは何か？ 主権国家とは何か
- 第4回～第5回 国際機構の歴史～国際機構の誕生、国際連盟の画期性、国際連盟の欠陥
- 第6回～第8回 国際連合の成立～国際連合の創設過程、国際連合の成立
- 第9回～第10回 国際連合の展開I～国連軍、安保理の機能不全
- 第11回～第12回 国際連合の展開II～日本の国連加盟、途上国の台頭、中国の代表権問題
- 第13回 冷戦終結と国連～冷戦終結による変化、変化への対応、成功と失敗
- 第14回 国際安全保障の展開～国際社会が協力して安全保障をし始めたのはいつ？なぜ？国連の安全保障の特徴
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（統治）」の意味を世界各地の国や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループ・ワークを通じて回答を出してもらいます。

教科書 /Textbooks

その都度配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、バングラデシュ、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 「開発と統治」をはじめるにあたって		担当：三宅
2回 民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当：伊野
3回 民主化問題を考える視座(2)		担当：伊野
4回 理論と現実-ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当：伊野
5回 援助と民主主義：バングラデシュの事例	【援助】	担当：チョウドリ・三宅
6回 選挙を通して見たバングラデシュの政治活動	【バングラデシュ】	担当：チョウドリ・三宅
7回 途上国と一村一品運動	【一村一品運動】	担当：チョウドリ・三宅
8回 グラミン銀行と地域社会のガバナンスの変化	【グラミン銀行】	担当：チョウドリ・三宅
9回 1970年代の韓国の開発と民主化運動	【韓国】	担当：申
10回 韓国：1990年代以降の民主化と環境政策	【環境政策】	担当：申
11回 滞在経験を通して感じた米国のガバナンス	【米国】	担当：申
12回 地域社会から見たガバナンス	【地域社会】	担当：三宅
13回 日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
14回 ガバナンスについてのグループ・ワーク		担当：指名教員
15回 まとめ		担当：三宅

成績評価の方法 /Assessment Method

小課題の提出 ... 30 % 試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報をキャッチしておくこと。また、時々、小課題を出すので、提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 バングラデシュ 子供会 グループ・ワーク

歴史の読み方I【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また、私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。

教科書 /Textbooks

なし。活字史料や、パワーポイントで投影した映像史料を適宜コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『日本評伝選・桂太郎』、○『日本外交年表並主要文書』上・下

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 西南戦争
- 第3回 日清戦争
- 第4回 日露戦争
- 第5回 第一次世界大戦とシベリア出兵
- 第6回 山東出兵(1)
- 第7回 山東出兵(2)
- 第8回 満州事変(1)
- 第9回 満州事変(2)
- 第10回 日中戦争(1)
- 第12回 日中戦争(2)
- 第13回 太平洋戦争(1)
- 第14回 太平洋戦争(2)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に最低限高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市と農村の生活文化史【夜】

担当者名
/Instructor

福岡 裕爾 / Yuji FUKUMA / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自由で豊かな暮らしを求めて、人々が都市への集住を強めた20世紀。各地で都市化が進み、農村も相応の変化を強いられてきた。これを「向都離村」という言葉で説明することがあり、都市集住がすべてバラ色ではなかったことを示してきた。にもかかわらず、この傾向は現代においても未だに続いている。果たして、人々を幻惑する都市の魅力とは何か、また農村から都市へと移動する人々が直面した困惑と持ち帰った文化的価値とは何か。

この講義では、都市から農村を見ていくことで、両者のダイナミズムやそのなかに秘められた人々を相対化する技法を考える。また、文献等に残ることが少ない生活の営みをどのように整理し、現場のなかでいかに問題を発見し理論化するか、というフィールドワークの基本にも触れることができる内容としたい。何気ない日常に焦点をあて、そのなかから理論を析出するおもしろさを伝えたい。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。必要な資料はプリントで適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに 「都市の誘惑」 ガイダンス
- 第2回 「都市と農村 / 都会と田舎」 都市と農村のイメージ
- 第3回 「都市の言葉と話芸の誕生」 言葉から都市と農村を見る
- 第4回 「都会という感覚」 都会の指標としての祭礼
- 第5回 「都会のハビトゥス1」 出会いと社交の技法
- 第6回 「都会のハビトゥス2」 結集の理法
- 第7回 「都会のハビトゥス3」 不文律の妙
- 第8回 「都会人の気質」
- 第9回 「三つ子の魂、百まで」 ある日本画家の原風景
- 第10回 「都市の人生と漁村」 人と物の交流と人生儀礼
- 第11回 「都鄙連続論」 都市と農村の繋がりを考える方法
- 第12回 「都鄙連続論の検証」 山笠に見る文化伝播
- 第13回 「都市の再生産」
- 第14回 「都市と農村の身体性」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートまたは試験 80% 授業中の小レポート等20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「話を聞く」ことを重視する。しっかり授業を聞き、十分にノートをとること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人物と時代の歴史【夜】

担当者名 /Instructor 新村昭雄(文)、三宅博之(法)、乗口眞一郎、山崎勇治

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の人物を中心として講義することによって学生に知ってもらうことを目的とする。なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

4人の教員が、日本・アメリカ・インド・英国の代表的な人物について、その人物が生きた歴史と時代について語る。はじめに、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道(Bushido)が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。

江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰(アイヌや南方諸島に残る)や弥生信仰に代わって、聖徳太子(厩戸皇子)は仏教を大和(やまと)の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が繁栄したのか。

次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)について。次に今や中国とともに、次世代を握るインドの話である。まず、マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史について語る。「ガンディ」の映画を鑑賞したのち、マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?について考える。

最後は、世界大学ランキング1位を維持し続けているケンブリッジ大学を擁する英国について、「湯布院のモデルとなった湖水地方のベアトリクス・ポター」「世界恐慌を救ったケンブリッジ大学のM・ケインズ」「『イギリス病』を救った鉄の女、M.サッチャー」について語る。

教科書 /Textbooks

各回講義の資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義で取り上げるテーマや人物に関して、自伝や歴史書を図書館等で読んでおくこと。
山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国—産業革命からサッチャー改革まで>—(ミネルヴァ書房、2008年6月)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする

- 第1回 はじめに。「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と幕末・明治維新
- 第2回 上杉鷹山と儒教的経営
- 第3回 保科正之と江戸幕府
- 第4回 親鸞と平安・鎌倉時代
- 第5回 聖徳太子と飛鳥・奈良時代
- 第6回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
- 第7回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
- 第8回 歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)
- 第9回 マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史
- 第10回 「ガンディ」の映画鑑賞
- 第11回 マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?
- 第12回 明治維新を側面から支援したスコットランド人、トーマス・グラバー
- 第13回 湯布院のモデルとなった湖水地方のベアトリクス・ポター
- 第14回 世界恐慌を救ったケンブリッジ大学のM・ケインズ
- 第15回 「イギリス病」を救った鉄の女、M.サッチャー—総まとめ—

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(30%)とレポート(70%)により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義で取り上げるテーマや人物に関して、自伝や歴史書を図書館等で読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

人物と時代の歴史【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【ラスト・サムライ】【武士道】【幕末・明治維新】【壊滅的な藩の財政を立て直した】【儒教的経営とは】【江戸幕府の礎を築いた】家光の弟・保科正之【民衆に根ざした仏教】【平安・鎌倉時代】【一七条の憲法】【聖徳太子(厩戸皇子)】【飛鳥時代】【オバマ大統領】【ノーベル平和賞】【奴隷解放運動の歴史】【アメリカ歴代大統領】【マハトマ・ガンディ】【イギリス植民地史】【なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか】【ベアトリクス・ポター】【湖水地方】【湯布院】【ケインズと世界恐慌】【サッチャー】【英国病】

西洋史【夜】

担当者名 /Instructor 疇谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、ヨーロッパ諸国の動向と植民地帝国の編成・変化を見ることによって、「西洋史」を立体的に把握することを目指します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 中世ヨーロッパの世界観【プレスター・ジョン】
 - 3回 イベリア諸国の形成【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガル【アヴィス朝革命】
 - 5回 大航海時代と「世界分割」【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガルのアジア進出【アルブケルケ】
 - 7回 ポルトガルによる植民地帝国の形成①【点と線の支配】
 - 8回 ポルトガルによる植民地帝国の形成②【南蛮貿易】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成①【エンコミエンダ制】
 - 10回 スペインによる植民地帝国の形成②【ポトシ】
 - 11回 オランダ、イギリスの台頭【東インド会社】
 - 12回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編【三角貿易】
 - 13回 環大西洋世界の展開①【環大西洋革命】
 - 14回 環大西洋世界の展開②【産業革命】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史 【夜】

担当者名 /Instructor 藤野 月子 / FUJINO TSUKIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国の統一というと、単に国内のみの問題という向きがあるかもしれない。しかし、古来から中国は近隣の様々な民族を吸収しつつ変容を繰り返している。また、近隣諸地域もその影響を受けつつ独自の国家形成を行ってきており、こうした関わりは密接なものである。本講義では、東アジアを中心にその歴史の変遷を考察することにより、①中国・朝鮮・日本を始めとする東アジア諸地域の特性について明らかにし、②さらにそれを通じて東アジア諸地域の今後のあり方を自ら模索出来る力を養いたい。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに - 講義のガイダンス -
- 第2回 秦の始皇帝による統一 - 中華思想・漢民族の形成 -
- 第3回 漢と匈奴 - 中国と北方騎馬民族との関係 -
- 第4回 中国の外交政策 - 冊封体制を中心に -
- 第5回 前漢の政治と思想 - 儒教との関わり -
- 第6回 後漢の政治と思想 - 外戚と宦官 -
- 第7回 三国志の時代 - 三国の領土拡大と親魏倭王 -
- 第8回 西晋による三国統一 - 西晋の内乱と諸民族の動向 -
- 第9回 東晋南朝の社会 - 貴族の変遷 -
- 第10回 五胡十六国北朝の時代 - 北中国における民族融合 -
- 第11回 南北朝と朝鮮・日本 - 朝鮮・日本の中国外交 -
- 第12回 隋唐による統一 - 世界帝国の成立と政治制度 -
- 第13回 唐と朝鮮・日本 - 唐の朝鮮政策と白村江の戦い -
- 第14回 唐と北方騎馬民族国家 - 唐の近隣支配体制の変遷 -
- 第15回 安史の乱後における唐の滅亡 - 世界帝国の衰退と東アジアへの影響 -

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20%・定期試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【夜】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマは「日本地誌」。特定の地域は様々なレベルの空間スケールから考察し説明することができる。地誌学は特定地域の諸側面を多面的に分析し、総合して地域の性格を明らかにするものである。本講義では主として日本全体の地域構造を明らかにした後、特定地域を事例として取り上げ、その説明を通して地域の姿を解明する方法を教授する。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。
講義中に資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

矢ヶ崎典隆、加賀美雅弘、古田悦造編著『地誌学概論』(地理学基礎シリーズ3)朝倉書店、2007年。
平岡昭利編『九州 地図で読む百年』古今書院、1997年。
平岡昭利編『中国・四国 地図で読む百年』古今書院、1999年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに～地誌とは【多面性】【分析】【総合】
- 2回 日本の地誌①～古代における地域構造の形成【律令体制】
- 3回 日本の地誌②～中世から近代における地域構造の形成【朝廷と幕府】
- 4回 日本の地誌③～現代日本の地域構造①【欧化主義】【近代工業の導入】
- 5回 日本の地誌④～現代日本の地域構造②【経済の高度成長】【過疎・過密】
- 6回 九州地方の地誌①～九州の地域構造：地域の多様性と変容【北部と南部】【東部と西部】
- 7回 九州地方の地誌②～九州における拠点の移動を中心に【長崎・熊本・福岡】
- 8回 九州地方の地誌③～北部九州：福岡県、佐賀県、長崎県の地誌
- 9回 九州地方の地誌④～中部九州：熊本県、大分県の地誌
- 10回 九州地方の地誌⑤～南部九州：宮崎県、鹿児島県、沖縄県の地誌
- 11回 福岡地域の地誌①【大宰府】【九州探題】
- 12回 福岡地域の地誌②【アジア】【玄関口】
- 13回 関門地域の地誌①～門司・下関地区の歴史【西廻航路】【五市合併】
- 14回 関門地域の地誌②【炭鉱地帯】【八幡製鉄所】【リサイクル】
- 15回 おわりに～すべての地域が生き生きと【多様性】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70% 日常の授業への取組み20% レポート 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域構造 過疎過密 産業再編成 九州 関門地域

日本国憲法 【夜】

担当者名 徳永 達哉 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国家の基本法である日本国憲法と国民生活との関わりを理解することをねらいとする。そのために、まず、日本国憲法の全般的な仕組みを簡単に学び、その後に基本的人権と統治機構の中心部分を学ぶこととする。具体的には現在とくに盛んな論議をよんでいる外国人の人権、プライバシー権、自己決定権、平等権、信教の自由、表現の自由等の人権問題、および天皇の地位と役割、第9条を巡る現在の諸問題、国会の仕組みと役割、内閣の誕生、裁判制度等の統治機構に関する問題を主たるテーマとする。

教科書 /Textbooks

安藤高行編著 『憲法新教科書』（法律文化社刊・2007年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂 『憲法学教室（全訂第2版）』（日本評論社・2006年）
- 芦部信喜著、高橋和之補訂 『憲法（第4版）』（岩波書店・2007年）
- 長谷部恭男 『憲法（第4版）』（新世社・2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 日本国憲法の成立とその基本的な原理（テキスト3頁および153頁）
- 2 外国人の人権（18頁）
- 3 プライバシーをめぐる諸問題（34頁）
- 4 新しい権利としての自己決定権（38頁）
- 5 平等権をめぐる諸問題 - 親子や夫婦と平等原則（47頁）
- 6 思想・良心の自由の保障の意義（58頁）
- 7 信教の自由の意義と個人の信教の自由巡る具体的な問題（64頁および68頁）
- 8 政教分離原則が日本で問題になる理由と具体的問題（64頁および72頁）
- 9 表現の自由の現代における重要性和具体的問題（83頁および87頁）
- 10 日本国憲法における天皇の地位と役割（159頁）
 - 1 1 憲法9条をめぐる現在の問題（168頁）
 - 1 2 国会の地位と権能（183頁）
 - 1 3 内閣の誕生と役割（204頁）
 - 1 4 司法権の独立と違憲立法審査権（222頁および229頁）
 - 1 5 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度(20%) + 知識の確認課題(40%) + レポート課題(40%)を総合的に評価します。
※受講態度は減点方式で評価します。私語・途中入退室・携帯電話など講義妨害行為を広く減点対象としております。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義は教科書に則して進めますが、情報量が非常に多いです。耳慣れない用語は予め辞書などで調べておいてください。
受講後に気になる用語があれば必ず辞書などで再確認してください。

履修上の注意 /Remarks

範囲が広いため講義の速度が速いです。一瞬でも聞き逃しますと講義について来られなくなりますので、集中力を切らないようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

哲学や宗教との関わりを通して「倫理」という言葉の基本的な意味を概観したあと、古代から現代にいたる主要な倫理学説を紹介してゆく。西洋の歴史において倫理思想がどのように発展してきたのかを学びつつ、倫理学についての基本的知識を身につけることが本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田靖夫ほか『西洋思想のあゆみ--ロゴスの諸相』有斐閣、1993年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書、2006年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 倫理学の考え方
- 2回 哲学と倫理(1) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ソクラテス】
- 3回 哲学と倫理(2) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【プラトン】
- 4回 哲学と倫理(3) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【アリストテレス】
- 5回 宗教と倫理(1) ユダヤ-キリスト教の倫理【ユダヤ教】
- 6回 宗教と倫理(2) ユダヤ-キリスト教の倫理【原始キリスト教】
- 7回 宗教と倫理(3) ユダヤ-キリスト教の倫理【教父哲学】
- 8回 小テスト+解説
- 9回 近代倫理学の誕生(1)【イギリス経験論】
- 10回 近代倫理学の誕生(2)【契約説】
- 11回 近代倫理学の発展(1)【功利主義】
- 12回 近代倫理学の発展(2)【カント】
- 13回 近代倫理学への批判(1)【ニーチェ】
- 14回 近代倫理学への批判(2)【徳倫理】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 学期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教養教育科目の「現代社会と倫理」・「思想と現代」とあわせて受講すれば、この分野に関する理解がいつそう深まるはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教職科目という性質上、当然ながら一般的な授業よりも採点基準は厳しくなる。テストは持ち込み一切不可。最終的な成績は、日頃の学習態度と記憶力の程度によって大きく異なってくるだろう。初回の授業では「小テスト」の日程・方法について詳しい説明するので、必ず出席すること。

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【夜】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、エンドユーザの立場から、職場や家庭、大学等の様々な環境において必要不可欠な情報に関する技術や知識を習得し、コンピュータを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 情報社会におけるエンドユーザの役割を説明できるようになります。
- Webページを閲覧する際に、そのページの作成元や信頼度を判断する基準を理解できるようになります。
- データベースとはどのようなものか具体的な例に基づいて説明することができるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。特に指定はしません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『エンドユーザのための情報基礎』(浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エンドユーザコンピューティングを学ぶために【エンドユーザ】
- 2回 コンピュータ内部のデータ表現【2進数】【ビット・バイト】【文字コード】
- 3回 ハードウェア【CPU】【メモリ】【ハードディスク】【フラグメンテーション】
- 4回 ソフトウェア【OS】【拡張子】
- 5回 ネットワークの仕組み【サーバ】【LAN】【IPアドレス】【ドメイン名】
- 6回 情報システムの利用者としての心得(1)【PDCA】【パスワード】
- 7回 情報システムの利用者としての心得(2)【リスク分析】
- 8回 情報システムの利用者としての心得・まとめ
- 9回 情報セキュリティ対策(1)【コンピュータウイルス】【Windows Update】【スパイウェア】【ファイアウォール】
- 10回 情報セキュリティ対策(2)【SSL】【クッキー】
- 11回 情報セキュリティ対策・まとめ
- 12回 データベースの基礎(1)【正規化】【主キー】
- 13回 データベースの基礎(2)【SQL】
- 14回 データベースの基礎・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画が変更になる可能性があります。変更がある場合は、授業中にお伝えします。ただし、授業内容を大幅に変更することはありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

情報分野の専門用語を数多く学習していきます。あまり興味のない人にとっては、慣れない専門用語がたくさんあるかもしれません。授業中の説明を1度聞いただけで理解できると考えずに、毎回、しっかりと復習をしてください。そして、わからない事があれば、授業中に質問してください。

キーワード /Keywords

エンドユーザ、情報セキュリティ、データベース

データ処理【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- タッチタイピングや見やすい表の作成ができるようになります。
- 本学が提供しているグループウェア、Webメールなどのネットワーク環境を使いこなし、ルールを守ったメールの送受信ができるようになります。
- ネットワークを正しく安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基本的な知識を習得することができます。
- 表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成ができるようになります。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境を知る【ID】【パスワード】【グループウェア】
- 2回 文字入力を正確に行う【タッチタイピング】
- 3回 ネットワークコミュニケーションの技法を知る【電子メール】【SSL通信】
- 4回 ネットワークの光と影を知る【情報倫理】【著作権】【個人情報保護】
- 5回 きれいな表を作る【セル】【シート】【書式】【ページ設定】【印刷プレビュー】
- 6回 計算式を作る【セルの参照】【コピー】【ペースト】
- 7回 いろいろなグラフを作る【グラフ】
- 8回 グラフをカスタマイズする【グラフ編集】
- 9回 基本的な関数を利用する【関数】【引数】
- 10回 さまざまな関数を利用する【関数の挿入】
- 11回 表計算演習1【表・グラフ作成】
- 12回 表計算演習2【条件分岐】【ソート】
- 13回 表計算演習3【表の参照】
- 14回 総合課題に取り組む
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%，積極的な授業参加（タイピング，電子メール送受信，情報倫理の理解等を含む）... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作（キーボードで文字を入力する，マウス操作など）ができるようになっておくとう受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度，情報システムの状況によっては，「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので，タイピングやマウス操作が苦手な人は自ら練習する姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

英語I【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、またエッセイや英字新聞の記事を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
 リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
 その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング プレテスト、リーディング ユニット1
- 3回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット2
- 4回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット3
- 5回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット4
- 6回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット5
- 7回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット6
- 8回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット7
- 9回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット8
- 10回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット9
- 11回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット10
- 12回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット11
- 13回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット12
- 14回 リスニング ユニット12、リーディング まとめ
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
 欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人夜 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練する。また口語英語を中心に、文法能力と英文の内容を読み取る力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks
 リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
 リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
 その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 特になし。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 リスニング プレテスト、リーディング インロダクション
 - 3回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット1
 - 4回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット2
 - 5回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット3
 - 6回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット4
 - 7回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット5
 - 8回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット6
 - 9回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット7
 - 10回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット8
 - 11回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット9
 - 12回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット10
 - 13回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット11
 - 14回 リスニング ユニット12、リーディング ユニット12
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
 欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 比人夜1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)Introduction to the course: Self introduction
- 第2回My favourite place in Japan
- 第3回My important friends
- 第4回The sports I enjoy to watch and play
- 第5回The places I want to visit
- 第6回The food I like and what I can make
- 第7回My favourite movies and actors/actresses
- 第8回Countries of the world
- 第9回What I would buy with 10 million yen
- 第10回My family
- 第11回The music I like
- 第12回What I want to have for my dinner
- 第13回What I do in the morning (routine)
- 第14回The season I like
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 比人夜1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)My summer holiday
- 第2回The pets I like / the animals I hate
- 第3回Health and fitness
- 第4回The crossword puzzle
- 第5回The person I want to meet
- 第6回What I want to do over New Year
- 第7回My stress in my life and how I relieve stress
- 第8回Sporting heroes
- 第9回The TV programmes I like to watch
- 第10回My skills
- 第11回My future dream
- 第12回How I get the news in my life
- 第13回My three most important possessions
- 第14回My biggest worry at the moment
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語V 【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 1 (Second Edition) 桐原書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 10 回 Purchasing
- 11 回 Finances
- 12 回 Media
- 13 回 Entertainment
- 14 回 Health
- 15 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【夜】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年次
単位 /Credits 1単位 1単位
学期 /Semester 2学期 2学期
授業形態 /Class Format 講義 講義
クラス /Class クラス 比人夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 2 (Second Edition) 桐原書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 10 回 Purchasing
- 11 回 Finances
- 12 回 Media
- 13 回 Entertainment
- 14 回 Health
- 15 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の各都市の状況について理解します。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 < 試用本 > (『中国秀』 編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第四課 自己紹介【人称代名詞】【指示代名詞】【動詞の文】【是の文】
- 5回 第四課 自己紹介
- 6回 第五課 北京【形容詞の文】【名詞の修飾】【数字】
- 7回 第五課 北京
- 8回 第六課 天津【動詞が複数ある文】【時間詞】【量詞】
- 9回 第六課 天津
- 10回 第七課 上海【指示代名詞】【方位詞】【存在の在】【存在の有】【複文】
- 11回 第七課 上海
- 12回 第八課 蘇州と杭州【前置詞の在】【所有の有】【是～的】
- 13回 第八課 蘇州と杭州
- 14回 前期のまとめ
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II【夜】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の各都市の状況について理解します。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 < 試用本 > (『中国秀』 編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 第九課 義烏【了】【動作の現在進行形】【助動詞】【前置詞】
- 2 回 第九課 義烏
- 3 回 第十課 西安と洛陽【動詞+過】【動作の回数】【結果補語】【状態補語】【助動詞】
- 4 回 第十課 西安と洛陽
- 5 回 第十一課 成都【前置詞】【複文】【結果補語】【動作の時間を表す単位】【動作の時間】
- 6 回 第十一課 成都
- 7 回 第十二課 昆明【複文】【結果補語】【前置詞】
- 8 回 第十二課 昆明
- 9 回 第十三課 広州【結果補語】【前置詞】【ちょっと、少しの表現】【複文】【方向補語】【把の構文】
- 10 回 第十三課 広州
- 11 回 第十四課 大連【比較表現】【比喻表現】【使役表現】【受身表現】
- 12 回 第十四課 大連
- 13 回 第十五課 日本の紹介【複文】【了】【助動詞】
- 14 回 第十五課 日本の紹介
- 15 回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ ・ 60% 小テスト・ ・ 20% 日常の授業への取り組み・ ・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 <試用本> (『中国秀』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 発音の総合練習
- 5回 第四課 初めまして
- 6回 第四課 初めまして、練習問題
- 7回 第五課 搭乗・入国
- 8回 第五課 搭乗・入国、練習問題
- 9回 第六課 レストランにて
- 10回 第六課 レストランにて、練習問題
- 11回 第七課 交通
- 12回 第七課 交通、練習問題
- 13回 第八課 観光
- 14回 第八課 観光、練習問題
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 <試用本> (『中国秀』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 銀行にて
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルにて
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 趣味
- 10回 第十三課 趣味、練習問題
- 11回 第十四課 語り合い
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・免税店にて
- 14回 第十五課 搭乗手続き・免税店にて、練習問題
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

朝鮮語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階である1学期はハングル文字と発音を正確に習得することが重要である。したがって、この講義では一言会話とともに正確に読み書きができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『しっかり初級韓国語』（金 貞愛他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典（必携）

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文字と発音【単母音】【鼻音】
- 3回 文字と発音【単母音その2】【流音】
- 4回 文字と発音【平音】【半母音】
- 5回 文字と発音【激音】【濃音】
- 6回 文字と発音【合成母音】まとめと復習
- 7回 文字と発音【パッチム】
- 8回 発音の規則【有声音化】【連音化】
- 9回 発音の規則【濃音化】【激音化】
- 10回 発音の規則【流音化】【口蓋音化】【その他】
- 11回 まとめと復習
- 12回 第1課 自己紹介
- 13回 第2課 周りにあるものについて尋ねてみよう（1）
- 13回 第2課 周りにあるものについて尋ねてみよう（2）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語II 【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級段階に必要な文法や基本文型、語彙を学習し、同等レベルの作文と読解ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『しっかり初級韓国語』（金 貞愛他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 前期の復習
- 3回 指で指しながらいろいろ尋ねてみよう【人称・所有代名詞】
- 4回 場所や位置を尋ねてみよう【存在の有無】【助詞】
- 5回 今日のスケジュールを話してみよう【丁寧な表現】【助詞】(1)
- 6回 今日のスケジュールを話してみよう【丁寧な表現】【助詞】(2)
- 7回 1週間のスケジュールを話してみよう【動詞・形容詞の否定形】
- 8回 夏休みのスケジュールを話してみよう【願望形】
- 9回 ホテルの予約をしてみよう【漢数詞】【年月日の言い方】(1)
- 10回 ホテルの予約をしてみよう【漢数詞】【年月日の言い方】(2)
- 11回 連絡先を聞いてみよう【電話番号の言い方】【補助語幹-ㄴ】
- 12回 時間や年齢を尋ねてみよう【時間・年齢の言い方】(1)
- 13回 時間や年齢を尋ねてみよう【時間・年齢の言い方】(2)
- 14回 近況を親しみをこめて話してみよう【打ち解けた丁寧形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階ではハングル文字と発音を正確に習得することを目指す。ハングル文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られている文字であり、パズルのように子音と母音を組み合わせれば容易に覚えらる。この講義では一言会話とともに、ハングルを見て正確に声に出して読めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社）定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 基本文字について【基本母音と基本子音①】
- 2回 書き方と発音【基本子音と基本子音②】
- 3回 書き方と発音【激音と濃音】【合成母音字】
- 4回 バッチム【終声①】
- 5回 バッチム【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 単語と音の変化【その他の発音法則】
- 9回 尋ねる時の表現（～ですか？）【指定詞の丁寧形①】
- 10回 自己・物を紹介する時の表現①（～です、～ではありません）【指定詞の丁寧形②】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現②（～といいます）
- 12回 存在の有無を尋ねる時の表現（～がありますか？～いますか？）
【存在詞のうちとけた丁寧形①】【場所をあらわす助詞】
- 13回 存在の有無を尋ねる時の表現（～に～があります。います）
【存在詞のうちとけた丁寧形②】【時を表す単語および助詞】
- 14回 物・場所を尋ねる時の表現（～は何ですか？～はどこですか？）
【指示代名詞】【疑問代名詞】【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30% 授業中の参加意欲及び発言状況・・・20% 定期試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常会話程度の短いダイアログを覚えて、対話形式で話すことができる。初級テキストにあげる朝鮮語の基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようにする。また、日本語に訳すことができるようにする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ!韓国語』(金順玉・阪堂千津子、白水社) 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館) 定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回前期のまとめ
- 2 回「これは何ですか?」①【指示代名詞】【疑問代名詞】【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 3 回「これは何ですか?」②【指示代名詞】【疑問代名詞】【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 4 回「日曜日に何をしますか?」①【曜日】【助数詞】【動詞・形容詞のうちけた丁寧形】
- 5 回「日曜日に何をしますか?」②【漢数詞】【時間】【月日】【電話番号】
- 6 回「何が好きですか?」①【動詞・形容詞の否定形①】
- 7 回「何が好きですか?」②【動詞・形容詞の変則】
- 8 回「週末に何をしましたか?」①【動詞の過去形】【時を表す単語】
- 9 回「週末に何をしましたか?」②【願望表現】【形容詞の過去形】
- 10 回「一週間の予定」【接続詞①】【確認表現】
- 11 回「明日は何をするつもりですか?」①【意思表現】【推測表現】
- 12 回「明日は何をするつもりですか?」②【進行や状態の継続表現】【接続詞②】
- 13 回「スープが冷たくておいしいです」①【動詞・形容詞の否定形②】【逆説表現】
- 14 回「スープが冷たくておいしいです」②【並列表現】【比較表現】
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30% 授業中の参加意欲及び発言状況・・・20% 定期試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音（1）、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方（1）
- 3回 子音（2）、疑問詞のある疑問文と答え方（2）、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方（3）、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化（対格）、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化（前置格）、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化（生格）、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2-3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【夜】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英比人夜 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アルファベットの読み
- 2回 文字と発音：母音と母音文字、アクセント、母音の発音規則
- 3回 発音しにくい子音、硬子音と軟子音、名詞の性の判別
- 4回 所有代名詞表現、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、文の種類とイントネーション型
- 6回 50音のロシア文字表記法、文字の書き方練習
- 7回 一課前半 テキストの繰り返し読み、挨拶表現、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの繰り返し読み、人称代名詞、名詞複数形、所有表現の練習
- 9回 二課前半 テキストの繰り返し読み、動詞の現在変化練習
- 10回 二課後半 テキストの繰り返し読み、動詞を使った和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの繰り返し読み、所有表現練習、場所表現問題
- 12回 三課後半 テキストの繰り返し読み、形容詞変化の練習、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの繰り返し読み、1-10までの個数詞と時間表現の練習
- 14回 四課後半 テキストの繰り返し読み、生格用法の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2 - 3回に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの繰り返し読み、動詞未来表現、「・・・と一緒に」の表現練習
- 4回 五課後半 テキストの繰り返し読み、与格表現の練習、命令形の作り方練習
- 5回 六課前半 テキストの繰り返し読み、行先表現の練習、不規則動詞の発音練習
- 6回 六課後半 テキストの繰り返し読み、「どこへ」「どこで」「どこから」の表現練習
- 7回 七課前半 テキストの繰り返し読み、数量表現の練習、「雨・雪が降る」の表現
- 8回 七課後半 テキストの繰り返し読み、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの繰り返し読み、無人称文における述語表現の練習、月名の発音
- 10回 八課後半 テキストの繰り返し読み、義務・可能性表現の練習、「・・・は・・・が痛い」表現
- 11回 九課前半 テキストの繰り返し読み、年齢表現・年月日表現の練習
- 12回 九課後半 テキストの繰り返し読み、値段表現・仮定法表現の練習
- 13回 十課前半 テキストの繰り返し読み、関係代名詞構文の練習、形容詞格変化練習
- 14回 十課後半 テキストの繰り返し読み、単文と複文の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか？【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか？【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか？【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人夜1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【夜】

担当者名 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 比人夜1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

最初の一步として、フランス語の基本文法を習得してもらいます。この授業の内容を理解すれば、辞書の引きかたはもちろん、簡単なフランス語の文章を読み解けるようになります。

教科書 /Textbooks

太田浩一・前田保他『[新装版]フランス語文法の〈基礎〉』（駿河台出版社、2500円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

開講時に指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名詞の性と数
- 2回 冠詞
- 3回 人称代名詞(1) : 主語
- 4回 動詞êtreとavoirの活用
- 5回 否定形
- 6回 形容詞
- 7回 第1群規則動詞
- 8回 疑問形
- 9回 指示形容詞
- 10回 所有形容詞
- 11回 動詞allerとvenirの活用
- 12回 近接未来と近接過去
- 13回 前置詞à、deと定冠詞の縮約
- 14回 疑問形容詞・疑問副詞
- 15回 疑問代名詞

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検5級に合格できる程度の文法力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

フランス語II 【夜】

担当者名 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 比人夜1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

次の一歩として、フランス語の初級文法のほぼ全体を習得してもらいます。この授業の内容を理解すれば、辞書さえあれば、基本的なフランス語の文章を読み解けるようになります。

教科書 /Textbooks

太田浩一・前田保他『[新装版] フランス語文法の〈基礎〉』（駿河台出版社、2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時に指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第2群規則動詞
- 2回 比較級と最上級
- 3回 命令法
- 4回 非人称表現
- 5回 人称代名詞(2) : 目的語、強勢形
- 6回 複合過去
- 7回 関係代名詞
- 8回 指示代名詞
- 9回 代名動詞
- 10回 単純未来
- 11回 特殊な代名詞
- 12回 半過去
- 13回 受動態
- 14回 現在分詞とジェロンディフ
- 15回 条件法・接続法

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検4級に合格できる程度の文法力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 比人夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語を初めて学ぶ学生向けに初歩のコミュニケーション能力を養う。

簡単なあいさつから始めて、自己紹介や家族のこと、好き嫌い、架空の自分等々について口頭・筆記での表現・理解ができるようになることを目指す。

他の目標は以下のとおり。

基本的な数字、月名、曜日、天気の違い等を覚える。

基本単語を覚え、自分で使えるようになる。

簡単な文章を多数暗記し、応用できるようになる。

適宜、必要な文法事項を習得する。

フランス語検定試験5級程度の実力を旨とする。6月に行われる検定試験5級に合格した受講生には単位取得を保障する。

教科書 /Textbooks

M.-E. Muramatsu 『ピコティ・ピコタ』（駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 あいさつ、自分の名前
- 3回 自己紹介
- 4回 アルファベット。「誰か」を聞く
- 5回 いろいろな国籍を覚える。3人称単数
- 6回 架空の名前を選び、自己紹介をする
- 7回 架空の国籍を選び、自己紹介をする
- 8回 今日の天気を言う
- 9回 架空の職業を選ぶ
- 10回 日づけを言う
- 11回 誕生日を言う
- 12回 曜日を言う
- 13回 年齢を言う
- 14回 持ち物について話す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

フランス語Ⅲ【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期フランス語Ⅲを受講した学生向けに、引き続き初歩のコミュニケーション能力を養う。

フランス語Ⅲで身についた内容をさらに発展させ、口頭・筆記での表現・理解ができるようになることを目指す。

他の目標は以下のとおり。

基本単語をさらに増やし、自分で使えるようになる。

簡単な文章を多数暗記し、応用できるようになる。

適宜、必要な文法事項を習得する。

フランス語検定試験 4 級程度の実力を目指す。1 1 月に行われる検定試験 4 級に合格した受講生には単位取得を保障する。

教科書 /Textbooks

M.-E. Muramatsu 『ピコティ・ピコタ』（駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。前期の復習
- 2回 自分の特徴を言う
- 3回 持ち物について話す
- 4回 両親について話す
- 5回 有名人について話す
- 6回 料理の値段を言う
- 7回 パリで住みたい地区について話す
- 8回 架空のパリの住所を決め、それについて話す
- 9回 架空のパリの住居について話す
- 10回 パリの地下鉄について知る。切符を買う
- 11回 好きな有名人について話す
- 12回 好きな物事について話す
- 13回 デパートで買い物をする
- 14回 レストランへ行く
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

フランス語Ⅲ(前期)を受講していること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。この授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、文法・講読に重点的に学び、スペイン語の入門的基礎力を習得します。授業はテキストの練習のほか、動詞を中心にスペイン語文の構造を理解したいと思います。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びます。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ、弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とは? その歴史
- 2回 アルファベット・発音・アクセント
- 3回 名詞の性・数・冠詞
- 4回 人称代名詞・基本動詞の変化
- 5回 直説法現在形の規則活用
- 6回 文の種類、肯定文、否定文、特殊疑問文
- 7回 基本的文章表現
- 8回 不規則動詞の活用と基本表現
- 9回 形容詞の性・数変化
- 10回 指示詞、所有形容詞
- 11回 代名詞目的格と基本表現
- 12回 不規則動詞と慣用的表現
- 13回 不定詞の用例
- 14回 重要表現の反復練習(プリント)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語の動詞活用はやや難解です。連続して欠席するとついて行けません。分からない語彙は事前に辞書で調べることを。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語II【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Iの続編です。この授業で、スペイン語の初級文法を習得します。映像などを利用してスペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ, 弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現在完了形
- 2回 過去形(完了過去・不完了過去)
- 3回 不定語とその例文
- 4回 天候表現
- 5回 不規則動詞の過去形
- 6回 現在分詞、進行形と例文
- 7回 名詞節・副詞節・形容詞節
- 8回 未来形・条件未来・過去完了
- 9回 同上
- 10回 直接話法・間接話法(時制の一致)
- 11回 再帰動詞(1)
- 12回 再帰動詞(2)その用例
- 13回 接続法現在形と命令文
- 14回 接続法とその用例
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書は必要です。授業にも辞書を持参すること。予習・復習を行い、スペイン語検定4級くらいは合格しよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、日常の生きた初歩的な会話表現を重点的に学び、スペイン語の入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式を取り入れます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会のさまざまな面も学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『オラ!』第三書房、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウン西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的なお話、スペイン語とスペイン語圏について
- 2回 アルファベット、単語の読み方
- 3回 名詞の性と数、冠詞、挨拶表現
- 4回 動詞serを用いた表現
- 5回 動詞serを用いた特殊表現
- 6回 動詞estar, hay を用いた表現
- 7回 動詞estar, hay...を用いた疑問文・応答文
- 8回 時刻表現、形容詞など
- 9回 規則動詞(1)、所有形容詞
- 10回 規則動詞(2)、指示形容詞
- 11回 規則動詞(3)、指示代名詞
- 12回 動詞活用と基本表現のプラクティス
- 13回 重要な不規則動詞の基本表現
- 14回 便利な日常会話表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

外国語を学ぶには辞書は不可欠。聴いて話す(発音)ことを反復すること。発音はいたって簡単ですが、動詞の活用だけがやや難しいので、練習を繰り返しましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ【夜】

担当者名 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英比人夜 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は1学期開講のスペイン語Ⅲの続編です。初歩的な会話表現に重点を置き、入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅲの復習-動詞の活用と基本表現
- 2回 直説法現在：不規則動詞、天候表現
- 3回 天候表現、時刻表現
- 4回 不規則動詞、不定詞表現、所有形容詞
- 5回 反復練習-日常会話表現
- 6回 間接目的格と動詞gustar
- 7回 直接目的格・間接目的格を使う文章
- 8回 再帰動詞(1)
- 9回 再帰動詞(2)
- 10回 ビデオでイスパニア圏を旅する
- 11回 比較級と最上級
- 12回 直説法現在完了
- 13回 命令形(1)
- 14回 日常会話表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 70% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから動詞の活用を繰り返し練習。辞書はいつでも携帯する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

臨床心理学【夜】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Eriksonの漸成理論に準拠し、人間の各発達段階における発達課題と不適応の関係を概観しながら、不適応のメカニズム、発達援助のあり方について考究する。その際、実践に即した理解を深めるために、事例を紹介しながら進める予定である。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：臨床心理学とは何か
- 第2回 乳児期の発達課題と不適応：理論編【基本的信頼感】【愛着】
- 第3回 乳児期の発達課題と不適応：事例編①【発達障害】
- 第4回 乳児期の発達課題と不適応：事例編②【関係性障害】【親・乳幼児心理療法】
- 第5回 幼児期の発達課題と不適応：理論編【自律性】【積極性】
- 第6回 幼児期の発達課題と不適応：事例編【母子分離】
- 第7回 児童期の発達課題と不適応：理論編【勤勉性】【箱庭療法】
- 第8回 児童期の発達課題と不適応：事例編【遊戯療法】【自尊心】
- 第9回 青年期の発達課題と不適応：理論編【自我同一性】【友人関係】
- 第10回 青年期の発達課題と不適応：事例編【過食症】【同一性拡散】
- 第11回 壮年期の発達課題と不適応：理論編【生殖性】【中年期心性】
- 第12回 壮年期の発達課題と不適応：事例編【自我同一性の再体制化】
- 第13回 老年期の発達課題と不適応：理論編【統合】【抑うつ】
- 第14回 老年期の発達課題と不適応：事例編【心気症】【不定愁訴】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況(小テスト含む) ... 20% 試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義を受講前に「心理学概論」を受講しておくことを薦めます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

カウンセリング論【夜】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、心理アセスメントと心理療法に関する基礎的知識の習得を目指す。心理アセスメントでは、初回面接のあり方や心理アセスメントの諸技法について概観する。心理療法では、三大心理療法の精神分析、行動療法、クライアント中心療法について概観する。その際、実践に即した理解を深めるために、事例を紹介しながら進める予定である。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：心理療法とは何か
- 第2回 心理アセスメント(1)：初回面接と見立て【初回面接】
- 第3回 心理アセスメント(2)：精神医学的診断【病理水準】
- 第4回 心理アセスメント(3)：テストバッテリー【構造化面接法】
- 第5回 精神分析の理論と実践(1)【無意識】
- 第6回 精神分析の理論と実践(2)【メタ心理学】
- 第7回 精神分析の理論と実践(3)【自由連想法】
- 第8回 行動療法の理論と実践(1)【学習理論】
- 第9回 行動療法の理論と実践(2)【認知行動療法】
- 第10回 クライアント中心療法の理論と実践【受容】【共感】
- 第11回 三大心理療法の共通点と相違点
- 第12回 学校カウンセリングの実際：事例編
- 第13回 心理療法の実際（ビデオ学習等）
- 第14回 心理療法の実際（グループワーク）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況 ... 20% 試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義を受講する前に、1学期開講科目「臨床心理学」を受講されることを薦めます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、学校や家庭での教育活動にかかわる様々な問題を心理学的側面に注目して取り上げる。学習過程や、教師の役割、教師と生徒との関係性などについての考え方を身につけることを目標とする。この講義を受けることによって教育の難しさについて考える機会になることを望むと同時に、解決の一助となつてほしい。講義が中心であるが、体験しながら具体的な関わりを考えることができるような授業となっている。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 オリエンテーション、学校の意義、教育の意義
- 2 回 幼児、児童の心身の発達と教育(表象世界、しつけ、不適応)
- 3 回 児童期の発達(学級崩壊等)
- 4 回 発達の個人差と障害児【障害理解】
- 5 回 発達の個人差と障害児【障害児の集団との関わり】
- 6 回 学習過程(条件づけ、強化、般化、モデリング、洞察等)
- 7 回 動機づけ(内発的動機づけ、帰属等)
- 8 回 家庭における教育【育児】【しつけ】
- 9 回 家庭における教育【教育への動機】
- 10 回 学校組織と教師(組織としての学校の特殊性、職業としての教師の特殊性)
- 11 回 教室内過程【教師生徒との関係】
- 12 回 教室内過程【生徒間関係】
- 13 回 教育評価(測定とその活用)
- 14 回 現代の教育問題について
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト ... 100%
※小テストは3~4回行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

図書館等で参考になる本を自主的に探しておくことが望ましい。他の心理学関連の授業を合わせて受講するとわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

消費社会論【夜】

担当者名
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、「消費社会」のあり方とおして、現代の資本主義社会の特徴を分析することが目的である。「消費化」が進展した社会においては、モノよりもむしろ、文化や人間関係が消費の対象となる。人々の欲望が文化や人間関係の消費へと向かったときに、どのような事態がおこるのかについて主に議論する。

また、この講義では、主に現代人の消費のなかでも最も特徴的であると思われる観光消費について追いつながら、現代の資本主義社会がどこに向かっているのかを考える。したがって、観光化の意味について興味を持っている学生の参加を歓迎する。

教科書 /Textbooks

須藤廣『観光化する社会』ナカニシヤ出版、2008年、2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ジャン・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』紀伊国屋書店
小川伸彦、山泰幸【『現代文化の社会学入門』ミネルヴァ書房
- G・リッツァー『マクドナルド化の世界』早稲田大学出版部
- J・アーリ『場所を消費する』法政大学出版局

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回【消費社会】とは何か(消費社会のなかの行為論)
 - 2回 ジャン・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』紀伊国屋書店を読む
 - 3回【記号の消費】・【人間関係の消費】・心を消費する(心理主義化論)
 - 4回【お客様社会】と【感情労働の社会学】
 - 5回【観光文化】と消費社会(観光現象をどう捉えるか)
 - 6回 観光の歴史から見る現代観光の矛盾1
 - 7回 観光の歴史から見る現代観光の矛盾2
 - 8回 観光と「見せ物化」(視覚の優位)
 - 7回【「見せ物化」】とその矛盾(少数民族の観光化)
 - 8回「見せ物」を組織化する観光(観光の産業化)
 - 9回 テーマパーク論
 - 10回【地域の観光化】の諸矛盾(「観光と「場」について)
 - 11回「環境」を消費する・「環境保護」を消費する(エコ・ツーリズム論)
 - 12回【バックパッカー】論・観光移住論(消費社会のなかの行為論として)
 - 13回 文化(「聖なるもの」と人を消費することについて(観光)
 - 14回 文化(「聖なるもの」と人を消費することについて(現代消費文化一般)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題40% 試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「文化社会学」「比較文化社会」の講義とセットで受講すると分かりやすいかも知れない。

履修上の注意 /Remarks

理論的な解説が主になるので、背景の社会学的知識が必要になる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間環境地理学【夜】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちは、豊かで穏やかな自然の中にいる時には、自然を安息と感じ、荒れ狂う自然の中では、自然を猛威と感じる。しかし、穏やかな自然も、荒れ狂う自然も共に自然の規則正しい営みであり、私たちは、そのような自然の営みの中で生活している。また、気候変動のように、気付かないうちに忍び寄ってくる猛威もある。しかしながら、このような認識は、当たり前のように、実感として理解するまでには至らないことが多い。この科目では、私たちの生活の場を地球規模で考えることができるようになることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし (授業時にプリントを配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「自然災害を読む」 (小島圭二著 岩波書店)
- 「気候が文明を変える」 (安田喜憲著 岩波書店)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 自然の猛威が私たちの住む場所を作っている。【自然の猛威】
- 2 回 自然の猛威とはなにか。
- 3 回 自然の猛威には、どのようなものがあるか。
- 4 回 世界にみる自然の猛威の分布。【変動帯】【安定帯】【気候】
- 6 回 生物に由来する自然の猛威。【生物災害】【疫病】
- 5 回 気象に由来する自然の猛威。【干ばつ】【砂漠化】
- 6 回 熱帯林と生物多様性、疫病。
- 7 回 日本は、災害の国。【島原大変】
- 8 回 火山の巨大噴火。【火山災害】
- 9 回 火山の噴火と気候変動。【小氷期】
- 10 回 豪雨と治水の歴史。
- 11 回 最近の治水についての考え方。【ハザードマップ】
- 12 回 環境と文明 I 気候の変動は文明に大きな影響を与えた。
- 12 回 環境と文明 II 縄文時代の始まりと終焉に気候変動が関わっている。
- 13 回 環境と文明 III 弥生時代の始まりの時期は、大規模な気候変動期でもあった。
- 14 回 自然の猛威とのつきあいかた
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 80% 小レポート... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献や授業中に配布する資料、および授業内容に関連する新聞記事などを読んでおくとより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生態人類学【夜】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間の文化の多様性はどこから生まれてくるのだろうか。この授業では人類学と生態学の知識を援用しながら、多様な環境における人類の適応と社会システムについて考察を進める。

たとえばテーマの一つとして取り上げるのは人間の「食」である。人は食べ物を手に入れるためにどんな行動をおこなってきたのか、視覚や味覚に関する認知能力の進化、そして多様な食文化の基本にあるもの。味覚を攪乱させる現代社会の添加物や化学物質。食に興味がある人おいしいものが好きな人はどうぞ。

教科書 /Textbooks

「講座 生態人類学」京都大学出版会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「生態人類学を学ぶ人のために」世界思想社
「イブの7人の娘たち」ソニーマガジズ
「人はなにを食べて生きてきたか」スタジオジブリDVDライブラリー

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1講 テーマと分担決め

第2講～第13講

「食」「性」「死」「遊び」なんて感じで、おおよそ3回くらいで受講者の興味に応じて テーマを変えていく。それぞれのテーマについて以下の順で、研究の手法をまなびながら討論する。

- ・ データ収集の方法
- ・ 分析の手法
- ・ データをもとにした討論

第14講 総論

第15講 成績評価

成績評価の方法 /Assessment Method

発表とディスカッションをもとにした自己採点 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に決めたテーマに関して資料をあたりまとめてくる。
自分なりにイメージトレーニングし議論にすぐに参加できるように準備する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義、教師の役割、教師の職務内容等に関する知識の修得と、教職についての理解と考察の過程を支援することによって、教育と教職に対する実践意欲を喚起し、同時に教育と指導のあり方について助言する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)	
1回 教育とは何かI	【学校教育】 【学習と生活】
2回 教育とは何かII	【教育】 【学校】 【生活と文化】 【教育の二つの思潮】
3回 教育の目的	【教育目的論】 【学校と学習】
4回 教育の内容	【教育課程】 【教育課程の編成原理】 【教育課程の歴史】
5回 教育の方法	【指導の本質】 【指導の方法】
6回 生徒指導のあり方	【生徒指導の前提】 【生徒指導の伝統】
7回 職業指導・進路指導	【キャリア教育】 【職業選択の基礎理論】
8回 教師本来のあり方	【教師の仕事】 【子どもの見方】
9回 生徒の生きる力を育てる教育	【生きる力】 【青少年の意識】
10回 性の教育	【思春期の発達】 【カリキュラム】
11回 教育評価	【評価の種類】 【体罰と懲戒】
12回 いのちの教育	【生と死の教育課程】 【いのちの教育の方法】
13回 身体教育	【食教育】 【排便教育】
14回 これからの教育	【学校の役割】 【中等教育】
15回 教師の「資質」とは何か / まとめ	【教師の禁句】 【指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯学習学【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生涯学習社会への移行が叫ばれる現代、生涯にわたって私たちが主体的に学んでいくことの重要性が認識され、そうした学びをサポートする職員・指導者・リーダー・機関・施設・制度など条件整備が問われています。
本講義では、社会教育の法制度、国際的な生涯教育論の展開なども視野に入れつつ、生涯学習を支援・推進する制度・システムについて考えていきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- 『講座 主体形成の社会教育学』1～4巻、山田定市監修、北樹出版
- 『新社会教育講義』小川利夫編、大空社
- 雑誌『月刊 社会教育』国土社
- 雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会
- 雑誌『月刊 公民館』全国公民館連合会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生涯学習・社会教育の意義
- 2回 生涯学習ボランティア -学ぶことと成果の還元
- 3回 社会教育と生涯学習関連の法制度
- 4回 社会教育施設と生涯学習施設
- 5回 生涯学習関連施策の動向
- 6回 学習者の特性と学習の継続発展-学習相談、サービス、学習情報
- 7回 社会教育の内容・方法・形態-学級・講座の企画
- 8回 社会教育及び生涯学習関連の指導者とボランティア
- 9回 社会教育施設-公民館
- 10回 社会教育施設-博物館
- 11回 社会教育施設-図書館
- 12回 大都市における公民館-北九州市
- 13回 図書館、博物館における学習・グループ活動
- 14回 成人教育の国際的動向
- 15回 住民の力量形成と地域づくり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(授業中の小レポートを含みます。)…80% レポート…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学芸員資格や社会教育主事の必修科目の基本科目として、この授業を先に受講するか、あわせて受講すると、資格科目の理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

主体形成論 【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生涯学習社会への移行は私たち自身にも、これまで経験してきた知識中心の学習とは、まったく異なった学ぶ能力が必要になっていることを示しています。
本講義では、人間が主体的力量を形成していく（主体形成）とはどういうことか、その課題やプロセス、そして支援について、様々な領域の学習実践を取り上げながら考えていきます。
こうした検討を踏まえて、学習要求・ニーズと、学習必要・学習課題との区別と関連や、人間が主体的力量を形成していく意義、そして、それを支える専門性の重要な役割について理解を深めます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- 『講座 主体形成の社会教育学』1~4巻、山田定市監修、北樹出版
- 末本誠他編著『新版 生涯学習と地域社会教育』春風社
- 雑誌『月刊 社会教育』国土社
- 雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会
- 雑誌『月刊 公民館』全国公民館連合会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

生涯学習・社会教育の多様な活動、分野を取り上げながら、主体形成について考えます。

- 1回 生涯学習・生涯発達をとらえる枠組み
- 2回 生涯学習・生涯発達のプロセス-自己形成史を通して考える
- 3回 消費者学習と主体形成
- 4回 自然環境と主体形成
- 5回 環境問題と社会教育-北九州市の公害学習
- 6回 持続可能な社会と主体形成
- 7回 ジェンダーと主体形成
- 8回 男女共同参画と男女平等
- 9回 人権と主体形成
- 10回 平和と主体形成
- 11回 子どもと主体形成
- 12回 子育てと主体形成
- 13回 NPOと主体形成
- 14回 地域づくりと主体形成
- 15回 エンパワーメントの支援

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(授業中の小レポートを含みます。) ... 80% レポート... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1学期科目の生涯学習学とあわせて受講すると内容が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育相談の領域は、1.「学業的発達」、2.「キャリア的発達」、3.「個人・社会的発達」の三つに区分され、また、学校教育相談の機能は、①一次的支援(開発的教育相談)、②二次的支援(予防的教育相談)、③「三次的支援」(問題解決的教育相談)から構成される。本授業では、学校教育相談の領域や機能について、教育相談の基本的な理論と技法の学習もふまえて提起していきたい。

さらに、不登校やいじめなど、様々な問題を出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助、また、課題を抱える保護者への理解と援助を進めていく際の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。

教科書 /Textbooks

楠 凡之 「いじめと児童虐待の臨床教育学」 ミネルヴァ書房 第1部

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の領域
- 3回 教育相談の機能 その1 - 一次的支援
- 4回 教育相談の機能 その2 - 二次的支援、三次的三次的支援
- 5回 教育相談の基本的な理念について
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 8回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 9回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 10回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 11回 不登校の子どもに対する教育相談
- 12回 保護者に対する教育相談
- 13回 教育相談活動における連携について - スクールカウンセラーとの連携に視点をあてて
- 14回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点30点、レポート15点、期末試験55点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストをしっかりと読んで授業に参加してほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を希望する学生には、それにふさわしい真摯な授業態度と活動への意欲的な参加を期待したい。

キーワード /Keywords

教育相談、いじめ・不登校

生徒・進路指導論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義と課題について、積極的生徒指導(子どもの発達支援としての生徒指導)に視点をあてて検討していくこと。
 - ② 養育環境や発達上の困難な課題を抱える子どもの内面に寄り添う生徒指導の課題について検討していくこと。
 - ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を支える進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の社会情勢も含めつつ検討していくこと。
- 本授業のキーワードは、積極的生徒指導、児童虐待、進路指導である。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 生徒・進路指導論の意義と課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際 その1
- 3回 学校現場での生徒指導の実際 その2
- 4回 子どもの発達支援としての生徒指導の課題と方法 一文科省編「生徒指導提要」を手がかりに その1
- 5回 子どもの発達支援としての生徒指導の課題と方法 一 文科省編「生徒指導提要」を手がかりに その2
- 6回 生徒指導における関係諸機関との連携について - スクールソーシャルワークに視点をあてて
- 7回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導その1
- 8回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導 その2
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 今日の高等学校の問題状況と進路指導の課題
- 13回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 14回 虐待サバイバーに対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート15%、期末試験55%-

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの第II部(5, 6章)をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達支援としての生徒指導、児童虐待、進路指導

教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
 2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
 3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
 4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
 5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
 6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
 7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
 8. 授業実施の技術 【授業技術】
 9. 授業の評価 【授業評価】
 10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
 11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
 12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
 13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
 14. 現代の教育課題
 15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(20%), レポート(30%), 試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育も含む）における道徳教育について学修するためのものである。この学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に規定されているので、それを基礎にして、具体的な道徳教育のあり方と指導方法について学修する。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
 - 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
 - 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
 - 4回 「特別活動」と道徳教育 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
 - 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【活動】
 - 6回 「道徳の時間」と道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
 - 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
 - 8回 「道徳の時間」の指導技術 【指導技術】 【指導事例】
 - 9回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
 - 10回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
 - 11回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
 - 12回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
 - 13回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
 - 14回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
 - 15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校の教育も含む）における教育方法についての理論と具体的な方法・技術を学修する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著『教育の方法』ミネルヴァ書房、他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 「教育方法」とは何か 【教育方法の形態】【比喻・モデル】
 - 2回 21世紀の教育方法 【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
 - 3回 「授業（学び）」の構想 【授業の三角形モデル】【事前の教材解釈】
 - 4回 授業における展開と「タクト」 【競争原理】【教授学的タクト】
 - 5回 学びを反省・評価する 【評価の方法】【自己評価能力】
 - 6回 学びのシステムのこれまでとこれから 【出席と参加】【学習規律】
 - 7回 「学び」の具体的システムづくり 【相互主体論】【受容】
 - 8回 これからの学びを支える新しいネットワーク 【メディアリテラシー】【情報活用能力】
 - 9回 情報機器と教材の活用 【マルチメディア】【授業形態】
 - 10回 新しい教師への道を拓く 【教師の資質能力】【ファシリテーター】
 - 11回 性教育の指導の視点 【ジェンダー】【性】
 - 12回 学習遅滞の指導 【学習遅滞】【学習障害】
 - 13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション 【発話】【聴取】
 - 14回 教育方法における「近代」と「現代」 【連続と非連続】【現代化】
 - 15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ 【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「世界が100人の村だったら」【世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ】【非識字者・同性愛者の人権】【人権教育のスキル・技能】
- 第2回 いじめ差別①(現状認識)【いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)】【各種調査(教育白書・国際調査等)】
- 第3回 いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)【いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理】【文部科学省のいじめ定義】【道徳教育と人権教育の相違点】
- 第4回 いじめ差別③(解決への教育創造)【文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」】【金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」】【自尊感情と学力形成の相関関係】【学校文化と子どもの居場所づくり】
- 第5回 子どもの人権と児童虐待防止法【児童虐待の現状認識(新聞記事・教育白書等)】【教師の責務と教育・啓発の教育創造】
- 第6回 ものけ姫①(メッセージからの課題)【物語の時代背景と登場人物から課題の整理】【ハンセン病問題と国の隔離政策】【国家賠償と社会復帰】
- 第7回 ものけ姫②(メッセージからの課題)【女性差別の歴史】【学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える】
- 第8回 同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)【身分差別をつくったのは、誰?】【中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義】
- 第9回 同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)【身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?】【「賤民」身分にされたのは、どんな人々?】【一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義】
- 第10回 同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)【解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?】【一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚】
- 第11回 同和問題との出会い直し④(文学者と部落差別)【小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)】
- 第12回 同和問題との出会い直し⑤(結婚差別)【結婚差別の事例からの課題と解決への展望】【しきたり・ならわし・慣習との出会い直し】
- 第13回 同和問題との出会い直し⑥(人権文化の創造)【教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度】
- 第14回 同和問題との出会い直し⑦(国の施策)【1965年の同和対策審議会・答申の意義】【1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義】
- 第15回 同和問題との出会い直し⑧(人権文化のまちづくり)【各地の人権文化のまちづくりの現状】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(30%)及び学期末のレポートによる評価(70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の中で課題を出します

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ① 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を理論的、実践的に深めること。
- ② 市民社会の担い手に求められる市民的技能を学級活動などを通じて獲得させていく方法を実践的に学習すること。
- ③ 子どもたちの自治の力を育む生徒会活動、学校行事の在り方について、具体的な実践報告を踏まえつつ検討していくこと。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動 その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターン
- 5回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その3 - ロールプレイの取り組み
- 7回 すべての子どもの居場所となる学級づくりの課題 - 班ノート、班活動などに視点をあてて
- 8回 すべての子どもの居場所となる学級づくりの課題 - 班長・リーダー指導に視点をあてて
- 9回 子どもたちの自治の力を育てる生徒会活動の課題
- 10回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 体育祭の取り組み
- 11回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 文化祭・合掌コンクールの取り組み
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる学校行事の課題 - 修学旅行の取り組み
- 13回 荒れている学級をどう立て直すか? - 中学校の実践
- 14回 荒れている学級をどう立て直すか? - 高等学校の実践
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は人間関係学科の専門科目にもなっていますが、基本は教職の科目です。教員をめざす学生にふさわしい、真摯な授業態度と積極的な活動への参加を期待します。

キーワード /Keywords

学級集団づくり、市民的技能、自治の力

コミュニティスポーツ論【夜】

担当者名 /Instructor 中西 純司 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

[授業のねらい]

地域社会における生涯スポーツ、すなわち地域スポーツの振興方策についての基本的な理解を促すとともに、具体的なスポーツ事業の計画方法や組織の在り方について、スポーツ経営管理学的な観点から学習する。また、地域住民の参加（参画）とスポーツ（文化）行政の協働による地域スポーツ経営の構造と過程についても理解を深める。

[主要な学習内容]

本授業では、スポーツ振興による「新しい公共」の形成を担う総合型地域スポーツクラブの現代的意味・必要性、及びその創設方法やクラブマネジメント方法などについて理解することが主な学習内容である。

[到達目標]

学生は、本授業を学習することによって、地域スポーツ振興のコーディネーターとして、以下のようなことを身に付けることができる。

1. 生涯スポーツ社会とは何かについて説明できるようになる。
2. スポーツ振興上の課題と地域生活の課題について理解し、説明することができるようになる。
3. スポーツ振興の必要性和「新しい公共」の形成について説明することができるようになる。
4. スポーツ行政の役割とそのしくみについて説明することができるようになる。
5. 地域社会の変革型社会運動としての「総合型地域スポーツクラブ」の必要性について説明することができるようになる。
6. クラブマネージャーに必要な知識・技術を習得できる。

教科書 /Textbooks

総合型地域スポーツクラブ育成協議会編著『総合型地域スポーツクラブマネージャー養成テキスト<普及版>』（ぎょうせい、2005）（資料等については、必要に応じて、配布する予定である）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 日本体育・スポーツ経営学会編「テキスト総合型地域スポーツクラブ」（大修館書店、2002）
黒須充・水上博司編著「ジグソーパズルで考える総合型地域スポーツクラブ」（大修館書店、2002）
山口泰雄著「地域を変えた総合型地域スポーツクラブ」（大修館書店、2006）
黒須充監訳「ドイツに学ぶスポーツクラブの発展と社会公益性」（創文企画、2010）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のような内容と計画で授業を行う。

1. オリエンテーション：学習の目的、内容、方法（授業方法や成績評価方法など）
2. ヨーロッパのスポーツクラブに学ぶ：クラブの原点【Club】【クラブ】【倶楽部】
3. わが国の地域スポーツの現状と問題点【地域スポーツ経営】【地域コミュニティ】
4. 地域スポーツ経営の構造と対象及び領域【地域スポーツ経営】【スポーツ事業】【資源獲得】
5. 地域社会におけるスポーツ施設の現状と課題【学校開放】【公共スポーツ施設】【師弟管理者制度】
6. 地域スポーツ指導者の養成【体育指導委員】【有資格指導者】【(財)日本体育協会】
7. スポーツ（文化）行政における協働概念とその仕組み【スポーツ行政】【住民組織】【民間団体】
8. わが国のスポーツ振興政策の考え方とその策定【スポーツ振興基本計画】【スポーツ立国戦略】
9. 地域住民主導型の地域スポーツ経営とは？【住民組織づくり】【地域住民組織】【総合型地域スポーツクラブ構想と市民参加型まちづくり】
10. 地域スポーツ振興の基盤と事例研究【総合型地域スポーツクラブの育成】【コミュニティスクール】
11. 総合型地域スポーツクラブ構想の現代的意味と必要性【「新しい公共」の形成】【共助】
12. 地域コミュニティを創る「総合型地域スポーツクラブ」の育成方法【クラブづくりのステップ】
13. 総合型地域スポーツクラブのマネジメント【自主運営】【運営委員会組織】【受益者負担】【自主財源】【拠点施設の確保】
14. 総合型地域スポーツクラブと学校との連携・融合【学校部活動】【学校体育】
15. まとめ：「新しい公共」の形成を担う地域スポーツ経営とは何か【地域-学校スポーツ経営】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験、平素の学習状況・授業態度及び授業中の課題レポートの総合点で評価する。それぞれの割合は以下の通りである。
定期試験：50%、平素の学習状況・授業態度：30%、授業中の課題レポート点：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

生涯スポーツの現状や地域社会の現状について、インターネット等を通じて事前に情報収集しておいてください。

コミュニティスポーツ論【夜】

履修上の注意 /Remarks

指定された教科書の購入を受講条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるとともに，地域社会やスポーツに興味・関心があることが大切ですので，集中して受講すること。

キーワード /Keywords

生涯スポーツ社会 豊かなスポーツライフ スポーツ振興 人づくり・地域づくり・まちづくり
新しい公共 総合型地域スポーツクラブ

身体適応論 【夜】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間は、生きていく上で様々な環境に適応しながら生活をしている。その適応能も年齢や体力などによって異なる。その適応能を高め、健康を保持増進する手段として運動が有用である。本講義では、運動と身体適応能に着目し、その効果などについて理解を深め、個人の健康管理・健康教育のための知識を得ることを目的とする。講義全体のキーワードは、運動適応・運動と健康体力である。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 熱中症の予防
- 3回 運動とエネルギー代謝
- 4回 運動と肥満
- 5回 運動と骨格筋
- 6回 バイオメカニクス
- 7回 運動と神経系
- 8回 生理的限界と心理的限界
- 9回 運動と血圧
- 10回 運動と骨粗鬆症
- 11回 運動と呼吸系
- 12回 運動と疲労
- 13回 運動への行動変容(1)
- 14回 運動への行動変容(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストなど) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「健康科学」とあわせて受講すれば、健康管理、健康教育について、さらに理解を深めることができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

健康管理、体力、運動適応

トレーニング論【夜】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「体力を向上させたい、パワーをつけたい」などという言葉をよく耳にする。しかし、体力という言葉には多くの要素が含まれ、病気に耐えることや冷静に行動することなども広い意味での体力である。
この講義は、特に「筋力・持久力・瞬発力・柔軟性・調整力」の5つの要素をバランスよくレベルを高めていくことを目的としている。今や健康を月謝を払って買う時代になり、ジムに通う学生も多く、健康への関心が高まっている中で、週に1回では十分とは言えない頻度ではあるが、各自にあわせた授業を楽しく行う。尚、遅刻は認めないので自信のない人は受講しないでください。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ウォーミングアップ
- 2回 クールダウン
- 3回 形態測定・各種測定
- 4回 柔軟性・立位体前屈
- 5回 筋力・ベンチプレス
- 6回 パワー・垂直跳び
- 7回 スピード・10mダッシュ
- 8回 敏捷性・Tテスト
- 9回 体重とウォーキング1
- 10回 体重とウォーキング2
- 11回 体重とジョギング
- 12回 脈拍とランニング
- 13回 体幹のトレーニングとは
- 14回 トレーニングと栄養
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※主に実技を体育館2階、トレーニング場で行う。
トレーニングウェア、室内シューズ、ノート筆記用具は毎回持参してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境経済学 【夜】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義の目標は、様々な環境問題について理解すること、またそれらの問題について経済学の視点から検討できるようになることです。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

栗山・馬奈木、『環境経済学をつかむ』有斐閣(2008)
 時政・藪田・今泉・有吉編、『環境と資源の経済学』勁草書房(2007)○
 日引 聡、有村俊秀、『入門 環境経済学』、中公新書(2002)○
 マンキュー、『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』(第2版)東洋経済新報社(2005)○
 R. K.ターナー他、『環境経済学入門』、東洋経済新報社(2001)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：環境問題と環境経済学
- 2回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(1)、【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(2)、【需要】、【供給】、【市場】
- 4回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(3)、【消費者余剰】、【生産者余剰】
- 5回 なぜ環境問題は発生するのか？(1)【市場の失敗】、【外部性】
- 6回 なぜ環境問題は発生するのか？(2)【ゲーム理論】
- 7回 経済学の視点からの環境政策(1) 【直接規制】
- 8回 経済学の視点からの環境政策(2) 【経済的手段】
- 9回 地球温暖化の経済分析 【温室効果ガス】、【京都議定書】、【排出権取引】
- 10回 廃棄物問題の経済分析 【循環型社会】、【ごみ処理手数料】、【3つのR】
- 11回 資源管理の経済分析 【枯渇性資源】、【再生可能資源】、【コモンズ】
- 12回 経済発展と環境 【成長の限界】、【持続可能な発展】、【環境グズネッツ曲線】
- 13回 グローバル経済と環境 【国際環境協定】、【比較優位】
- 14回 環境評価 【支払意志額】、【受入補償額】、【費用便益分析】、【仮想評価法】
- 15回 まとめ・復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

ミクロ経済学、マクロ経済学を事前に学習していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職総合演習 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は大きくは次の三点である。

1. グローバルエデュケーションに関する参加型学習の方法について、体験的に学習すること。
2. テーマを自分たち自身で設定し、プレゼンテーションを行なうことを通じて、共同学習のあり方、プレゼンテーションのあり方を学習すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献 環境教育指導者育成マニュアル 角田尚子・ER I C国際理解教育センター著他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 参加型教育実践の実際
- 2回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その1
- 3回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その2
- 4回 グローバルエデュケーションのワークショップ その1 - マジカルバナナ
- 5回 グローバルエデュケーションのワークショップ その2 - 地球家族のワークショップ
- 6回 グローバルエデュケーションのワークショップ その3 - 難民問題のワークショップ
- 7回 ホームレス問題に関するグループワーク その1
- 8回 ホームレス問題に関するグループワーク その2
- 9回 グループ決めとグループのテーマ決定
- 10回 グループごとのリサーチ
- 11回 グループごとのプレゼンテーションの準備
- 12回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その1
- 13回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その2
- 14回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その3
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート、プレゼンテーション) 60% 期末レポート 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グループのプレゼンテーションではかなりの授業時間外の準備が必要なことを覚悟しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多くの受講生は次年度に教育実習の実習校実習を行う学生だと思います。
来年度の教育実習に向けて、教員としての実践的指導力を磨くため、精一杯の努力をしてほしい。

キーワード /Keywords

グローバルエデュケーション、参加型学習の方法、プレゼンテーションのスキル

教育制度【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則(1) 教育制度とは
- 2回 教育制度の基本原則(2) 日本の教育法制
- 3回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、学校教育における中立性等
- 4回 学校制度の基本的事項(2) 義務教育
- 5回 学校制度の基本的事項(3) 学校体系
- 6回 教育課程の意義と編成(1) 教科書・教材、学習指導要領
- 7回 教育課程の意義と編成(2) 学校の教育課程編成
- 8回 教員制度の基本的事項(1) 教員免許法制、公務員としての教師
- 9回 教員制度の基本的事項(2) 教員の指導力、研修
- 10回 生涯学習制度 成人教育、学校教育と社会教育の連携
- 11回 子育てをめぐる諸問題 子育て不安、教育と福祉
- 12回 教育行財政の仕組み(1) 中央教育行政、地方教育行政
- 13回 教育行財政の仕組み(2) 教育委員会と学校
- 14回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育法規【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育法規に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育法規における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生徒指導と教育法規
- 2回 生徒の懲戒
- 3回 いじめ・不登校と指導
- 4回 組織としての学校
- 5回 組織としての学校における教員
- 6回 教員の懲戒
- 7回 教員の指導力をめぐって
- 8回 教育活動と著作権
- 9回 教育情報の取り扱い
- 10回 教育情報の発信
- 11回 学校の安全
- 12回 地方教育行政と学校
- 13回 保護者・地域と学校
- 14回 保護者・地域の教育参加・連携
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義だけでなく、グループ討論、模擬授業、実技等も含む参加型の授業を予定している。それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人体の構造と機能及び疾病【夜】

担当者名 /Instructor 村田 直子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康と疾病、医療と医学、医療制度、現代医療の抱える諸問題、さらに現在トピックスとなっている疾患や医療関連の諸問題について解説する。

教科書 /Textbooks

『人体の構造と機能及び疾病』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	人の成長と発達：身体の発達、精神の発達、老化
2回	身体構造の概要：身体の仕組み、人体部位の名称
3回	心身機能の概要：各器官等の構造と機能、主な症状とその意味、高齢者の症状の特徴
4回	健康の概念：WHO、人口動態、QOL、健康増進と疾病予防
5～7回	疾病の概要：生活習慣病・メタボリックシンドローム、がん、感染症、 神経・精神疾患、先天性・精神疾患、難病、高齢者と疾患
8～9回	障害の概要：身体障害、発達障害、精神障害、その他
10～11回	保健医療対策の現状：生活習慣病予防、がん対策、感染症対策、精神保健福祉対策、 難病対策、母子保健対策、自立支援医療、臓器移植
12回	リハビリテーションの概要
13回	医事法制の概要
14回	保健、医療、福祉機関及び専門職の連携のあり方
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 25% 課題レポート... 25% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義で配布する資料に目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査の基礎【夜】

担当者名
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

適切な方法論にそった社会調査とその分析結果は、社会に生きる人々の全体的な意識や問題意識を把握することができる。本講義では、社会調査の基礎について学ぶことを目的とする。社会調査についての基礎的な概念の理解や、調査にあたって適切な方法論を選択するための問題設定について学びながら、実際の資料を用いての分析も試みる。

教科書 /Textbooks

大谷信介(共編),1999,『社会調査へのアプローチ：論理と方法』 ミネルヴァ書房
佐藤郁也,2002,『フィールドワークの技法』 新曜社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

安田三郎,1960,『社会調査ハンドブック』 有斐閣
Denzin, N. K. & Lincoln, Y. S. (共編),2006,『質的研究ハンドブック第1巻・第2巻』 北大路書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 01回 社会調査とは何か
- 02回 量的調査—アンケート調査の実際 【アンケート調査】
- 03回 量的調査—アンケート調査の実際 【測定尺度】
- 04回 量的調査—アンケート調査の実際 【調査統計】
- 05回 度数分布【階級】【相対度数分布】
- 06回 分散と標準偏差【平均】【分散】
- 07回 分散と標準偏差【標準偏差】
- 08回 分散と標準偏差【信頼区間】
- 09回 分散と標準偏差のまとめ・小テスト
- 10回 相関関係【単相関係数の推定・検定】 t 検定【母平均の検定】【対応あり・なし】
- 11回 カイ2乗検定【帰無仮説】【有意水準】
- 12回 分散分析【分散分析表】【F分布】【主効果】【交互作用】
- 13回 質的調査—フィールドワークとは何か【フィールドワーク】
- 14回 フィールドワークの方法論【参与観察】【インタビュー】
- 15回 まとめと試験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度・・・20% 小テスト・・・30% 期末試験・・・50%
5回以上の欠席があった場合は、課題提出及び期末試験の受験資格を失うものとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

耳慣れない言葉が毎回出てきますので、都度習熟の上で次の講義に望んでください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 1 【夜】

担当者名 藤藪 貴治 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

みなさんが目指す社会福祉の仕事としては、生活保護のケースワーカー、児童福祉司、児童養護施設職員、高齢者福祉施設職員、ケアマネジャー、病院ソーシャルワーカーなどが考えられる。

そこで実践される社会福祉援助技術のほとんどが、個別援助技術であるケースワークである。

しかし、ケースワークとは「人々とその環境との間に、個々別々に意識的にもたらされる調整を通じて、人格の発達をはかる諸過程（リッチモンド）」と定義されるように、漠然としていてイメージを掴みにくい。社会福祉関連法の学習と比べても、相談援助を書籍に記載される理論だけで把握するのは困難である。

そこで、本講座では、生活保護のケースワークを中心に、具体的な事例演習を行うことにより、ケースワーク、個別援助の進め方を考えていく。

教科書 /Textbooks

福祉事務所ソーシャルワーカー必携-生活保護における社会福祉実践（全国社会福祉協議会）を予定していますが、正式には初回の授業でお伝えします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の授業で伝達します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ケースワークとは何か
- 2 ケースワークの原則
- 3 ケースワークを必要とする人々とは
- 4 ケースワークの実践モデル
- 5 ケースワークのアプローチ
- 6～8 ケースワークの諸過程
- 9～10 面接技法
- 11～14 事例演習
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% 期末テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

その他具体的な日程は、講義中に知らせる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 2 【夜】

担当者名 松川 素子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

ソーシャルグループワークは、ソーシャルワーカーが、グループメンバーの相互作用やプログラム活動を意図的に活用することによって、グループの発達ひいてはメンバー1人ひとりの成長や問題解決を援助する技術である。ソーシャルグループワークの歴史の変遷、原則、展開方法について概観すると共に、演習によって集団の力動を体験することによって、グループワークを展開するために必要となる実践的な援助技術の習得を目指す。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない
適宜レジュメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法II 中央法規出版 2730円
- ・ グループワーク論 ミネルヴァ書房 大塚達雄・ 硯川真旬・ 黒木保博 2310円
- ・ グループワーク 勁草書房 大利一雄 2400円
- ・ グループワークの専門技術 中央法規出版 黒木保博、横山穰、水野良也、岩間伸之 2625円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス ソーシャルグループワークを学ぶために
- 2回 人と人が関わることの意義とかわりがもたらすもの
- 3回 人間の発達に果たす集団の役割
- 4回 「集団という場」で働く不思議な力
- 5回 リーダーシップの構造と機能【ソーシャルワーカーに求められるリーダーシップ】
- 6回 グループワークの歴史、定義、原則
- 7回 ソーシャルワーカーの自己覚知
- 8回 グループワークの構成要素
- 9回 グループワークの展開過程1 【準備期におけるワーカーの役割と技術】
- 10回 グループワークの展開過程2 【開始期におけるワーカーの役割と技術】
- 11回 グループワークの展開過程3 【作業期におけるワーカーの役割と技術】
- 12回 グループワークの展開過程4 【終結・移行期におけるワーカーの役割と技術】
- 13回 セルフヘルプグループのもつ力とその活用方法
- 14回 ソーシャルワーカーの自己活用のために 【ソーシャルワーカー自身のエンパワメント】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・50% 日常の授業への取り組み・・・30% 課題・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義は、様々なワークやディスカッションを用いて参加体験型で行う予定です。受講者の授業への積極的参加を希望します。

キーワード /Keywords

グループダイナミクス、シェアードリーダーシップ、相互援助システム、自己覚知、エンパワメント

相談援助の理論と方法3 【夜】

担当者名 藤田 博久 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域福祉の理論と方法 1 【夜】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂 等を含む）について理解する。
- ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。
- ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

福祉士養成講座編集委員会編（2008）『地域福祉論第4版』中央法規
福祉士養成講座編集委員会編（2009）『地域福祉の理論と方法』中央法規
牧里毎治（2007）『改訂版地域福祉論-住民自治と地域ケア・サービスのシステム化』日本放送出版協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域福祉の基本的考え方と理念【構造的アプローチ、機能的アプローチ】
- 2回 地域福祉の発展過程1【セツルメント運動、シーボーム報告、グリフィス報告】
- 3回 地域福祉の発展過程2【高齢化、社会福祉八法改正、非貨幣的コード】
- 4～5回 地域福祉の理念【人権尊重、社会連帯、ノーマライゼーション、福祉コミュニティ】
- 6回 地域のとらえ方と福祉圏域【コミュニティ、圏域、アソシエーション】
- 7回 コミュニティソーシャルワークの考え方【チームアプローチ、ニーズ】
- 8～9回 コミュニティソーシャルワークの方法【ケアマネジメント】
- 10回 行政と民間の協働1【地域福祉計画、社会福祉協議会、社会福祉法人】
- 11回 ゲストスピーカー
- 12回 行政と民間の協働2【ボランティア活動、民生委員、保護司、福祉ビジネス】
- 13回 ゲストスピーカー
- 14回 地域福祉の推進と福祉教育【福祉教育、在宅サービス】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度30% 期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に指定する参考文献の講読。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉行財政と福祉計画【夜】

担当者名 /Instructor 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の社会福祉サービスや支援は、国が基本的な政策の方向たて、市町村が住民により近い視点からベースとし、行政担当者とサービス利用者である住民及び事業者が参加して福祉計画を実施することが求められている。そこで、本授業では、社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行財政と福祉計画について概説する。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会『福祉行財政と福祉計画』中央法規（2009年3月）2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

坂本忠次『現代社会福祉行財政-社会保障をどうするか-』大学教育出版（2009年4月）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉行財政と福祉計画I【福祉制度】
- 2回 福祉行財政と福祉計画II【戦後社会福祉制度】
- 3回 福祉行政I【行政の骨格】【社会福祉と法制度】
- 4回 福祉行政II【福祉行政の組織】【社会福祉基礎構造】
- 5回 福祉財政I【財政理論】【公共財】
- 6回 福祉財政II【一般会計予算と社会保障関係費の動向】
- 7回 福祉財政III【地方自治体の財政と民生費の動向】
- 8回 福祉行政の組織・団体と専門職の役割【相談過程と体制】【地域相談システム】
- 9回 福祉行財政まとめ
- 10回 福祉計画の目的と意義【福祉援助】
- 11回 福祉計画の論理と技法I【福祉計画の視点と過程】
- 12回 福祉計画の論理と技法II【ニーズ把握】【評価】【住民参加】
- 13回 福祉計画の実際I【老人福祉計画】【介護保険事業計画】
- 14回 福祉計画の実際II【障害者・生涯福祉計画】【次世代育成支援行動計画】【地域福祉計画】
- 15回 福祉計画まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト・中間まとめ含む) ... 60% 期末試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを講義前に読んでおくこと。また、新聞等のメディアを通して福祉問題、財政、行政についての現状認識を深めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉サービスの組織と経営【夜】

担当者名 /Instructor 中園 紀明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまで日本の福祉サービスの提供は手厚い施設整備費補助と措置費による裁量の余地の小さな運営がモデルとなっていた。しかし、特に90年代以降、少子高齢化の影響は、公的給付総額の拡大や多様な福祉ニーズへの対応、認知症高齢者の増加等、規制改革とともに新たな福祉経営に転換する時代となった。本科目では公的介護保険の動向も視野に入れながら21世紀型の福祉経営について学習する。

教科書 /Textbooks

「福祉サービスの組織と経営 第2版」 ISBN974-4-8058-3258-5

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉サービスとは何か。福祉サービスの変遷
- 2回 福祉サービスの提供と制度の役割
- 3回 法人の基本形態とガバナンス
- 4回 社会福祉法人による経営の現状
- 5回 特定非営利活動法人(NPO)の特徴
- 6回 福祉施設経営戦略の基礎
- 7回 事業計画の策定と実行評価
- 8回 福祉施設におけるサービスの質の向上
- 9回 集団の力学理論(組織構造)
- 10回 福祉施設の管理運営の方法
- 11回 福祉施設のサービスの質の評価
- 12回 福祉施設のリスクマネジメント
- 13回 福祉施設の苦情など対応
- 14回 福祉施設における人事・労務管理
- 15回 福祉施設における人材育成

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% 平常の学習状況 20% 課題 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営のベースである理念・使命を理解しながら、福祉ニーズとサービスの提供、そしてそれを支える具体的な福祉施設の経営を理解する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会保障【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得のためのシラバス-1現代社会における社会保障制度の課題、2社会保障の概念や対象、理念についての理解、3社会保障の歴史的展開、4社会保障制度の体系、5年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容、6諸外国における社会保障制度の概要等に基づいて構成されている。国家試験合格のための基本を押さえつつ、国家責任に基づく普遍的ナショナルミニマム達成のための社会保障制度を望ましい姿として、種々の社会保障の学説を紹介し検討をしていく。

教科書 /Textbooks

成清美治・真鍋顕久編著『イントロダクションシリーズ7 社会保障』学文社、2011年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社会保障制度の概要
- 第2回 現代社会における社会保障制度の課題
- 第3回 欧米における社会保障制度の歴史的展開
- 第4回 日本における社会保障の歴史的展開
- 第5回 社会保障の財源と費用
- 第6回 社会保険と社会扶助の関係
- 第7回 公的保険制度と民間保険制度の関係
- 第8回 社会保障制度の体系1-年金、医療、介護、労災
- 第9回 社会保障制度の体系2-雇用、社会福祉、
- 第10回 社会保障制度の体系3-生活保護、家族手当
- 第11回 年金保険制度の具体的内容
- 第12回 医療保険制度の具体的内容
- 第13回 諸外国の社会保障制度 1【北欧諸国、ドイツ】
- 第14回 諸外国の社会保障制度 2【イギリス、アメリカ】
- 第15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義時の小レポート(30点)+課題(20点)+期末試験(50点)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

現在において自分が加入している、もしくは家族が加入している社会保険(年金、医療、介護、雇用)について、ホームページや区役所の資料、入門解説書等で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

社会福祉士国家試験受験資格取得のシラバスに基づいていますが、教養として受講される学生も大歓迎します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会状況が不安定になるほど、社会保障の役割は大きくなります。現代だからこそ、社会保障はどうあるべきなのか、そして社会福祉学の立場から見て社会保障の望ましい姿について、考えてみたいと思います。そのために、まずは身近な社会保険から知ってみましょう。

キーワード /Keywords

社会福祉士、社会保障、社会政策、年金、医療、介護、雇用

障害者に対する支援と障害者自立支援制度【夜】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

障がいのある人の自立を支援する観点から、働く、住まう、余暇を楽しむなど生き生きと暮らすことが可能となるような社会の仕組みが求められてきた。障害者自立支援法がどのような役割を果たしてきたのかを、地域生活、施設利用などでの問題を取り上げながら、以下の点について吟味する。①障害者自立支援法の成立過程と法の具体的内容。②権利保障とは何かについて検討する。③また障害をもつ人たちが、地域で生きていくための諸条件を整理し、権利擁護システムを含めた、地域支援システムのあり方を検討する。④さらにはこれまでタブー視されてきた障害者の性を取り上げ、社会福祉援助の中にジェンダーや女性保護、性交に矮小化されることのない生と性の視点がどのように位置づいているのかについて考察する。

教科書 /Textbooks

小賀 久「障がいのある人の地域福祉政策と自立支援」法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、講義で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 受講上の諸注意と総論
- 2回 障害者施策の現状と課題① 【自立支援】
- 3回 障害者施策の現状と課題② 【地域生活】
- 4回 障害者施策の現状と課題③ 【ケアマネージメント】
- 5回 権利擁護システム① 【成年後見制度】
- 6回 権利擁護システム② 【地域福祉権利擁護・日常生活支援】
- 7回 権利擁護システム③ 【虐待・不適切な行為とオンブズ活動】
- 8回 障害者福祉実践の到達点と課題① 【労働支援】
- 9回 障害者福祉実践の到達点と課題② 【生活支援】
- 10回 障害者福祉実践の到達点と課題③ 【家族支援】
- 11回 障害者福祉のこれから① 【障害者介護】
- 12回 障害者福祉のこれから② 【施設解体】
- 13回 障害者福祉のこれから③ 【地域生活支援】
- 14回 障害者福祉のこれから④ 【性の支援】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義レジュメ・資料および参考文献の講読

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

低所得者に対する支援と生活保護制度【夜】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

ワーキングプア、ネットカフェ難民、多重債務者、DV、児童虐待、自殺、過労死、孤独死、派遣切り、ホームレス、家庭と地域社会の崩壊など、近年の国民生活の状況を見ると、多様で新しい形態の貧困と生活不安を抱えるに至っているといわなければならない。国民の生活困窮の解消と生存権の保障に取り組む諸制度について以下の目的に従って講義を行う。

1. 生存権とそれを保障する公的制度の意義について理解する。
2. 生活保護法制度および生活保護に係る他の法制度について理解する。
3. 自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。
4. 低所得階層の生活実態とこれをとりまく社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。
5. 社会経済的背景の動向と公的扶助の展望について考察する。

教科書 /Textbooks

岩田正美、杉村宏、岡部卓「公的扶助論」ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田 正美著「現代の貧困」ちくま新書
社会保障法学会編「ホームレス施策と社会保険の現代的課題」法律文化社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 生存権と福祉国家における公的扶助の意義と役割
2. 貧困問題の歴史と現代的貧困
3. 世界および日本における公的扶助の歴史
4. 生活保護の基本原則と実施上の原則
5. 生活保護法による保護の種類・範囲・方法
6. 生活保護基準と生活保護制度の運用
7. 生活保護の実施機関、保護施設、財源
8. 生活保護行政の体系と福祉事務所の活動、被保護者の権利
9. 生活保護における援助活動、保健医療、労働政策など関連機関・専門職との連携
10. 非保護層の動向と課題、生活保護費と保護率の動向
11. 母子世帯と児童扶養手当制度
12. 生活福祉資金貸付制度と他の低所得政策
13. ホームレス自立支援政策の概要
14. 低所得・貧困層に対する自立支援プログラムの目的、実際と課題
15. まとめ-生活保護制度と公的扶助制度の改革の展望

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習 ... 50 % 試験またはレポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

現代の貧困問題と社会問題について各自自分なりに調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間環境概論 【夜】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現在、環境問題は早急な対応が必要な世界共通の課題である。そのためには、環境の正しい理解が必要であることはいうまでもない。しかし、(環境問題を引き起こした)人間と環境の関係についても考えをめぐらせる必要があることは、顧みられないことが多いと思われる。この授業では、環境(問題)と同時に、環境(自然)と人間との関わりについても理解することを目的としている。

教科書 /Textbooks

使用しない。プリントを用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

湯浅赳夫「環境と文明」(新評論)、○只木良也「森と人間の文化史」(NHKブックス)、○菅原 聡「森林 日本文化としての」(地人書館)、○樋口忠彦「日本の景観」(ちくま学芸文庫)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 地球環境の概観 【地球史】【環境問題】
 - 2回 環境問題のしくみ1 【地球温暖化】【オゾン層の破壊】
 - 3回 環境問題のしくみ2 【自然界のバランス】
 - 4回 私たちの住む場所・今という時 【自然の猛威】【災害】
 - 5回 環境と文明1 【気候変動】【文明の盛衰】
 - 6回 環境と文明2 【パラダイム】【産業革命】
 - 7回 1回～6回のまとめ
 - 8回 森林の多面的機能【公益的機能】【鎮守の森】
 - 9回 日本の地形と農山村景観【集落立地】【奥山と里山】
 - 10回 山村問題と住民生活【条件不利地域】【村落社会】
 - 11回 森林伐採と林業の歴史【人工林施業】【日本の森林資源】
 - 12回 木造住宅と木材流通【木材消費】【杉と檜の文化】
 - 13回 世界の森林資源利用と日本【林産物】【中国】
 - 14回 竹林資源利用と地域社会【生業】【たけのこ】
 - 15回 8回～14回のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

野井(1回～7回)小試験または小レポート...50%
岩松(8回～15回)岩松:平常点&小レポート...20% 試験...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献や授業中にあげた資料などに目を通しておくとより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人類学概論【夜】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

いきなりだけど、今までに「自己」と「他者」の謎について考えてみたことはあるだろうか。自分と他人は、異なる身体を持ち、異なる価値観を持ち、異なる時間を生きているにもかかわらず、共感することができたり、相手のいうことが理解できたりするのはなぜだろう。「他人のことなんてわかるはずはない」といいながら、そんな他人を信じて毎日を生かされるのは、とても不思議だ。人類学では、理解できるはずのない他人に果敢にもフィールドワークという手法をつかって近づいていく。ちょっと難しいかもしれないけど、講義の中で人間の文化の多様性と他者認知や自己認知の普遍性について考えを巡らしながら、恋だの政治だの常識だの、みんなが大好きな人間関係のパワーゲームについて分析し、いろいろと回り道をしようと思う。そうすれば他人を知ることとは自分を知ることであるという異文化理解のもっとも基本的な道筋が見えてくるはずだ。
ビデオ・スライドをみながら異文化をイメージする

教科書 /Textbooks

講義中に紹介する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『フィールドワークへの挑戦-“実践”人類学入門』菅原 和孝(編集)
『うぬぼれる脳-「鏡のなかの顔」と自己意識』ジュリアン・ポール キーナン(著)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1講 文化とはなにか
第2講 近代とはなにか
第3講 共感とはなにか
第4講 他者とはなにか
第5-6講 交換とはなにか
第7講 社会とはなにか
第8講 政治とはなにか
第9-10講 信じるとはなにか
第11-12講 自然とはなにか
第13-15講 わかるとはなにか

成績評価の方法 /Assessment Method

自己と他者について考察する準備が整うこと ... 30%
異文化を相対的に考えられること ... 30%
人類学的な実践に興味を持ちながらを始めること ... 40%
試験は講義のどこかで日おこなう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

勉強したい人だけ受講すること。
自分で考えるために、本を読んで欲しい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯スポーツ学概論 【夜】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

運動やスポーツは、体育実技という枠組みを超えて、われわれの生活の様々な局面に関わりを持つようになってきた。学校の授業として「まじめ」にからだを動かすことを強いられてきた体育実技とは異なり、からだを動かすことそのものの楽しさへの認識の高まりといえる。生涯スポーツ学概論では、このような観点に立って、多方面から「生涯スポーツ」について考える。

教科書 /Textbooks

授業中に資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

フィットネスシリーズ〔全9巻〕○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アスリートからの視点
- 2回 スポーツの発祥
- 3回 生涯スポーツについて(1)
- 4回 生涯スポーツについて(2)
- 5回 スポーツマンシップについて
- 6回 ドーピングと薬物について
- 7回 種目の特性(野球とサッカー)
- 8回 生涯スポーツと健康
- 9回 ライフスタイルと健康
- 10回 加齢と運動
- 11回 余暇と生活
- 12回 女性の運動・スポーツ
- 13回 スポーツの楽しみ方
- 14回 障がい者のスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

これからの自分の健康やスポーツとの関わり方を考えながら受講するとよいでしょう

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯スポーツ、QOL

現代社会と福祉 1 【夜】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会福祉の概念、対象、主体、目的についての理解を深める。社会福祉の歴史を通して社会福祉の機能と意義について考察する。社会福祉の理念や思想について理解する。近年の我が国の福祉をめぐる状況を踏まえながら、今後の社会福祉の在り方について検討する。

教科書 /Textbooks

特になし、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○社会福祉士養成講座編集委員会『現代社会と福祉』中央法規

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉の概念【目的概念】【実体概念】【ウェルビーイング】
- 2回 生活問題とソーシャルワーク【人間の基本的欲求】【個人と環境との不適合】【社会関係の主体的側面】
- 3回 社会福祉の制度・政策と実践・技術【ソーシャルウエルフェア】【ソーシャルワーク】
- 4回 社会政策と社会福祉【社会問題】【貧困問題】【生活問題】
- 5回 社会保障、社会保険、社会手当、公的扶助【最低賃金】【セーフティネット】【所得再分配】
- 6回 社会福祉の思想の独自性と重要性【ロールズの正義論】【センの潜在能力理論】
- 7回 社会福祉の理念と思想【ノーマライゼーション】【コミュニティアケア】【生活の質】
- 8回 社会福祉の歴史(イギリス)【セツルメント】【慈善組織化活動】【劣等処遇の原則】
- 9回 社会福祉の歴史(日本 - 戦前から高度経済成長まで)【救貧事業】【保護事業】【厚生事業】
- 10回 社会福祉の歴史(日本 - 福祉元年以降)【福祉見直し論】【日本型福祉社会論】
- 11回 福祉改革と日本の動向【社会福祉基礎構造改革】【規制緩和】【格差社会】
- 12回 福祉政策の主体と手法【福祉ミックス】【福祉国家】【福祉社会】【福祉レジーム】
- 13回 現代社会の変化と福祉政策【ワーキングプア】【社会的排除】【社会的包摂】
- 14回 福祉政策の関連領域 【所得政策】【教育政策】【保健医療政策】【住宅政策】【雇用政策】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の学習状況(小テスト・宿題など) ... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業で配布したレジュメを閉じる専用ファイルを準備すること。前回の授業の復習のためにテスト用紙を配布、回答を求めらるので、参照のために毎回ファイルを持参のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と福祉2 【夜】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ・ 福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割など）について理解する。
- ・ 福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む）の関係について理解する。
- ・ 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士養成講座編集委員会編（2009）『4 現代社会と福祉-社会福祉原論』中央法規（○）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉政策の概要①【目的概念、実体概念、L字型構造】
- 2回 福祉政策の概要②【倫理要綱、専門職】
- 3回 福祉政策における必要と資源【ニード、社会資源マップ】
- 4～5回 福祉政策の主体と手法【福祉レジーム、NPM】
- 6～7回 福祉政策の関連領域【保健医療、住宅政策、教育、雇用】
- 8～9回 社会福祉制度の体系【社会政策、社会福祉法、社会福祉基礎構造改革】
- 10回 福祉サービスの供給【福祉多元主義、指定管理者制度】
- 11～12回 福祉政策の国際比較
- 13回 福祉サービスと援助活動【バイステック、ストレングス、エンパワメント】
- 14回 福祉政策の課題と展望【ノーマライゼーション、インクルージョン】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の小テスト ... 50% 期末試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の内容について、翌週の授業開始時に小テストを行うので、復習をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学総論【夜】

担当者名 徳永 達哉 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、契約中心の法化社会へ移行しつつある現代社会において必要とされている基本的な法的知識を理解することを目標とします。また、法学についての基本的な考え方を習得することも講義のねらいとします。講義では、日常的な事例を挙げて説明します。日常生活が如何に法に密接に結びついているかを理解してもらいたいと思います。

教科書 /Textbooks

六法（出版社の指定はありません）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

法律用語辞典（出版社の指定はありません）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 法学を学ぶにあたって「闘争」を意識する。
- 2回 社会規範について、法と道德との違い。
- 3回 法源、六法、法令の調べ方と読み方。
- 4回 判例の調べ方と読み方。
- 5回 裁判制度と法曹
- 6回 民事訴訟と刑事訴訟
- 7回 裁判員制度
- 8回 経済生活と法1(民法と契約の種類)
- 9回 経済生活と法2(契約と債務不履行)
- 10回 経済生活と法3(民法の意思表示)
- 11回 経済生活と法4(クーリングオフ)
- 12回 家族と法
- 13回 国家と法1(社会契約としての公法)
- 14回 国家と法2(人権と国家権力)
- 15回 国家と法3(違憲審査権)

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度(20%) + 知識の確認課題(40%) + レポート課題(40%)を総合的に評価します。
※受講態度は減点方式で評価します。私語・途中入退室・携帯電話など講義妨害行為を広く減点対象としております。講義の1回目で詳細を解説し9回目に再度確認します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義は教科書に則して進めますが、情報量が非常に多いです。耳慣れない用語は予め辞書などで調べておいてください。
受講後に気になる用語があれば必ず辞書などで再確認してください。

履修上の注意 /Remarks

範囲が広いため講義の速度が速いです。一瞬でも聞き逃しますと講義について来れなくなりますので、集中力を切らさないようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法学総論【夜】

キーワード /Keywords

メディア文化概論【夜】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の生活は、様々なモノや表現によって媒介されて成り立っている。この授業では、「メディア」という概念が含み込んでいる視点を、講義するなかでメディア論的な思考を獲得することを目指す。個人の生活あるいは集団生活がどのようなメディアの仕掛けのもとに成立しているのかを批判的に見直すことが目標となる。以下の予定内容以外に、日常生活環境を見つめ直すためのトピックを随時挿入する。そのため、スケジュールは便宜的であり、順序の変更もありうる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 第1回 ガイダンス メディアは「当たり前」をつくる
- 第2回 メディア論事始め①メディアは身体の拡張である【M.マクルーハン】
- 第3回 メディア論事始め②メディアはメッセージである【メディア論】
- 第4回 メディア論事始め③メディアには「カタチ」がある【物質性】【R.シャルチエ】
- 第5回 メディア史① メディアには「歴史」がある【文明史】【声】【文字】【印刷】
- 第6回 メディア史② メディアの誕生・社会化①【初期映画】
- 第7回 メディア史③ メディアの誕生・社会化②【活動写真】【トーキー】
- 第8回 メディア史④ メディアの誕生・社会化③【電話】【家庭】【個人】
- 第9回 メディア史⑤ メディアの誕生・社会化④【携帯電話】
- 第10回 メディア史⑥ メディアの誕生・社会化⑤【レコード】【ラジオ】
- 第11回 メディア史⑦ メディアの誕生・社会化⑥【ウォークマン】
- 第12回 研究の視点① メディアは「一体感」をつくる【メディアイベント】
- 第13回 研究の視点② メディアは理解 / 誤解を生む①【エンコーディング・デコーディング】【S.ホール】
- 第14回 研究の視点③ メディアは理解 / 誤解を生む②【オーディエンス】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(コメントカード、小テスト、課題など)...約20% 学期末試験約80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前半は理論的な事項が多いので、必ず次回の授業準備として、それまでの講義のメモ・ノートを見直しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済地理学I【夜】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識できる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解できる。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 産業構造と産業立地。【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
- 3回 企業の立地行動(Ⅰ)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
- 4回 企業の立地行動(Ⅱ)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
- 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
- 6回 1～5回の復習とまとめ 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
- 7回 企業の立地行動(Ⅲ)・・・最小コストモデル 【ウェーバー】、【輸送費】、【集積】
- 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
- 9回 企業の立地行動(Ⅳ)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
- 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
- 11回 6～10回の復習とまとめ 【輸送費理論】【企業内空間分業】
- 12回 企業の立地行動(Ⅴ)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
- 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
- 14回 現代の立地行動 【空間克服】【接触の利益】【波及効果】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済地理学IIや地域経済I・IIなどを受講すると相互理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

立地論、企業立地、産業配置

経済地理学II 【夜】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済地理学IIは、日本の都市、地域構造と立地政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。学生は、経済地理学Iで学習した内容をふまえて、オフィス立地を学習したうえで都市内・都市間システムの理論を学ぶことになる。これによって都市の構造や都市間の相互作用を系統的に学習でき、地域構造の成り立ちを深く認識できることになる。後半では立地のメカニズムをもとに政策的な活用策を検討する。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン 【経済地理学】【都市】【地域】【地域政策】
- 2回 オフィスの立地論 【オフィス】【本社立地】【支店立地】【フェイス・トゥ・フェイス】
- 3回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】【付け値曲線】【土地利用】
- 4回 都市内システム 【都市】【バージェス】【ホイット】
- 5回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】【プレッド】【地方中枢管理都市】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 企業活動と地域 【企業機能】【地域間システム】【生活圏】
- 8回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業 【全総】【拠点開発方式】
- 9回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業 【定住圏構想】【テクノポリス】
- 10回 立地政策(3)・・・四全総 【中枢管理機能】【東京一極集中】【世界都市】
- 11回 6～10回の復習とまとめ
- 12回 産業立地と今後の地域構造・・・グランドデザイン 【多軸型国土構造】【産業創出の風土】
- 13回 立地から見た地域構造の変遷(1) 【立地論】【立地要因】【基礎的地域構造】
- 14回 立地から見た地域構造の変遷(2) 【現代的地域構造】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済地理学Iや地域政策などを受講していると相互理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

立地論、都市システム、立地政策

国際法Ⅱ【夜】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

教科書 /Textbooks

講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 横田洋三編『国際法入門(第2版)』(有斐閣・2005)○
参考書 山手治之・松井芳郎・香西茂『ベーシック条約集』(東信堂・最新版)○
参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」

- 第2回 国家と承認制度：国家承認
- 第3回 国家と承認制度：政府承認
- 第4回 国家の基本的権利
- 第5回 国家の基本的義務
- 第6回 まとめ

第II部「陸・海・空と国際法」

- 第7回 陸と国際法
- 第8回 海と国際法：海上交通
- 第9回 海と国際法：海洋資源
- 第10回 空と国際法
- 第11回 まとめ

第III部「国際法主体としての個人」

- 第12回 人権の国際的保障
- 第13回 国際犯罪
- 第14回 国際刑事裁判所(ICC)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。
課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.7%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system)の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

国際法II 【夜】

キーワード /Keywords

【国家の要件】 【承認】 【国家の基本的権利・義務】 【領域】 【個人】 【管轄権の競合と調整】 【国際法によるコントロール】

社会科教育法 A 【夜】

担当者名 坂口 一隆 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会科教師を志向する学生に求められる基礎的・基本的な知識や技能の習得をねらいとする。指導過程を通して教職に対する認識の深化と、教師としての使命感を養い、もって指導の向上を図る。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領解説 社会編」(平成20年9月・文部科学省)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校・高等学校で使用した各分野の教科書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育の目的と社会科の役割
- 2回 地理的分野の目標とその取り扱い [学習指導要領]
- 3回 世界と日本の様々な地域
- 4回 歴史的分野の目標と内容とその取り扱い [学習指導要領]
- 5回 歴史のとらえ方と古代・中世・近世・近現代の日本と世界
- 6回 公民的分野の目標と内容とその取り扱い [学習指導要領]
- 7回 私たちと現代社会・政治・経済と国際社会の諸問題 (グループ討議)
- 8回 学習指導要領の変遷と社会科の歩み
- 9回 指導計画の作成と内容の取り扱い
- 10回 資料活用と作業的・体験的な学習
- 11回 指導案の作成と留意点
- 12回 政治及び宗教に関する事項の取り扱い
- 13回 戦前・戦後の社会科教育 [戦前・戦後の教育改革]
- 14回 学習指導要領の総則・学習基本法施行規則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習 …… 30%
レポート …… 40%
学習指導案 …… 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業で配布するレジュメと資料を熟読しておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科教育法B 【夜】

担当者名 坂口 一隆 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会科教師を志向する学生に求められる基礎的・基本的な知識や技能の習得をねらいとする。指導過程を通して教職に対する認識の深化と、教師としての使命感を養い、もって指導力の向上をはかる。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領解説 社会編」(平成20年9月・文部科学省)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校・高等学校で使用した各分野の教科書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 これからの学校教育に求められるもの [教師の使命感]
- 2回 教師に求められる資質能力 (グループ討議) [自己分析] [目指す教師像]
- 3回 学校の教育課程
- 4回 学習指導の評価
- 5回 生徒の実態把握と教材研究 (グループ討議) [生徒の特性・生徒との信頼関係]
- 6回 指導案の作成と問題点 その1
- 7回 指導案の作成と問題点 その2
- 8回 地理的分野の学習と内容の取り扱い [学習指導要領]
- 9回 歴史的分野の学習と内容の取り扱い [学習指導要領]
- 10回 公民的分野の学習と内容の取り扱い [学習指導要領]
- 11回 高等学校学習指導要領「地歴科」の内容と取り扱い
- 12回 高等学校学習指導要領「公民科」の内容と取り扱い
- 13回 教育基本法・学校教育法改正案の要旨
- 14回 学習基本法施行規則・地方教育行政法改正案要旨
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習 ... 30% レポート ... 40% 授業中の質疑 ... 30%
応答での絶対評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業で配布するレジユメや資料を読んでくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導等の理論や知識・技術を修得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育実習1」オリエンテーション	【教育実習】 【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】 【教師の勤務】
3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学校)	【教科指導】 【学級経営】
4回 教育実習生の体験から学ぶ(高等学校)	【教科指導】 【学級経営】
5回 子どもの問題状況と生徒指導	【生徒指導】 【子どもの理解】
6回 学級経営について	【学級集団づくり】 【学級通信】
7回 生徒指導と教育相談	【生徒理解】 【生徒指導体制】
8回 授業観察の方法	【授業観察の視点】 【授業記録シート】
9回 子どもの人権と教育	【人権】 【自尊感情】
10回 教材研究と授業構想	【刻々の教材研究】 【学習指導案】
11回 教師の資質とは何か	【教師の資質】 【事前の準備】
12回 模擬授業①(中学・高校別)	【授業構成】 【導入】
13回 模擬授業②(中学・高校別)	【指導技術】 【発問】
14回 模擬授業③(中学・高校別)	【指導技術】 【説明】
15回 模擬授業④(中学・高校別)	【指導技術】 【指示・助言】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%) 学期末の提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の事前に指示されたことを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 第 1 回 ; オリエンテーション | 【勤務】【連絡】 |
| 第 2 回 ; 中学校における教育実習 | 【中学生の特質】【中学生への支援】 |
| 第 3 回 ; 高等学校における教育実習 | 【高校生の特質】【高校生への支援】 |
| 第 4 回 ; 実習校実習① | 【教育実習指導】 |
| 第 5 回 ; 実習校実習② | 【教育実習指導】 |
| 第 6 回 ; 実習校実習③ | 【教育実習指導】 |
| 第 7 回 ; 実習校実習④ | 【教育実習指導】 |
| 第 8 回 ; 実習校実習⑤ | 【教育実習指導】 |
| 第 9 回 ; 実習校実習⑥ | 【教育実習指導】 |
| 第 10 回 ; 実習校実習⑦ | 【教育実習指導】 |
| 第 11 回 ; 実習校実習⑧ | 【教育実習指導】 |
| 第 12 回 ; 実習校実習⑨ | 【教育実習指導】 |
| 第 13 回 ; 実習校実習⑩ | 【教育実習指導】 |
| 第 14 回 ; 実習校実習⑪ | 【教育実習指導】 |
| 第 15 回 ; 教育実習反省会 | 【教師の資質】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習3【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords